史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅲ

平成１６年度

浪岡町教育委員会

発刊にあたって

史跡浪岡城跡は、南北朝時代に活躍した北畠顕家の末孫が拠った城跡として、明治時代から地元の有志による保存運動が盛んに行われ、地域の宝として浪岡町の精神的柱石となって参りました。

昭和 15 年 2 月 10 日に青森県で最初の国史跡指定を受けた貴重な遺跡ですが、史跡指定以前から浪岡城跡の中心となる内館については有志により公園として整備され、観桜会を開催するなど、地域住民に親しまれ、愛されてきた憩いの場でもあります。

昭和 39 年の町村合併を機会に、それまでの内館だけではなく、浪岡城跡全体の保存と活用を図る声が高まり、昭和 42 年度からは公有化事業を、昭和 52 年度からは発掘調査を、昭和 62 年度からは環境整備事業をそれぞれ開始するなど、国・県の補助をいただきながら 10 年ごとに史跡の保存・整備・活用事業を進めて参りました。

史跡環境整備事業については「史跡整備・一般事業」に加え、新設された「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場)」の補助金を活用するなど、工事の進捗を図りながら平成 9 年度までで整備事業を終了し、平成 10 年度からは史跡公園として地域住民はもとより、多くの皆様にご利用いただけることとなりました。

この間、浪岡城跡の出土品を展示する資料館として「浪岡町歴史資料館」を昭和 62 年度に、さらに展示を充実させ、空調管理のできる収蔵庫と文化ホールを備えた「浪岡町中世の館」を平成 4 年度にオープンするなど浪岡城関連施設の充実も図ってきております。

史跡環境整備事業スタート当初の目標であった浪岡城跡の史跡公園化が一応の終了を迎えましたが、浪岡城跡の発掘調査は全体のおよそ 30%に留まっております。今後、未調査個所の発掘調査を実施する機会に恵まれた場合や、文献的な研究がさらに進んだ段階で、それらの調査・研究結果を受け、浪岡城跡の評価や整備事業の修復、修正が必要になることも想定されます。本報告書は、その際に必要となる事業の基礎資料を集成し、刊行したものです。

これからも、国の史跡であり地域の宝である浪岡城跡を良好な状態で保存管理・整備することで、皆様の憩いの場として、また歴史学習の場として活用していただけるよう努力して参ります。

これまでの浪岡城跡公有化、発掘調査、環境整備に対し、御指導・御協力・御助言を賜りました関係各位の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げるとともに、今後とも旧に倍しての御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 17 年 3 月

浪岡町教育委員会
教育長　鎌田　慎也

例言

１．本書は、史跡環境整備事業として平成３年度から平成９年度まで実施した環境整備工事及び平成３年度から平成５年度までに実施した発掘調査の報告並びに浪岡城跡関連工事等に係る報告書である。
２．史跡環境整備事業は、国・県の補助を受け、浪岡町及び浪岡町教育委員会が行った。
３．史跡環境整備事業は昭和62年度から平成９年度まで行った。整備工事は平成元年度から平成９年度まで実施しており、平成２年度以前の整備工事については史跡浪岡城跡環境整備事業報告書Ⅰ及びⅡとして報告済みである。
４．史跡環境整備事業に係る基礎資料として、未報告であった昭和61年度に実施した堀跡の発掘調査結果についても、整備工事を行う上で必要な情報として、調査概要を本書で報告する。
５．本書は本文18項目、挿図（Fig.）107枚、図版（PL.）28枚、表（Ch.）31枚で構成し、執筆・トレース・写真撮影は木村浩一が行った。一部写真については、株式会社歴史環境計画研究所から提供いただいた。作図については、木村浩一が主に行ったが、遺物の実測については、一部調査補助員の常田紀子、斉藤とも子、対馬桂子、福士友子、武田秀美、佐々木里見が行った。
６．遺構の名称は以下のとおりである。
　ＳＴ：竪穴建物跡、　ＳＥ：井戸跡、　ＳＸ：性格不明遺構、　ＳＤ：溝跡、　ＳＡ：中土塁跡、
　ＳＨ：堀跡、　ＳＦ：焼土・炉跡等遺構、　ＳＲ：通路・虎口状遺構、　ＳＳ：シガラミ状遺構
７．遺構番号は、浪岡城跡発掘調査報告書Ⅰ～Ⅹ及び史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅰ・Ⅱで報告した遺構番号を踏襲することなく、本報告書独自に付した。
８．遺構の土層注記にあたっては、「新版標準土色帖」小山正忠・竹原秀雄編著（1976.9）を参考としている。
９．本書の刊行にあたり、環境整備委員の方々をはじめ、下記の機関・各位のご指導・ご助言をいただいた。記して感謝申し上げる（敬称略、順不同）。
　大矢邦宣、文化庁記念物課、青森県教育庁文化課

目次

発刊にあたって
例　　言

Ⅰ　浪岡城跡の概要と環境整備事業に至る経緯　・・・・・　１

Ⅱ　浪岡城跡環境整備計画について　・・・・・　３

Ⅲ　環境整備事業及び関連事業について
　１　史跡環境整備事業
　　１-１．　平成２年度以前の整備事業　・・・・・　４
　　１-２．　平成３年度の整備事業　・・・・・　５
　　１-３．　平成４年度の整備事業　・・・・・　７
　　１-４．　平成５年度の整備事業　・・・・・　８
　　１-５．　平成６年度の整備事業　・・・・・　１０
　２　史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）
　　２-１．　平成７年度の整備事業　・・・・・　１２
　　２-２．　平成８年度の整備事業　・・・・・　１３
　　２-３．　平成９年度の整備事業　・・・・・　１５
　３　史跡整備関連事業
　　３-１．地域文化財保全事業　・・・・・　１７
　　３-２．浪岡町歴史資料館及び浪岡町中世の館建設事業　・・・・・　１７

Ⅳ　環境整備工事について
　１　史跡環境整備工事
　　１－１．平成２年度以前の整備工事　・・・・・　１８
　　１－２．平成３年度の整備工事　・・・・・　２０
　　１－３．平成４年度の整備工事　・・・・・　２１
　　１－４．平成５年度の整備工事　・・・・・　２１
　　１－５．平成６年度の整備工事　・・・・・　２１
　２　史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に係る整備工事
　　２－１．平成７年度の整備工事　・・・・・　２２
　　２－２．平成８年度の整備工事　・・・・・　３３
　　２－３．平成９年度の整備工事　・・・・・　４２
　３　史跡整備関連事業
　　３－１．地域文化財保全事業（浪岡城跡案内所建築工事）　・・・・・　４９
　　３－２．浪岡町歴史資料館及び浪岡町中世の館建築工事　・・・・・　５１

整備関連写真　・・・・・　５２

Ｖ　環境整備に係る発掘調査について　・・・・・　６３
１　調査経緯　・・・・・　６４
２　検出遺構　・・・・・　６９
３　出土遺物　・・・・・　１０２
４　まとめ　・・・・・　１２６

史跡浪岡城跡関連事業経費一覧表　・・・・・　１２８
出土銭貨計測表　・・・・・　１２９
遺構土層注記表　・・・・・　１３７
発掘調査関連写真　・・・・・　１６２

Ⅰ　浪岡城跡の概要と環境整備事業に至る経緯

浪岡町は、津軽平野の南東部に位置し、津軽地方の主要４市である青森市、弘前市、五所川原市、黒石市のほぼ中間にある（Fig. １）。浪岡城跡は浪岡町の中央部、弘前市・黒石市から青森空港へ向かう県道青森―浪岡線に面する、青森県南津軽郡浪岡町大字浪岡字五所、大字浪岡字林本、大字五本松字松本に位置し、南側を流れる浪岡川と正平津川の河岸段丘を利用し、堀を掘削することで、内館・西館・北館・猿楽館・東館・検校館・新館・無名の館（外郭）の８つの曲輪を造成している。

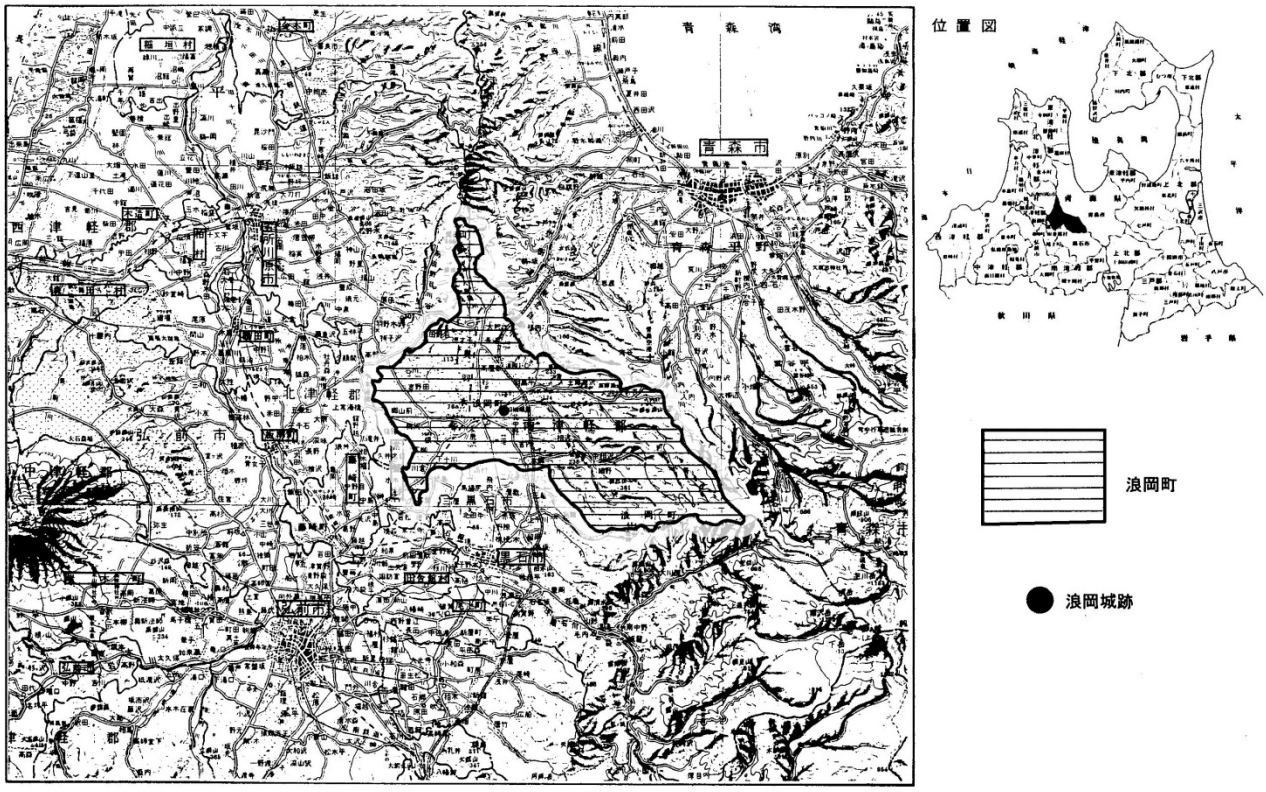


Fig. １　浪岡町位置図

曲輪は内館を中心に扇状に東西と北側に広がりを見せ、堀跡には造成時に掘り残した土塁状の高まり（本報告では堀中土塁を略し「中土塁」と呼称する）により二重堀（一部の箇所では三重堀）の形態を呈しており、現在もその威容が見て取れる（Fig. ２）。

歴史的背景では、浪岡城跡は 15 世紀後半から 16 世紀末にかけて存続したと伝えられ、この城館に居住したのは、浪岡北畠氏を名乗る一族であったとされる。一族は、南北朝時代、南朝方の雄として活躍した北畠顕家の子孫と伝えられているが確証に乏しく、現存する文献資料は近世以後の津軽藩・南部藩のものであり、同時代資料はほとんど無い。このため、本報告書中では「北畠氏」と呼ばず、「浪岡北畠氏」又は「浪岡氏」と呼称する。

城跡は、良好な保存状態を保っていたことと、北畠顕家の末裔が拠ったと伝えられることから、昭和 15 年 2 月 10 日に青森県で最初の国史跡の指定を受けている。この年、内館が地元の有志から浪岡町（当

時浪岡村）に寄贈され、「浪岡公園」として近隣住民の憩いの場となった。他の曲輪及び堀跡等については畑や水田、一部宅地として利用されてきた。

昭和 42 年度から国庫補助を受けて、史跡指定地内の買収を開始し、昭和 49 年度までの 6 年間で史跡指定地 136,123.㎡の 84%にあたる 114,820 ㎡を公有化している。これにより史跡の保存を行うとともに、史跡環境整備へも第一歩を踏み出しすこととなった。

昭和 52 年度には史跡公園化のための基礎資料を得る目的で発掘調査が行われ、遺構・遺物ともに良好な保存状態であることが判明した。この結果を受け、昭和 53 年度からは国庫補助を受け、昭和 62 年度までの 10 年間にわたり北館と内館を中心に発掘調査を実施した。この調査により、多数の遺構・遺物を検出するとともに、内館は主郭的性格が、北館では屋敷割と思われる建物配置が確認されるなど、近世城下町の原型ともいえる、いわば「戦国城下町」の姿が浮かび上がってきた。

これらの成果を基に、昭和 59 年度には整備の基本的方針を定めた「史跡浪岡城跡環境整備基本構想」を、昭和 62 年 3 月に「史跡浪岡城跡環境整備基本計画」を策定し、昭和 62 年度からは史跡環境整備事業を開始した。なお、整備事業を進める中で、より具体的な年次別計画や整備仕様を検討した「史跡浪岡城跡環境整備基本設計」を平成 2 年度に策定している。

昭和 62 年度から環境整備事業を開始したが、整備に係る基礎資料が不足している部分もあったことから、平成 5 年度まで断続的に発掘調査を環境整備事業の一環として実施した。

平成 7 年度からは国庫補助事業が「史跡整備・一般」から「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場)」となったことで一層の進展が図られ、平成 9 年度までで史跡内を一巡できる歴史的通路やガイダンス施設などを整備し、平成 10 年 4 月からは一般供用を開始している。

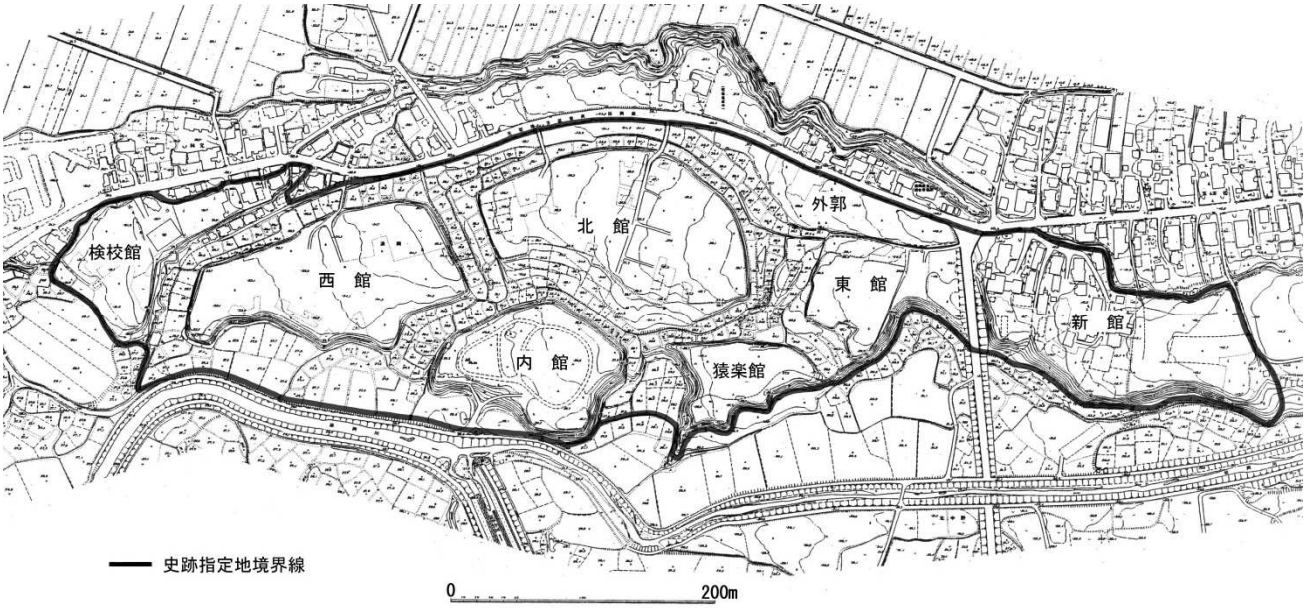


Fig. 2　浪岡城跡全体図

Ⅱ　浪岡城跡環境整備計画について

浪岡城跡の環境整備にあたっては、「史跡浪岡城跡環境整備基本構想」に基づき、遺跡の保存及び活用を図ることを基本方針とし、現況でも確認できる状態で保存されている曲輪の連立と堀跡について、保存・保護を行いながら、史跡公園として一般に供するよう整備を行った。

このため、現況で残る斜面等の崩壊防止や保護を基本に、発掘調査成果に基づいた歴史的景観の復元や、利用者の便を図るための諸施設・設備の設置を行うこととした。

浪岡城跡の整備対象区域すなわち公有化済みの部分は、現在、８つの曲輪のうち新館を除く７つの曲輪である。このため、発掘調査を実施した北館、内館、堀跡及び通路が推定される部分については歴史的景観を彷彿させる復元的整備を行い、発掘調査未実施の西館・猿楽館・検校館・無名の館（外郭）及び新館については現状のまま保存・保護を主眼とした管理を行うこととする（Fig. ３）。

今後、未買収である新館の公有化に着手する機会や、学術調査により各曲輪の実態が解明された時点で、新たな整備計画・設計を策定し、第２期の整備事業に着手することが望ましい。

Fig. ３　史跡浪岡城跡環境整備工事　完成予想図

Ⅲ　環境整備事業及び関連事業について

１　史跡環境整備事業

１－１．　平成２年度以前の整備事業（Fig. ４）

昭和 62 年度　　史跡指定地範囲の境界杭設置及び史跡面積の確定を行い、史跡指定地面積は 136,123 ㎡、うち公有化地は 114,820 ㎡であることを確認した。

昭和 63 年度　　北館整備時の工事用仮設道路設置予定地の事前発掘調査を実施。堀、中土塁の規模を確認する。保存状態が良く、仮設道路の設置及び工事後の撤去により遺構・遺物に悪影響を与えかねないため、工事用仮設道路の設置場所を変更することとした。

平成元年度　　堀跡の景観復元のため、現況及び発掘調査結果を基に中土塁の復元工事を行った。

平成２年度　　平成元年度に引き続き中土塁の復元工事を行った。また、中土塁の有無・規模が不明な部分について発掘調査を行い、その成果を基に中土塁復元工事を行った。

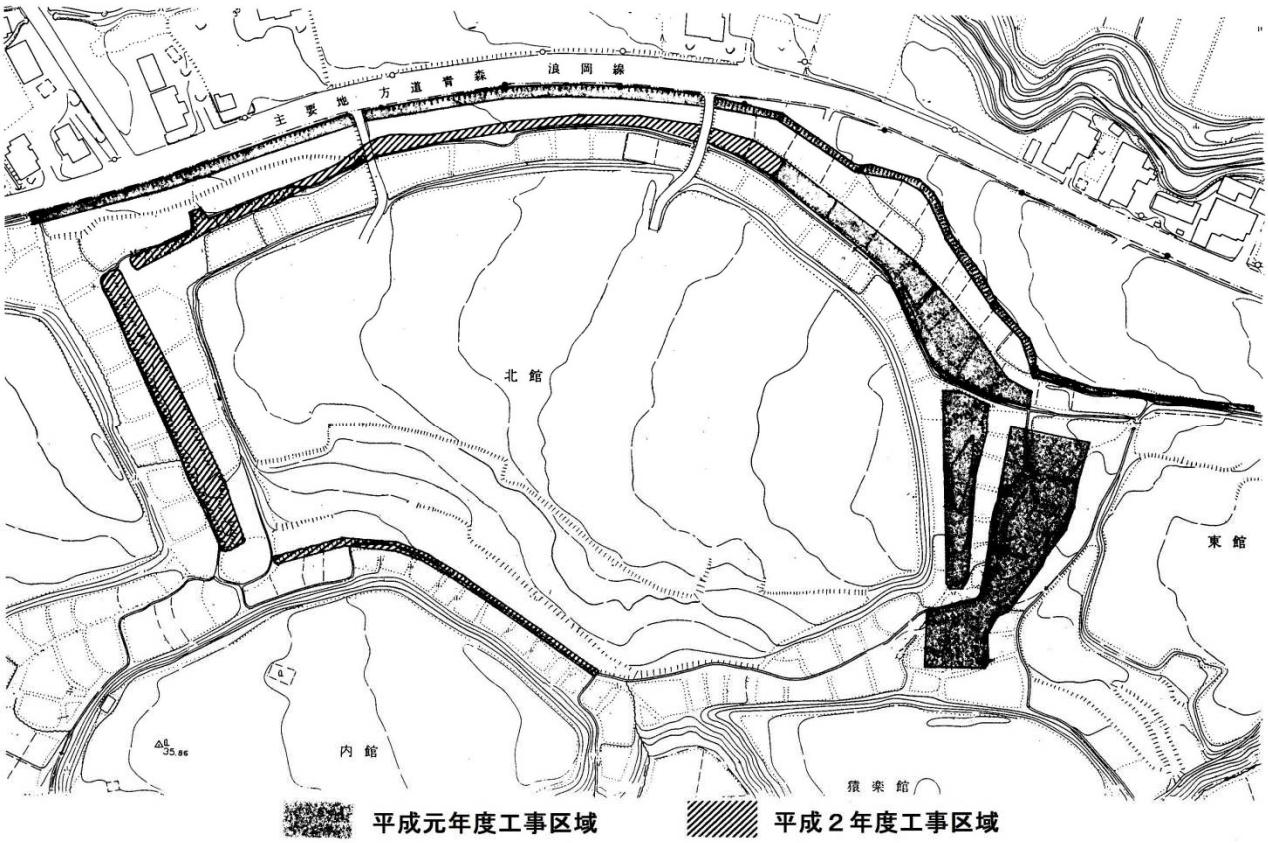


Fig. ４　平成２年度以前の整備工事実施個所

１－２．　平成３年度の整備事業（Fig. ５）

ア．事業の目的

当初計画では、北館南側の堀跡形態（中土塁の有無及び内館と猿楽館間の水管理施設の有無）の確認のため、発掘調査を実施し、その結果を受け中土塁の復元延長工事を行う予定であった。

予定していた中土塁は、平成元年度と平成２年度の中土塁をつなぐもので、整備により北館周囲の堀跡を歴史的景観に復元する計画であった。しかし、発掘調査で出土した遺物の年代確定に時間を費やしたため中土塁の復元整備を次年度とし、平成３年度は史跡北側を通る県道青森―浪岡線沿いの無名の館（外郭）の保護工事を行うこととした。

イ．事業期間

事業準備　平成 3 年 4 月 1 日　～　平成 3 年 6 月 2 日

発掘調査　平成 3 年 6 月 3 日　～　平成 3 年 10 月 31 日

（整理作業は平成４年３月 31 日まで）

整備工事　平成 4 年 1 月 28 日　～　平成 4 年 3 月 27 日

ウ．工事概要

史跡北端に位置する無名の館（外郭）は県道青森―浪岡線に隣接し、これまで史跡内への車両の駐停車、ゴミの不法投棄などが度々問題となっていた。このため、史跡の保護と、整備後の目的外の利用防止や史跡利用者が安心して散策できるよう道路と史跡に明確な区分を行うこととした。工事は、盛土により道路との段差をつけるとともに、盛土上の史跡境界付近に中低木（イチイ）の植栽を行うことで、車両の進入を防ぎ史跡の保護を図ることとした。この整備により、史跡と交通量の多い主要地方道とを隔離することが可能となり、史跡利用者に歴史的景観を提供することができるようになった。

盛土は延長約 230m、高さ県道側で 50 ㎝とし、史跡内に傾斜をつけ擦り付けた。道路との隣接部は１：１程度の勾配で植生土のうを積み、崩落防止を図った。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

環境整備委員（発掘調査指導員を兼ねる、敬称略）

村越潔　（弘前大学教育学部教授：考古学）

坂田泉　（広島工業大学工学部建築学科教授：建築史学）

佐藤仁　（弘前高等学校教諭：文献史学）

古川雅清（宮城県立多賀城跡調査研究所第１科長：環境整備、修景・造園）

成田良治（浪岡町文化財審議会長：郷土史）

整備事業事務局

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　　奈良岡成春

社会教育班長　三浦秀志郎
文化班長　　天内善磨呂
主任主査　　工藤照造
主　　査　　木村秀子
主　　事　　山内秀範
主　　事　　木村浩一（発掘調査・整備工事担当）
主事補　　長谷川亘

○整備事業（工事）施工者

株式会社丸恵三上建設

オ．発掘調査体制

調査事務局　浪岡町教育委員会生涯学習課
調査指導員　環境整備委員（前記）
調査補助員　常田紀子、斉藤とも子、対馬桂子、福士友子、武田秀美、佐々木里見
調査作業員　坪田京子、成田キエ、長谷川やつゑ、太田芳子、雪田悦子、林敬、秋元ミサ、小笠原昭子、兼平昌子、村岡セイ子、斉藤ミツ、福山ヨシ子、山内ヤエ、長谷川ちよ

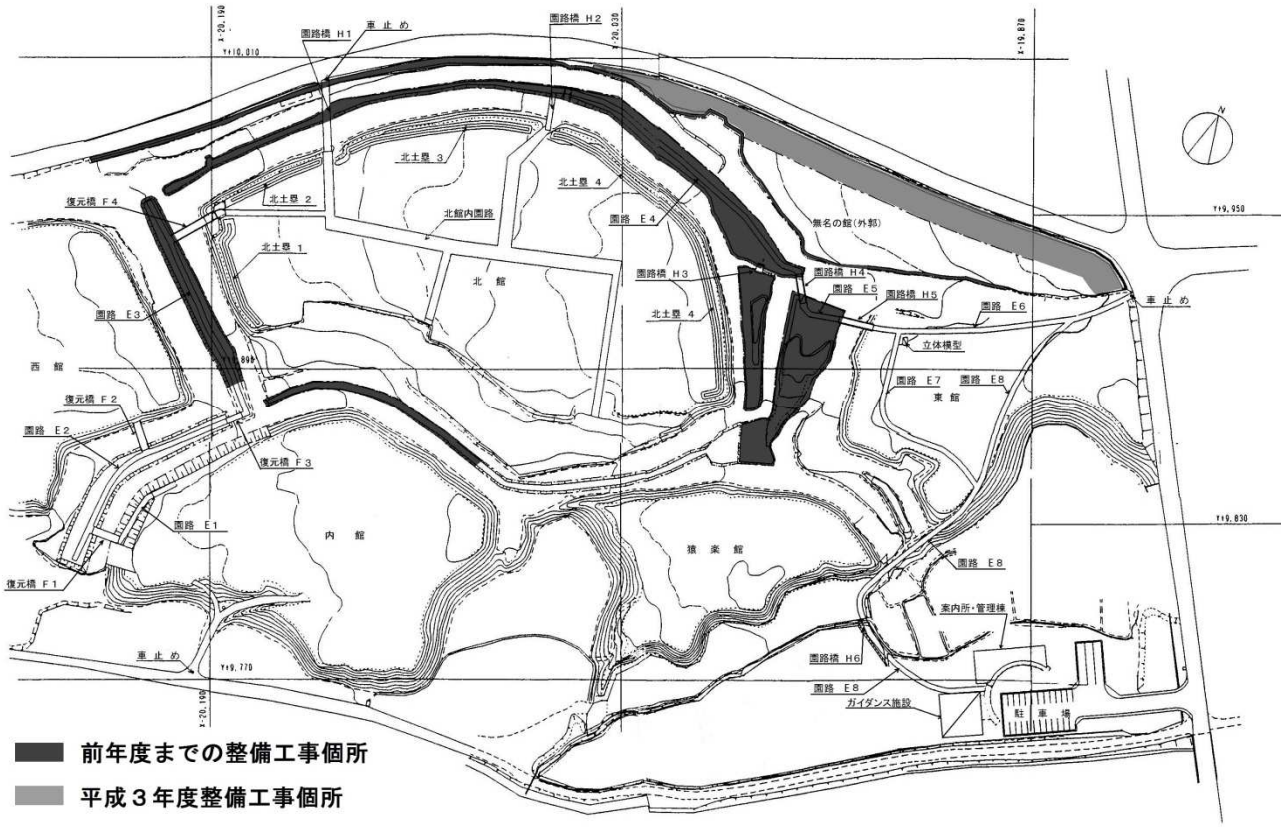


Fig. 5　平成３年度の整備工事実施個所

1-3．　平成４年度の整備事業（Fig. ６）

ア．事業の目的

平成３年度に予定していた北館南側の中土塁復元工事を行い、歴史的景観の復元を図るものである。

発掘調査は平成３年度に検出した西館の虎口と思われる遺構の調査を行い、浪岡城跡内の通路、曲輪の連携を確認するものである。

イ．事業期間

事業準備　平成 4 年 4 月 1 日　～　平成 4 年 7 月 12 日

（この間、宅地開発に係る源常平遺跡緊急発掘調査を実施）

発掘調査　平成 4 年 7 月 13 日　～　平成 4 年 11 月 17 日

（整理作業は平成５年３月 31 日まで）

整備工事　平成 5 年 3 月 6 日　～　平成 5 年 3 月 30 日

ウ．工事概要

整備工事は、発掘調査の成果を基に平成元年度と平成２年度に復元整備した中土塁をつなぐもので、北館南側堀跡について歴史的景観を復元した。中土塁の復元にあたっては、以前の工事同様に、粘性土の盛土により中土塁の形状を復元するもので、斜面の基部は粗朶柵を設置し、崩落を防止した。中土塁延長約 100m。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

環境整備委員（発掘調査指導員を兼ねる、敬称略）

村越潔　　（弘前大学教育学部教授：考古学）

高島成侑　（八戸工業大学教授：建築史学）

葛西善一　（文献史学、郷土史）

佐藤仁　　（弘前高等学校教諭：文献史学）

奈良岡洋一（藤崎園芸高等学校教諭：植物学、考古学）

整備事業事務局

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　奈良岡成春

文化班長　天内善磨呂

主　　査　木村秀子

主　　事　木村浩一（発掘調査・整備工事担当）

○整備工事設計監理

株式会社歴史環境計画研究所

○整備事業施工者

株式会社　千秋興業

オ．発掘調査体制

調査事務局　浪岡町教育委員会生涯学習課文化班

調査指導員　環境整備委員（前記）

調査補助員　常田紀子、斉藤とも子、対馬桂子、福士友子、武田秀美、佐々木里見、長谷川あつ

調査作業員　太田キサ、太田芳子、工藤愛子、斎藤ミツ、高木イツ、津川ふさ、常田ケイ、常田信子、坪田富子、寺山ツヤ、成田サ子、羽賀恵子、船水安代、長谷川ちよ、長谷川やつゑ、細川トモエ

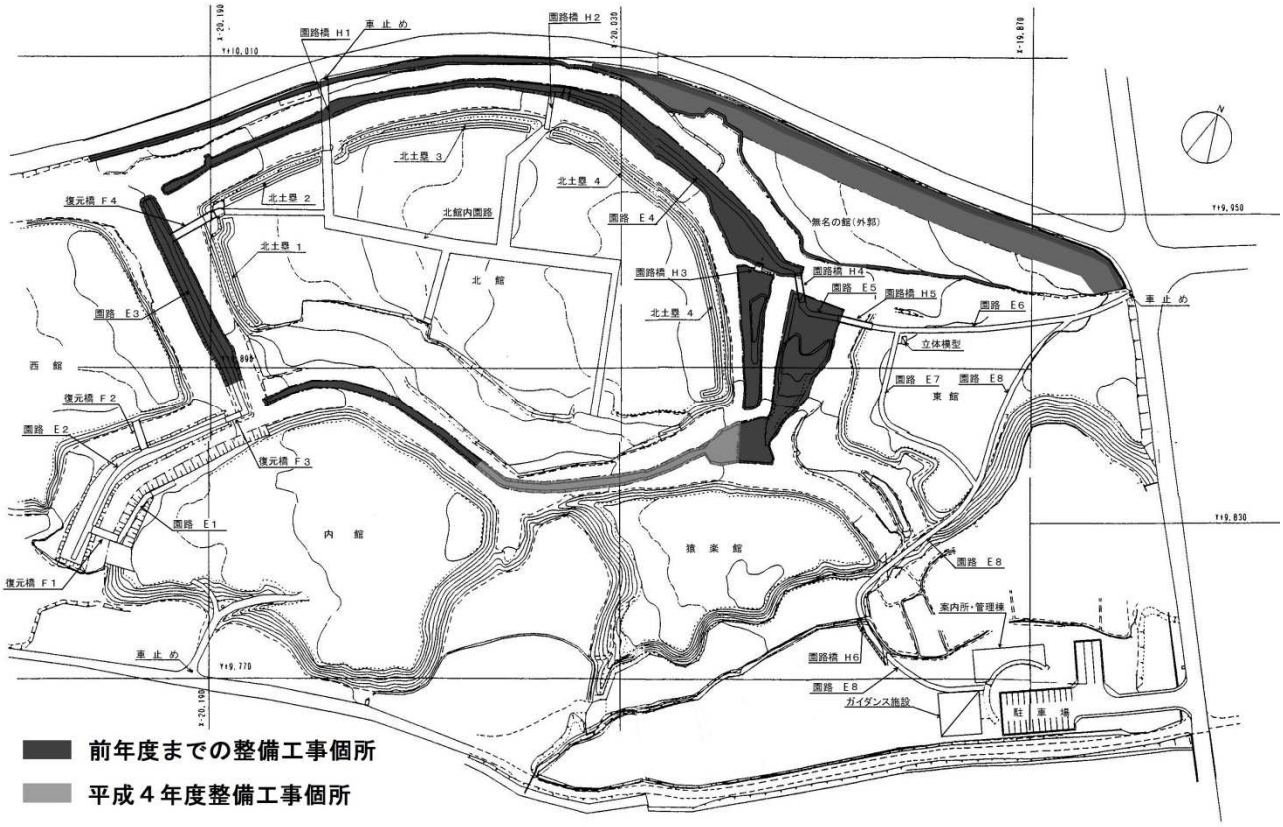


Fig. 6　平成４年度の整備工事実施個所

1-4．　平成５年度の整備事業（Fig. 7）

ア．事業の目的

内館の保護と今後の整備に備え、内館曲輪平面の盛土を行った。

発掘調査は西館と内館の間の堀跡について、中土塁の有無や規模、構造などを解明するため２か所をトレンチ調査した。また、平成４年度に検出した西館の虎口と思われる遺構直下の堀跡を調査し、橋跡の有無など浪岡城跡内の通路、曲輪の連携を確認した。

イ．事業期間

事業準備　平成 5 年 4 月 1 日　～　平成 5 年 5 月 9 日

発掘調査　平成 5 年 5 月 10 日　～　平成 5 年 11 月 12 日

（整理作業は平成 6 年 3 月 31 日まで）

整備工事　平成 5 年 11 月 13 日　～　平成 6 年 3 月 20 日

ウ．工事概要

内館の保護と将来整備のために曲輪上面に整備用盛土を施した。なお、曲輪の西側については内館の入口施設（虎口等）について、平成 5 年度発掘調査で確認した上で整備することとしたため、本年度は東側の約 4,100 ㎡について盛土整地することとした。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

環境整備委員（発掘調査指導員を兼ねる、敬称略）

村越潔　　（弘前大学教育学部教授：考古学）

高島成侑　（八戸工業大学教授：建築史学）

葛西善一　（文献史学、郷土史）

佐藤仁　　（弘前高等学校教諭：文献史学）

奈良岡洋一（藤崎園芸高等学校教諭：植物学、考古学）

整備事業事務局

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　西塚幸一

文化班長　石岡まつ

主　　事　木村浩一（発掘調査・整備工事担当）

○整備工事設計監理

第一綜合建設コンサルタント株式会社

○整備事業施工者

株式会社丸恵三上建設

オ．発掘調査体制

調査事務局　浪岡町教育委員会生涯学習課文化班

調査指導員　環境整備委員（前記）

調査補助員　常田紀子、斉藤とも子、対馬桂子、武田秀美、佐々木里見、長谷川あつ

調査作業員　高木イツ、津川クニ、三上節子、太田芳子、対馬ナリ、鎌田洋子、斎藤ミツ、寺田定子、工藤泰子

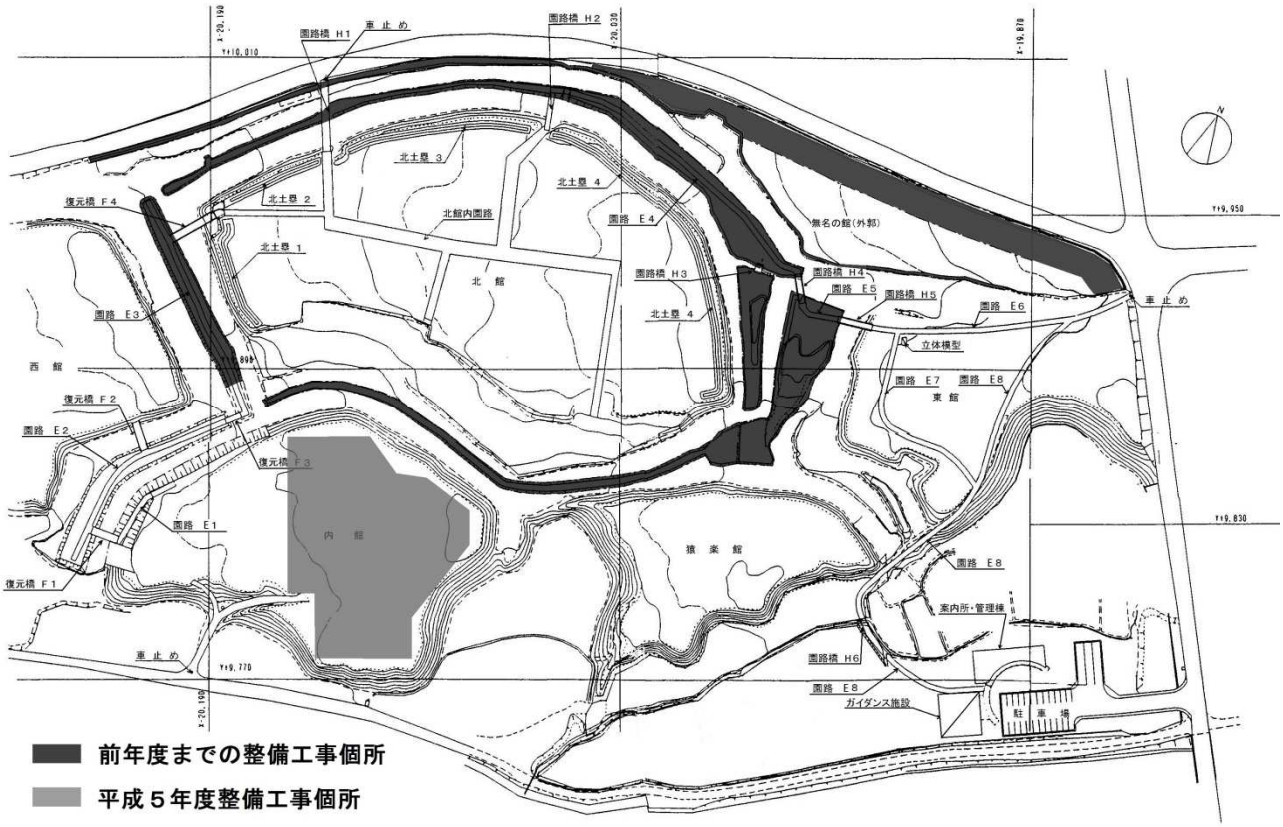


Fig. 7　平成５年度の整備工事実施個所

1-5.　平成６年度の整備事業（Fig. 8）

ア．事業の目的

平成５年度の発掘調査で確認した西館と内館間の堀跡に残る中土塁の復元と、中土塁から内館への通路として公有化以前に削平されたと思われる入口スロープ（虎口）を内館斜面に復元した。また、この入口の設置に伴い、平成５年度に整備できなかった内館西側についても保護用盛土整地工事を行った。

イ．事業期間

事業準備　平成 6 年 4 月 1 日　～　平成 6 年 12 月 8 日
（発掘調査成果の検討、設計含む）
整備工事　平成 6 年 12 月 9 日　～　平成 7 年 3 月 17 日

ウ．工事概要

内館と西館間の堀跡に粘性土の盛土により中土塁の形状を復元した。また、内館斜面の削平された部分の復元盛土を行い、その一部にスロープを復元することで曲輪の入り口とした。いずれも斜面の基部は粗朶柵を設置し崩落を防止した。中土塁延長約 100m。内館斜面保護・盛土復元延長約 100m。

内館平面については西側約 1,000 ㎡に保護盛土と芝張り植栽を行った。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

環境整備委員（発掘調査指導員を兼ねる、敬称略）

村越潔　　（弘前大学教育学部教授：考古学）

高島成侑　（八戸工業大学教授：建築史学）

佐藤仁　　（弘前高等学校教諭：文献史学）

整備事業事務局

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　西塚幸一

文化班長　石岡まつ

主　　事　木村浩一（発掘調査・整備工事担当）

○整備工事設計監理

株式会社歴史環境計画研究所

○整備事業施工者

株式会社丸恵三上建設

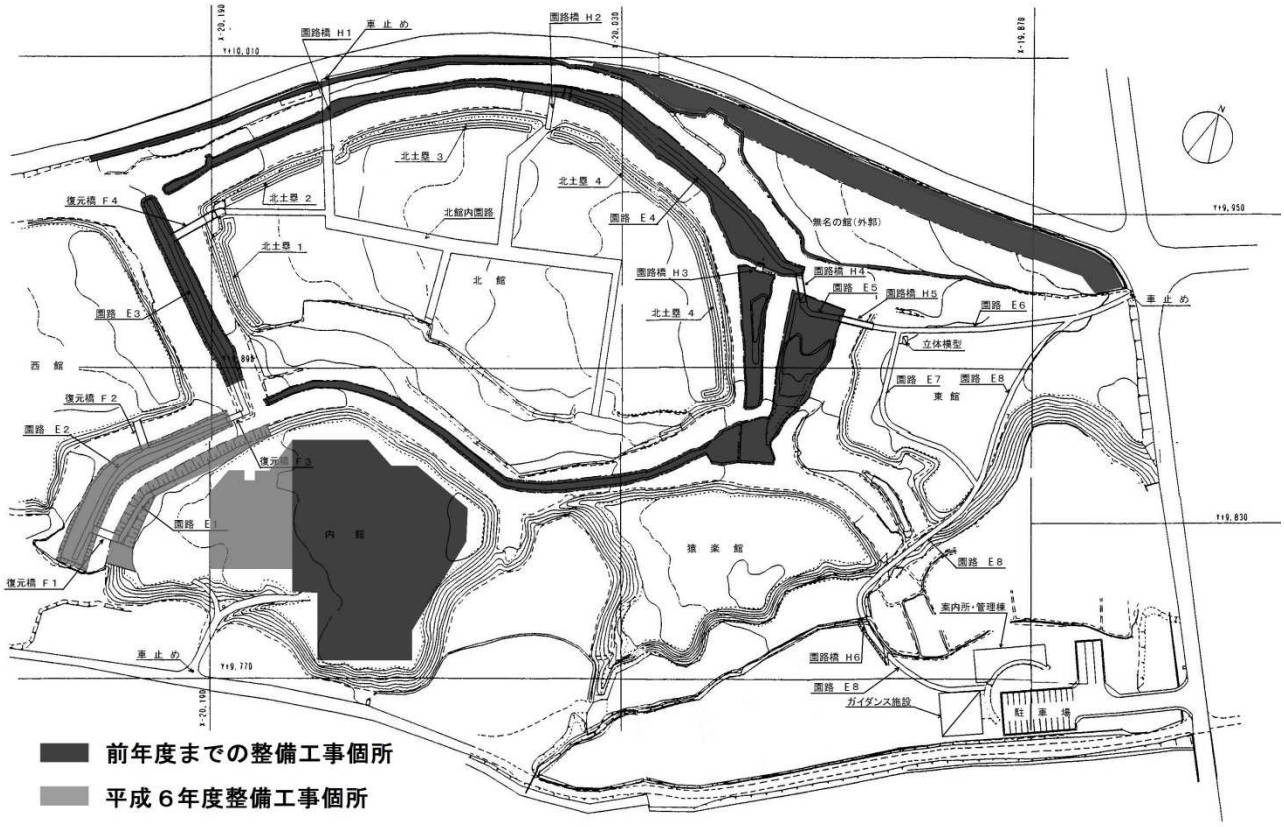


Fig. 8　平成６年度の整備工事実施個所

２　史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）

平成６年度まで文化庁の「史跡整備・一般」の補助事業を活用し整備を行ってきたが、平成７年度から３年間で「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」による整備を進めることとなった。

この事業は、文化庁が平成元年度に新設した補助事業であり、史跡等を将来にわたり保存し、広く活用するため、ふるさとの歴史や文化と触れ合う場として歴史的建造物等の復元、ガイダンス施設等の建設等を行うものである。浪岡城跡の整備にあたっては、建物跡や屋敷割区画の表示、橋の復元、ガイダンス施設の建設などを行い、史跡整備の進捗と早期の活用を図ることとした。

２－１．　平成７年度の整備事業（Fig. ９）

ア．事業の目的

平成７年度は、堀跡に残る中土塁を用いた歴史的通路と、各曲輪を結ぶ園路（推定される通路）及び橋の復元的整備を行うことで、浪岡城跡の往時の姿を追体験するなど、歴史学習の場として活用することが可能となるものである。なお、整備工事を２工区に分け、歴史的な通路・橋の復元を第１工区、園路・仮設橋の設置を第２工区とした。

イ．事業期間

事業準備　平成 7 年 4 月 1 日　～　平成 7 年 11 月 20 日

（発掘調査成果の検討、設計含む）

整備工事　平成 7 年 11 月 21 日　～　平成 8 年 3 月 25 日（第１工区、第２工区とも）

ウ．工事概要

第１工区と第２工区では歴史的通路と園路の仕様は同様としたが、橋については、親柱や手摺（床板押え）の形態・仕様を変えるなど、区別することとした。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　工藤正志

文化班長　石岡まつ

主　　事　木村浩一（整備工事担当）

主　　事　高橋智佳子

○整備工事設計監理

株式会社歴史環境計画研究所

○整備事業施工者

第１工区　株式会社渡辺組浪岡営業所

第２工区　株式会社丸恵三上建設

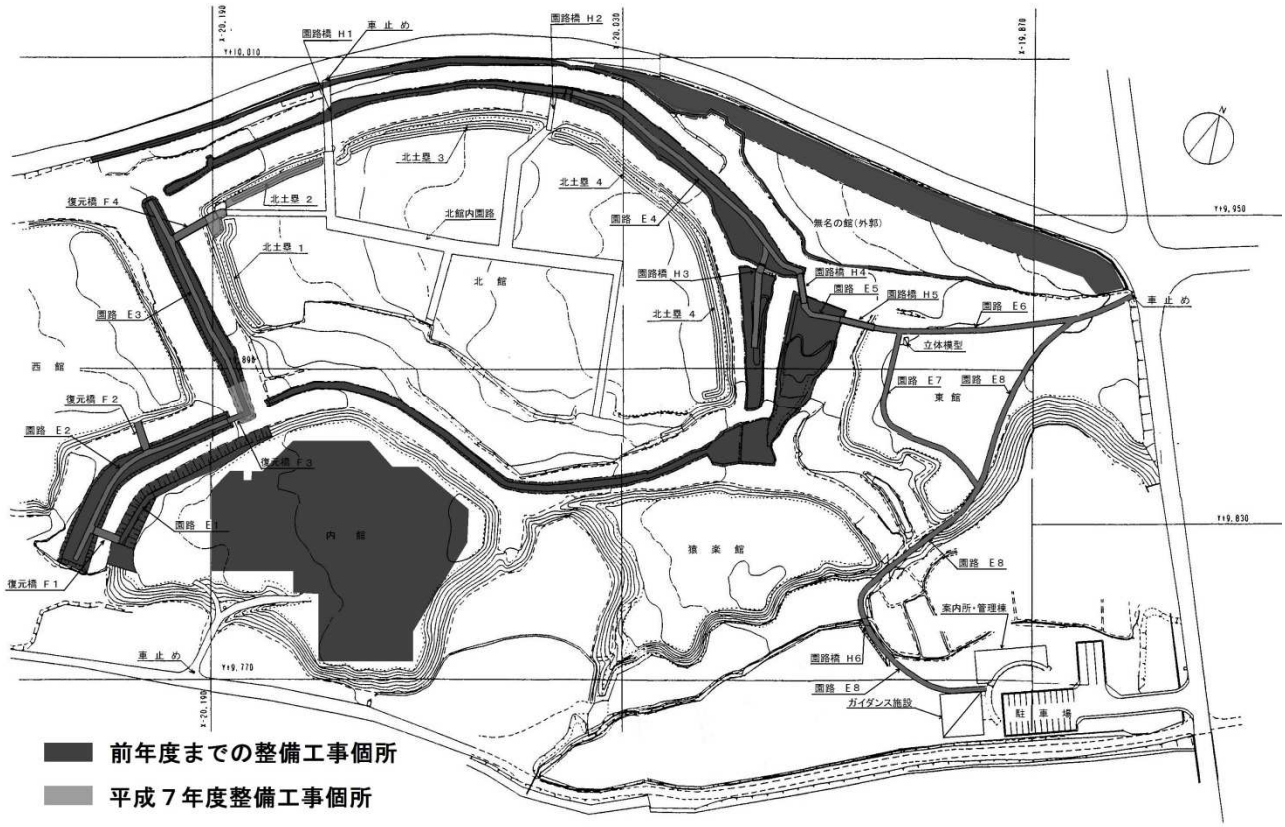


Fig. 9　平成７年度の整備工事実施個所

２−２．　平成８年度の整備事業（Fig. １０）

ア．事業の目的

発掘調査により戦国時代の城館（城下町を内包するような）の姿が考察できる北館について、区画割と建物配置の表示を行うことを中心に、発掘調査が終了しており、史跡の導入部として整備を進めていく計画の東館に、浪岡城跡の全体（立体）模型の設置、植栽整備を行った。

イ．事業期間

事業準備	平成 8 年 4 月 1 日	～	平成 8 年 10 月 4 日
（発掘調査成果の検討、設計含む）			
整備工事	平成 8 年 10 月 5 日	～	平成 9 年 3 月 20 日
整備建築工事	平成 8 年 10 月 8 日	～	平成 9 年 3 月 20 日
全体模型設置工事	平成 9 年 1 月 17 日	～	平成 9 年 3 月 20 日
植栽工事	平成 9 年 3 月 7 日	～	平成 9 年 3 月 25 日

ウ．工事概要

北館に整備用の盛土（遺構保護層 50 ㎝、整備用盛土 50 ㎝）を施したうえで歴史的通路の表示、曲輪周囲の土塁復元、車止めの設置などの土木的工事と、整備建築工事として、建物表示、推定される屋敷区画割の設置、園路に伴う橋の設置などを行った。

このほか、磁器製の全体（立体）模型の製作設置、東館の道路境界付近に中高木の植栽整備を行い史跡外との景観の遮蔽地帯とした。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　工藤正志

文化班長　山内幸博

主　　査　木村浩一（整備工事担当）

主　　事　高橋智佳子

○整備工事設計監理

株式会社歴史環境計画研究所

○整備事業施工者

整備工事　　株式会社渡辺組浪岡営業所

整備建築工事　　株式会社福島組

全体模型設置工事　岩尾エンヂニヤリング株式会社

植栽工事　　株式会社山印造園土木

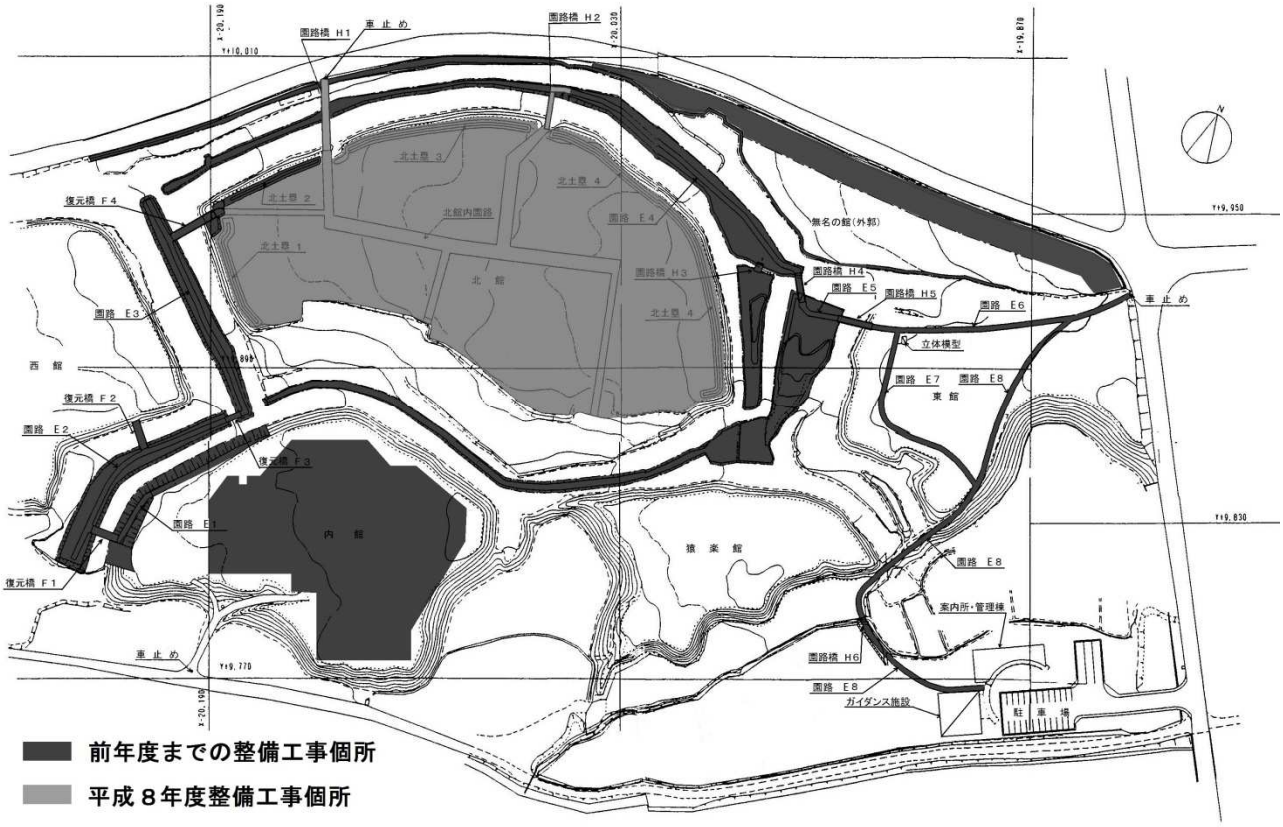


Fig. １０　平成８年度の整備工事実施個所

２－３．　平成９年度の整備事業（Fig.１１）

ア．事業の目的

平成９年度は、平成８年度まで行ってきた城館内の歴史的通路や景観の整備を受け、来訪者が浪岡城跡の概要を理解するためのガイダンス棟の建設を行った。なお、休憩、便益に供する施設は国庫補助事業を用いず、史跡隣接地を平成５年度に買収、平成６年度に案内所を建設している。ガイダンス棟は案内所に隣接して建設し、一体として活用するものである。

また、環境整備工事として史跡内への説明板の設置及びガイダンス施設（案内所）周囲への植栽整備を行った。

イ．事業期間

事業準備（設計含む）	平成 9 年 4 月 1 日	～	平成 8 年 10 月 4 日
ガイダンス棟建設工事	平成 9 年 9 月 18 日	～	平成 10 年 3 月 20 日
環境整備工事	平成 10 年 1 月 29 日	～	平成 10 年 3 月 20 日

ウ．工事概要

史跡浪岡城跡の発掘調査成果を展示する施設としては、史跡から西方 500mほどの場所に「浪岡町中世の館」が平成４年度に建築されている。このため、ガイダンス棟では出土遺物等の展示は行わず、浪岡城跡の様々な姿や情報を映像で見ることができる映像ホールとして整備することとした。ホールは 110 席の固定座席を設置し、映像の上映や講演会、学習会に活用できるものとした。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○整備事業体制

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　木村鐵雄

文化班長　山内幸博

主　　査　木村浩一（整備工事担当）

主　　事　高橋智佳子

○整備工事設計監理

株式会社　歴史環境計画研究所

○整備事業施工者

ガイダンス棟建設工事　株式会社福島組

環境整備工事　　水木土建

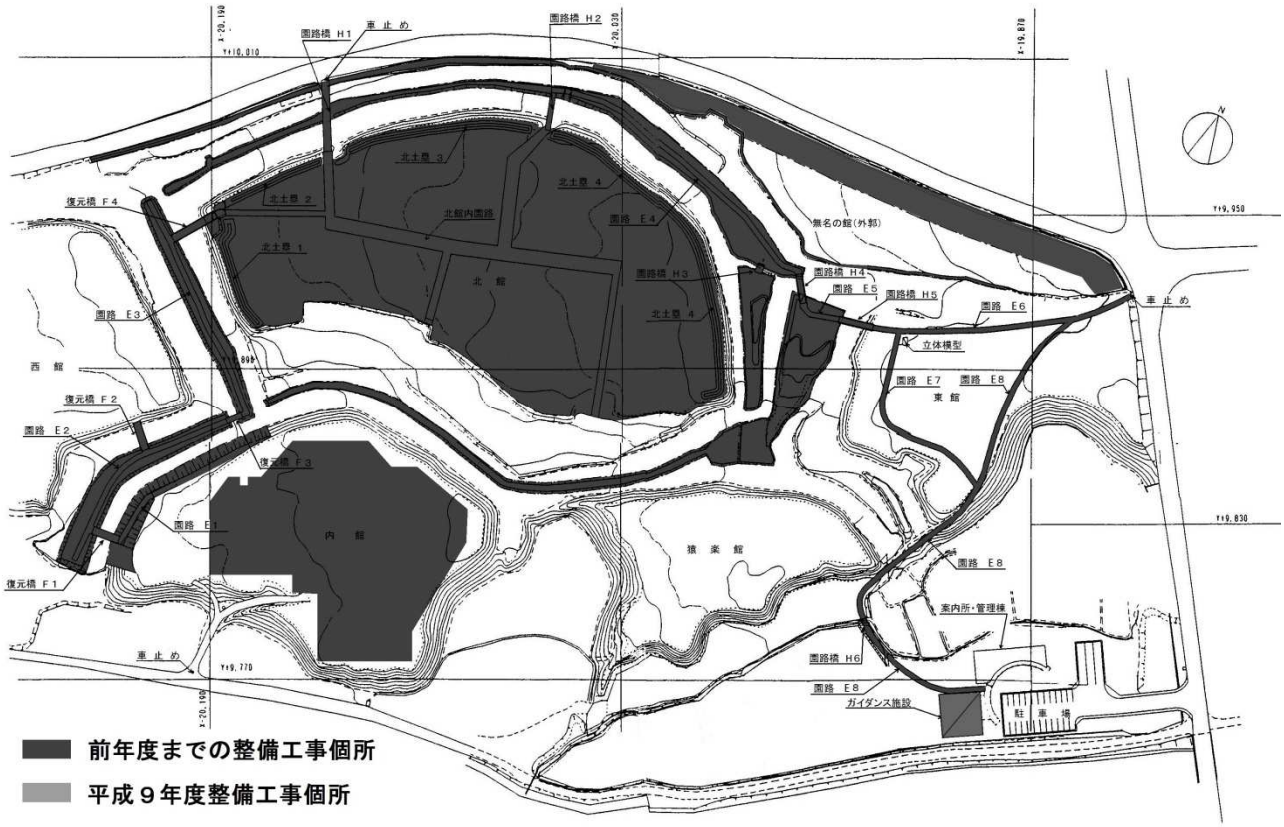


Fig. １１　平成９年度の整備工事実施個所

３　史跡整備関連事業（Ch. １）

３－１．地域文化財保全事業

ア．事業の目的

指定文化財の保全を図るための総務省所管の地域総合整備事業債充当事業である地域文化財保全事業により浪岡城跡周辺の水田等を買収し、史跡の保全を図るとともに史跡活用のための便益施設と駐車場を整備するものである。

イ．事業期間

平成 5～6 年度

ウ．工事概要

史跡隣接地の買収、駐車場整備、管理棟（便益・休憩施設）の設置を行った。

エ．事業実施体制

○事業主体者

青森県南津軽郡浪岡町

浪岡町長　阿部幡彦

○事業実施事務局

浪岡町教育委員会

教　育　長　蝦名俊吉

生涯学習課　課　　長　西塚幸一

文化班長　石岡まつ

主　　事　木村浩一（事業予定地の公有化、整備工事担当）

○駐車場・管理棟建設予定地

施設建設予定地の公有化は直営で行った。

○整備工事設計監理

駐車場整備（測量・設計管理）：第一綜合建設コンサルタント株式会社

管理棟設計管理：株式会社歴史環境計画研究所

○整備事業施工者

駐車場整備工事：株式会社丸恵三上建設

管理棟建設工事：株式会社福島組

３－２．浪岡町歴史資料館及び浪岡町中世の館建設事業

ア．事業の目的

浪岡城跡の発掘調査資料を展示し、浪岡町の象徴である浪岡城跡を中心に、町の歴史への理解を深めるため、浪岡城跡に近接している旧浪岡小学校を改修し、平成元年度に「浪岡町歴史資料館」が開館した。平成 4 年度には浪岡町歴史資料館を増床する形で建物を連結させ、浪岡城跡の展示室と出土遺物や絵画、文化財、古文書等の収蔵庫、そして文化ホールを兼ね備えた「浪岡町中世の館」が開館している。

Ⅳ　環境整備工事について

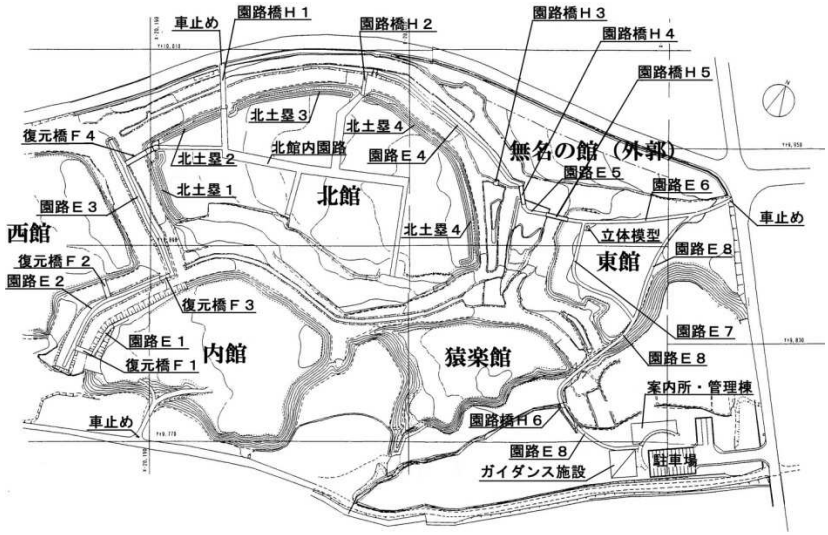


Fig. １２　整備工事実施個所

１　史跡環境整備工事

１−１．　平成２年度以前の整備工事

平成元年度及び２年度には北館周囲の中土塁復元工事を行った。昭和 61 年度調査において検出したＳＳ０１（後述）の検出状態を参考に土留めの杭を打ち、杭に雑木の枝を絡めた「粗朶柵」を設置し、粗朶柵で囲んだ中に盛土し、締固め（突き固め）て中土塁を構築することとした（Fig. １３、PL. １）。

粗朶柵は、長さ 200 ㎝の松杭を 50 ㎝間隔で地下 150 ㎝（地上 50 ㎝）まで人力で打ち込み、地上部分に雑木や枝を交互に絡めるものとした。発掘調査で出土した木材はヒノキアスナロ（ヒバ）やスギ、クヌギ、ブナなど多種多様であり、また杭として利用されていたものは、丸太や板材、塔婆や建築部材の転用など、統一のとれるものではなかった。粗朶柵設置工事では、耐久性と安価で安定した供給を受けられ、補修に対応しやすいことから松杭を使用するものとした。

盛土・締固め（突き固め）方法は、中土塁が削平等により現存せず、復元すべき部分については、粘性土を用いて、より人力工事に近づけるようランマにより、巻出し厚 30 ㎝で締固めて盛土を行うものとし、中土塁の一部が現存しさらに盛土が必要となる部分では、中土塁を保護しながら周囲に粘性土を盛る工法をとった。

法面については人力による羽立成形を行うこととした。法面の傾斜角度については、各曲輪の斜面の傾斜や発掘調査成果を基に、当時の景観を復元するため、あえて斜面の角度を 45 度とした。

なお、整備後、粗朶柵、中土塁法面が落ち着き、天端に極度の荷重がかからない状態では、中土塁や法面の崩落は発生していない。中土塁の幅は現況もしくは発掘調査結果に基づき決定したが、高さに関しては不明であるため曲輪上面よりも低く抑えて整備した。高さの基準は、北館西側で検出した虎口とした（結果、西館虎口とも整合性が取れる結果となった）。

平成３年度以降の中土塁復元工事も同様の仕様としている。平成２年度までの工事は、北館周囲の中土塁を対象に、平成元年度は約 120ｍ、平成２年度は約 180ｍを施工した。

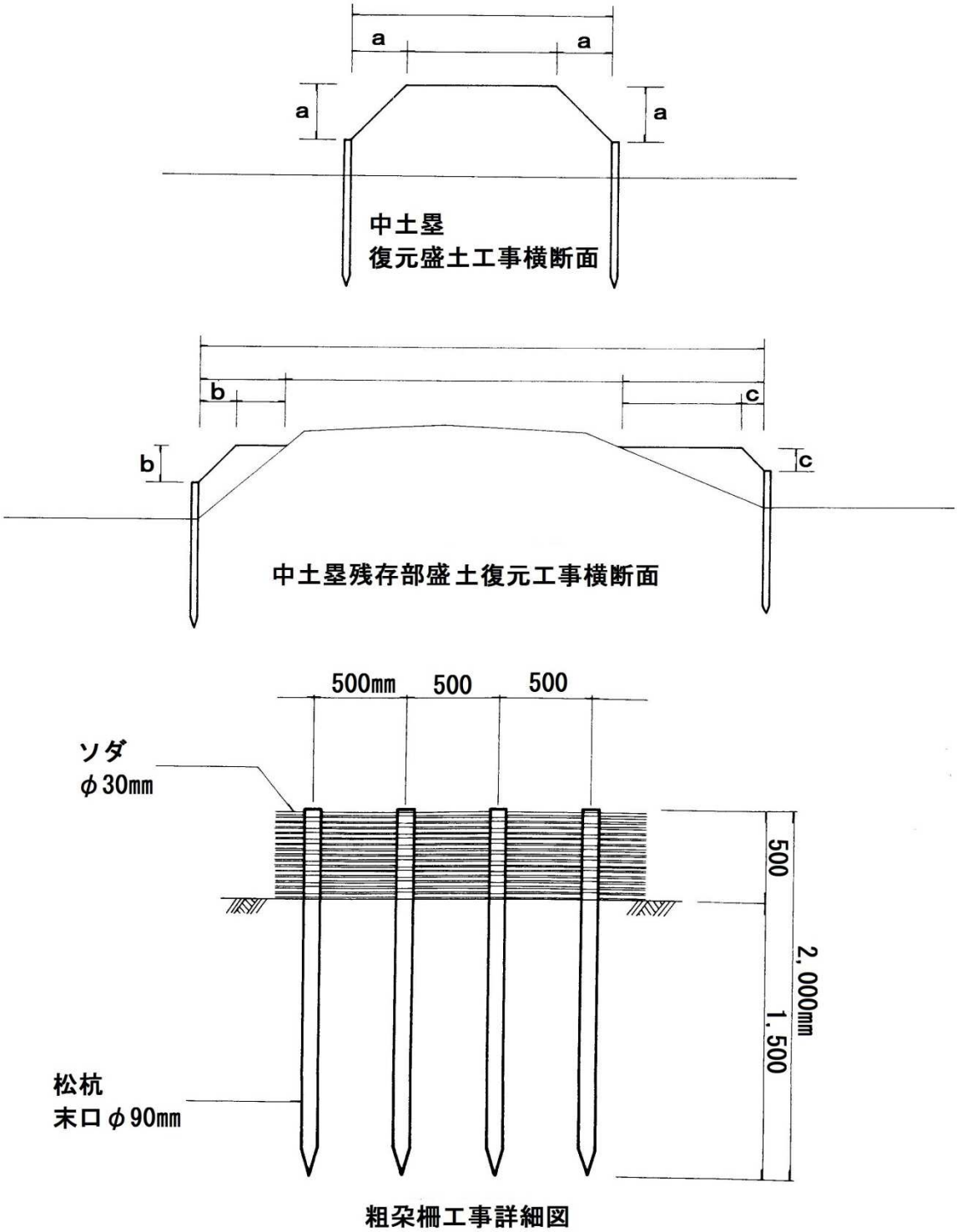


Fig. １３　中土塁復元工事標準断面及び粗朶柵仕様

１-２．　平成３年度の整備工事（Fig. １４）

当初、北館南側の中土塁の復元を行う予定であったが、北館と猿楽館間の堀跡から出土した獅子頭の年代について検討、確定する必要が生じたため、平成３年度での中土塁復元工事は見送ることとした。一方、史跡指定地北側に隣接する県道青森―浪岡線沿いの「無名の館（外郭）」への駐車やゴミの廃棄、排雪を行う人が現れ、史跡の保存管理に影響を及ぼしてきたことから、先行して「無名の館」と県道青森―浪岡線の境界部分に盛土植栽を行うこととした。

工事は、道路沿いに 50 ㎝の高さで延長約 230m に盛土し、道路側は植生土のうを用い１：１の法面を持たせるが、史跡内部は緩やかな傾斜を持たせることで曲輪周囲の歴史的土塁と誤解されないよう配慮した。生垣については時代性と管理、遮蔽性からイチイを選定し、延長 228m を設置した。自動車で県道を通行した際、城跡内が見えなくなったとの苦情も寄せられたが、一方で、城跡内を散策した際、部分的にせよ自動車が見えなくなったことで落ち着きが生まれたとの意見も頂いた。

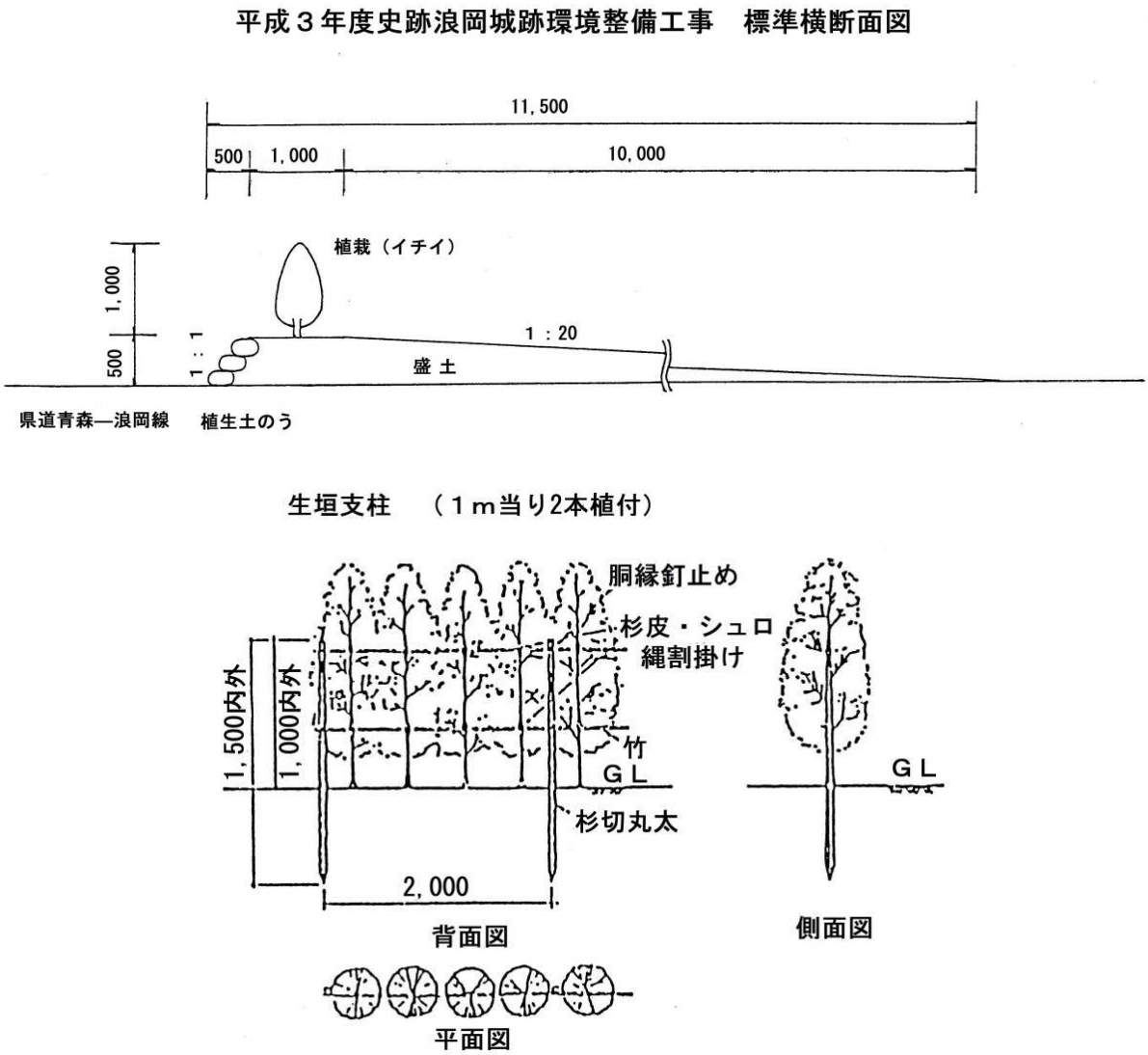


Fig. １４　無名の館盛土標準断面及び植栽仕様

１−３．　平成４年度の整備工事

平成３年度出土の獅子頭について、制作年代が城館期まで上ることが可能と判明したため、予定していた北館と猿楽館間の中土塁延長約 100m を復元した。中土塁の復元工事方法は従来と同様である。

また、平成３年度に行った無名の館部分について、盛土のままであったことから、景観整備として 684 ㎡の芝張り植栽を行った。

１−４．　平成５年度の整備工事

調査の終了した内館について、東半部の 4,100 ㎡を対象に遺構保護と利用促進を図るため 0〜50 ㎝の盛土整地及び芝張り植栽を行った。なお、西館と内館間の中土塁について平成５年度の発掘調査でようやく推定できる状態となったが、同一年度・同一個所の発掘調査と整備工事は不可能であると判断し、内館の整備工事を優先させた。内館については、昭和 40 年代までは地域の観桜会（桜祭り）や運動会等で使用するなど町民に親しまれてきたが、発掘調査の実施により利用できなくなっていた。発掘調査が終了し、町民から利用希望が多く寄せられたことや、、史跡指定地外の隣接地に駐車場を整備するなど、一般開放に向けた整備を進めきたことから整備個所を変更し、利用できる状態とした。

１−５．　平成６年度の整備工事（Fig. １５）

内館と西館間の中土塁復元 84m と、削平されたと思われる内館の西側斜面（入口スロープ）の復元盛土 78m、内館平場西側の修景整備 1,000 ㎡を実施した。当初は、中土塁から曲輪に架かる橋の整備を行う予定であったが、前年度の内館整備が終了していないため、橋の設置を次年度以降に行うこととした。なお、次年度からは「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」の国庫補助を充当し、整備の進捗を図ることとした。

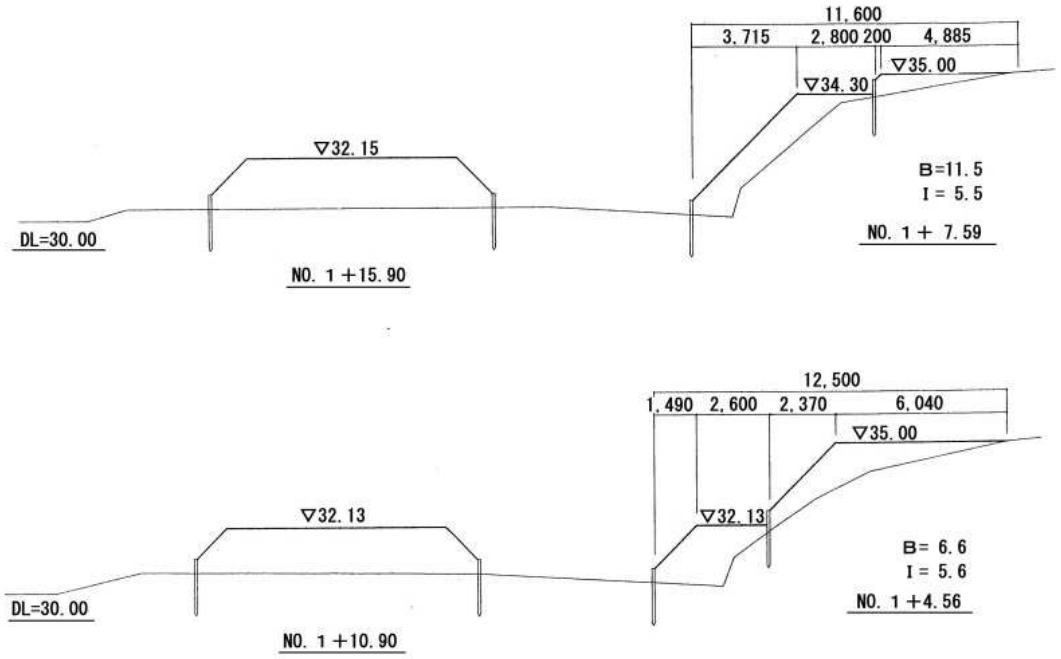


Fig. １５　中土塁の復元と内館斜面の設置する入口スロープ復元の標準断面

２　史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）での環境整備工事

平成 6 年度までの整備工事は「史跡整備・一般」の国庫補助を充当してきたが、平成 7 年度から「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」に採択されたことで史跡工事の進捗が図られることとなった。「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」は平成元年度から開始された事業で、内容は概ね 3 年間、総事業費 3 億円で、①歴史的建造物等の復元、②遺構全体模型（野外）の設置、③遺構露出保護展示施設の設置、④ガイダンス施設の建設、⑤その他活用上必要な事業の 5 つの整備項目から 3 項目以上の内容を含むことを要件としており、従来の整備よりも立体的、視覚的な整備が可能となるものであった。浪岡城跡の整備にあたっては、①歴史的建造物等の復元、②遺構全体模型（野外）の設置、④ガイダンス施設の建設の 3 項目を選択した。

２-１．　平成７年度の整備工事（Fig.２０・２５、PL.７）

平成 7 年度は①歴史的建造物等の復元の一環として、歴史的通路と復元橋の復元設置及び園路と園路橋の設置を主とした。

中土塁上を通路として用いていた歴史的通路の復元及び園路整備については、合計約 1,700ｍを整備した。

橋は合計 8 基を設置したが、橋は全て素材を青森ヒバ（ヒノキアスナロ）としたが、発掘調査結果により架橋場所の推定できる部分に架ける、歴史的建造物等に位置づけた橋（Fig.１６・１７・１８・１９、PL.２）と、園路として架けた橋（Fig.２１・２２・２３・２４、PL.６）の仕様を区別するため、歴史的建造物の橋は、240 ㎜角の親柱を設置し、笠木の高さを 205 ㎜とするなど城内の「橋」としての形態を表現した。一方、園路としての橋は親柱を設置せず、笠木の高さも 100 ㎜にするなど、園路の延長としての形態とした。構造上は橋脚、床板、貫、梁、桁などの部材は同一の規格とし、強度・景観に配慮している。

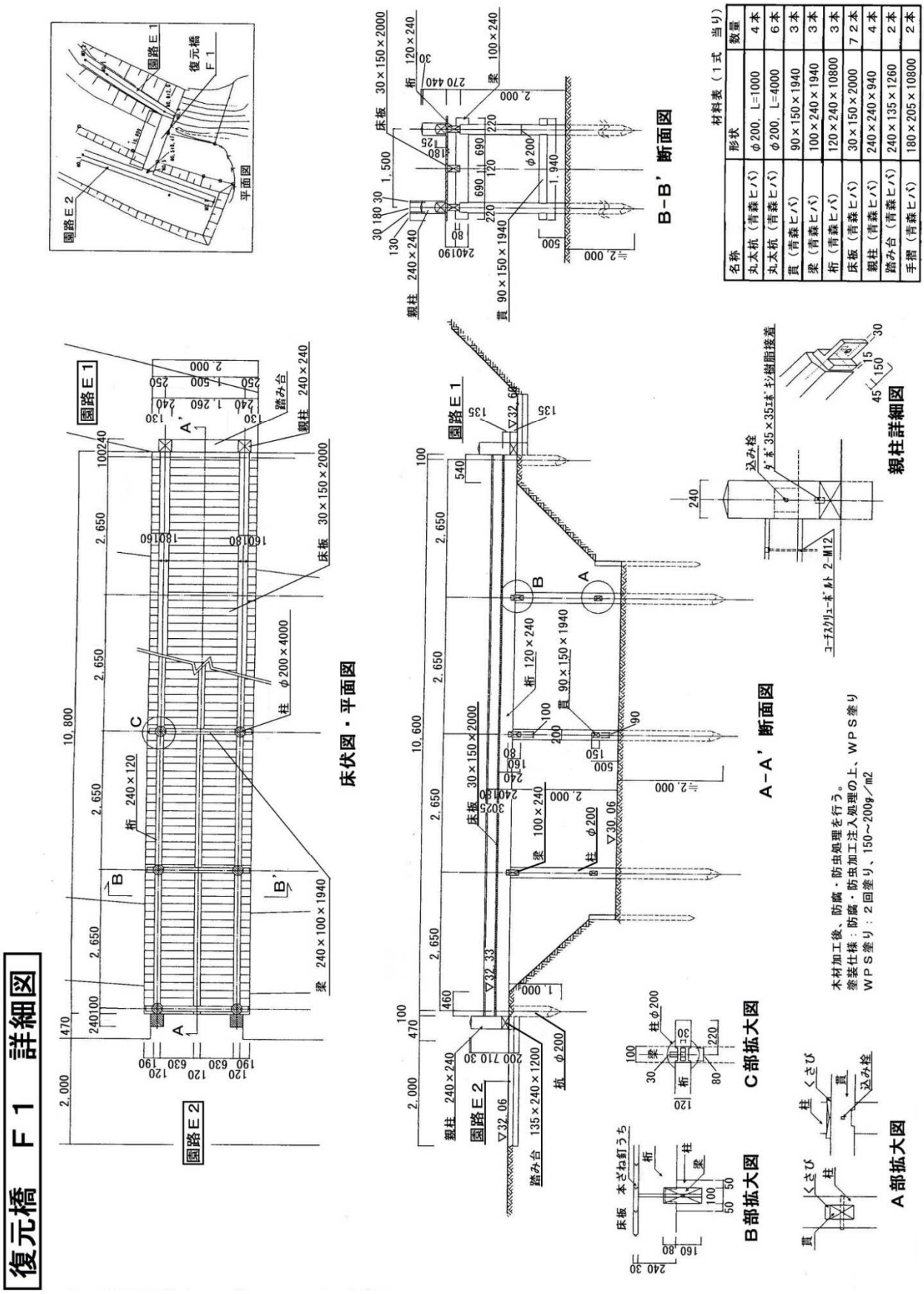
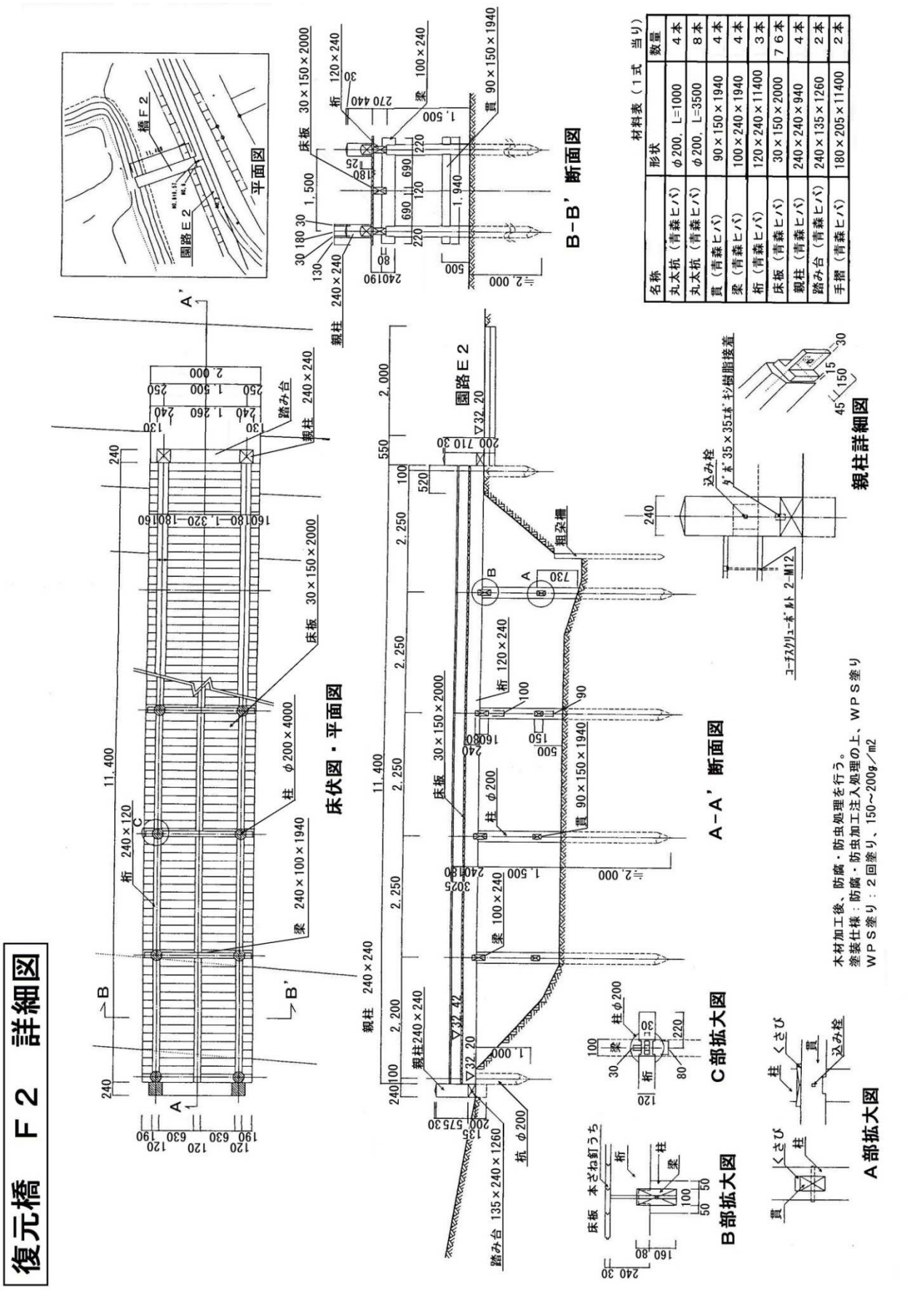


Fig. １６　復元橋Ｆ１詳細図



材料表（1式　当り）

名称	形状	数量
丸太杭（青森ヒバ）	φ200, L=1000	4本
丸太杭（青森ヒバ）	φ200, L=3500	8本
貫（青森ヒバ）	90×150×1940	4本
梁（青森ヒバ）	100×240×1940	4本
桁（青森ヒバ）	120×240×11400	3本
床板（青森ヒバ）	30×150×2000	76本
親柱（青森ヒバ）	240×240×940	4本
踏み台（青森ヒバ）	240×135×1260	2本
手摺（青森ヒバ）	180×205×11400	2本

Fig. １７　復元橋Ｆ２詳細図

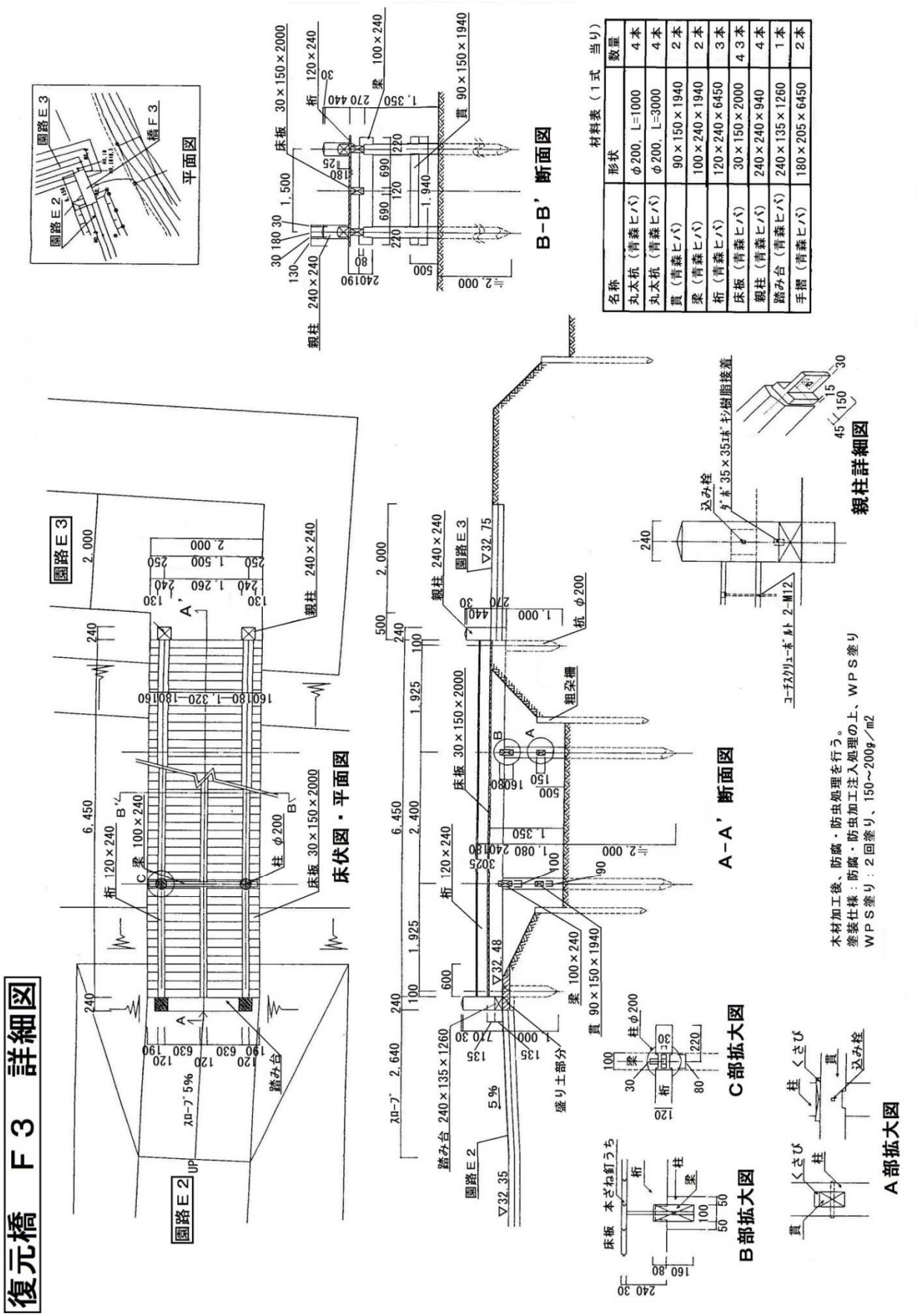


Fig. １８　復元橋Ｆ３詳細図

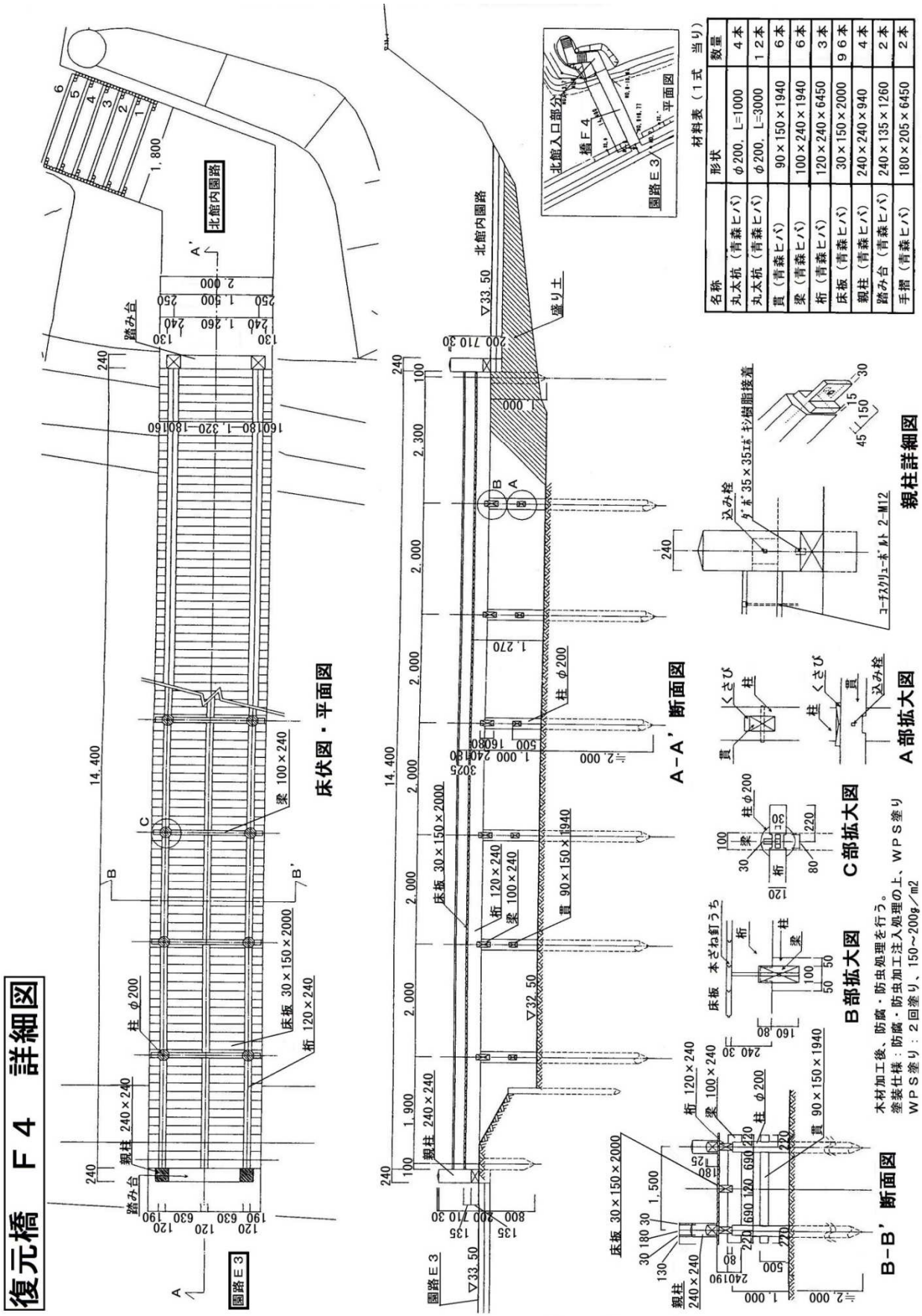
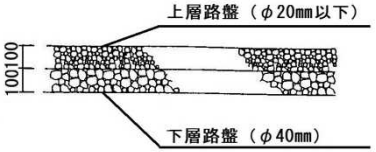


Fig. １９　復元橋Ｆ４詳細図

園路舗装標準断面図

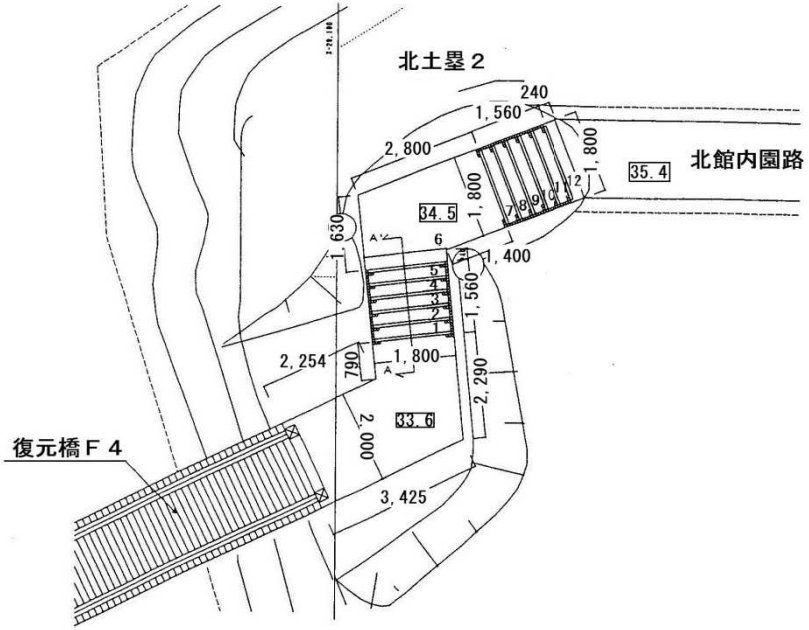


園路舗装標準断面図

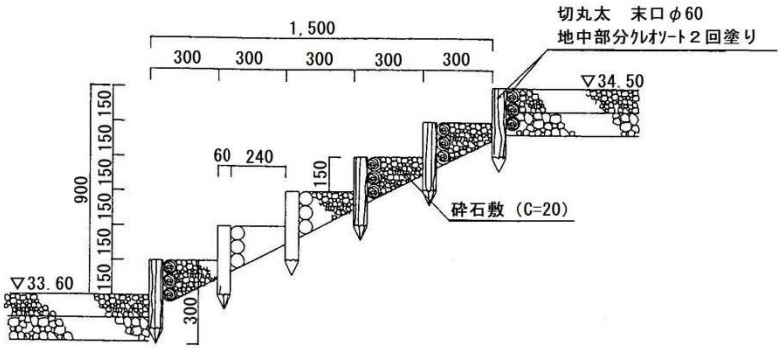
材料表（100m2　当り）

上層	100×0.1＝10m3
下層	100×0.1＝10m3

北館入口（Ｆ４橋）部分詳細図



平面図



Ａ－Ａ’断面図（土居木階段詳細図）

材料表（１段　当り）

切丸太（L＝360）	１４本
切丸太（L＝1680）	３本
砕石（C=20）	0.05m3

Fig. ２０　北館西側出入り口復元詳細図

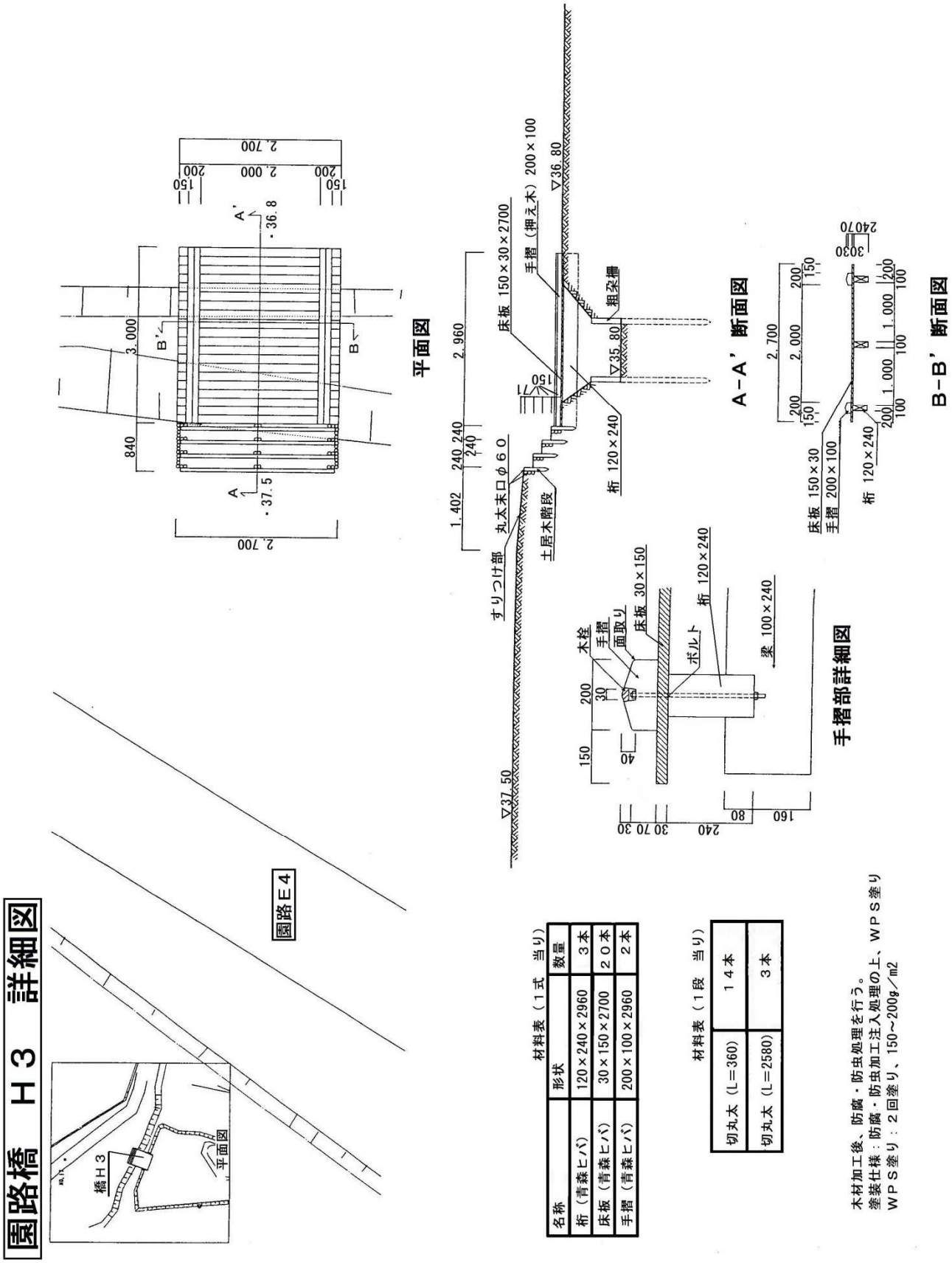


Fig. ２１　園路橋Ｈ３詳細図

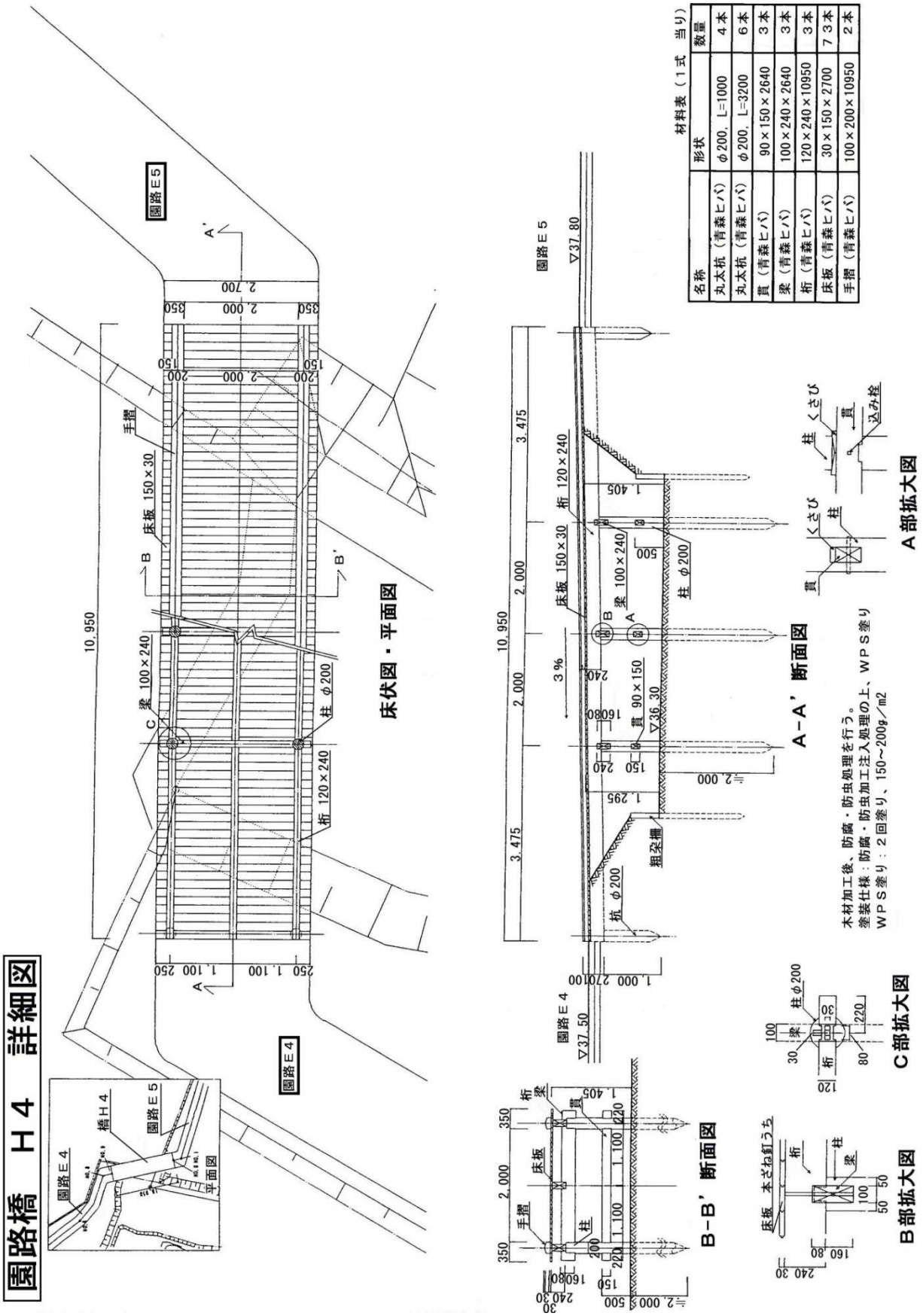


Fig. ２２　園路橋Ｈ４詳細図

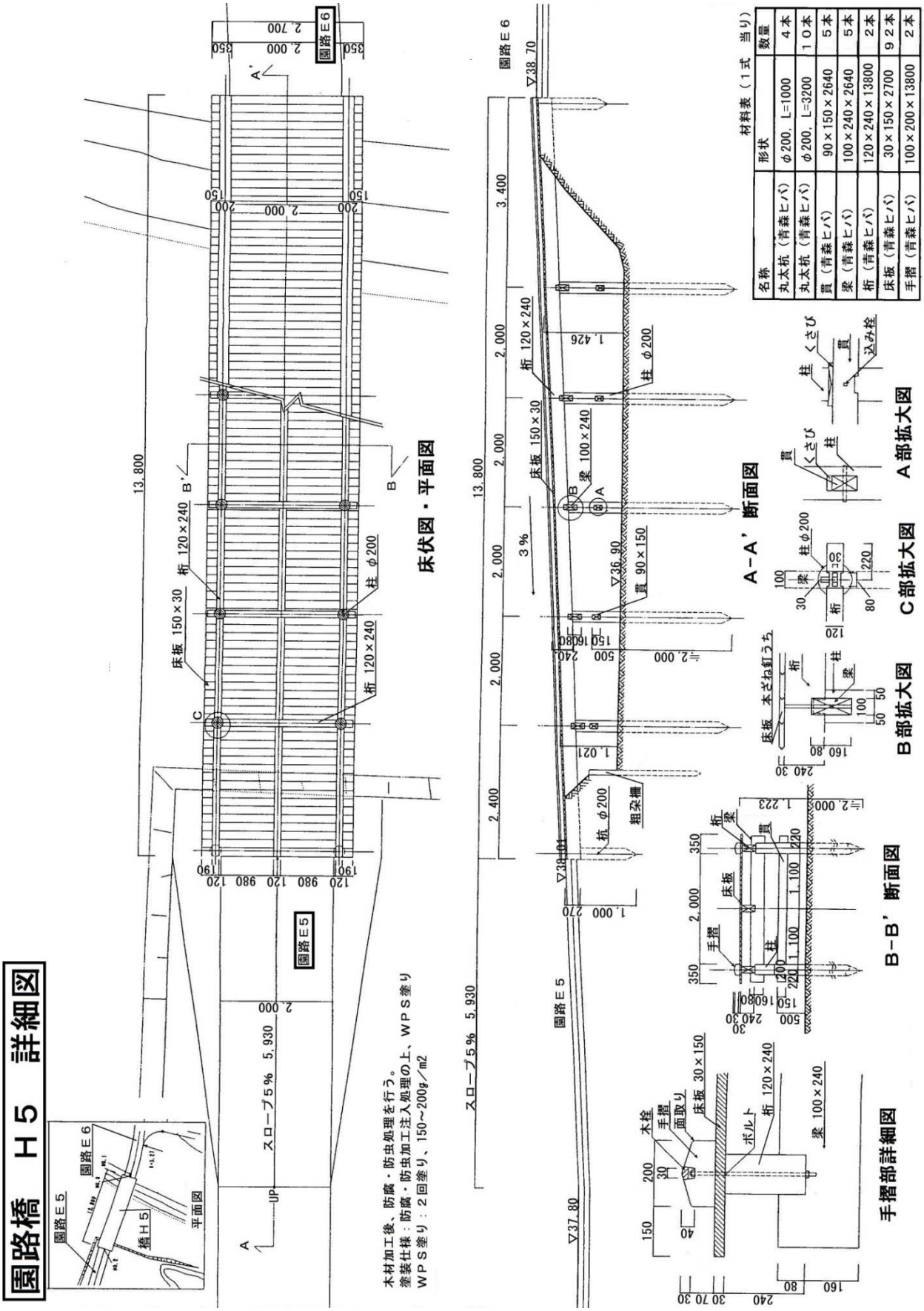
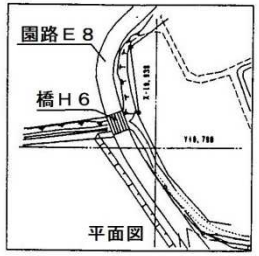
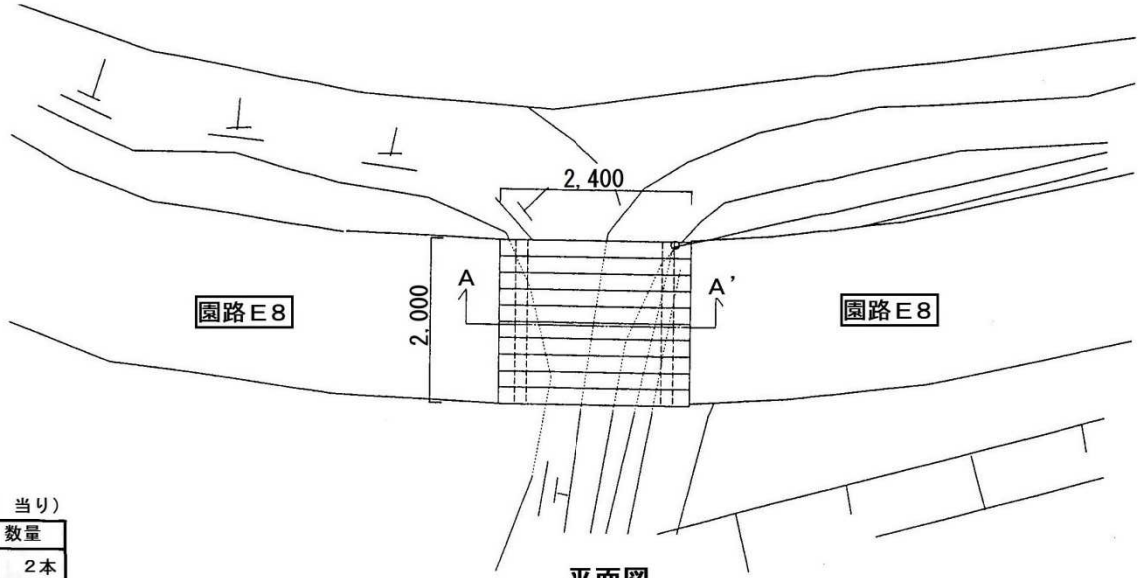


Fig. ２３　園路橋Ｈ５詳細図

園路橋　Ｈ６　詳細図



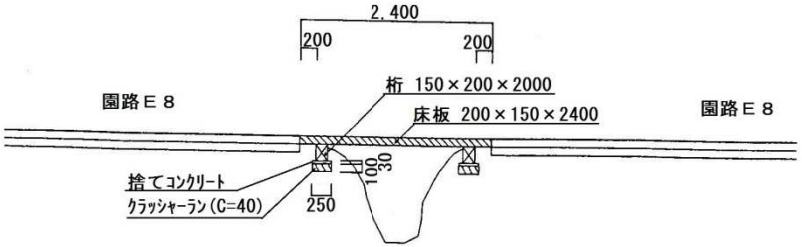


平面図

材料表（１式　当り）

名称	形状	数量
桁（青森ヒバ）	150×200×2000	２本
床板（青森ヒバ）	200×150×2400	１０本
捨てｺﾝｸﾘｰﾄ		0.03m3
ｸﾗｯｼｬｰﾗﾝ(C=40)		0.1m3

木材加工後、防腐・防虫処理を行う。
塗装仕様：防腐・防虫加工注入処理の上、ＷＰＳ塗り
ＷＰＳ塗り：２回塗り、150～200g／m2



Ａ－Ａ’断面図

Fig. ２４　園路橋Ｈ６詳細図

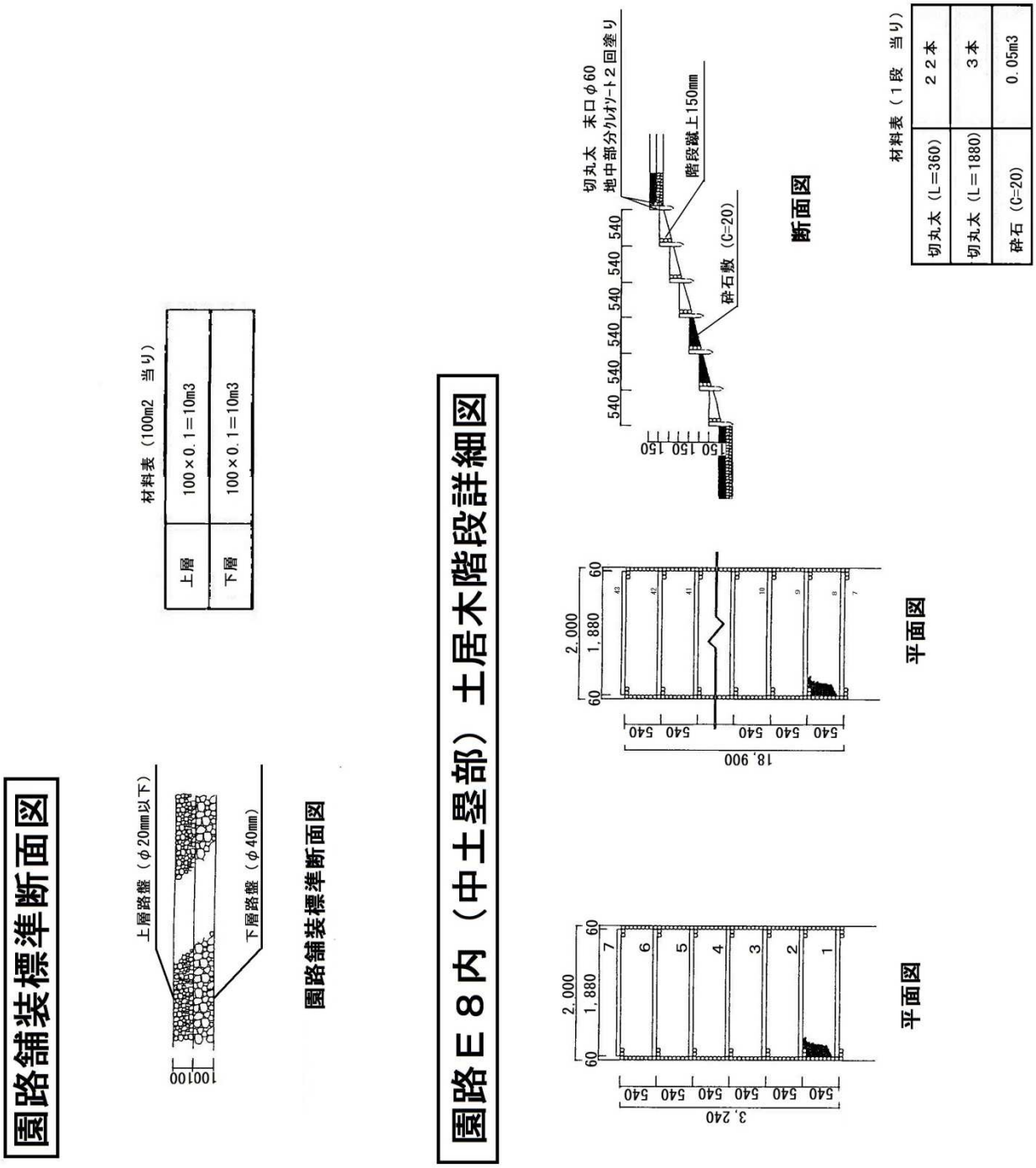


Fig. ２５　園路標準断面及び土居木階段詳細図

２-２．　平成８年度の整備工事（Fig. ２６、PL. ８）

平成８年度は北館の整備を中心に行った。整備内容は、

① 北館北側の園路Ｅ４と北館内の通路を結ぶため、園路橋Ｈ２の設置及び緊急時や管理上必要に応じて車両が進入できるよう、園路橋Ｈ１を設置した（Fig. ２７・２８、PL. ６）。

② 北館のうち、南側の帯曲輪を除く東・西・北の縁辺部に小規模な土塁を復元した（Fig. ２９、PL. ５）。土塁延長 274m。

③ 発掘調査で検出した遺構について、時期別に配置を検討した結果、北館の建物配置が理解しやすく、浪岡城跡の最盛期と考えられる 15 世紀前半期の建物配置について、平面表示もしくは平面表示＋柱により掘立柱建物跡表示 13 棟、竪穴建物跡 39 棟の設置を行った（Fig. ２９、PL. ５）。井戸跡については井桁の復元設置を 10 基行った（Fig. ３１、PL. ５）。

④ 発掘調査からは屋敷割と思われる区画が想定されたため、区画を歴史建造物等の復元として、立体的に表示することとした。調査成果からは、区画には柱穴が一部あるのみで明確な区画施設遺構としては確認できなかったが、区画の出入り口と思われる部分には大きめの柱穴があることなどを確認しており、北館内に敷地の区画施設と門のような施設が設置されていた可能性があることが考慮できることとなった。整備（復元表示）工法について、築地・石積み・生垣・板塀・柵など各種区画施設の形態を検討した結果、築地・石積みの痕跡はないこと、生垣植物の根による撹乱はないこと。柵の設置ほどの規則的な杭の設置痕が無いことから、小規模な盛土と盛土上の板塀による区画が妥当であると判断し、推定復元表示することとした。板塀は、絵巻や近世以降の板塀を参考に、板を縦に貼ることも考慮したが、管理上破損・汚損が発生した場合、破損した板を撤去し、板を上から下にずらして新たな板を塀上部から補充することが可能となるような設計とした（Fig. ３０、PL. ４）。塀設置延長 615m。

⑤ 北館に推定される歴史的通路（園路）及び芝張り修景整備を行った。歴史的通路 1,108 ㎡、芝張り 11,000 ㎡。

⑥ 遺構全体模型（野外）の設置として、発掘調査が終了し史跡導線の入り口に近い東館上に磁器模型１基を設置した（Fig. ３３、PL. ７）。

⑦ 史跡内の今回整備地東端の東館（新館地区は一部公有化したのみ）に植栽を行い、北東側の道路を走る車両と城跡内の景観を分離することとした。樹種はケヤキ、オオモミジ、オオヤマザクラ、コブシ、ナナカマド、アオモリトドマツ、ソメイヨシノ、エゴノキ、アジサイなど計 152 本とした（Fig. ３２）。

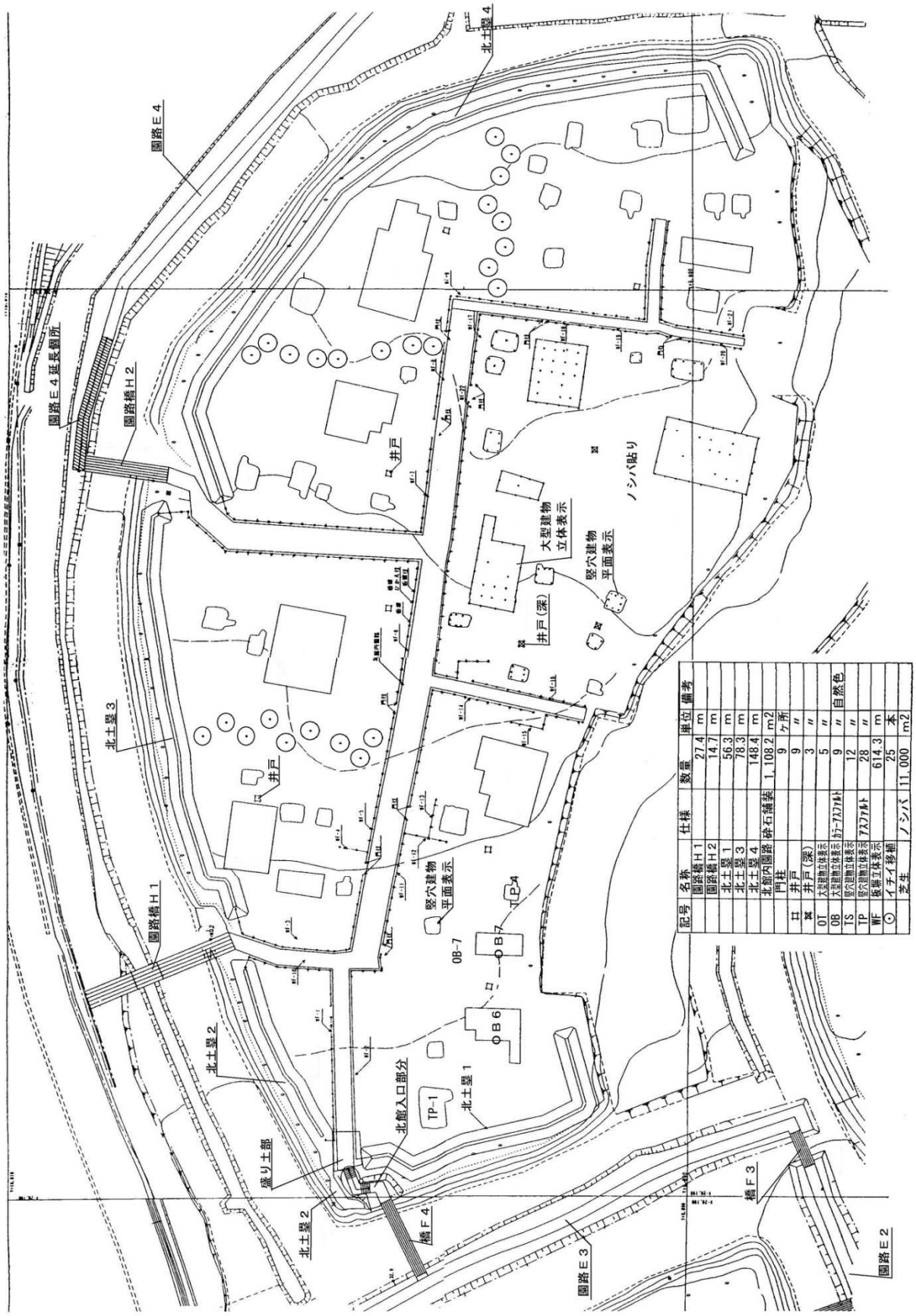
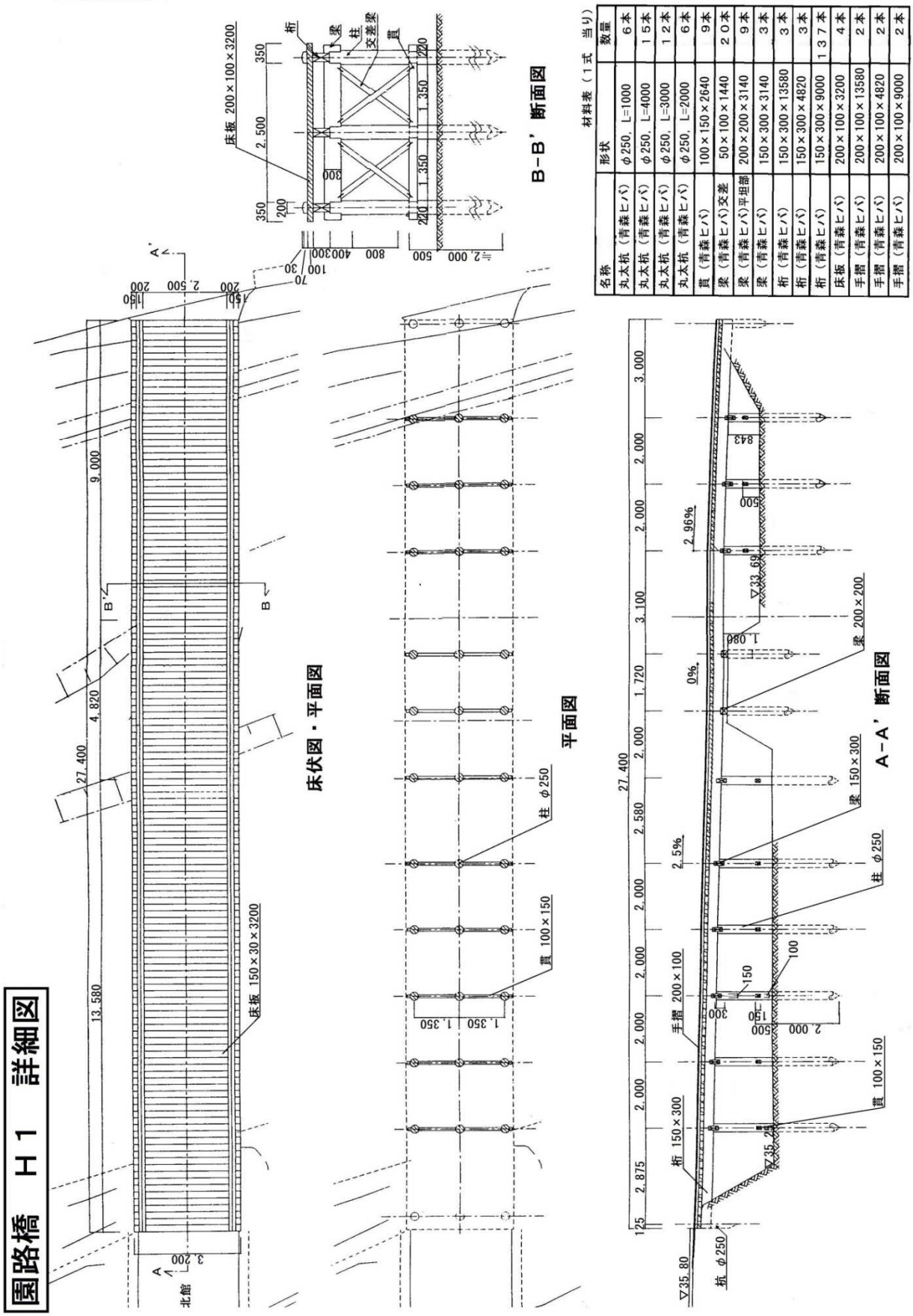


Fig. ２６　北館整備平面図



名称	形状	数量
丸太杭（青森ヒバ）	φ250, L=1000	6本
丸太杭（青森ヒバ）	φ250, L=4000	15本
丸太杭（青森ヒバ）	φ250, L=3000	12本
丸太杭（青森ヒバ）	φ250, L=2000	6本
貫（青森ヒバ）	100×150×2640	9本
梁（青森ヒバ）交差	50×100×1440	20本
梁（青森ヒバ）平担部	200×200×3140	9本
梁（青森ヒバ）	150×300×3140	3本
桁（青森ヒバ）	150×300×13580	3本
桁（青森ヒバ）	150×300×4820	3本
桁（青森ヒバ）	150×300×9000	137本
床板（青森ヒバ）	200×100×3200	4本
手摺（青森ヒバ）	200×100×13580	2本
手摺（青森ヒバ）	200×100×4820	2本
手摺（青森ヒバ）	200×100×9000	2本

Fig. ２７　園路橋Ｈ１詳細図

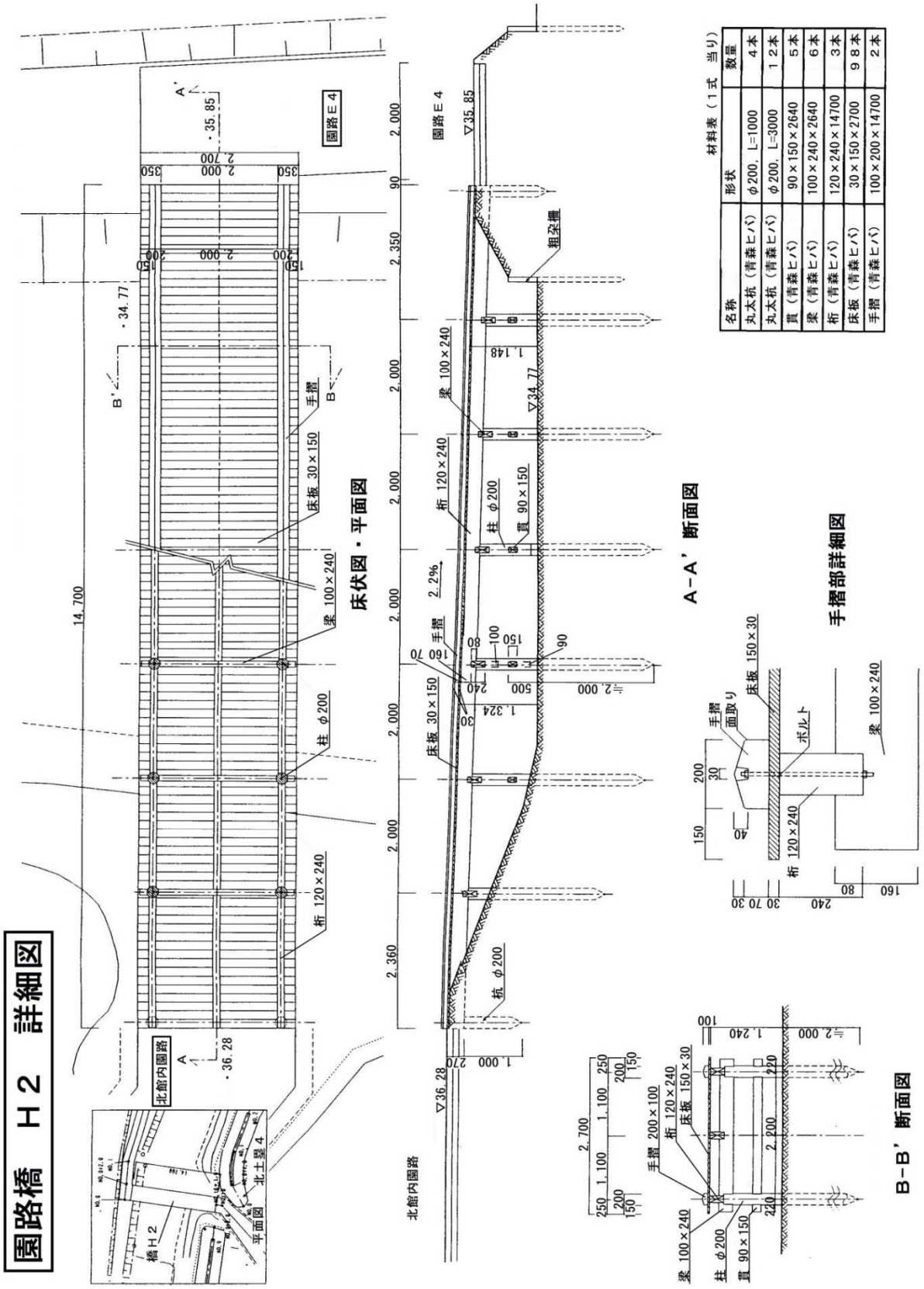


Fig. ２８　園路橋Ｈ２詳細図

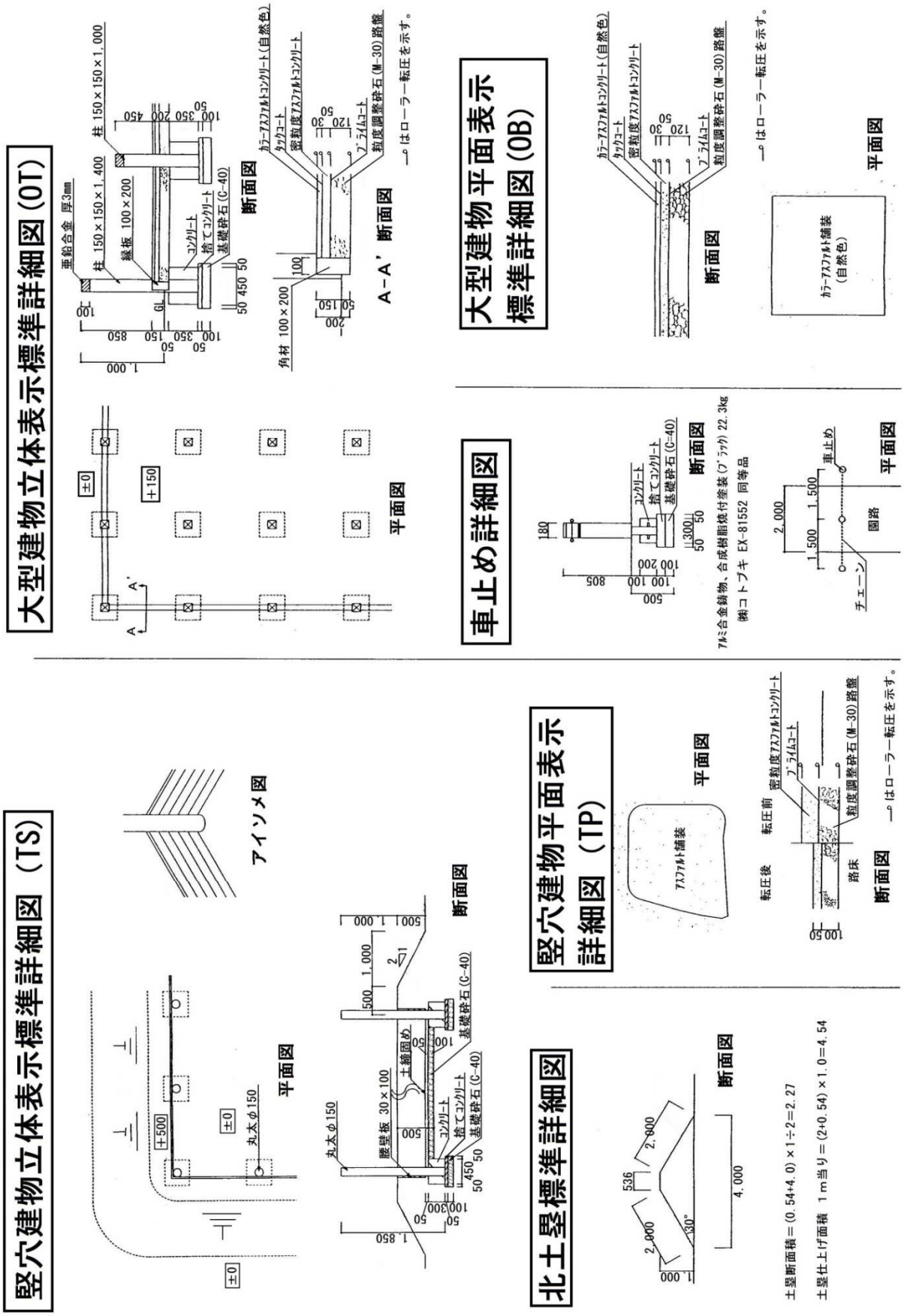


Fig. ２９　建物等復元標準詳細図

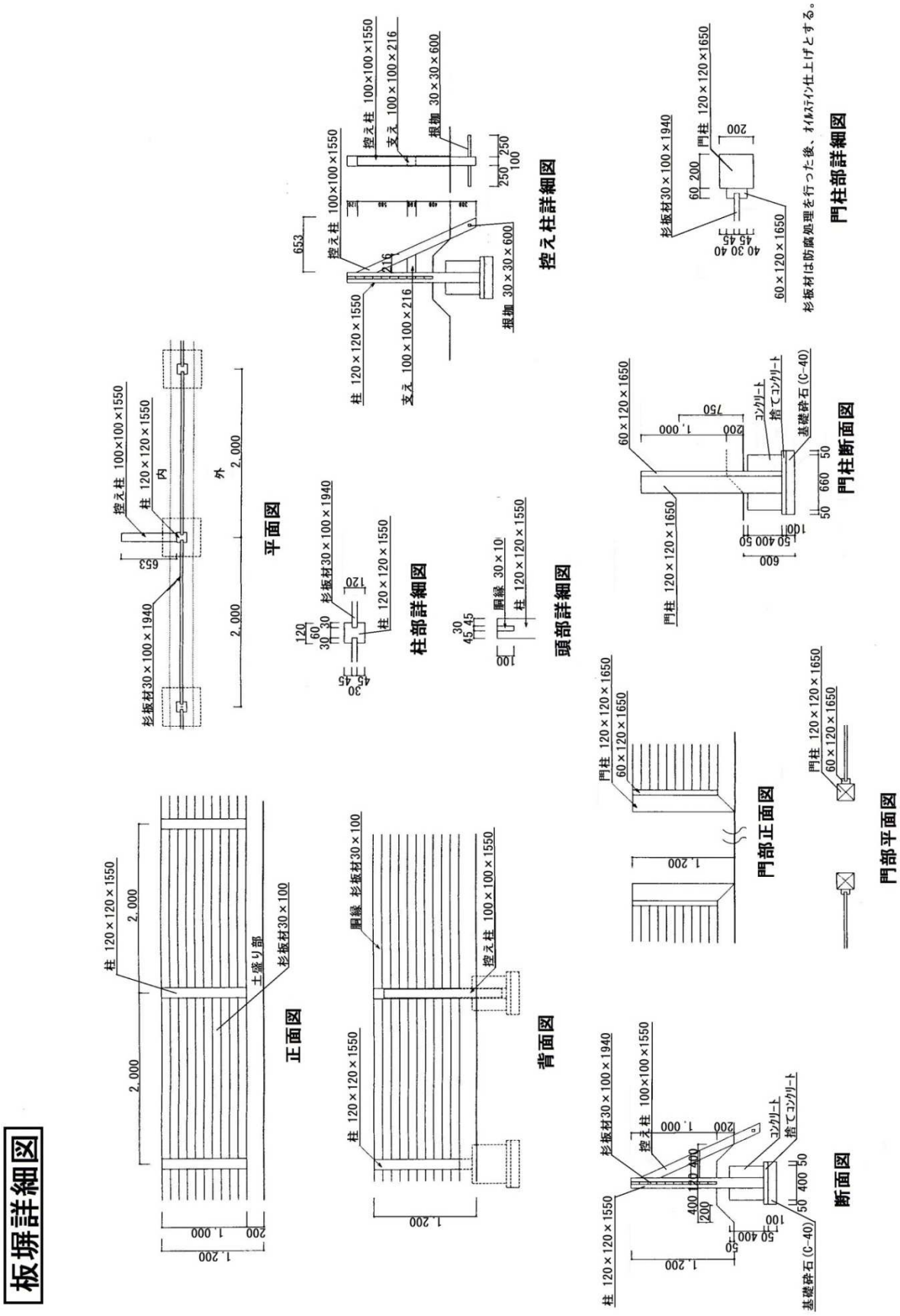

板塀詳細図
平面図
正面図
背面図
断面図
柱部詳細図
頭部詳細図
控え柱詳細図
門柱部詳細図
門柱断面図
門部正面図
門部平面図
杉板材は防腐処理を行った後、オイルステイン仕上げとする。

Fig. ３０　板塀詳細図

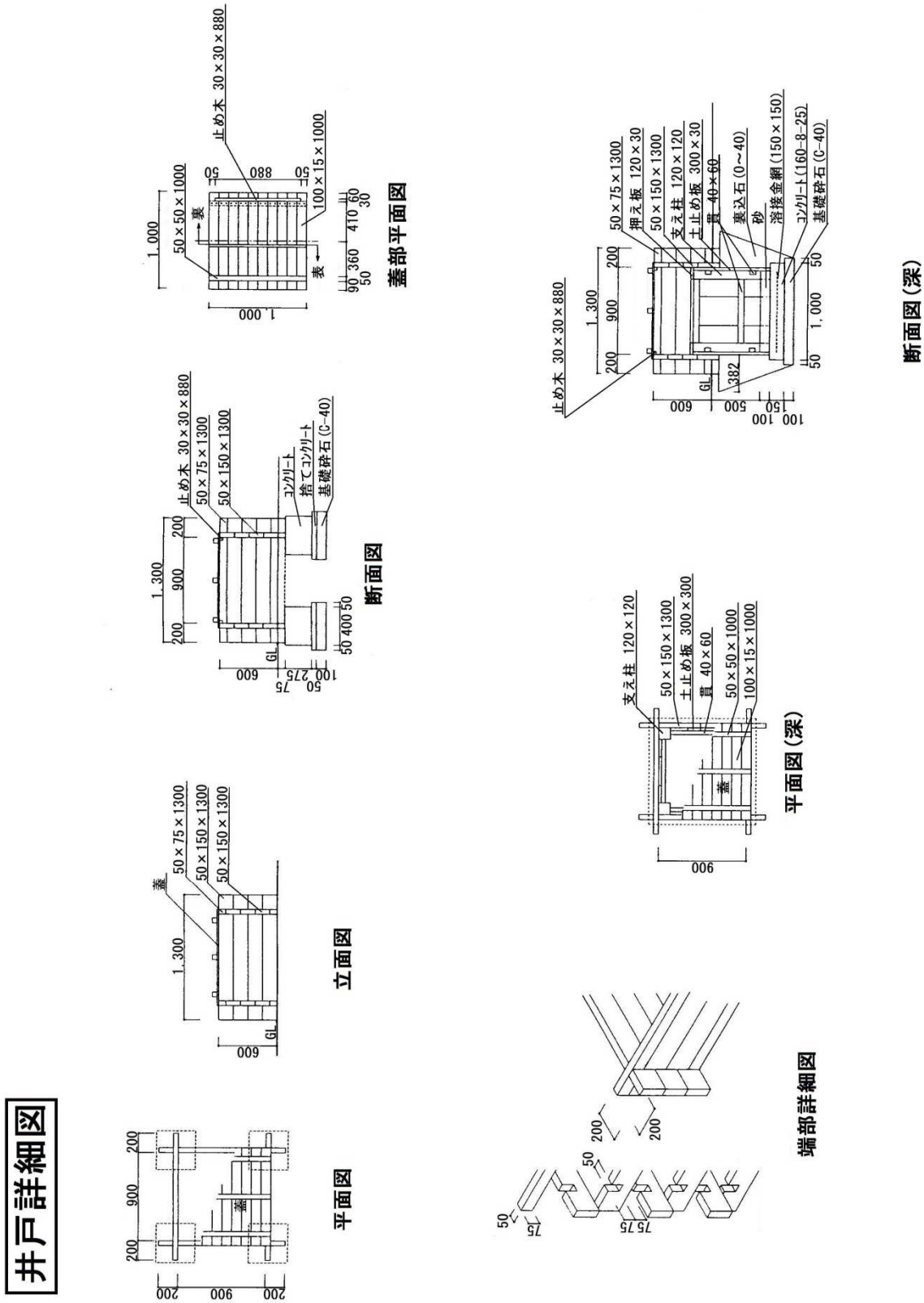
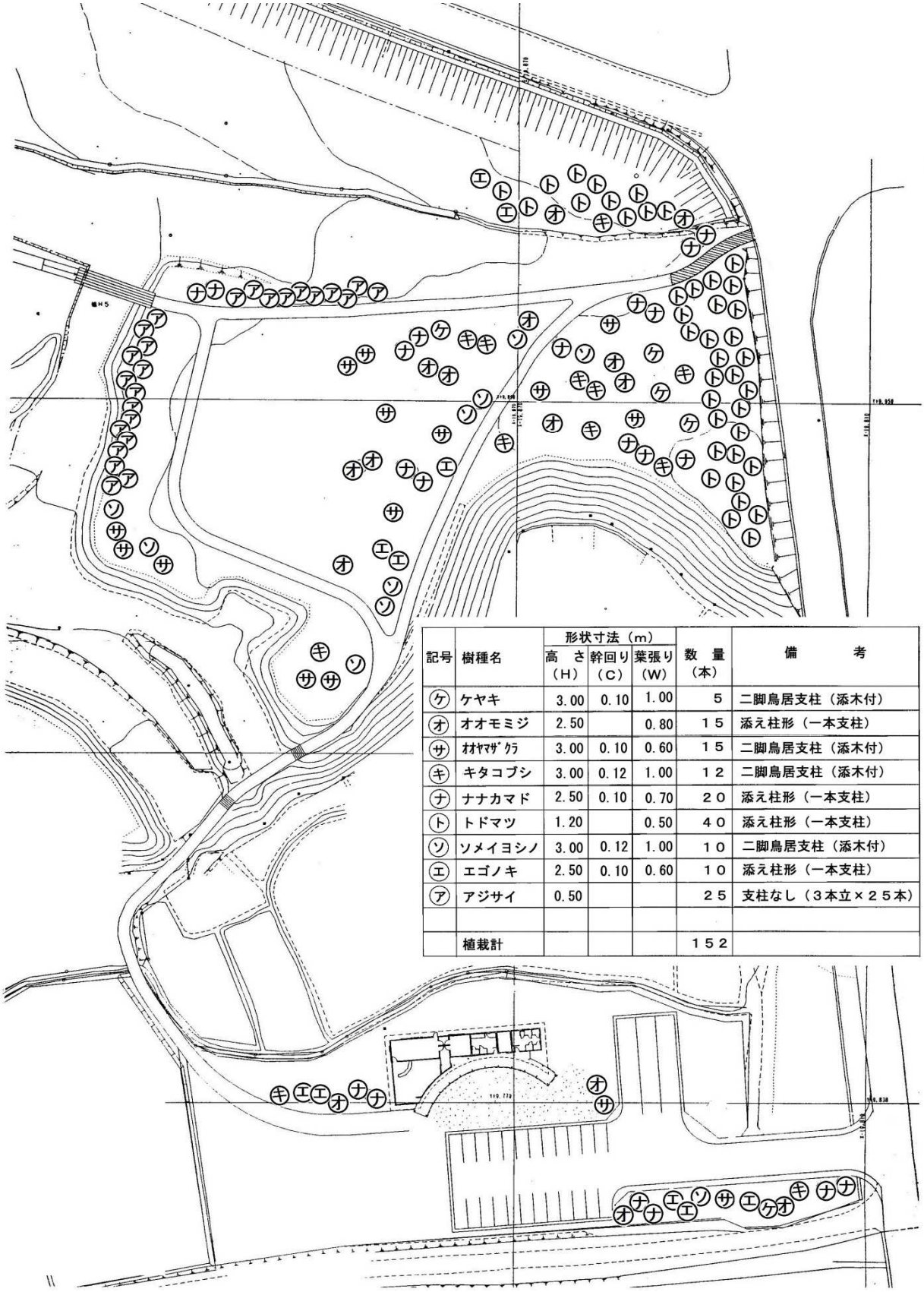


Fig. 31　井戸跡詳細図



記号	樹種名	形状寸法（m）			数量（本）	備考
		高さ（H）	幹回り（C）	葉張り（W）		
㋕	ケヤキ	3.00	0.10	1.00	5	二脚鳥居支柱（添木付）
㋔	オオモミジ	2.50		0.80	15	添え柱形（一本支柱）
㋚	ｵｵﾔﾏｻﾞｸﾗ	3.00	0.10	0.60	15	二脚鳥居支柱（添木付）
㋖	キタコブシ	3.00	0.12	1.00	12	二脚鳥居支柱（添木付）
㋙	ナナカマド	2.50	0.10	0.70	20	添え柱形（一本支柱）
㋞	トドマツ	1.20		0.50	40	添え柱形（一本支柱）
㋟	ソメイヨシノ	3.00	0.12	1.00	10	二脚鳥居支柱（添木付）
㋡	エゴノキ	2.50	0.10	0.60	10	添え柱形（一本支柱）
㋐	アジサイ	0.50			25	支柱なし（3本立×25本）
	植栽計				152	

Fig. 32　東館植栽計画図

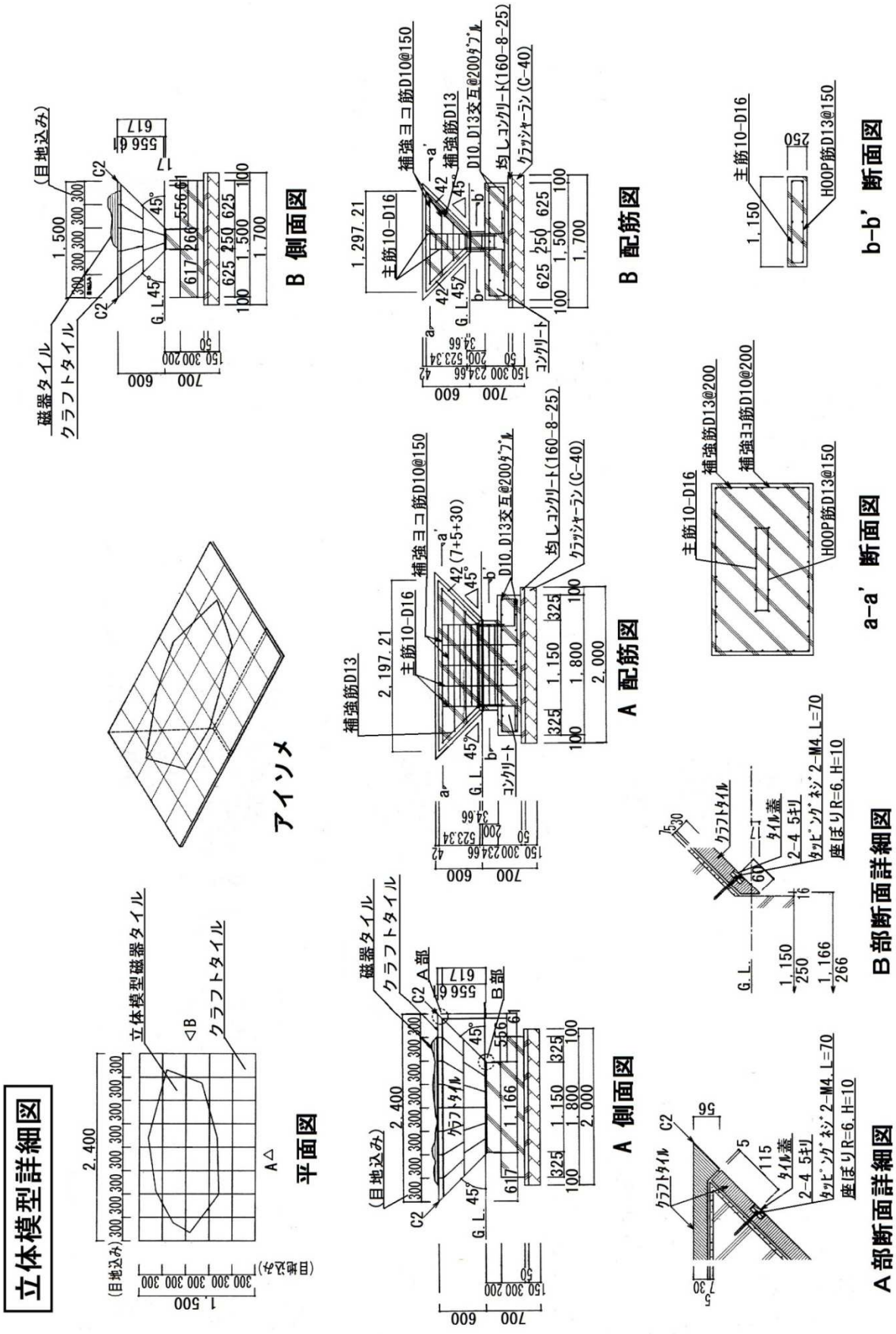


Fig. ３３　立体模型詳細図

２−３．　平成９年度の整備工事

「史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場)」の補助要件である「ガイダンス施設の建設」と史跡名称板、説明（解説）板（Fig.３９)、ガイダンス施設周りの植栽整備（Fig.３８）を実施した。

ガイダンス施設は史跡指定地に隣接した東館南側の浪岡川沿いに建設した。この場所は、総務省の地域総合整備事業債である「地域文化財保全事業」により浪岡城跡の案内所（休憩・便益施設）と駐車場を平成5〜6年度で設置（後述）した場所であり、この案内所と接する形で事業を実施したものである。通常ガイダンス施設では史跡の紹介や歴史的背景、出土遺物、検出遺構等について解説・案内するものであるが、浪岡町の場合、先行して平成4年度に同様の機能を有した「浪岡町中世の館」を設置済みであったため、文化庁記念物課と協議した結果、床面積288㎡、110席を有するＲＣ造一部2階建の映像による遺跡ガイダンス施設を建設することとなった(Fig.３４・３５・３５・３７、PL.９)。

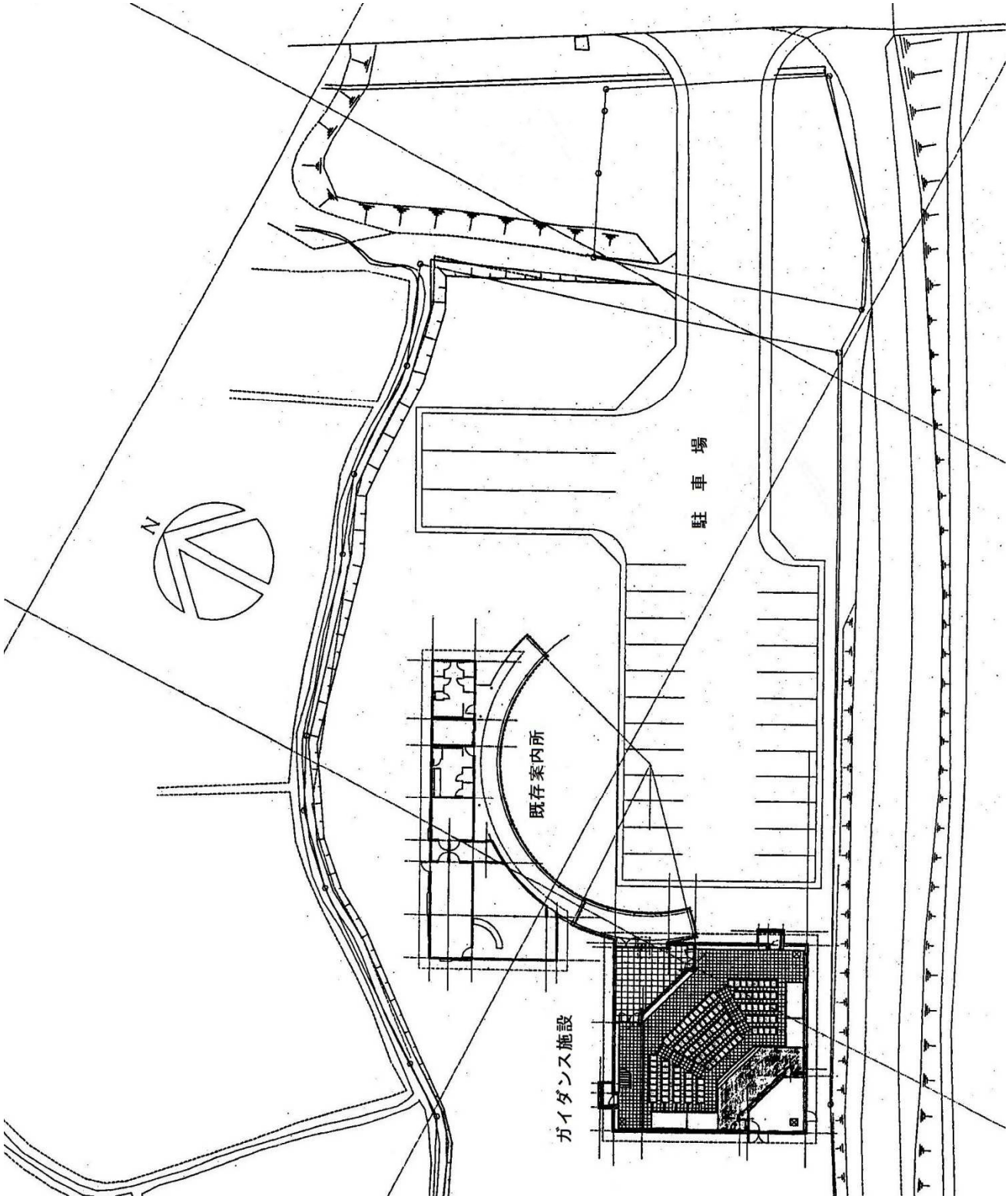
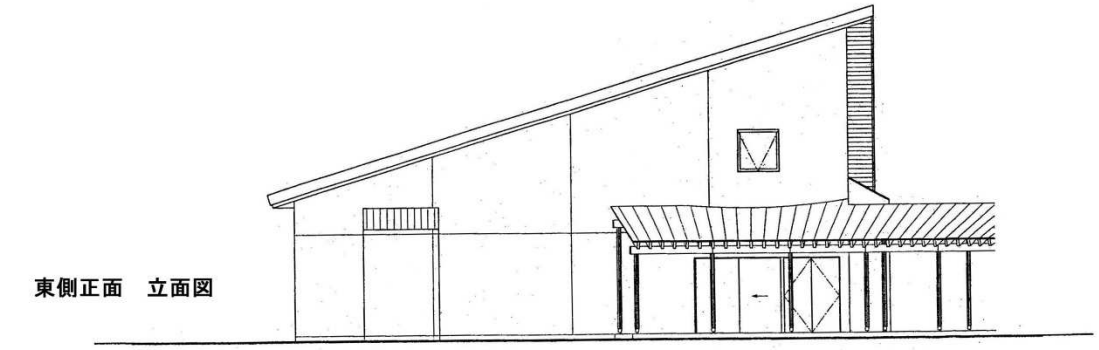
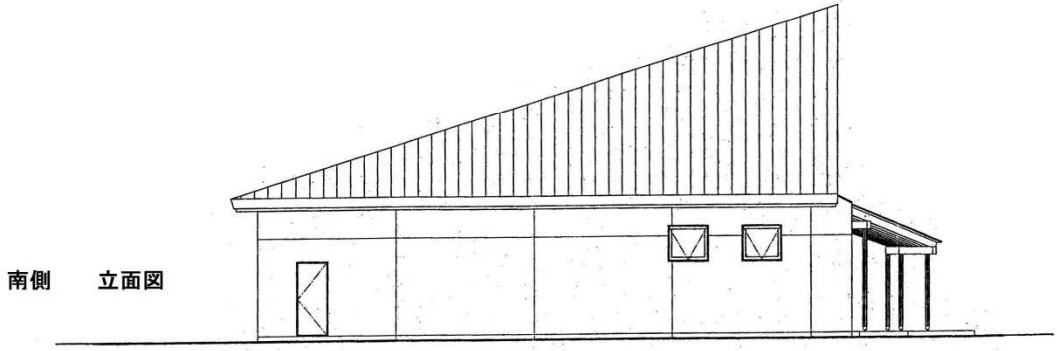
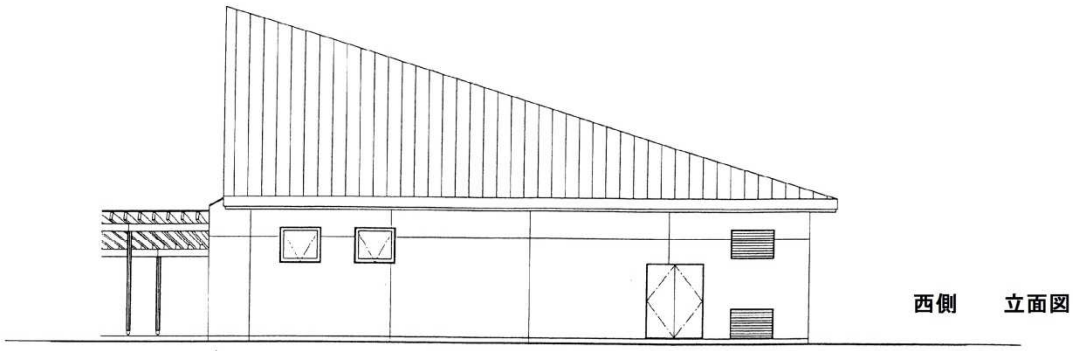


Fig. ３４　ガイダンス棟と既設案内所配置図







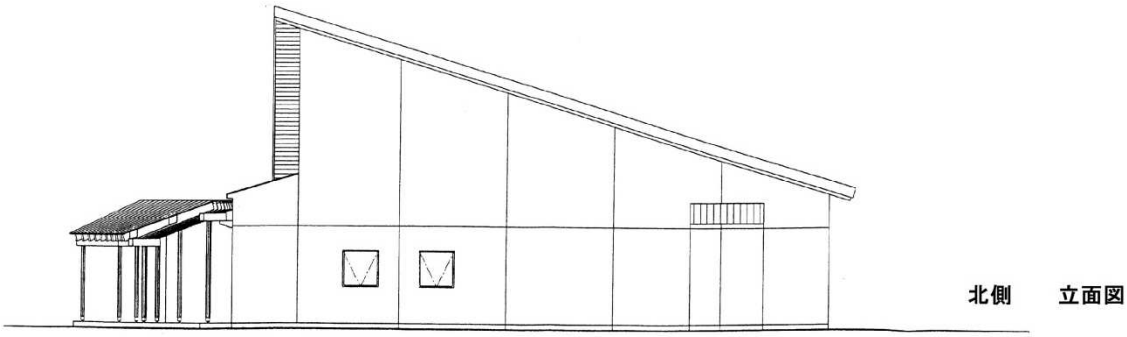


Fig. ３５　ガイダンス施設立面図

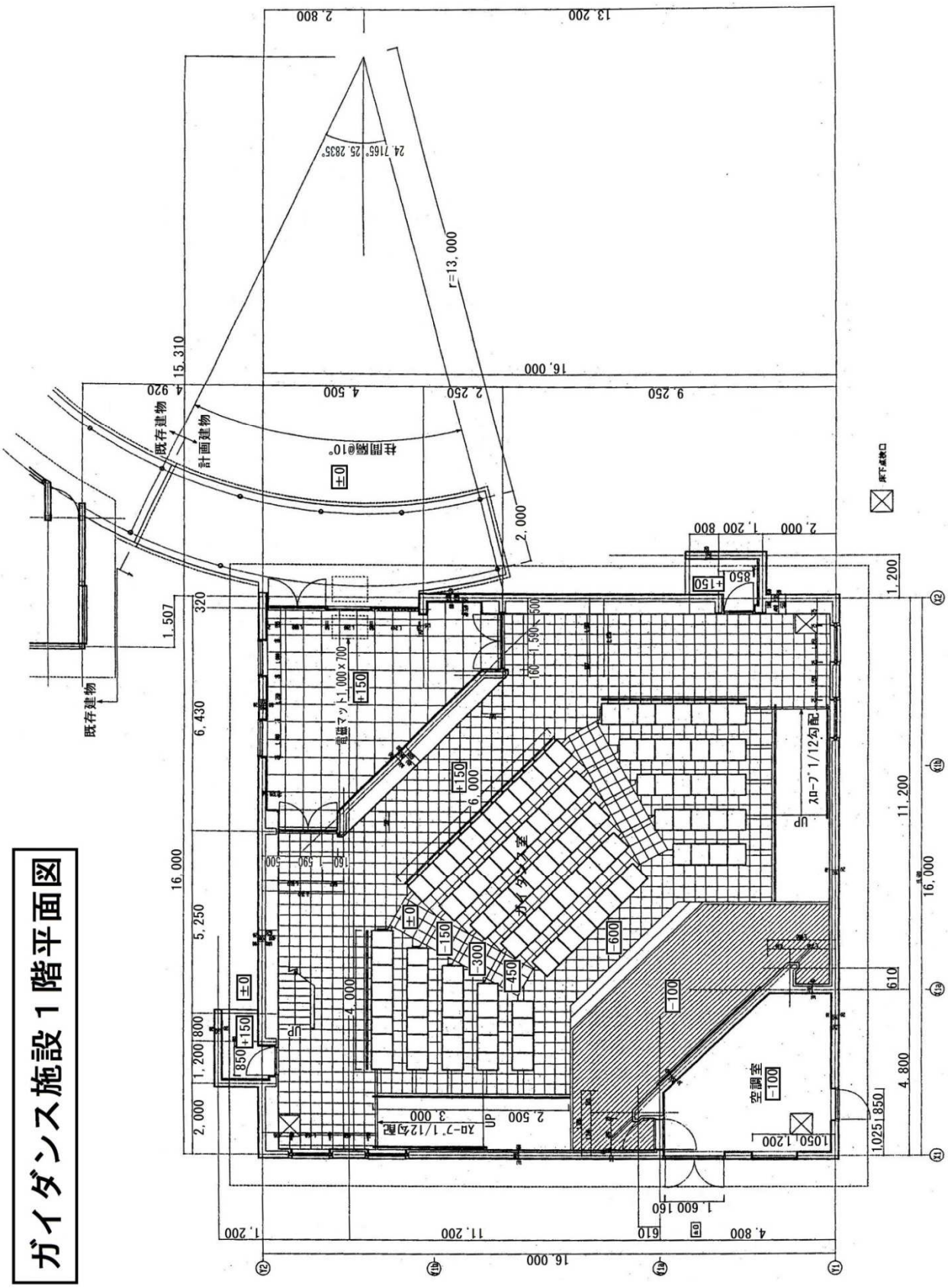


Fig. ３６　ガイダンス施設１階平面図

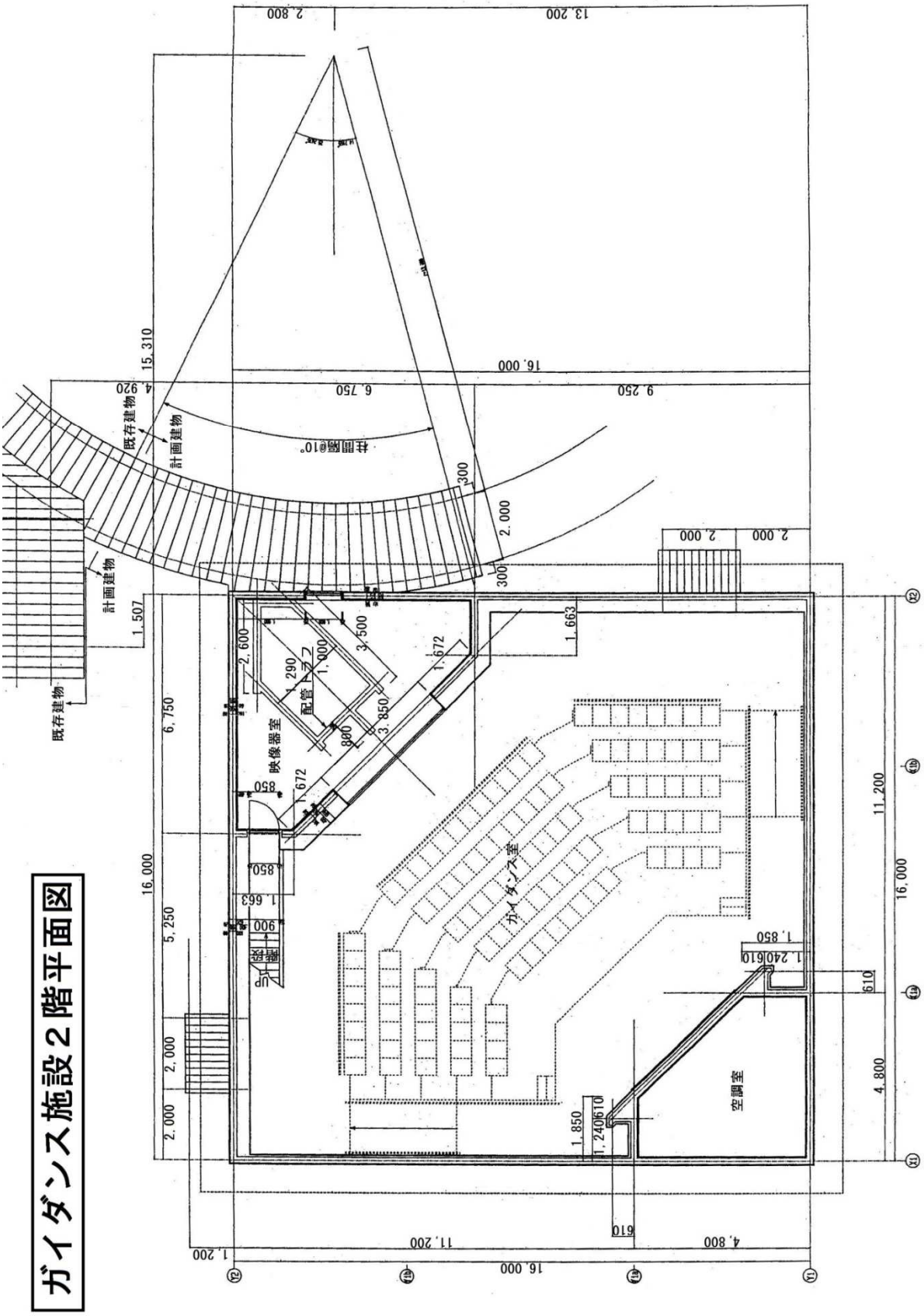
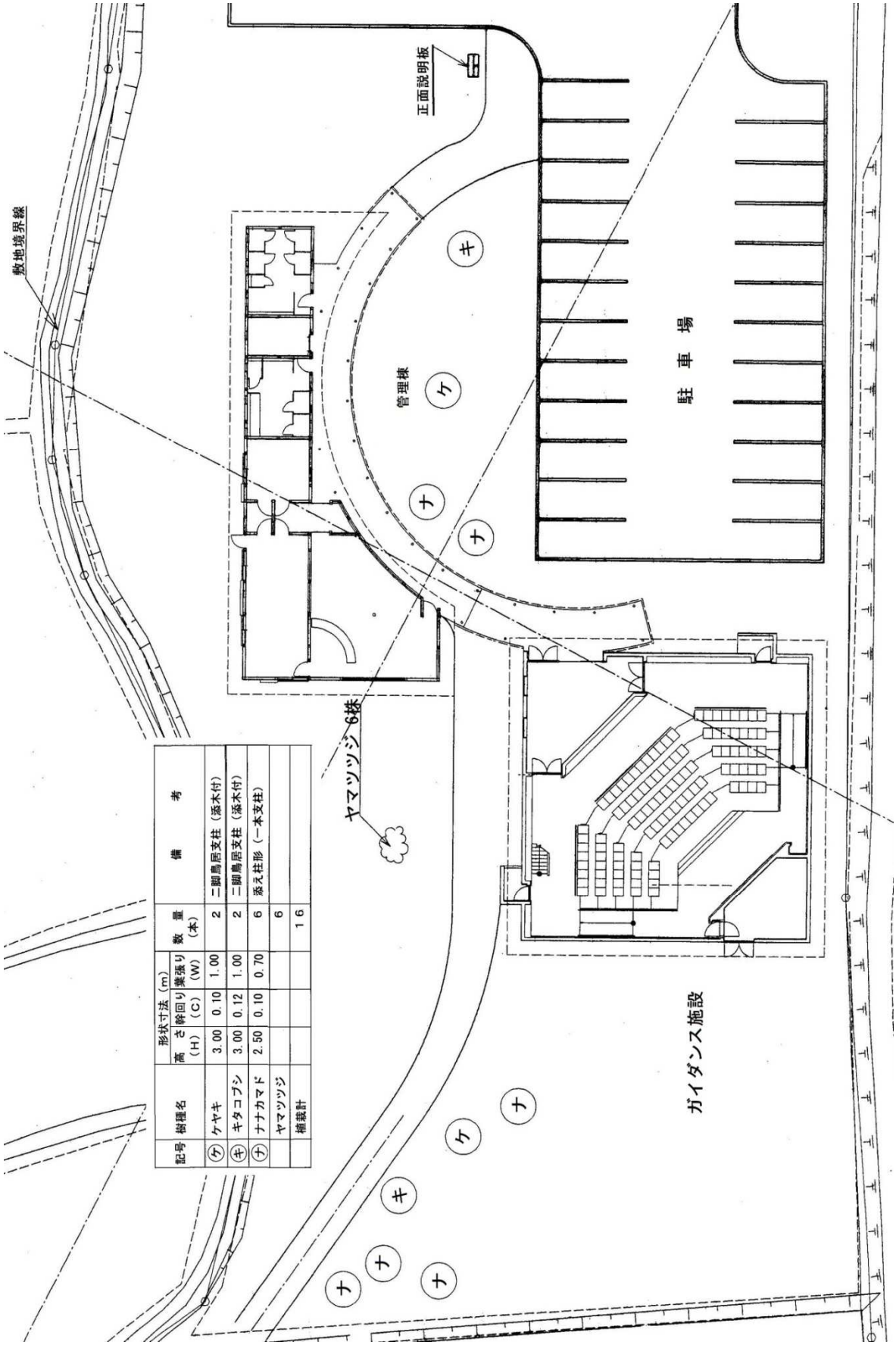


Fig. ３７　ガイダンス施設２階平面図



記号	樹種名	形状寸法（m） 高さ（H）	幹回り（C）	葉張り（W）	数量（本）	備考
㋕	ケヤキ	3.00	0.10	1.00	2	二脚鳥居支柱（添木付）
㋖	キタコブシ	3.00	0.12	1.00	2	二脚鳥居支柱（添木付）
㋗	ナナカマド	2.50	0.10	0.70	6	添え柱形（一本支柱）
	ヤマツツジ				6	
	植栽計				16	

Fig. 38　ガイダンス施設周辺植栽計画図

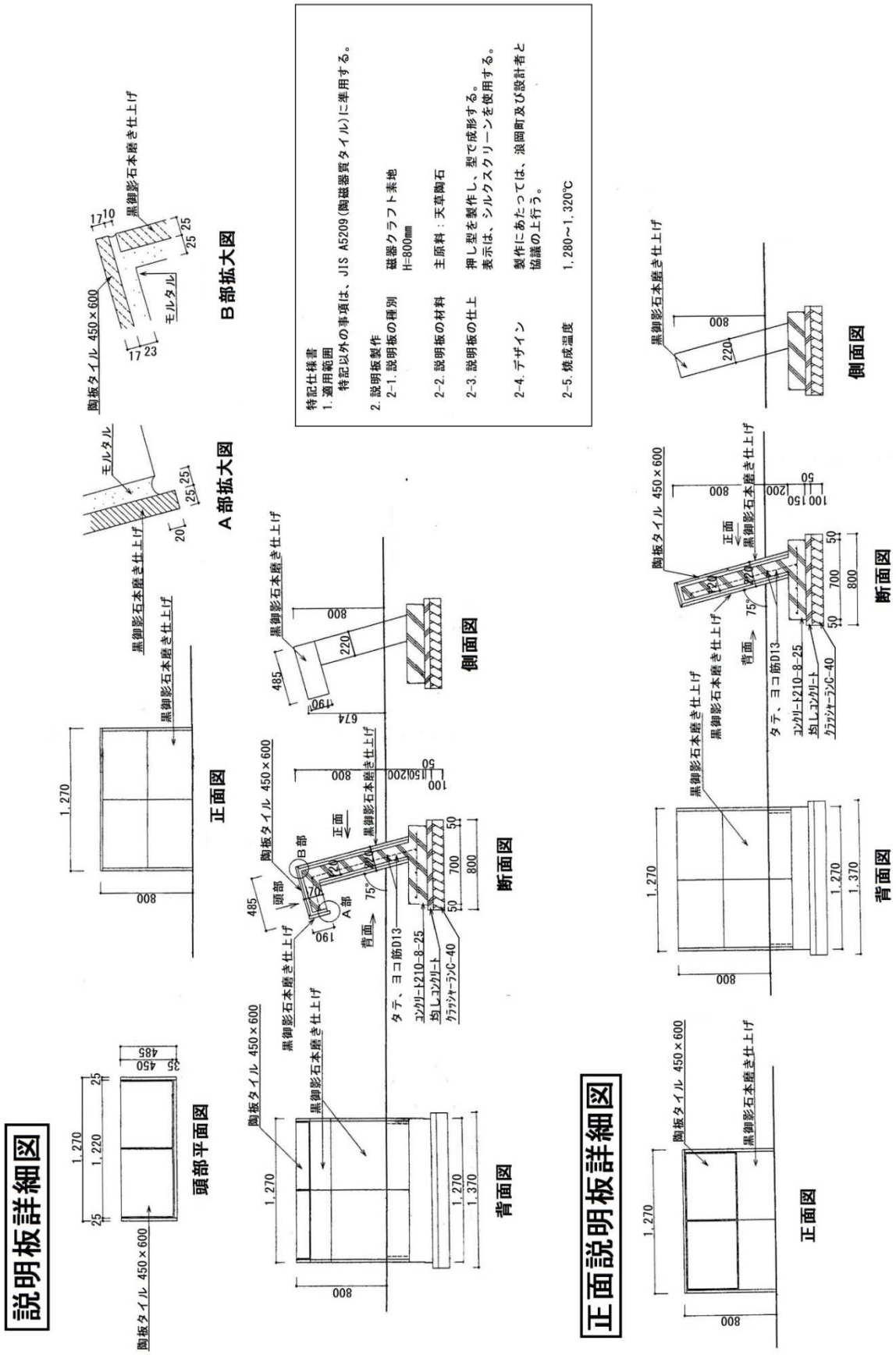


Fig. 39　説明板等詳細図

３　史跡整備関連事業

３－１．地域文化財保全事業（浪岡城跡案内所建築工事）

案内所（管理棟）の設計にあたっては、当初、浪岡城跡環境整備基本構想策定時に想定した北館建物の推定図や、津軽地方に残る古民家を参考に意匠設計を行うことを考慮していたが、設計者の株式会社歴史環境計画研究所から「同時代、同地域における建物は全く残されておらず、建物の歴史的な根拠が希薄である。研究や推定図の場合はそれでもよいが、北館建物推定復元図から建物を建てた場合は、「歴史的な建造物である」と事実誤認を招く危険がある」と、中世風の外観とすることに異議がだされた。実際、中世城館に集客のため天守閣を建ててしまい、歴史・城館について事実誤認を招いている例も見られることから、浪岡城跡案内所（将来建築される予定のガイダンス施設）においては、現代的な意匠とすることで、来客者に誤解を与えないよう配慮することとした。

浪岡城跡案内所（管理棟）（Fig.４０・４１、PL.１０）
構　　造　木造平屋建
延床面積　145.32 ㎡
　案内（インフォメーション）　36.42 ㎡
　管理室　29.81 ㎡
　トイレ　43.06 ㎡

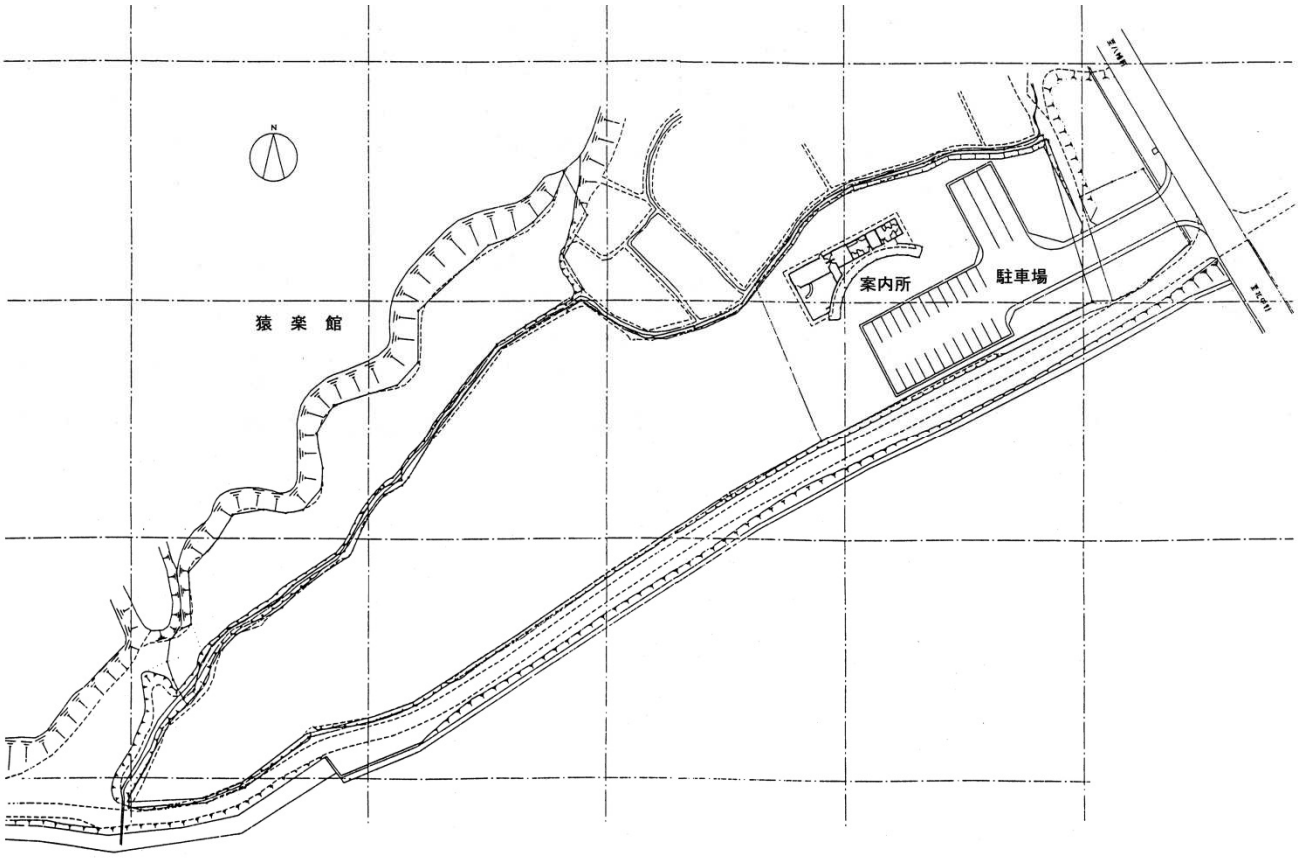
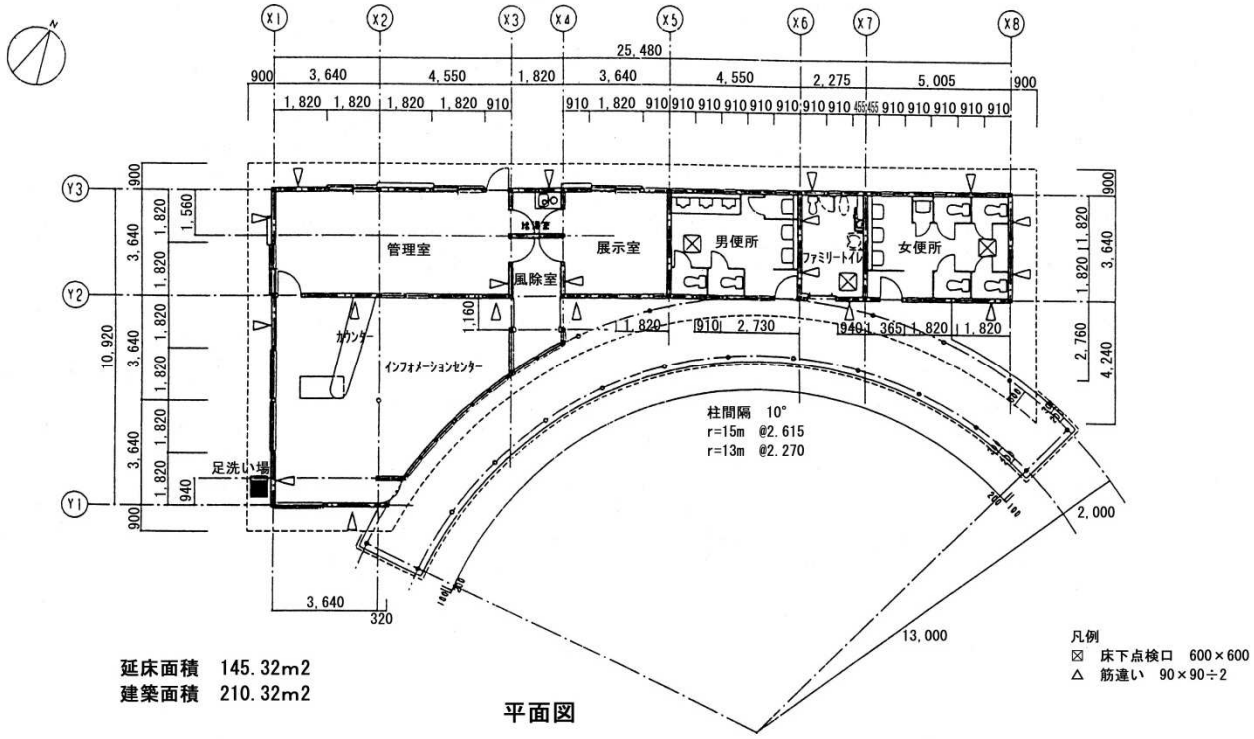
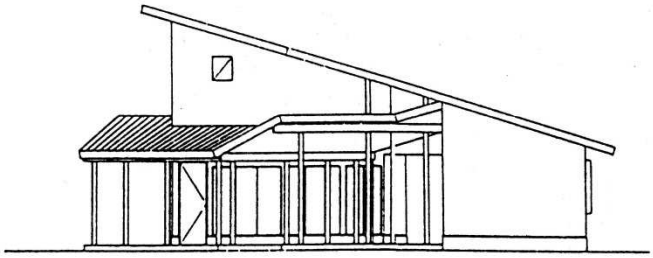


Fig.４０　案内所及び駐車場整備平面図

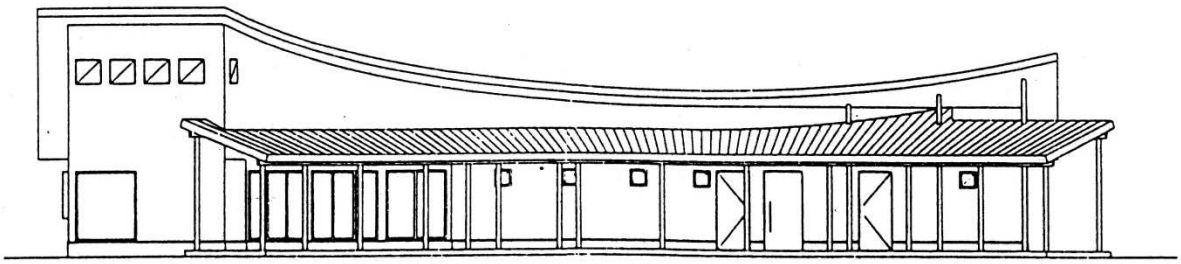


延床面積 145.32m2
建築面積 210.32m2

平面図



東側立面図



南側立面図

Fig. 41 案内所平面及び立面図

３－２．浪岡町歴史資料館及び浪岡町中世の館建築工事

ア．浪岡町歴史資料館（中世の館旧館）（PL．１１）

構　　造　木造２階建

延床面積　983.17 ㎡

展示室　　182 ㎡

研修室　　148 ㎡

調査研究　275 ㎡

イ．浪岡町中世の館（新館）（Fig．４２、PL．１１）

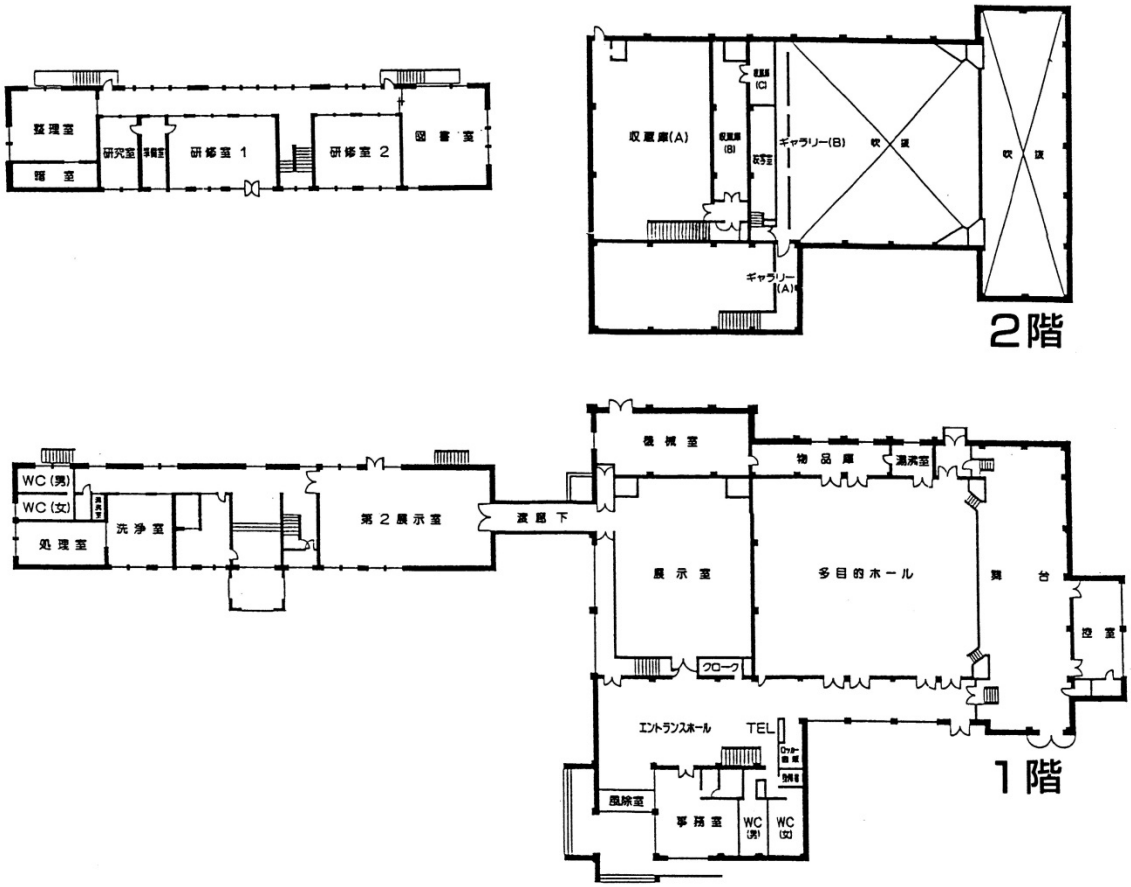
構　　造　鉄筋コンクリート造一部２階

延床面積　2,269.34 ㎡

展示室　　249.20 ㎡

文化ホール　388.50 ㎡

収蔵庫　　321.13 ㎡



Fig．４２　中世の館（旧歴史資料館含む）平面図

PL. 1　中土塁工事状況

中土塁工事　着工前

中土塁工事　復元完了

粗朶柵　人力杭打ち

粗朶柵　粗朶仕立て

粗朶柵　作業状況

中土塁　人力盛り土

中土塁　人力羽立成形

中土塁　人力締固め

PL. 2　復元橋完成写真

復元橋　Ｆ１（中土塁側から）

復元橋　Ｆ１（北側から）

復元橋　Ｆ２（西館側から）

復元橋　Ｆ２（西側から）

復元橋　Ｆ３（東側から）

復元橋　Ｆ３（北側から）

復元橋　Ｆ４（中土塁側から）

復元橋　Ｆ４（南側から）

PL. 3　橋設置工事状況

橋基礎用　丸太杭打込み状況

橋脚設置（打ち込み）終了状況

橋脚頭部　加工状況

橋桁　設置状況

橋　床板張り

橋　手摺設置状況

橋　貫込み栓加工状況

橋　手摺仕上げ

PL. 4　板塀工事状況及び完成写真

板塀　建込作業状況

板塀　柱　建込終了

板塀　基部芝張り状況

板塀　横板設置状況

板塀　完成（北西部）

板塀　完成（南東部）

板塀　完成（西端部）

板塀　中央部（建込中）

PL. 5　建物、井戸跡等表示完成写真

掘立柱建物跡　遺構表示

掘立柱建物跡　遺構表示

竪穴建物跡　遺構表示

竪穴建物跡　遺構表示

井戸跡　遺構表示

井戸跡　遺構表示

北館西側　枡形虎口　遺構表示

北館周囲の土塁表示

PL. 6　園路橋完成写真

園路橋　Ｈ１（西側から）

園路橋　Ｈ１（南東側から）

園路橋　Ｈ２（北西側から）

園路橋　Ｈ２（南東側から）

園路橋　Ｈ３（南側から）

園路橋　Ｈ４（東側から）

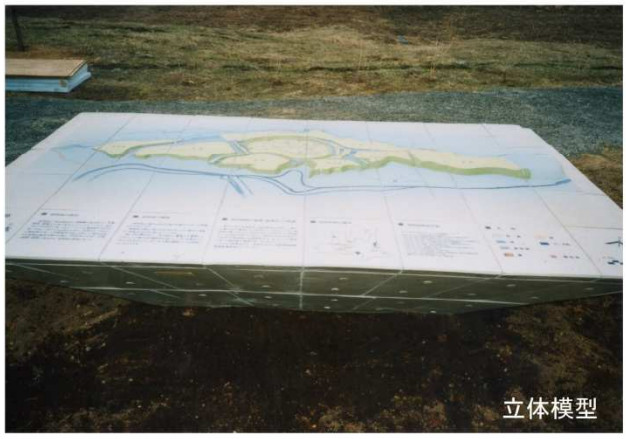
園路橋　Ｈ５（北東側から）

園路橋　Ｈ６（北側から）

PL. 7　立体模型設置工事、完成及び園路完成写真

立体模型　側面部タイル貼り作業

立体模型　上面模型部タイル貼り作業


立体模型

立体模型　設置完了状況

園路　Ｅ１（内館出入り口）

園路　Ｅ８（階段部）

園路　Ｅ７（東館部）

園路　Ｅ２（中土塁　南側から）

PL. 8　北館整備着手前、工事完成写真

北館　整備前（東側から）

北館　整備後（東側から）

北館　整備前（西側から）

北館　整備後（西側から）

PL. 9　ガイダンス施設完成写真

ガイダンス施設建設予定地（南から）

ガイダンス施設（左）と案内所（右）（北東から）

ガイダンス施設（北側から）
左奥は民間のリンゴ倉庫

ガイダンス施設ポーチ

ガイダンス室（西側から）

ガイダンス室（東側から）

エントランスホール

映写室（２Ｆ）

PL. １０　案内所完成写真

案内所完成（北東側から）

案内所完成（南西側から）

案内（インフォメーション）コーナー

案内（インフォメーション）コーナー

男子トイレ

女子トイレ

ファミリートイレ

整備事業終了後の案内所

PL. １１　浪岡町中世の館（旧浪岡町歴史資料館）写真

旧浪岡小学校（改修前）

浪岡町歴史資料館

浪岡町歴史資料館　展示室

浪岡町歴史資料館　研修室

浪岡町中世の館

浪岡町中世の館　展示室

浪岡町中世の館　展示室

浪岡町中世の館　収蔵庫

Ⅴ　環境整備に係る発掘調査について

浪岡城跡の発掘調査は昭和 52 年度に開始したが、当初から史跡公園化（環境整備）を目標に、浪岡城跡の解明と整備資料の収集のため昭和 62 年度までの 11 年間にわたり継続して実施してきた。

しかし、史跡環境整備の実施に際し、堀跡に築造されていた土塁（中土塁）が何処に、どのような規模で延びていたのか、各曲輪を連携する橋が何処に架かっていたのか、当時の通路のあり方がどのようであったのかなど歴史的復元を行うための資料が不足していたことから、環境整備事業のなかで昭和 62 年度及び平成元年度から 5 年度まで追加発掘調査を実施した。

昭和 52 年度から 62 年度の発掘調査では、東館、北館、内館及び北館の東・西・南方向の堀跡にトレンチ調査を行い、曲輪内の遺構配置や北館周囲の中土塁の検出、中世の遺物が良好な保存状態で残ることなどを確認した。環境整備に伴う発掘調査では、北館北側や西館―内館間の中土塁、各曲輪間の連絡、橋跡等の検出を主眼に実施した（Fig. ４３）。

なお、浪岡城跡の特徴である二重堀を形成している中土塁の復元にあたっては、昭和 61 年度（1986）に内館・北館・西館間の堀跡で検出した「シガラミ状遺構（水戸口状遺構）」や昭和 63 年度の調査成果（史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅰ）を参考に、丸太杭による粗朶柵で根元を固めて盛土するものとしたが、昭和 61 年度調査当時の報告書である「浪岡城跡Ⅹ」ではシガラミ状遺構は未報告であった。整備工法を検討するための基礎資料であることから、改めて本書で概要を報告することとした。

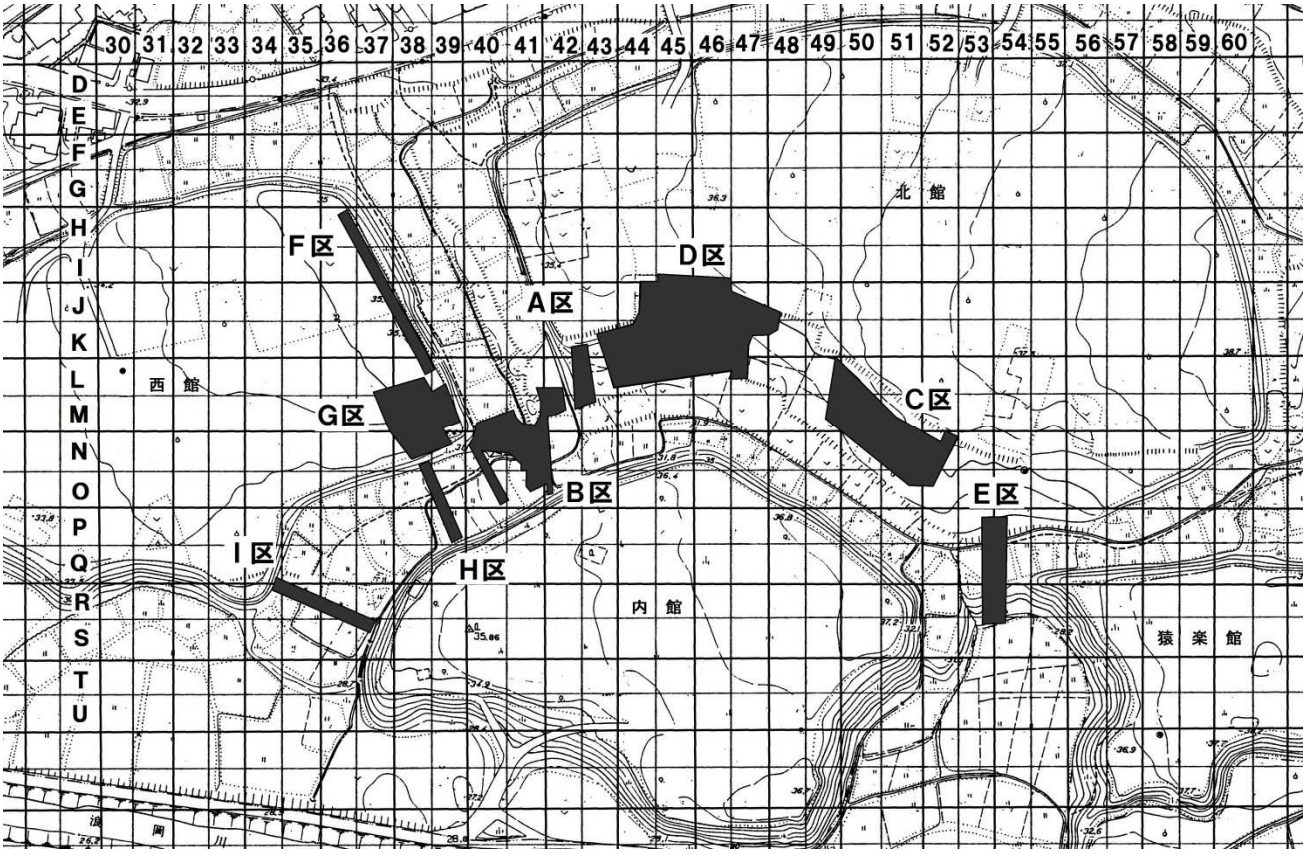


Fig. ４３　昭和 61 年度及び平成元年度から 5 年度の発掘調査個所位置図

1　調査経緯

昭和 61 年度（堀跡部分の調査のみ報告する。内館調査結果及び調査体制等については、「浪岡城跡Ｘ」として報告済みであるため、当該既刊報告書を参考されたい。）

6 月 2 日～ 7 月 10 日　内館調査。以後、堀跡と内館を並行して調査した。

7 月 11 日　堀跡調査開始。内館と北館、西館に挟まれた堀の合流部分をＢ区と設定し、表土除去作業を開始する。

7 月 16 日　Ｂ区の湧水が著しいため、先行して排水用トレンチを設定する。

7 月 21 日　久々に雨が止んだため、Ｂ区の排水トレンチを延長する。排水トレンチでシガラミ状遺構（ＳＳ０１）の一部を検出。

7 月 23 日　北館南側のテラス状の張り出し部（以下「帯曲輪」と仮称する）をＡ区とし、トレンチを設定し掘り下げ開始。トレンチの北館落ち際から五鈷杵が出土。

7 月 28 日　Ｂ区、ＳＳ０１の杭列が方向性を持たない。さらに精査を続ける。

7 月 30 日　Ｂ区の調査を進めた結果、西館と現存する中土塁の間に中土塁状の盛土があった可能性が高くなる。

8 月 8 日　一週間ぶりの晴れ。Ｂ区は湧水が著しい。雨の影響大。

8 月 18 日　Ｂ区北側のセクション図補足と写真撮影。ＳＳ０１東側に２ｍ拡張調査開始。

8 月 21 日　昨日までの雨が上がり、Ｂ区は冠水状態のためＡ区の溝跡を調査。結果、湧水はＢ区と同様であり、作業に困難をきたしている。

8 月 25 日　Ｂ区の東側に内館に向けてトレンチを設定。北館と内館間の堀跡とＳＳ０１の関係を確認することとした。

8 月 26 日　Ｂ区の西側にもトレンチを設定。西館と内館間の堀跡と中土塁の確認を行う予定。

9 月 3 日　内館と西館間の堀は、城館期の改修も含め幾度か掘り直している痕跡が認められる。

9 月 9 日　ＳＨ０９掘り下げ。ＳＳ０１直下からは板状の木製品が多く出土している。ＳＨ０５掘り下げ。出土遺物なし。

9 月 17 日　ＳＡ０４とＳＳ０１間の掘り下げ。ＳＨ０８・０９掘り下げ。

9 月 22 日　ＳＨ０８北壁セクション図作成。ＳＨ０５・０６掘り下げ。ＳＳ０１とＳＨ０９を掘り下げて両遺構の通しセクションを作成。

9 月 26 日　ＳＨ０８平面実測終了。ＳＨ０８からＳＳ０１、ＳＨ０９へ南北方向の縦断セクション図作成。

9 月 29 日　ＳＨ０９拡張分掘り下げ終了。ＳＨ０５堀下げ終了。

10 月 1 日　Ｂ区平面実測及びセクション図作成。Ａ区ＳＨ０１・０２掘り下げ。Ａ区で湧水が著しい。

10 月 2 日　Ａ区掘り下げ。Ｂ区平面実測及びセクション図作成。Ｂ区は本日で精査を終了。

10 月 3 日～10 月 11 日　Ａ区、Ｂ区平面実測終了。

10 月 21 日　Ａ区、Ｂ区完掘写真撮影（降雨のため写真撮影が遅れた）。

以降、11 月 14 日まで内館調査を行い、11 月 15 日～昭和 62 年 3 月 31 日まで整理作業を実施。

平成３年度

６月 ３ 日　作業員・調査補助員への安全教育。発掘調査事前研修（歴史・発掘調査の方法等）。

６月 ６ 日　北館南側のテラス状部分の表土除去作業。調査グリッド杭の設定。

６月 13 日　北館南側のテラス状部分を東側Ｃ区、西側Ｄ区とし、表土除去を進める。Ｃ・Ｄ区では北館から内館への橋跡の検出を目標とする。

６月 17 日　Ｃ区にテストピットを設けるが、遺構面はおろか地山も出てこない。テラスは城館期に堀を埋め立てて造成した可能性がある。

６月 18 日　テラスの内館側端部で、地山を掘り残した中土塁状の遺構を検出する。北館南側テラス状の部分は、一時期堀として用いられていたことが推察される。

６月 19 日　テストピット掘り下げ中止。湧水が著しい。これまでの調査からは、北館南側テラス状の部分は堀として用いていた部分を城館期に埋戻し、居住部分として再利用していたことが推察される。

６月 25 日　Ｃ区で竪穴建物跡を２棟検出。ＳＴ０１、ＳＴ０２とする。Ｃ区からは美濃瀬戸系の陶磁器片や硯など城館期の遺物が出土している。

７月 ２ 日　Ｃ区において遺構確認面の確定が困難を極めている。堀埋戻し上に建物を建築しているため、柱穴や竪穴建物のプラン・床面も判断がつきにくい。

７月 ３ 日　北館―内館―猿楽館間の堀跡の調査準備。調査グリッド杭を設置し、Ｅ区とする。この調査区は堀の南側、旧浪岡川へ堀跡が開放されている部分であるため、当時の水管理上どのような構造になっているか、また堀を復元する上で中土塁の有無・規模を調査する目的で設置した。堀跡の掘り下げ開始。

７月 ４ 日　Ｅ区表土から 20～30 ㎝下げたところで、中土塁状の硬化面を検出。ＳＡ０９とする。

７月 15 日　Ｅ区で検出したＳＡ０９は、昭和 61 年度調査の内館直下で検出した中土塁と同様に、地山掘り残しではなく、堀中に盛土して作り直した中土塁である可能性が高い。
ＳＡ０９を挟み北館側の堀をＳＨ１１、南（旧浪岡川）側をＳＨ１２とする。

７月 23 日　連日の降雨のため、Ｃ区、Ｄ区とも湧水により調査が出来ない。

７月 30 日　Ｅ区掘り下げ、ＳＨ１１からは下駄や曲げ物等が出土。

８月 19 日　中土塁の一部を断面確認のため切開。中土塁中からも陶磁器や木製品が出土する。
ＳＡ０９は城館期の造成である可能性が高い。

８月 28 日　ＳＨ１１の形状がようやく確認できるようになった。浅い薬研状の堀である。

８月 29 日　ＳＨ１１底面から木製の獅子頭出土。頭部と下蓋の一部。層序及び直上から出土した美濃鉄釉皿からは、16 世紀中頃のものと考えられる。県内最古の獅子頭の可能性がある。

９月 ５ 日　ＳＨ１２、猿楽館直下部分で小型の石製面（人形の頭？）が出土。獅子頭とともに猿楽館との関連を考慮すべきかもしれない。

９月 12 日　ＳＨ１２の南側（旧河川への開放部）は土塁や土留め等の施設は検出できなかった。
ＳＨ１２底面と同レベルで水が川方向に流れていた可能性が高い。今後の整備の際の堀整備をどうするかが課題となる。

９月 17 日　Ｃ区精査、ＳＴ０３検出。Ｅ区掘り下げ。北館南側のテラス状部分では橋跡は検出できなかった。浪岡城跡の歴史的通路を整備するために曲輪間の橋跡・通路を確認する必

要がある。このため、過去の調査により北館西端で検出した虎口に対応する西館東部を調査することとした。西館に調査グリッド杭を設置しＦ区とする。

9 月 24 日　Ｆ区掘り下げ。北館に対峙する部分からは虎口や橋設置の痕跡は確認できなかった。斜めに橋を架けている可能性も考え、西館東辺沿いにトレンチを設定し、調査区を拡張する。

9 月 26 日　Ｆ区表土除去を進めるも虎口等の遺構は確認できない。ただし、西館東辺には低い土塁状の盛土がされていたことを確認した。

9 月 28 日　土曜日早朝に台風 19 号（リンゴ台風）襲来。風速 50mを超える猛烈な風。

9 月 30 日　現場プレハブは 2 棟吹き飛ばされ、建物の屋根や壁が北館北側縁辺部の桜に巻き付いている。遺物、図面ともに広範囲に散乱、または収納容器ごと割れて飛び散った木製品は破損が著しく壊滅的状態。回収、整理の計画が立てられない。スチール製キャビネットは数十メートル飛ばされ、屋根のトタン板の中から折れ曲がり戸が開かない状態で見つかる。中に入っていた重要遺物は辛うじて原形を留めていた。

（以降 1 週間は遺物や図面の回収にあたる。作業員は農家が多く、田畑、特にリンゴ被害の後始末に追われ出勤できない作業員が多い。町内の一部地域では電気の復旧に 1 週間以上を要した。）

10 月 8 日　Ｆ区掘り下げ。Ｆ区南端で深い遺構を検出した。西館入り口となる虎口の可能性もあるが、Ｃ区、Ｄ区、Ｅ区ともに完掘していないので、Ｆ区については次年度再調査を行うこととする。

10 月 14 日　Ｃ区ＳＴ０１・０２・０３完掘。

10 月 18 日　Ｄ区、Ｅ区の遺構等セクション図作成終了。

10 月 24 日　Ｄ区掘り下げ。竪穴建物跡 1 棟を検出。ＳＴ０４とする。また、性格不明遺構を検出。ＳＸ０１（井戸か？）とする。

10 月 29 日　Ｄ区精査。Ｅ区遺構平面実測終了。

11 月 5 日　Ｄ区精査。ＳＴ０４、ＳＸ０１掘り下げ。

11 月 11 日　ＳＴ０４、ＳＸ０１完掘。

11 月 12 日　Ｃ区、Ｄ区平面実測開始。

11 月 29 日　Ｃ区、Ｄ区、Ｅ区の写真撮影終了。現場作業を終了する。

12 月 2 日～平成 4 年 3 月 30 日　室内にて遺構調査図面、遺物整理作業。台風の影響で遺物や図面の欠落が認められ、作業が難航した。

平成 4 年度

7 月 13 日　平成 3 年度に西館の東南端で確認した遺構について確認調査を行うものとする。
平成 3 年度の調査と混同しないよう、本年度の調査区をＧ区とする。

7 月 20 日　Ｇ区で確認した遺構は、かなり深くなる見込み。確認を続ける。

7 月 23 日　確認中の遺構は立ち上がりが薬研状で、底部も確認できない。
虎口である可能性は低く、大規模な溝の可能性が高いためＳＤ０１とする。

7 月 29 日　南端部から西に調査区を拡張する。遺構の広がりを確認することとする。

8月 3 日　拡張した調査区で内館側に緩やかに下降しながら延びる、スロープ状の硬化面を確認。虎口の可能性が高い。また、当初確認したＥ区東端のＳＤ０１の延長を確認するためＧ区西側にトレンチを設置し、掘り下げを開始する。

8月 5 日　スロープ状の遺構を通路状遺構とし、ＳＲ０１とする。ＳＲ０１は虎口と考えられる。Ｅ区西側に設置したトレンチを掘り下げたところ、ＳＤ０１と同様の溝と思われる遺構が検出されたことからＳＤ０４とした。

8月 10 日　ＳＲ０１の東側に建物の可能性のある平坦部があり、性格不明遺構ＳＸ０２とする。また、ＳＲ０１の北側でも同様の遺構が認められたため、ＳＸ０３とした。

8月 11 日　ＳＸ０２の東側に性格不明遺構を検出ＳＸ０４とした。ＳＲ０１は、表層として細かい石を突き固める地業を行ったものである。

8月 19 日　ＳＸ０２はＳＲ０１の張り出し状にひろがる遺構であり、出入り口施設の可能性が考えられる。また、ＳＲ０１の両側に溝状の掘り込みが確認できた。この溝も虎口に付随した施設と考えられる。ＳＲ０１の南西側をＳＤ０２、北東側をＳＤ０３とする。

8月 24 日　ＳＸ０３の東側に焼土遺構ＳＦ０１と性格不明遺構ＳＸ０５を確認。

8月 31 日　ＳＤ０２はＳＲ０１に沿い、水平に延びる溝が段がつく形となった。一部で柱穴状の部分も見られることから、虎口（ＳＲ０１）に沿い板塀等が設置されていた可能性が考えられる。

9月 16 日　9月に入り雨続き。雨の切れ間にようやく薬研状の掘り込みとトレンチ部分のセクション図を作成する。

9月 18 日　ＳＲ０１の内館側端部でＳＲ０１両側に２基づつの柱穴を検出。橋に繋がるものか、虎口に関する施設なのか不明。

9月 24 日　ＳＲ０１から堀に落ちる斜面について、橋脚等施設の有無について確認するため西館斜面の表土を除去する。

9月 30 日　全体セクション図作成。ＳＲ０１南端（落ち際）から西館斜面までの精査。

10月 5 日　ＳＤ０１が現況の堀よりも深くなり危険であるためセクション・平面実測終了後、直ちに埋め戻すこととした。

10月 13 日　ＳＤ０１埋戻し、ＳＸ０２～ＳＸ０６の遺構平面実測。

10月 29 日　ＳＤ０４セクション図作成。ＳＸ０１、ＳＲ０１、ＳＤ０３精査。

11月 4 日　ＳＤ０４埋戻し開始。

11月 9 日　Ｇ区全体遺構平面実測開始。

11月 17 日　遺構平面実測完了。本日で現場作業終了。

11月 18 日～平成 5 年 3 月 15 日　室内にて遺構調査図面、遺物整理作業。

平成 5 年度

5月 10 日　現場作業準備

5月 11 日　調査区設定。本年度は西館と内館間の堀跡を 2 か所調査することとし、北側をＨ区、南側をＩ区とする。Ｈ区調査グリッド杭設置。

5月 14 日　Ｈ区の表土除去作業開始。

5月27日　H区は水田として利用していた時の用水路を残し、湧水をポンプアップにより下流域に流している。木製品が出土し始めた。

6月 1日　昨年度調査の西館ＳＲ０１下の堀跡で、杭状の丸太が直立した状態で数本検出。橋脚の可能性が高い。

6月 2日　H区の中央部（西館―内館間の中央部）で、堀跡の中土塁と思われる硬化した面を検出した。検出した中土塁状の遺構をＳＡ１０とし、西館側の堀跡をＳＨ１３、内館側の堀跡をＳＨ１４とする。

6月 7日　H区ＳＡ１０、ＳＨ１３掘り下げ。西館と内館間の中土塁は城館期の盛土造成によるものであることを確認。

6月 8日　ＳＡ１０の側面に沿って、土留めと思われる板杭列を検出。

6月11日　H区ＳＨ１３掘り下げ。ＳＲ０１直下から７本の杭（橋脚）と板杭（または橋の部材）を検出。建て替えの可能性も含め検討する。

6月14日　Ｉ区調査グリッド杭設置。表土除去作業開始。Ｉ区も堀跡中央部が畑として使用してきており、中土塁の可能性が高いためこの部分をＳＡ１１とし、西館側をＳＨ１５、内館側をＳＨ１６とした。なお、ＳＡ１０とＳＡ１１、ＳＨ１３とＳＨ１５、ＳＨ１４とＳＨ１６は同一遺構と思われるが、両区ともにトレンチ調査となることから敢えて別番号を付した。

6月23日　H区ＳＨ１４掘り下げ開始。

7月 1日　H区ＳＨ１３西側に拡張。Ｉ区ＳＡ１０、ＳＨ１６掘り下げ開始。

7月 2日　H区ＳＨ１３の拡張部から、新たに橋脚と思われる木柱を検出。

7月 7日　Ｉ区ＳＡ１１の東端部と思われる場所から木柱を検出。

7月 9日　Ｉ区ＳＨ１６の西側から木柱を検出。ＳＡ１１検出の木柱と結ぶと、中土塁から内館へと架かる橋が想定される。

7月15日　Ｉ区掘り下げ。

7月23日　H区ＳＡ１０掘り下げ。Ｉ区全体掘り下げ。

7月27日　H区ＳＨ１４掘り下げ。Ｉ区ＳＨ１５、ＳＨ１６掘り下げ。

7月29日　降雨のため作業中止。調査指導員（村越委員、高島委員、佐藤委員、葛西委員）の現地視察。今後の整備及び発掘調査について指導を受ける。

8月 6日　H区ＳＨ１４掘り下げ。Ｉ区ＳＨ１５、ＳＨ１６掘り下げ及び平面実測開始。

8月10日　H区ＳＨ１４精査。Ｉ区ＳＨ１６拡張準備及びセクション図作成。

8月25日　H区ＳＨ１３精査。土留めの板杭と思われた遺物は塔婆であった。文字が認められる。Ｉ区ＳＨ１６北側に拡張し掘り下げ。

8月30日　Ｉ区拡張部からは橋脚の可能性がある杭等が検出できない。さらに調査を進める。

9月 7日　Ｉ区ＳＨ１６の拡張部北側から倒れた状態の杭を検出。橋脚になるかは不明。

9月20日　H区ＳＡ１０精査。Ｉ区ＳＡ１１、ＳＨ１６精査。ＳＨ１６から薄い板材（屋根柾状）で包まれた籾殻が出土。籾殻中には漆器碗が納入されていた。類例や民俗事例を調査する必要がある。

9月30日　H区出土遺物取り上げ。なお、橋脚については地山に打ち込んであり、抜けないことからそのまま埋め戻すことにした。

10月12日　H区ＳＨ１３精査。Ｉ区ＳＨ１６平面実測。橋脚と中土塁の関係や、Ｆ区、Ｇ区周辺の通路について、指導員の村越委員から現地指導を受ける。

10月15日　H区精査。浪岡城跡の構造（橋の架かり方、曲輪の連立のありかた）について、指導員の佐藤委員から近世・近代史料を用いて指導を受ける。

10月20日　H区精査。セクション図補正。H区、Ｉ区の橋脚と思われる木柱及び遺構について指導員の高島委員から現地指導を受ける。

10月26日　遺構全体図確認。完掘写真撮影のためH区、Ｉ区清掃。

10月28日　H区、Ｉ区の完掘状態写真撮影。

11月 2 日　平面図補正のため追加実測。

11月12日　現場作業終了。

11月15日～平成6年3月18日　室内にて遺構調査図面、遺物整理作業。

２　検出遺構

Ａ区（Fig.４４、PL.１２）

Ａ区は北館南側の帯曲輪の西端に設定した。過去の調査で当該部分を調査していた際に、中土塁が構築され、埋め戻されて使用されていることが判明している。本調査では、この中土塁や堀跡と現況の堀跡の関係を調査することを目的として調査区を設定した。

ＳＡ０１

Ｌ・Mの42・43区で検出した調査区南端の地山を掘り残した中土塁跡。確認面で上部幅250㎝を測る。

ＳＡ０２

Ｌ42・43区で検出した地山を盛り残した中土塁跡。確認面で上部幅100㎝程度である。

ＳＡ０３

Ｋ・Ｌの42・43区で検出した地山を掘り残した中土塁跡。確認面で上部幅100㎝程度である。

ＳＨ０１（Fig.４５、Ch.５）

Ｌ42・43区で検出した濠（溝）跡で、確認面で上部幅が430㎝、底面幅が100㎝、深さ220㎝程度の箱薬研状を呈する。帯曲輪造成時に北館側からの埋戻しにより、一度に埋め戻されたと考えられる。

ＳＨ０２（Fig.４６、Ch.６）

Ｌ42・43 区で検出した濠（溝）跡で、確認面で上部幅が 500 ㎝、底面幅が 180 ㎝、深さ 260 ㎝程度の箱薬研状を呈する。３回以上の掘り直しを経て帯曲輪を造成した時点で埋め戻されたものと考えられる。

ＳＨ０３（Fig.４７、Ch.７）

Ｋ・Ｌの 42・43 区で検出した濠（溝）跡で、確認面で上部幅が 180 ㎝、底面幅が 50 ㎝、深さ 280 ㎝程度の薬研状を呈する。ＳＨ０２に先行して埋め戻したのち、北館側に再度上部幅 100 ㎝、底部幅 70 ㎝、深さ 100 ㎝程度の溝を掘り直している。

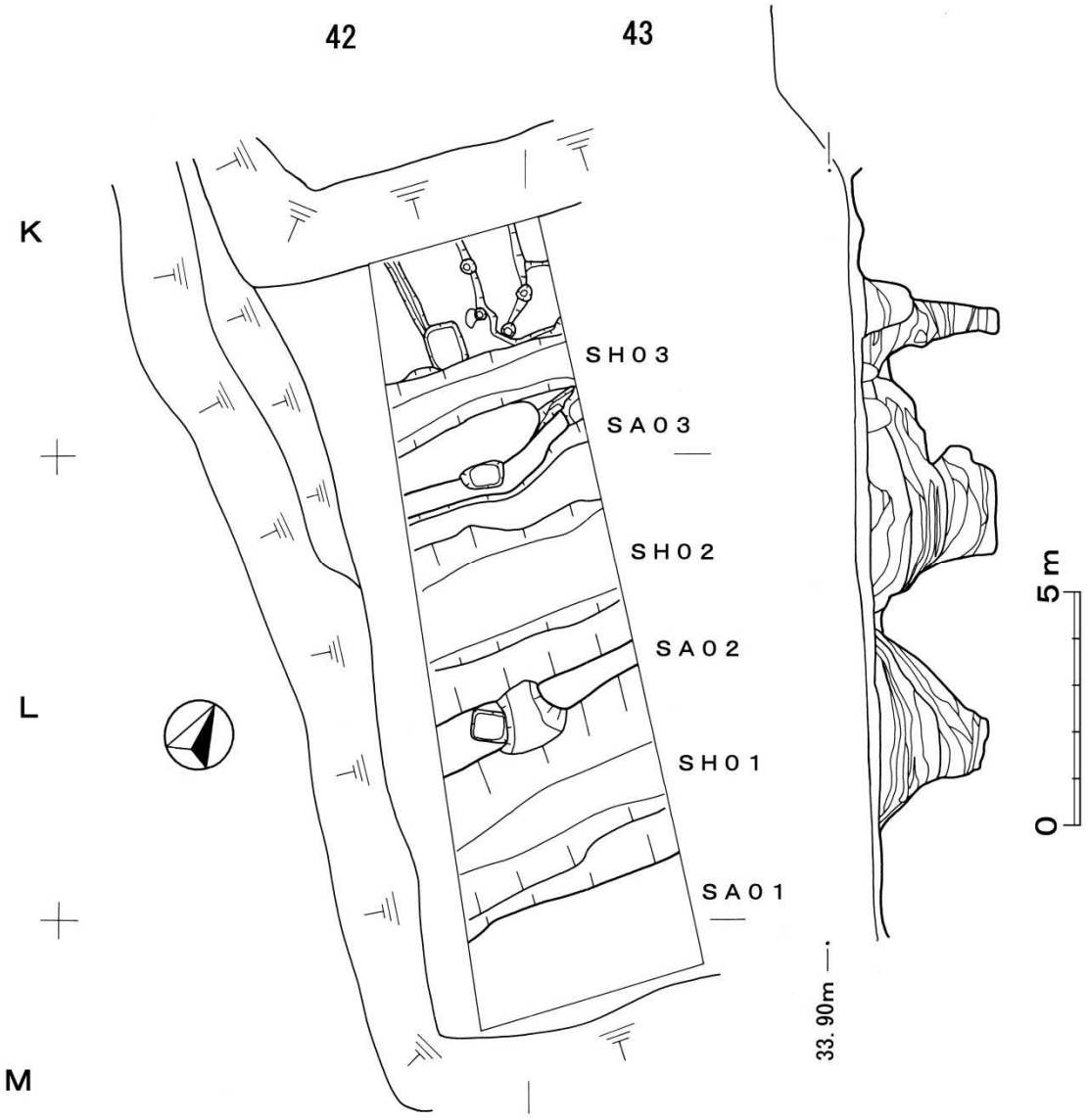


Fig.４４　Ａ区調査平面図

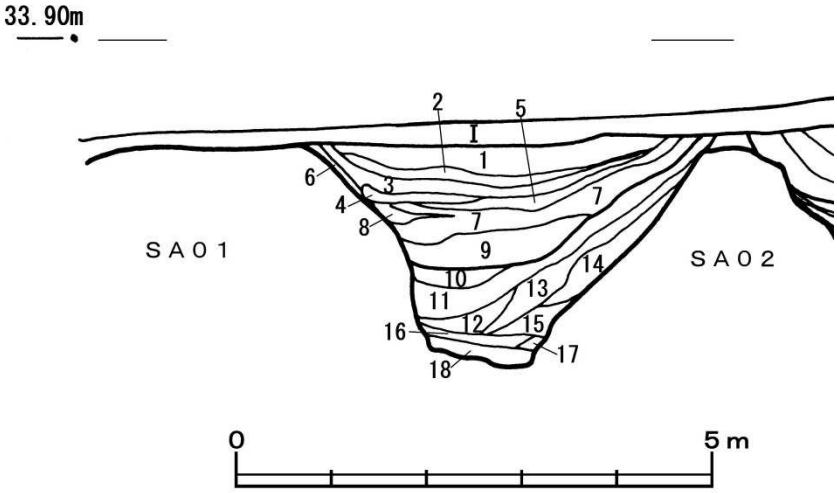


Fig.４５　ＳＨ０１層序図

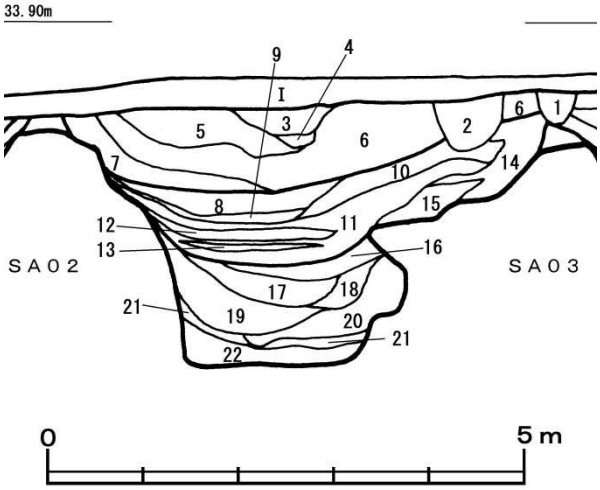


Fig.４６　ＳＨ０２層序図

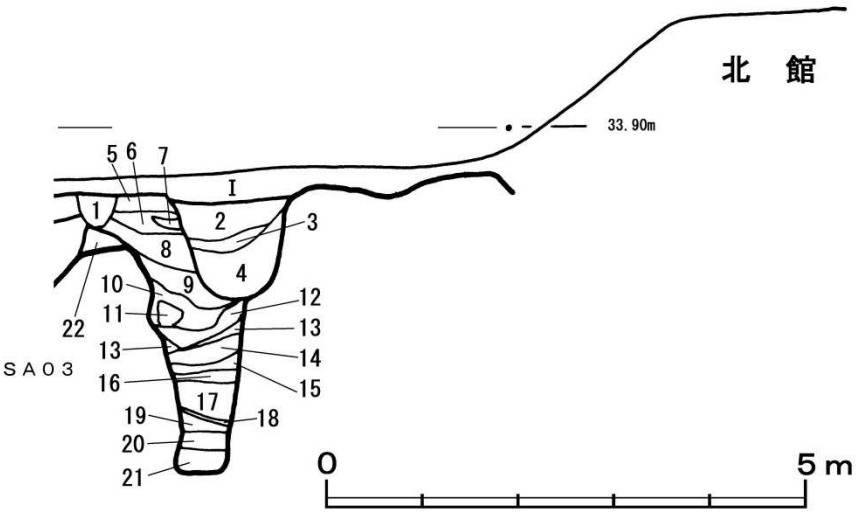


Fig.４７　ＳＨ０３層序図

B区（Fig.４８、PL.１３）

Ｂ区は、内館、北館、西館の３つの曲輪が接する堀跡に設定し、中土塁の形態や水管理施設の有無について調査するものとした。

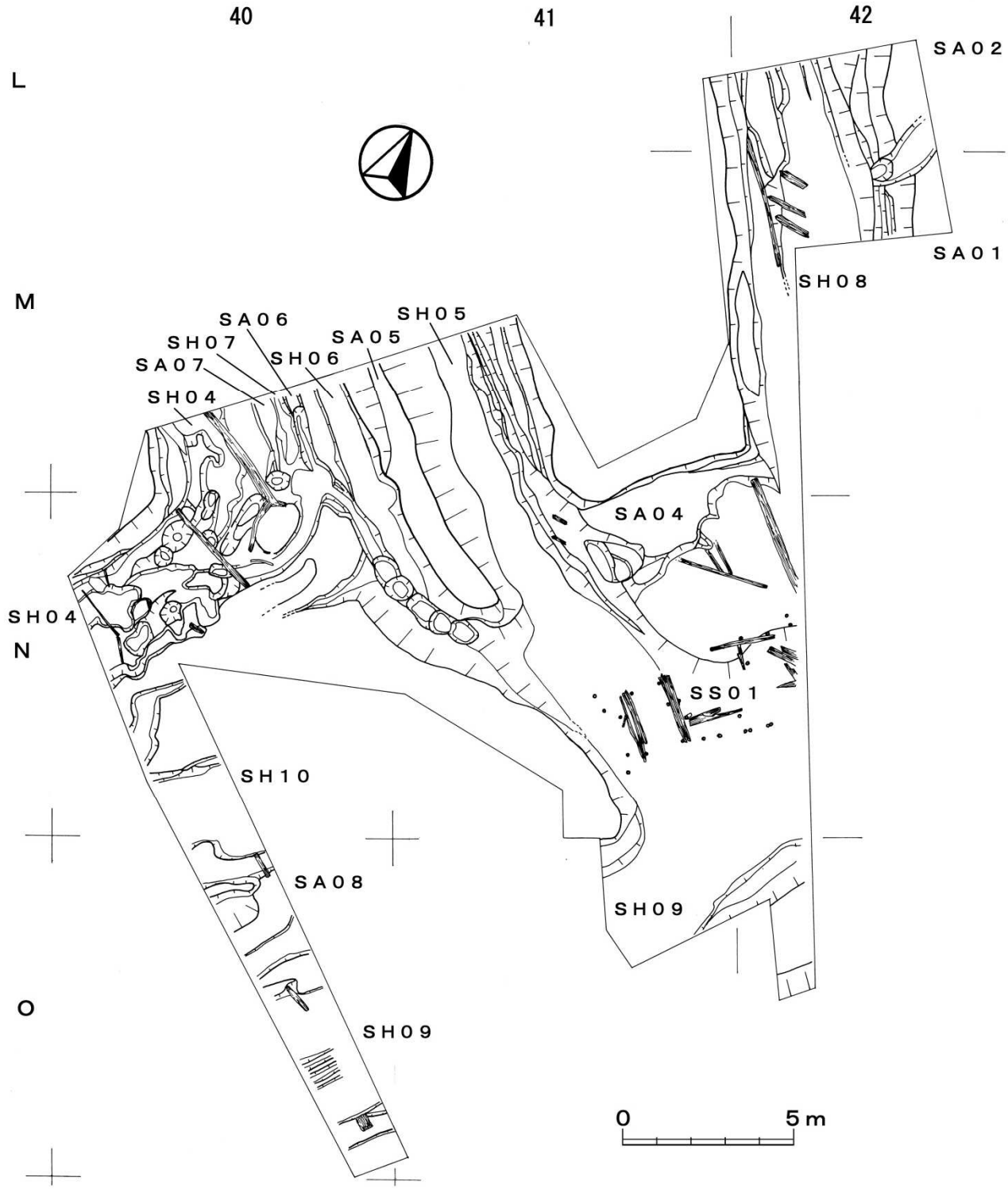


Fig.４８　Ｂ区調査平面図

ＳＳ０１（Fig.４９・５７、PL.１３、Ch.８）

N41・42 区で検出したシガラミ状遺構。丸太杭と転用材の板により土留めを行っている。N 41 区で、200 ㎝程度の板を複数枚用いて、幅 100 ㎝の水門状の遺構を造作している。本遺構の北側では堀底にこぶし大の石を設置しており、南側堀底は細砂が積もっていたことから、本遺構で堀の水管理を行っており、一定の水の流れあったことが考えられる。規模は明確でないが、後述するＳＡ０８に繋がる形で、西側に 200 ㎝、100 ㎝幅の水門状の部分を挟み、東側に 350 ㎝、全体では幅 200 ㎝、延長 650 ㎝程度を確認した。東側にはさらに延長するものと考えられる。

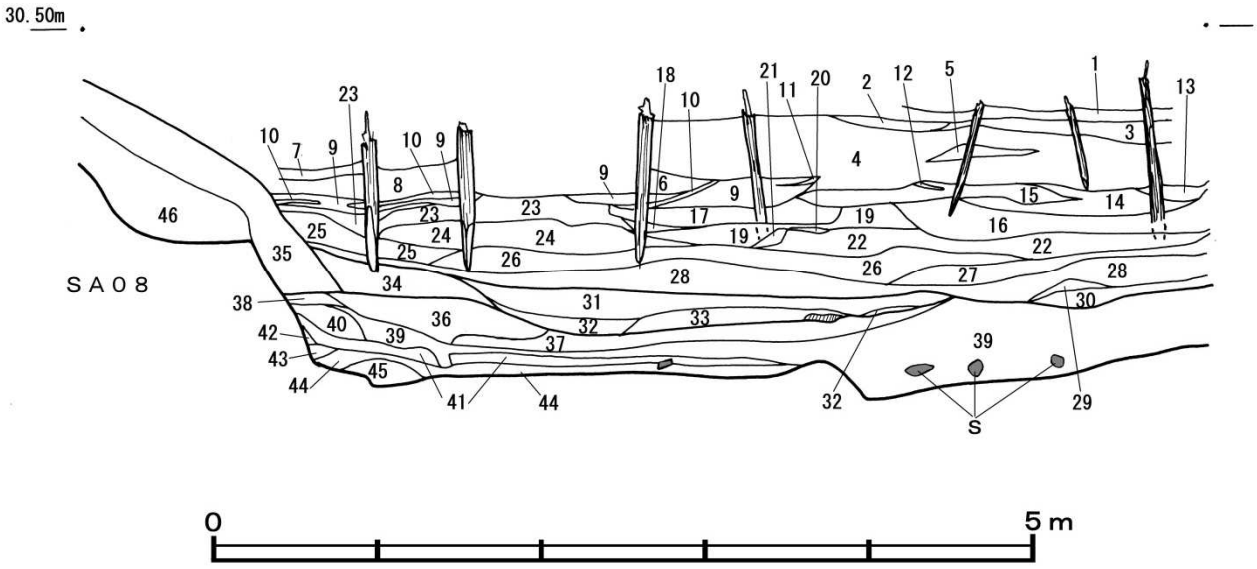


Fig.４９　ＳＳ０１南壁層序図

ＳＡ０４（Fig.５０）

M・Nの 41 区で確認した中土塁跡。北館と西館間に現存する中土塁跡の基部と思われ、耕作（水田）により削平されたものと考えられる。

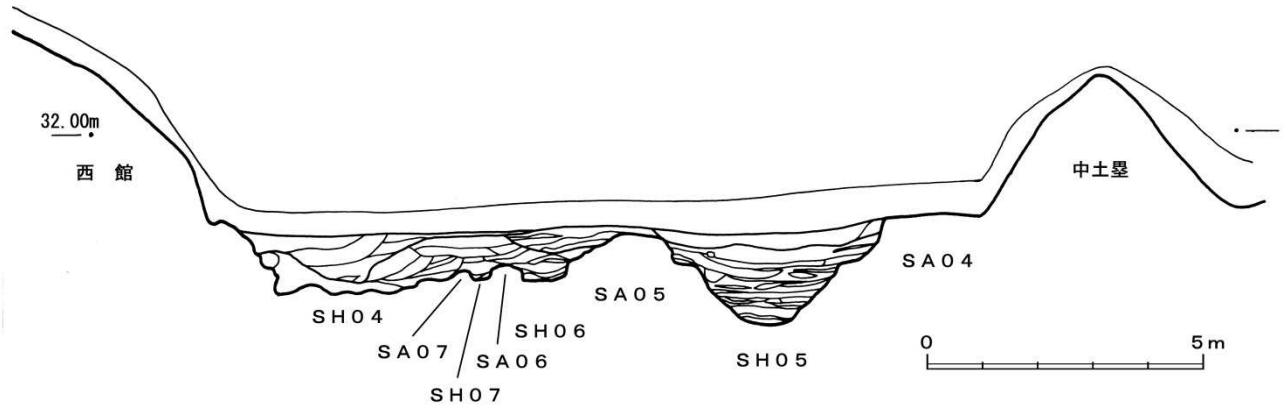


Fig.５０　Ｂ区北西壁層序及び遺構確認図

ＳＡ０５（Fig.５０）

Ｍ・Ｎの 40・41 区で確認した遺構。北館と西館間に現存する中土塁跡の西側に位置し、西館と中土塁間の堀跡中央部に、地山掘り残しの低い中土塁跡状を呈している。断面形状からは城館期においても他の中土塁跡のような高さはなく、堀底に凹凸を付加するような機能と考えられる。確認したのは上部幅 60 ㎝、下部幅 260 ㎝、高さ 90 ㎝程度であった。

ＳＡ０６（Fig.５０）

西館とＳＡ０５間で確認した、堀底の凹凸状の遺構。幅 60 ㎝、高さ 40 ㎝程度の小規模な地山の掘り残しと思われる。

ＳＡ０７（Fig.５０）

ＳＡ０６の西側に隣接して確認した、堀底の凹凸状の遺構。幅 100 ㎝、高さ 20 ㎝程度の小規模な地山の掘り残しと思われる。

なお、ＳＡ０６とＳＡ０７は城館期の堀管理（掘り直し等）の際に形成されたもので、特に意味はない可能性も考えられる。

ＳＡ０８（Fig.５１・５９、Ch.１６）

Ｏ40 区で確認した中土塁跡。西館と内館間の中土塁跡で城館期に盛土により造成しているものである。複数回の改修を行っているが、城館期末の段階では確認面で上部幅 920 ㎝、下部幅 960 ㎝、高さ 100 ㎝程度を測る。高さについては、落城以後昭和 40 年代までの耕作（水田・畑）により削平されている。層は全体的に固く締まっており、版築状の突き固めと盛土が互層状に重なっていることが観察できた。中土塁跡の幅としては浪岡城跡で最大となる。

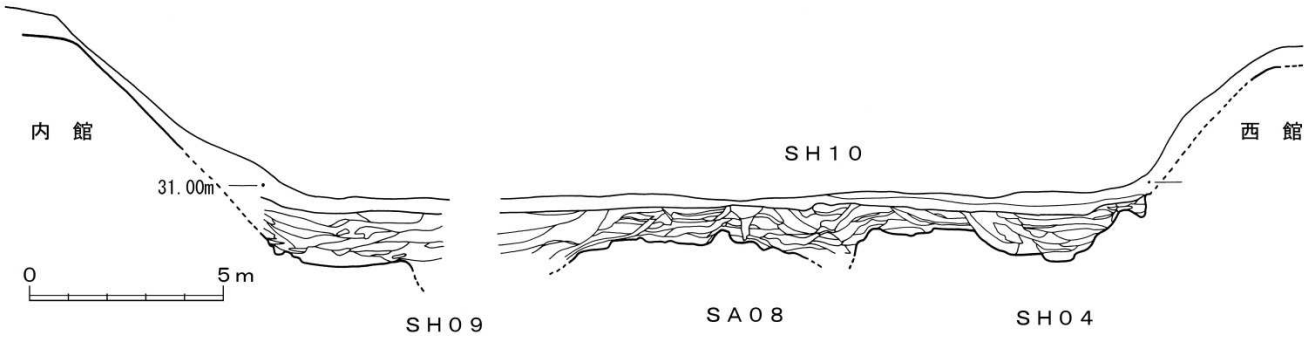


Fig.５１　Ｂ区西側トレンチ部西壁層序図

ＳＨ０４（Fig.５１・５２・５３、Ch.９・１０）

Ｍ・Ｎの 40 区で検出した堀跡。西館の周囲を巡る形状を呈している。確認面で上部幅 400 ㎝、下部で幅 200～250 ㎝程度、深さ 100～120 ㎝程度を確認した。表土～上面にかけては耕作により撹乱を受けている。

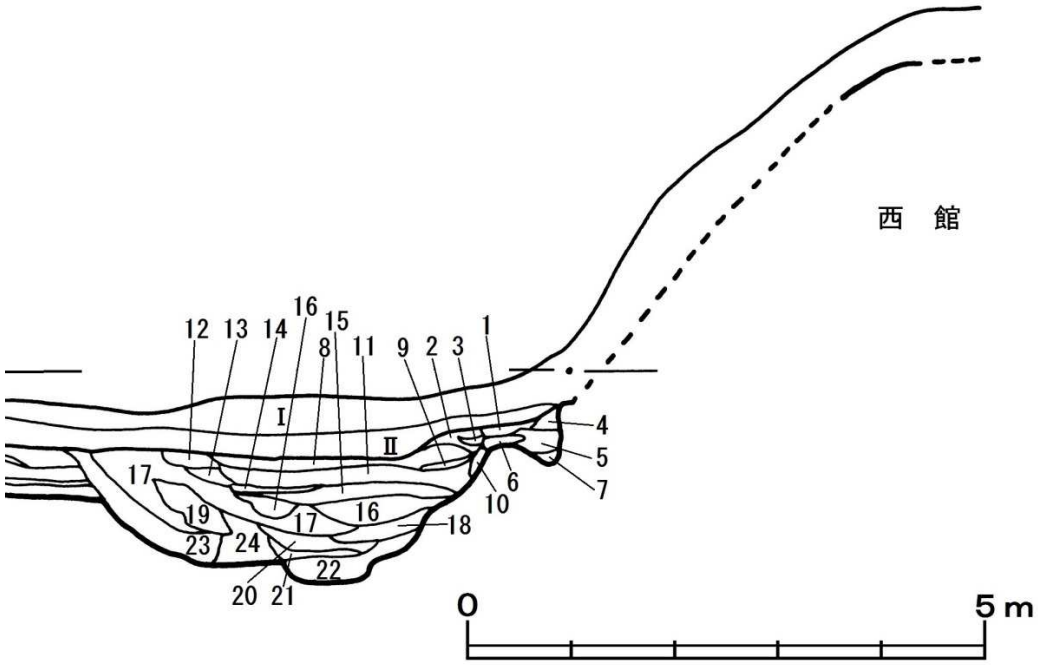


Fig. 52　SH04西壁層序図

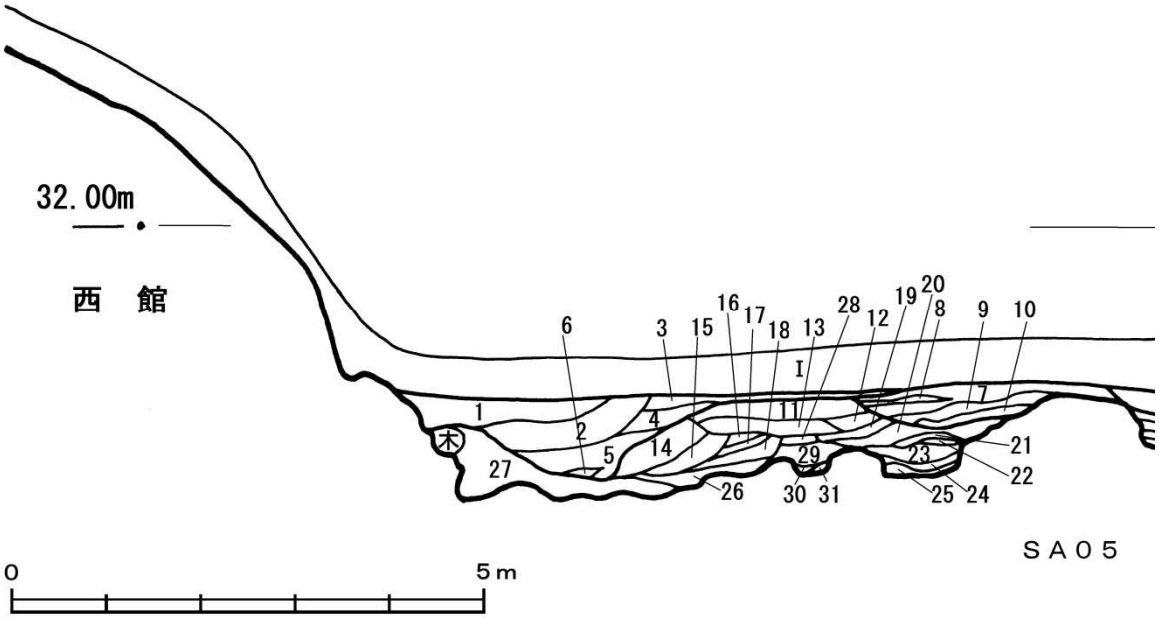


Fig. 53　SH04・06・07北壁層序図

ＳＨ０５（Fig.５０・５４、Ch.１１）

Ｍ・Ｎの 41 区で検出した堀跡。現存する西館―北館間の中土塁の西側に位置している。確認面で上部幅が 400 ㎝、下部幅が 70 ㎝、深さ 170 ㎝程度を測る。

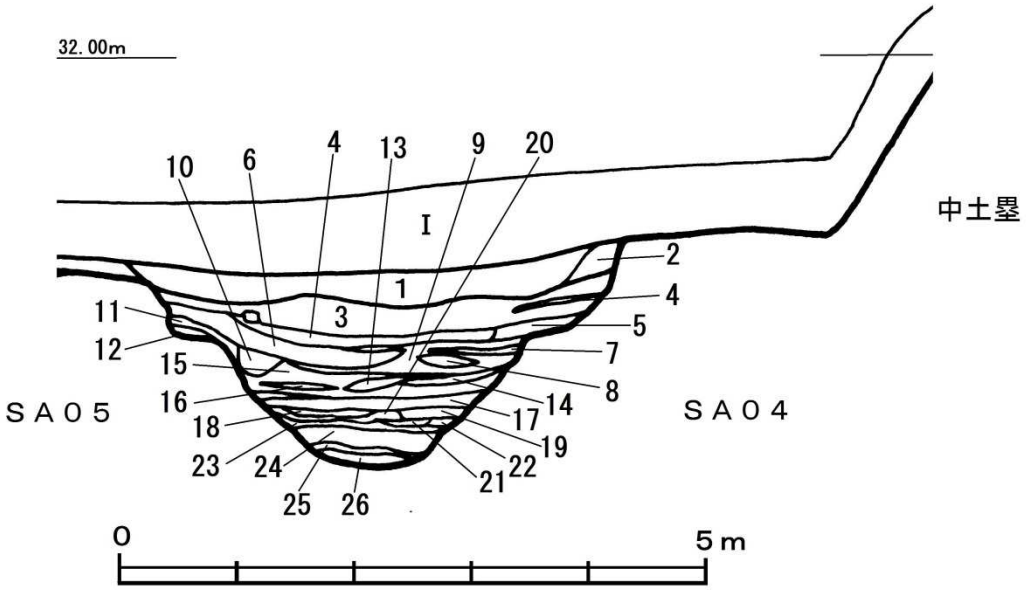


Fig.５４　ＳＨ０５層序図

ＳＨ０６（Fig.５０・５３）

Ｍ・Ｎの 40 区で検出した堀跡。ＳＡ０５とＳＡ０６間に位置している。確認面で上部幅 230 ㎝、下部幅 70 ㎝、深さ 90 ㎝程度を測る。何度かの掘り直しを経て、城館期末には現状から深さ 50 ㎝程度となっていたと思われる。

ＳＨ０７（Fig.５０・５３）

M40 区で検出した堀跡。ＳＡ０６とＳＡ０７間に位置している。堀底面の幅 40 ㎝、深さ 20 ㎝程度を遺構として扱った。城館期末にはＳＡ０６とＳＡ０７を一つの中土塁的に改修していると思われ、この時点ではＳＨ０７は消滅している。

ＳＨ０８（Fig.４８・５５・５６、Ch.１２・１３）

Ｌ・Ｍの 42 区で検出した堀跡。北館と西館間に現存している中土塁跡の東側、中土塁跡と北館間の堀跡である。遺構上部は耕作により削平されている。確認面では上部幅 550 ㎝、下部幅 260 ㎝、深さ 220 ㎝を測る箱薬研状の断面形を持つ堀跡である。城館期に何度か掘り直しをしており、深さに差が認められるが、堀幅についてはほぼ同一規模を維持していたようである。

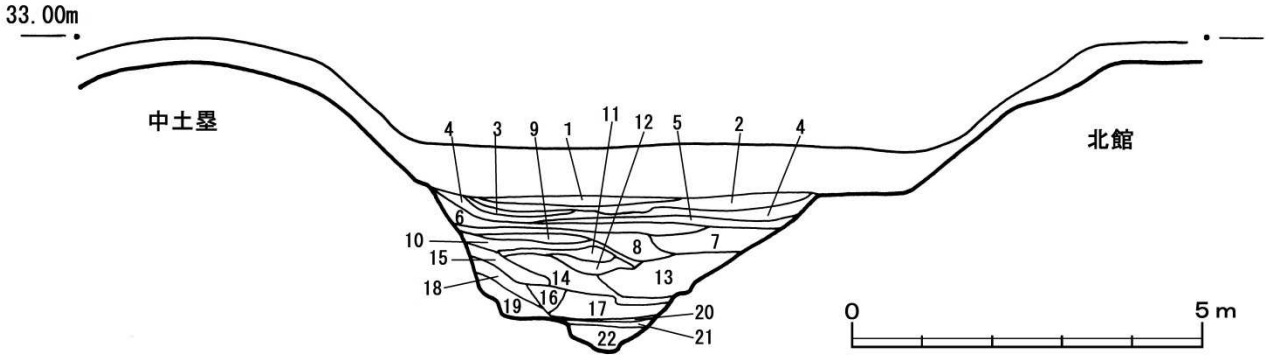


Fig.５５　ＳＨ０８北壁層序図

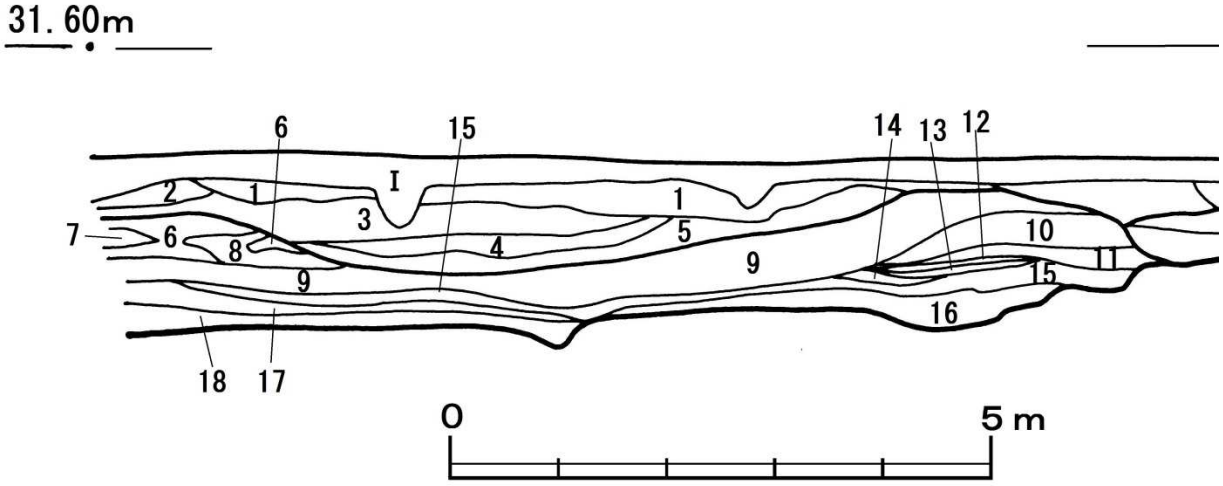


Fig.５６　ＳＨ０８東壁層序図

ＳＨ０９（Fig.５１・５７・５８、Ch.１４・１５）

Ｎ・Ｏの 40・41・42 区で確認した堀跡。内館と西館間の堀跡で、内館直下に位置している。確認面で上部幅 900 ㎝、下部幅は推定 650 ㎝、深さ 140 ㎝程度を測る。なお、本遺構の北側はさらに深くなるが、湧水が著しいことと排水用の水路を仮設した部分であったため堀底まで調査していない。城館期に何度かの掘り直しを行っているが、堀幅等についてはほぼ同一の規模を維持していたようである。

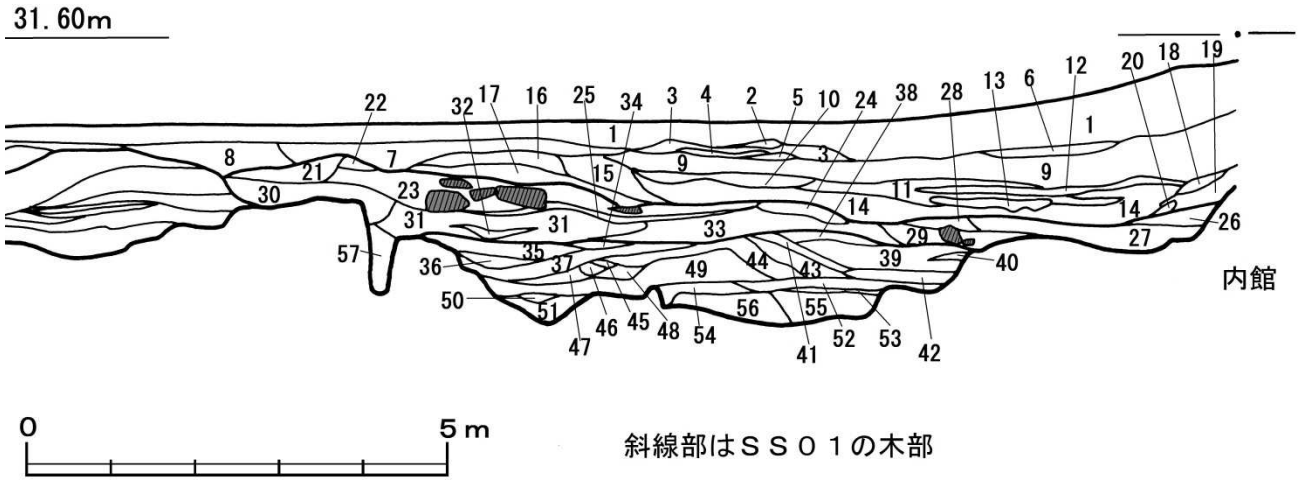


Fig.５７　ＳＳ０１、ＳＨ０９層序図

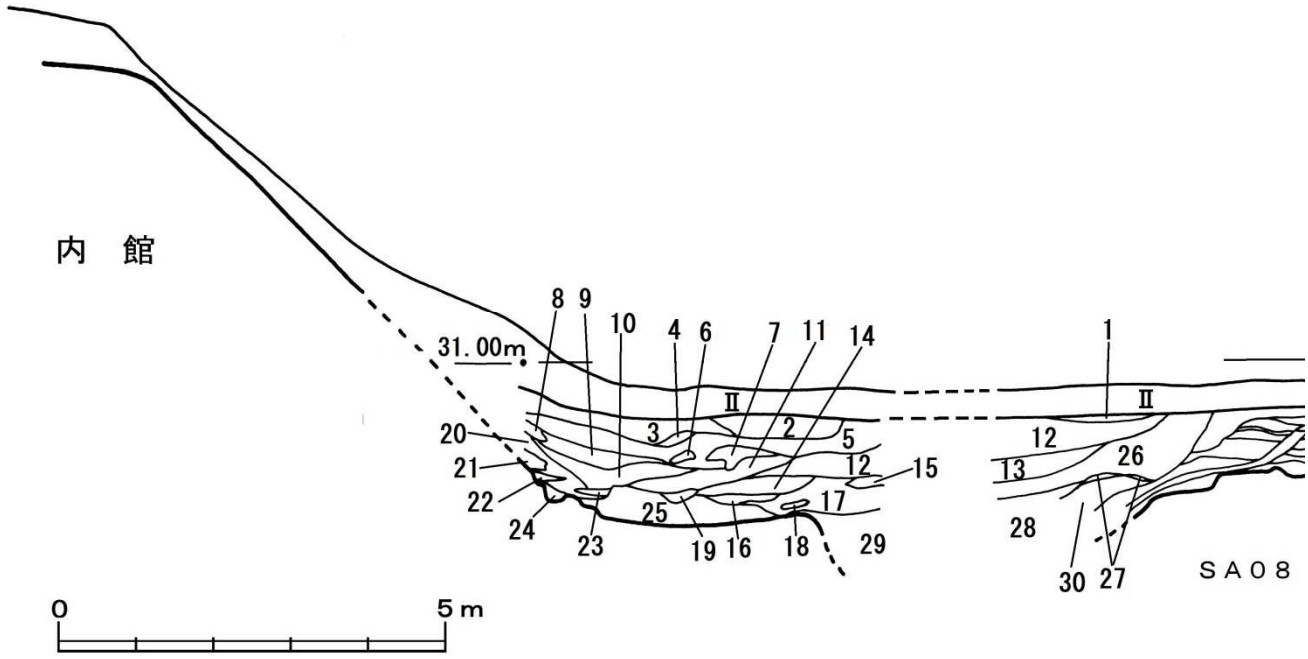


Fig.５８　ＳＨ０９西壁層序図

ＳＨ１０（ＳＡ０８）（Fig.５１・５９、Ch.１６）

Ｎ・Ｏの 40 区で検出した堀跡。堀底面に幅 200 ㎝程度の掘り込みが認められたため遺構番号を付した。城館期に堀跡と中土塁跡の改修を重ねており、城館期末にはＳＡ０８が造成されたことにより消滅したものと思われる。

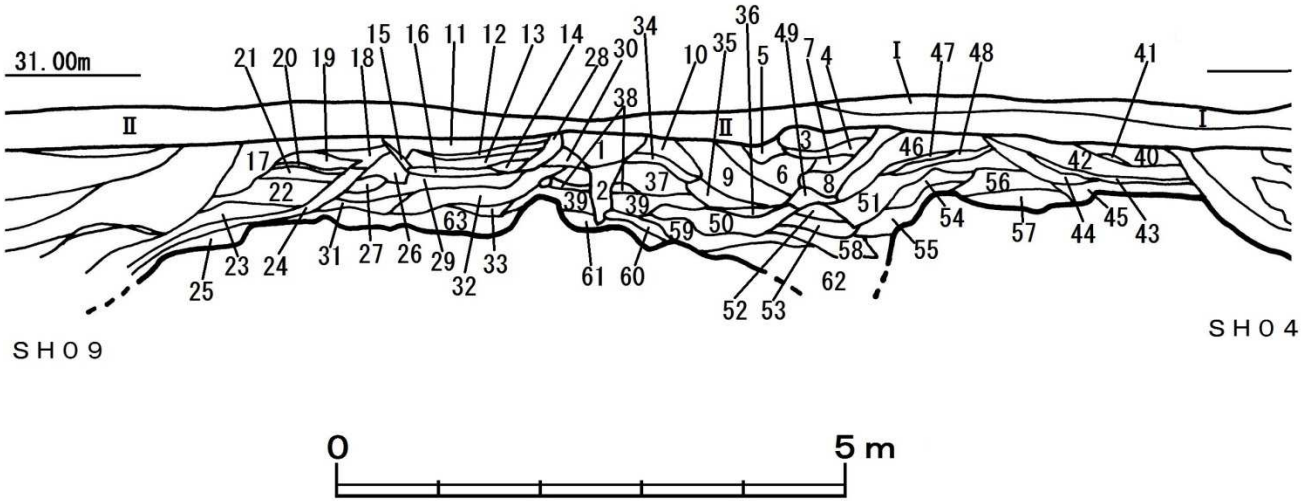


Fig.５９　ＳＨ１０、ＳＡ０８土層図

Ｃ区（Fig.６０、PL.１４）

Ｃ区は北館南側のテラス状に張り出した部分の東側に設定した。これは、浪岡城跡の調査開始以前に内館に上る小道があったことから、橋等の北館と内館をつなぐ施設があった可能性を確認するため調査した。結果、橋跡等の痕跡は確認できず、張り出し部分については、城館期に堀を埋め戻して北館の一部として利用した可能性が高いことが判明した。

なお、Ｄ区についても、Ｃ区同様の調査結果となった。

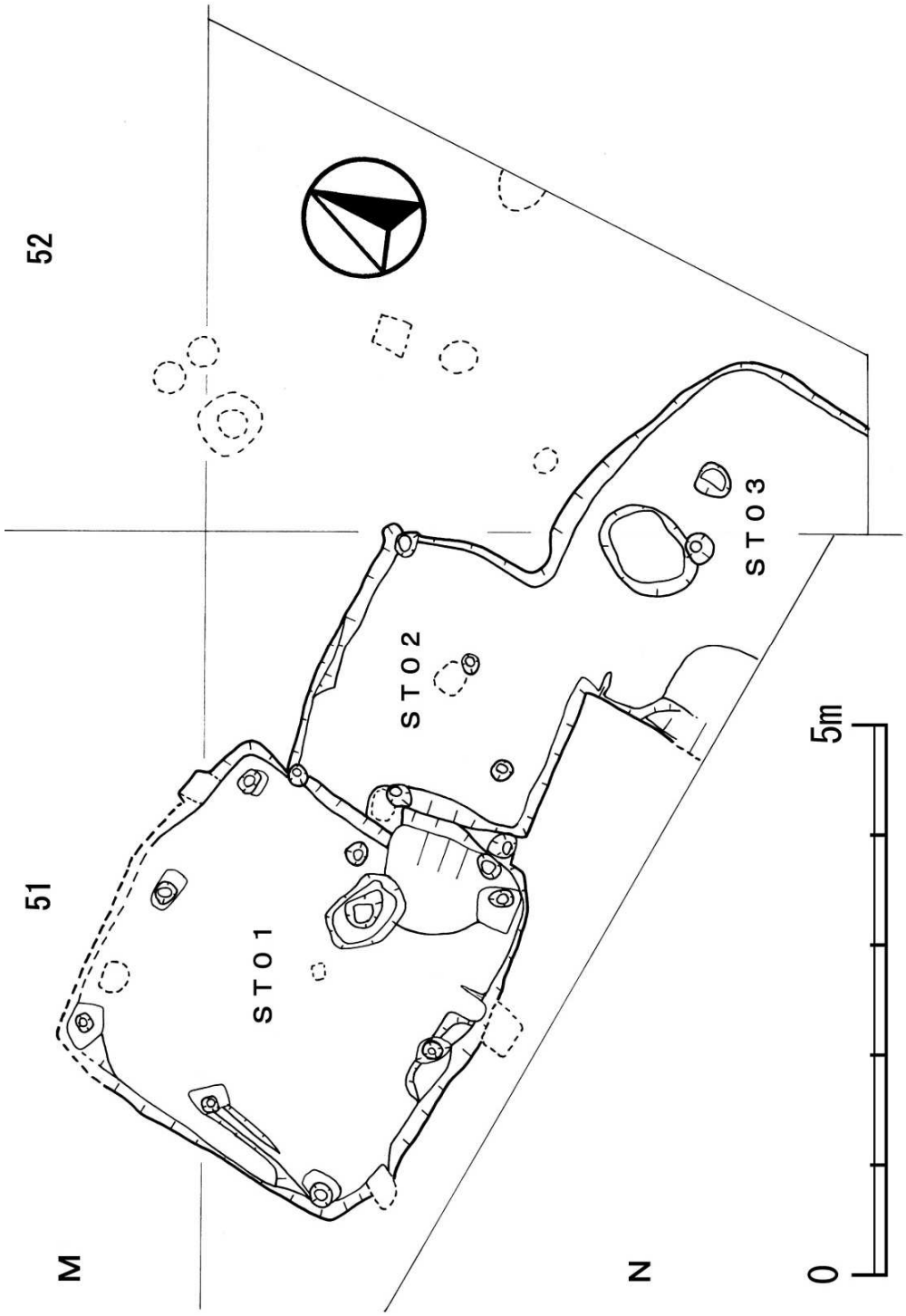


Fig. 60　C区調査平面図

ＳＴ０１（Fig.６１、PL.１４、Ch.１７）

Ｍ・N51 区で検出した竪穴建物跡で、東西約 330 ㎝、南北約 340 ㎝、確認した深さは約 30 ㎝のほぼ正方形の建物跡である。柱穴は直径 20 ㎝、深さ 30 ㎝程度を測り、四隅と各辺の中央に 1 本づつ、計 8 本を検出した。

ＳＴ０２と重複しており、ＳＴ０１が新しい。

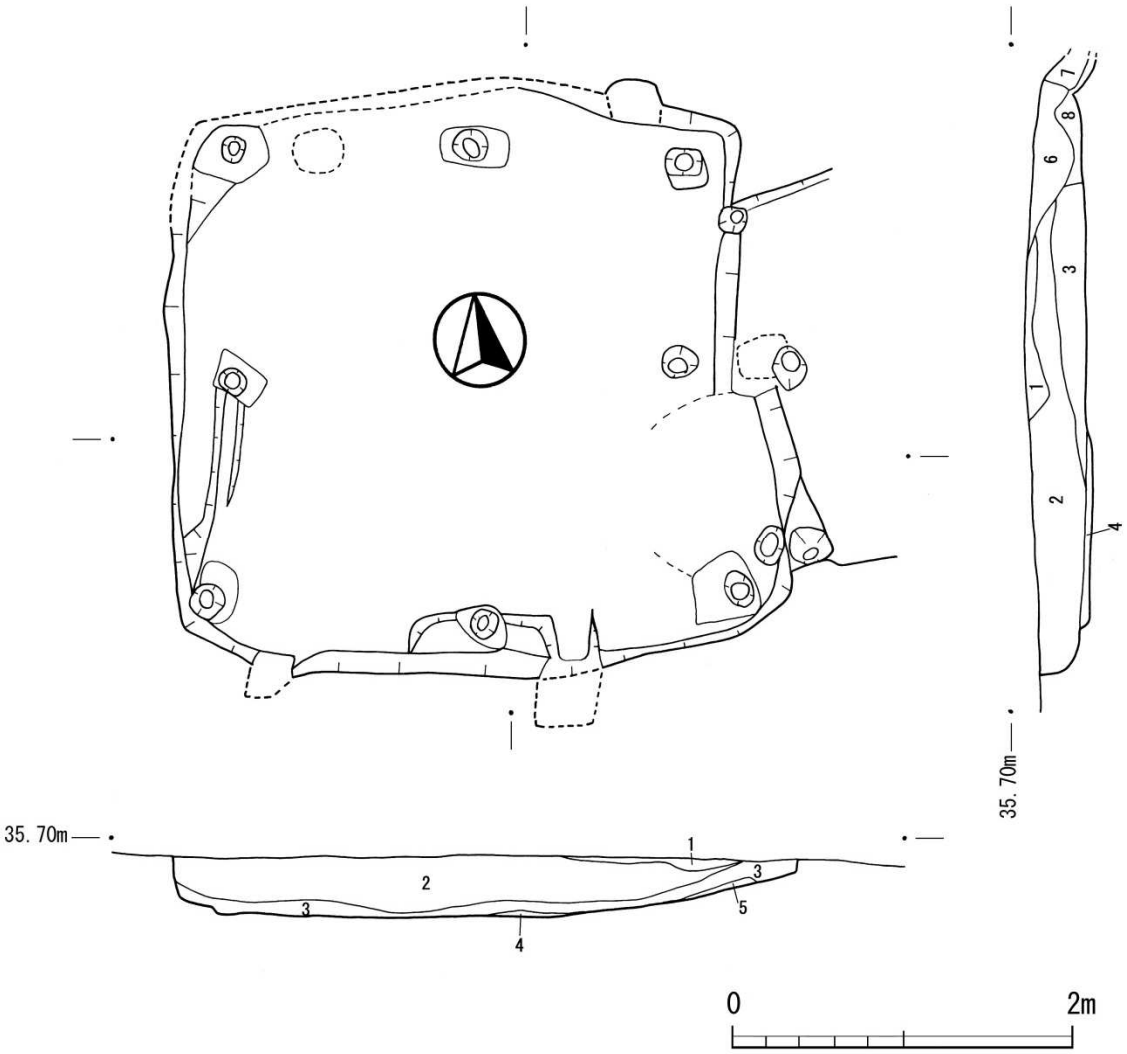


Fig.６１　ＳＴ０１平面図

ＳＴ０２（Fig.６２、PL.１４、Ch.１８）

N51 区で検出した竪穴建物跡で、東西約 280 ㎝、南北約 240 ㎝、確認した深さは約 10 ㎝の東西にやや長い方形の建物跡である。柱穴は直径 20 ㎝、深さ 30 ㎝程度を測り、四隅にあったと思われるが、南東のコーナーのみ確認できなかった。

ＳＴ０１、ＳＴ０３と重複しているが、ＳＴ０１より古く、ＳＴ０３とは新旧関係は不明である。

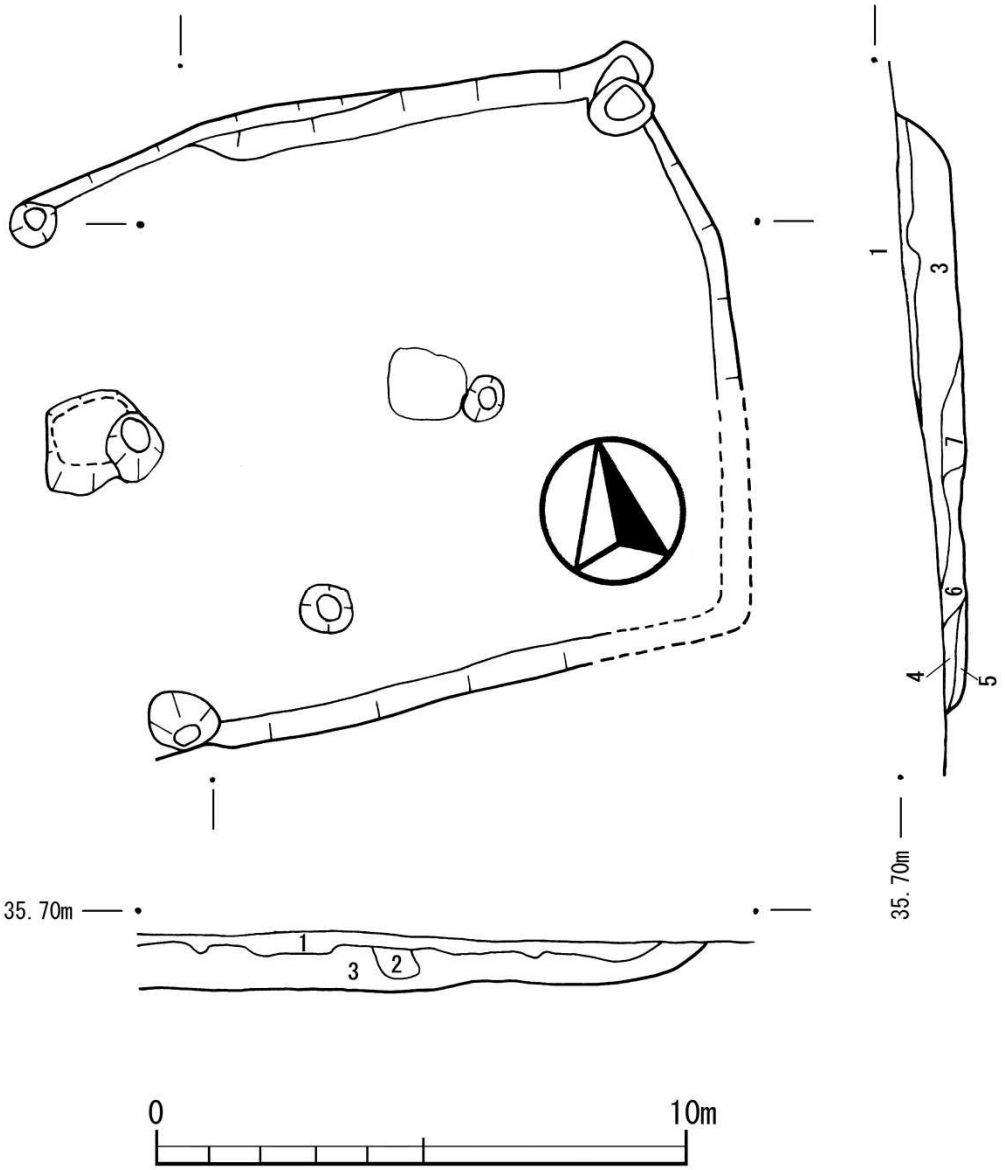


Fig.６２　ＳＴ０２平面図

ＳＴ０３（Fig.６３、PL.１４、Ch.１９）

N51・52 区で検出した竪穴建物と思われる遺構で、東西は約 340 ㎝、南北は 200 ㎝以上、深さ 10 ㎝程度を測る。遺構に関連する明確な柱穴は確認できなかった。また、西側にスロープ状の傾斜が認められたが、張り出しは確認できず、出入り口施設とは判断できなかった。

ＳＴ０２と重複しているが、新旧関係は不明である。

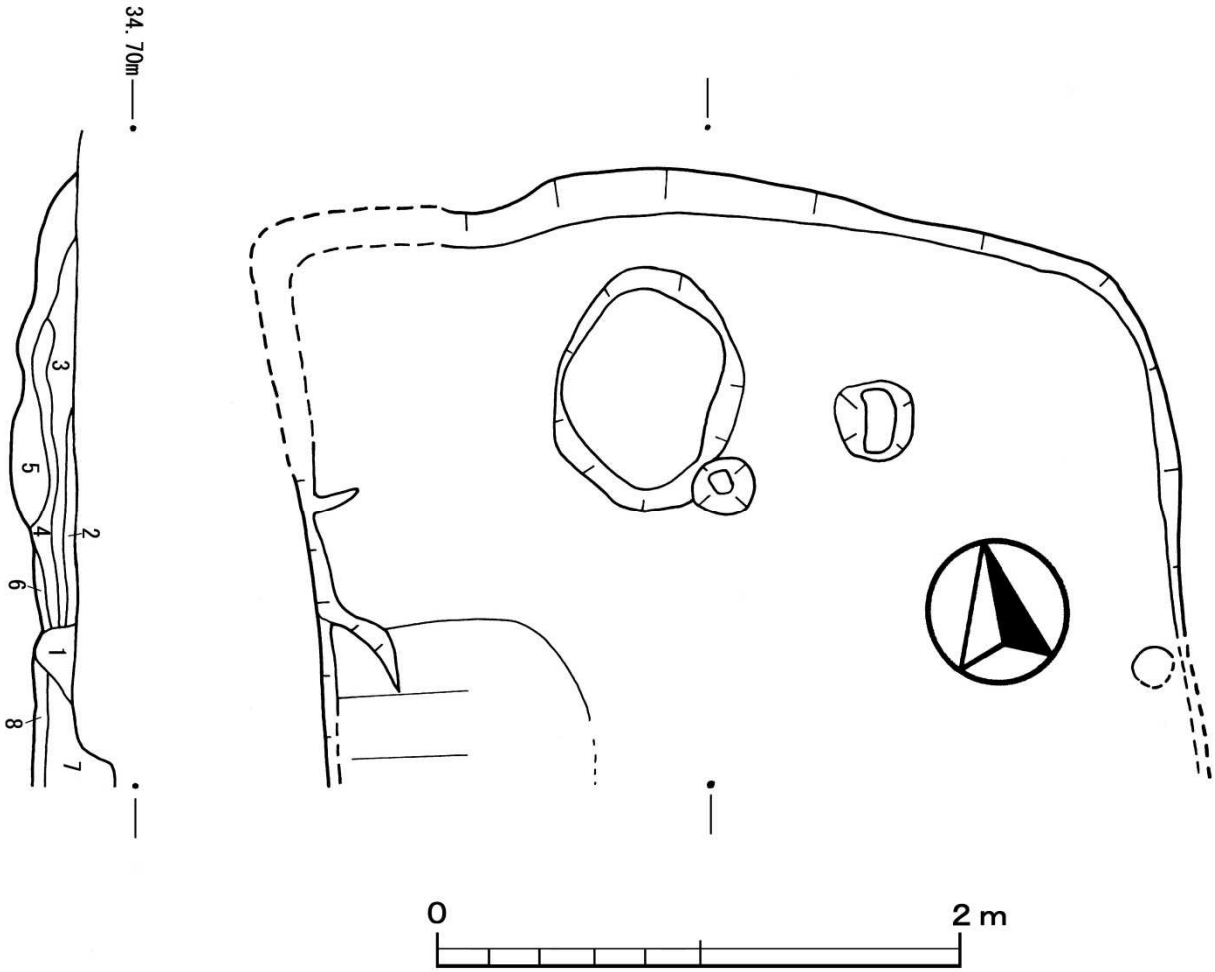


Fig.６３　ＳＴ０３平面図

D区（Fig. ６４、PL. １５）

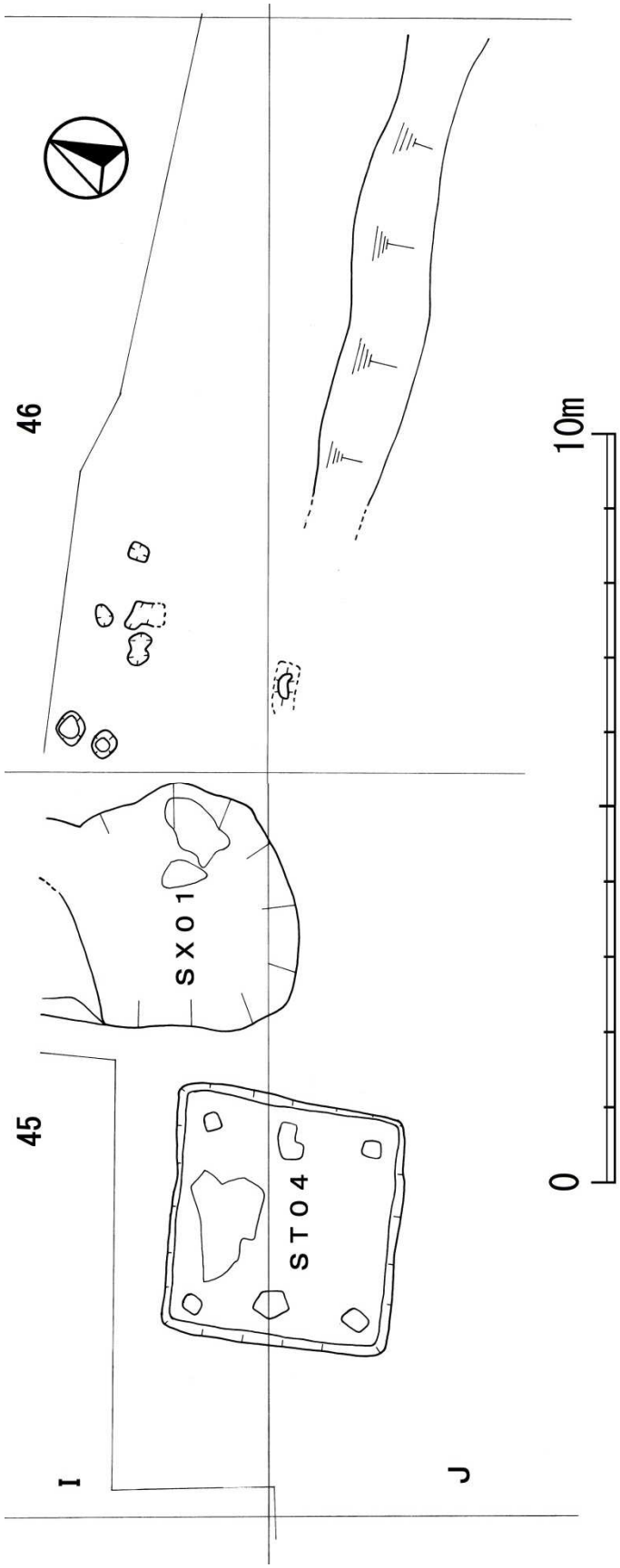


Fig. ６４　D区調査平面図

ＳＴ０４（Fig.６５、PL.１５、Ch.２０）

Ｉ・Ｊの45区で検出した竪穴建物跡で、東西約330㎝、南北約300㎝、深さ約20㎝の長方形を呈する。柱穴は東西の壁際に一列3本づつの計6本を確認したが、掘り方や柱穴の深さについては堀跡を埋め戻したと思われる撹乱状の土層に掘り込んだ柱穴であったため、柱痕の判断がつかず確認できなかった。

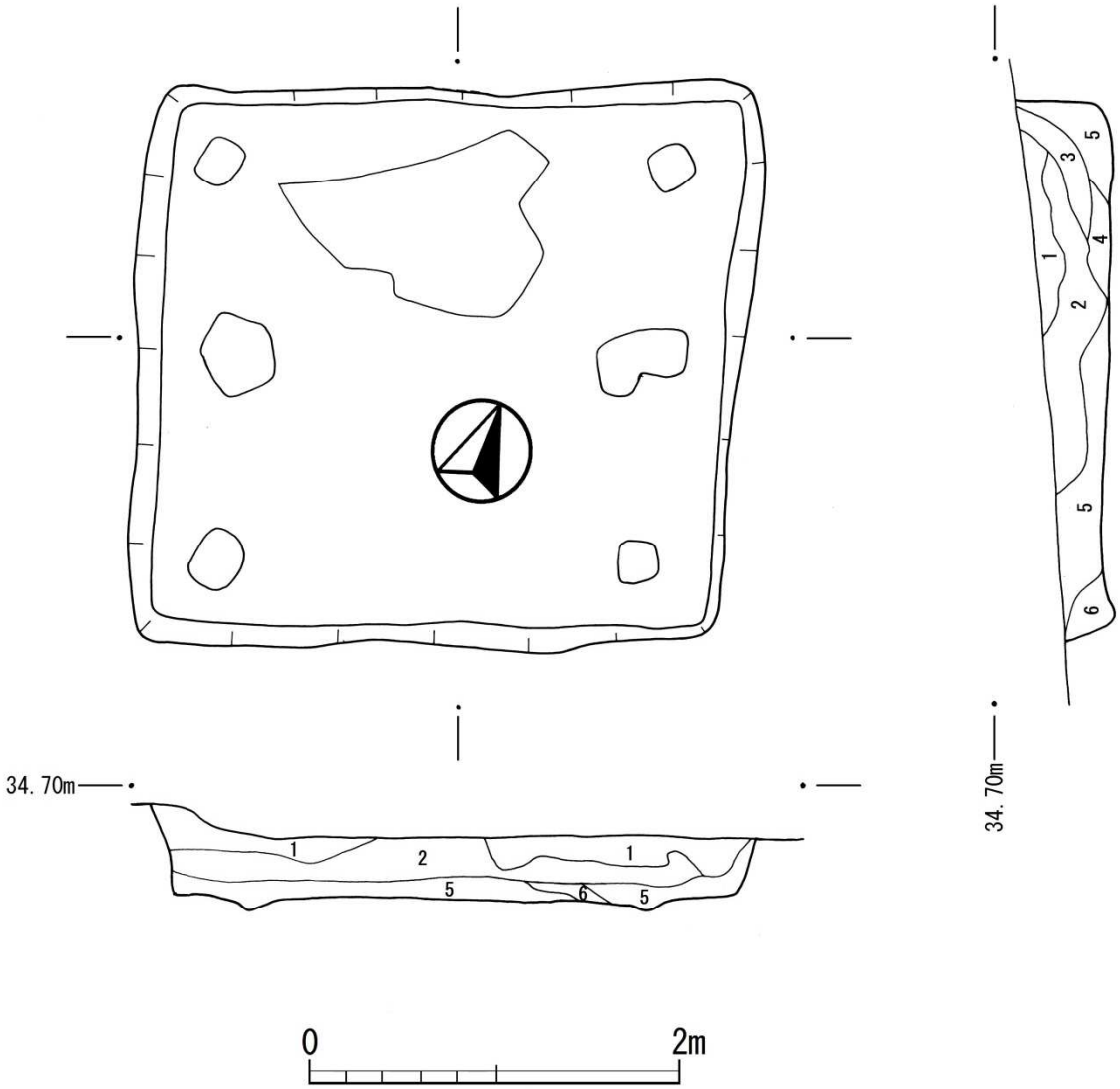


Fig.６５　ＳＴ０４平面図

ＳＸ０１（Fig. ６６）

Ｉ・Ｊの 45 区で検出した遺構で、井戸跡の可能性も考えられる。東西 320 ㎝、南北 300 ㎝の楕円に近い平面形状を持つ。深さは 50 ㎝まで掘り下げたところ湧水が著しく、また遺構の壁面が崩落してきたことから、危険防止のため平面確認に留めた。

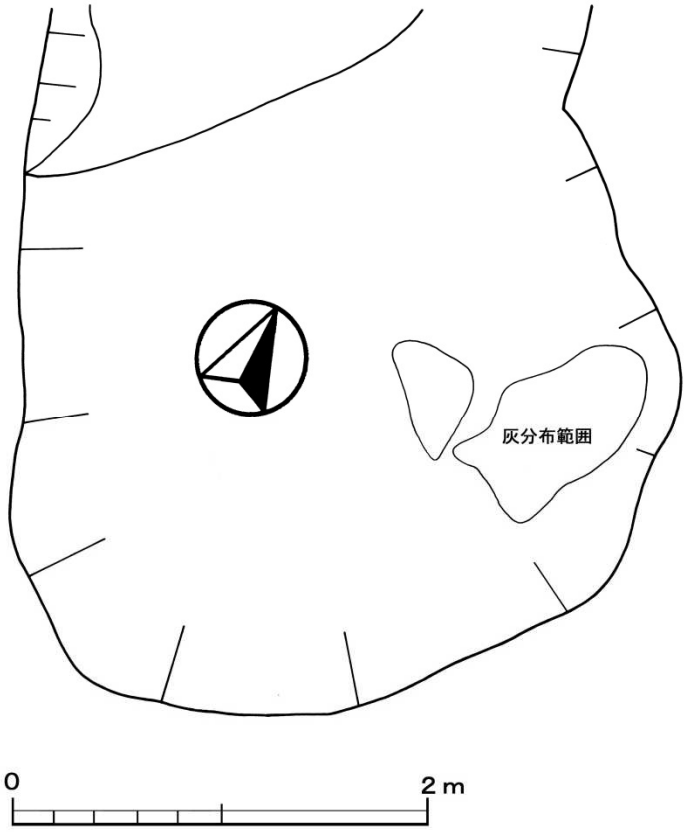


Fig. ６６　ＳＸ０１平面図

Ｅ区（Fig.６７、PL.１６）

Ｅ区は内館、北館、猿楽館間の堀跡について、中土塁の有無や規模、堀跡と旧河川の間に土塁ＳＳ０１のようなシガラミ状の水管理施設が存在した否か、今後の堀跡整備に係る基礎資料収集のため調査した。

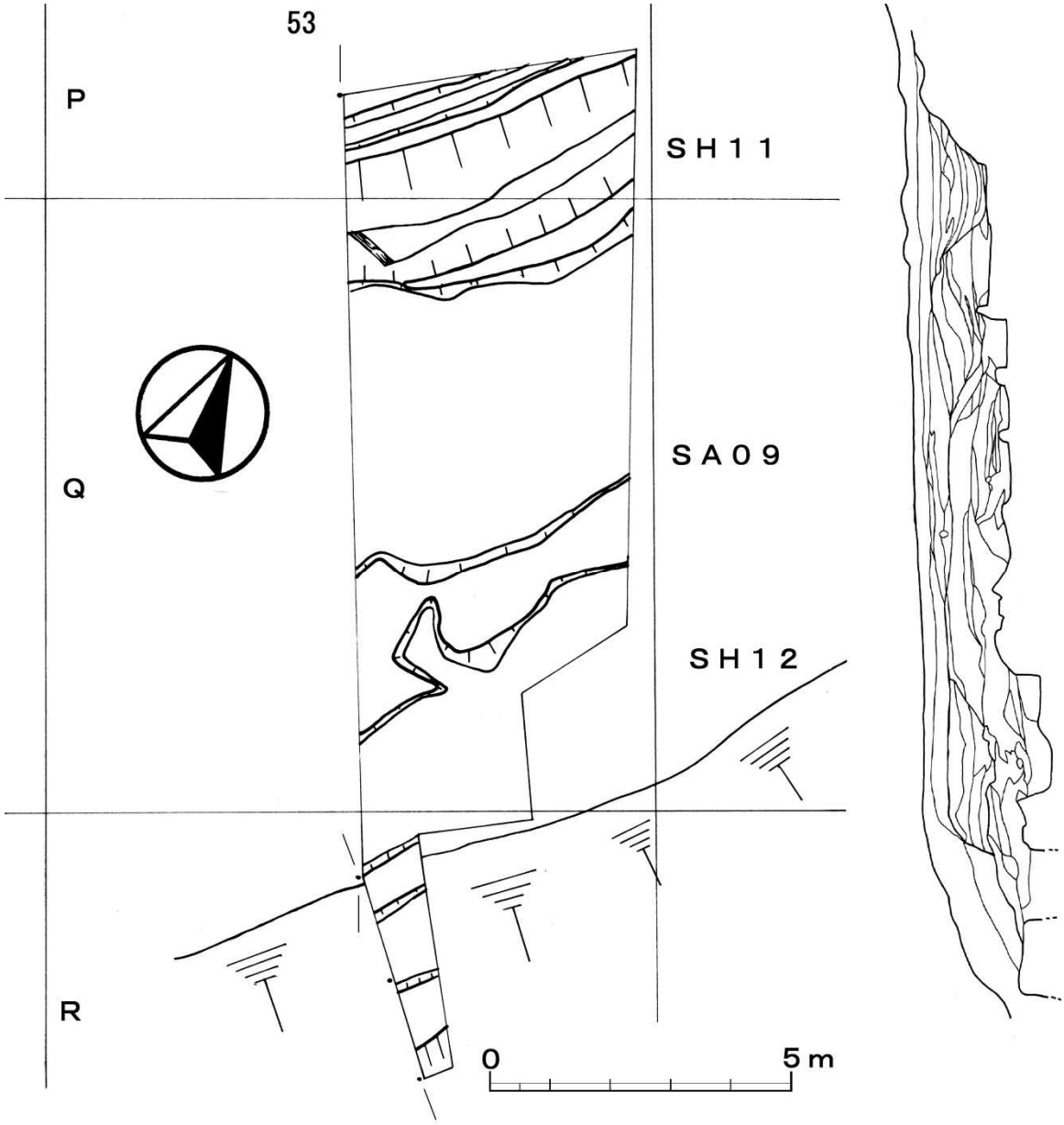


Fig.６７　Ｅ区調査平面図

ＳＡ０９（Fig.６８、PL.１６、Ch.２１）

北館南側の堀跡に残る中土塁で、城館期に盛土により再構築したものと考えられる。16 世紀前半は幅 400 ㎝、確認面から堀底まで 100 ㎝程度の低い中土塁と考えられるが、16 世紀後半の城館期末には北館側を埋戻す形で拡張することで、幅 700 ㎝まで広がると思われる。

なお、南側の中土塁拡張とみられる部分については、出土遺物や土層の状態から、近世以降の段階でＳＨ１２が埋戻されたものと考えられる。

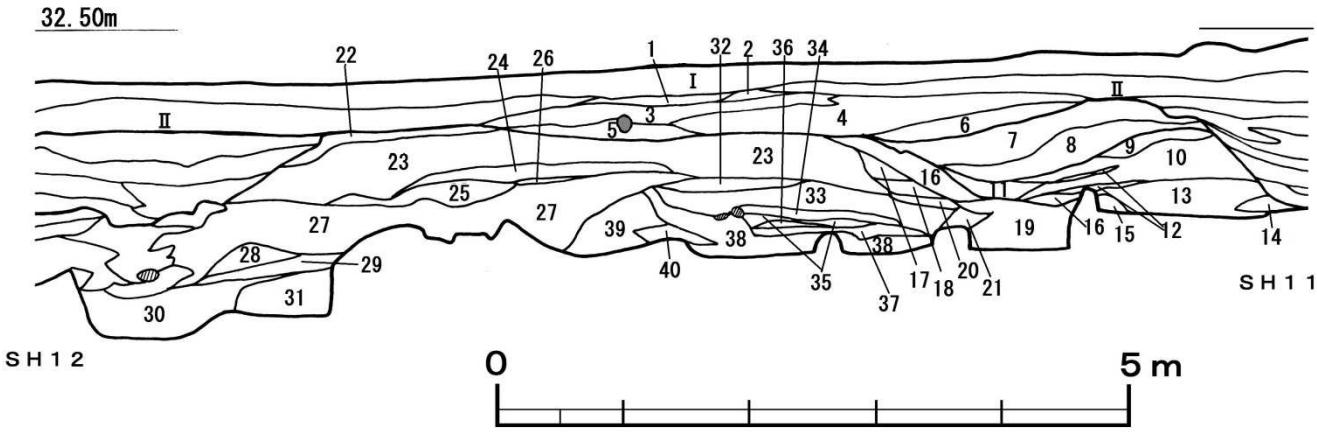


Fig.６８　ＳＡ０９層序図

ＳＨ１１（Fig.６９、Ch.２２）

北館南側の堀跡で、中土塁（ＳＡ０９）により二重となっている堀跡の北館側の堀。何度か掘り直されているが、大きくは 16 世紀前半では幅 500 ㎝、確認面からの深さは約 100 ㎝の箱薬研状を呈しており、城館期末には中土塁の拡張に伴い幅 300 ㎝、深さ確認面から約 100 ㎝とその規模を縮小している。

ＳＨ１２（Fig.７０、Ch.２３）

北館南側の堀跡で、中土塁（ＳＡ０９）を挟んで南側の内館と猿楽館の間の堀となる。近世以降に埋め戻されたと思われる。確認できた幅は 16 世紀前半で 500 ㎝、深さは確認面から 150 ㎝程度。旧浪岡川の迂曲する部分に接しており、堀の水管理上、土塁または水戸違いなどの施設が構築されていた可能性があると考え、城館（堀跡）から旧浪岡川部分への斜面まで調査を進めたが、いずれの施設も確認できなかった。調査で検出した地山は、堀跡から旧河川に由来すると思われる低湿地へ、ほぼ垂直に落ちていることから、河川の迂曲による自然崩落や近世以降の農地利用による削平の可能性も否定できない。

また、明治 22 年の公図と現況を比較すると、猿楽館西側が縮小し、内館と猿楽館間の湿地（当時水田）が広がっていることが推察される。いずれにせよ、調査区の土層断面からは現在地に施設が設置されていたとは考えにくい。周辺の堀跡及び猿楽館の平面的調査を実施しないと構造の解明は困難である。

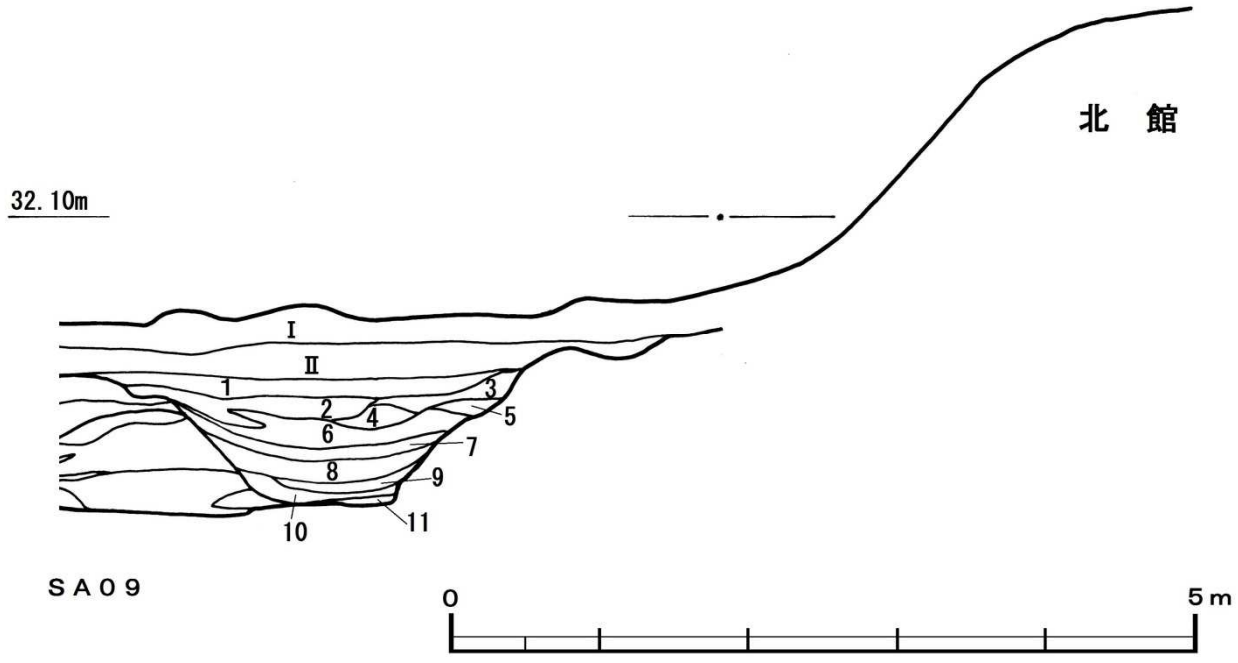


Fig. ６９　ＳＨ１１層序図

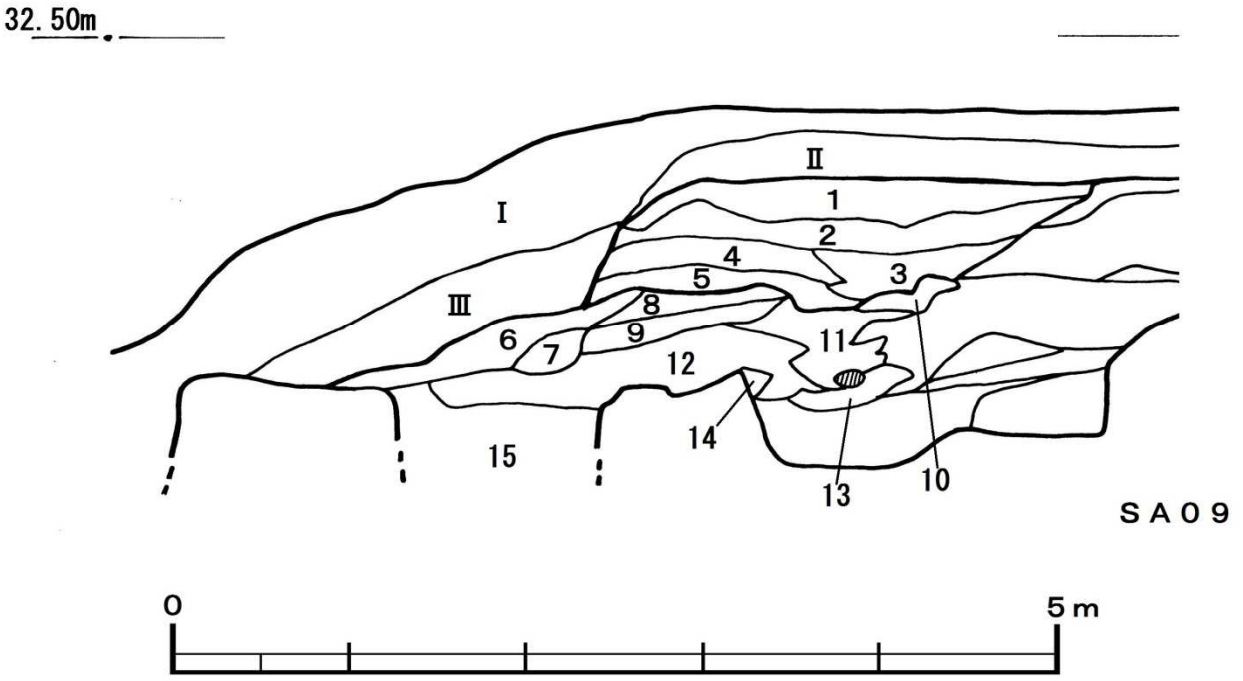


Fig. ７０　ＳＨ１２層序図

Ｆ区（Fig.７１）

Ｆ区は、西館上面平場の東縁辺に沿って、H36～Ｌ38 区にわたり設定した調査区である。浪岡城跡内の歴史的通路を確認する必要があるため、曲輪間の連絡施設として唯一過去の発掘調査で検出していた北館西端の虎口に対して、西館側の虎口や橋跡を検出することを目的とした。

北館虎口を検出した当初は、西館との曲輪間の堀に 20mほどの橋が直接架かることを想定していたため、Ｆ区はこの想定を確認するため、北館虎口に対峙する西館部分を調査したものである。

結果、Ｆ区の調査からは虎口状の遺構は検出できず、小規模ながら土塁状の盛土と思われる層の確認にとどまった。西館虎口の位置が整備上重要なポイントとなるため、北館と西館を結ぶ橋が斜行していた場合や中土塁を通路の一部として枡形（クランク）状に橋が架かることも考慮し、Ｆ区を南に拡張し、虎口の確認に努めたところ、調査区の南側の角（曲輪東南端部）を回り込み、内館に面した部分で虎口と思われるスロープ状の施設を検出した。

調査からは、北館虎口からの橋は西館の東縁辺に直接架かるものではなく、北館から中土塁（北館と西館間の）まで橋を架け、中土塁を通路として利用した上で次の橋を設置していたことが判明した。この結果は、環境整備の際の重要な復元的整備ポイントとなった。

Ｇ区（Fig.７２、PL.１７）

Ｆ区の調査を受け、西館東南部の内館に対峙した部分である、Ｌ～Ｎの 37～39 区を調査した。

本調査区の調査により、堀跡側から西館側に設けられたスロープ状に上る虎口と付属施設と思われる遺構を検出した。また、西館の南東側には 15 世紀以前と思われる溝跡（ＳＤ０１、ＳＤ０４）があり、その溝跡を埋め戻して西館の虎口を造成していることが判明した。

この溝跡は、昭和 61 年度に調査した北館南側の帯曲輪（テラス状の張り出し部分）で検出した堀跡（ＳＨ０１・０２）と同一のものと考えられ、浪岡城跡の築城以前から築城初期までの形態と、浪岡城跡の築城に伴い地業を繰り返した結果、現在の姿が形成されたと考えることができる。

ＳＲ０１（Fig.７３、PL.１７）

Ｍ・Ｎの 38 区で検出した西館南東部の中土塁に対して開口する虎口と思われる遺構。なだらかなスロープを持つ歴史的通路であることから道路状遺構を示す「ＳＲ」番号を付した。検出したＳＲ０１の幅は概ね 300 ㎝ほどで、確認した部分までの延長が 1,400 ㎝、堀の落ち際と西館内部側の高低差が約 190 ㎝であることから 13%ほどの急な傾斜を呈している。表層は砂や細石混じりの固く締まっている状態であり、城館期における使用状態を良好に残しているものである。

また、ＳＲ０１の両側には溝跡が並行して設置され、溝内の一部には柱穴も認められることから、板塀や柵等の施設が設置されていたことが考慮されるとともに、堀跡に沿った西館斜面上に柱穴が対で検出されていることから、門の設置についても可能性が考えられる。

西館虎口は、北館のような枡形を呈するものではなく、内館入口のように曲輪平場に対し斜行するスロープを呈しているが、この差が曲輪の性格によるものなのか、造築の時代差なのかは調査した曲輪が少ないため不明であるが、東北北部近隣の中世城館からは、スロープ状の虎口から枡形虎口へと移行する可能性も考えられる。

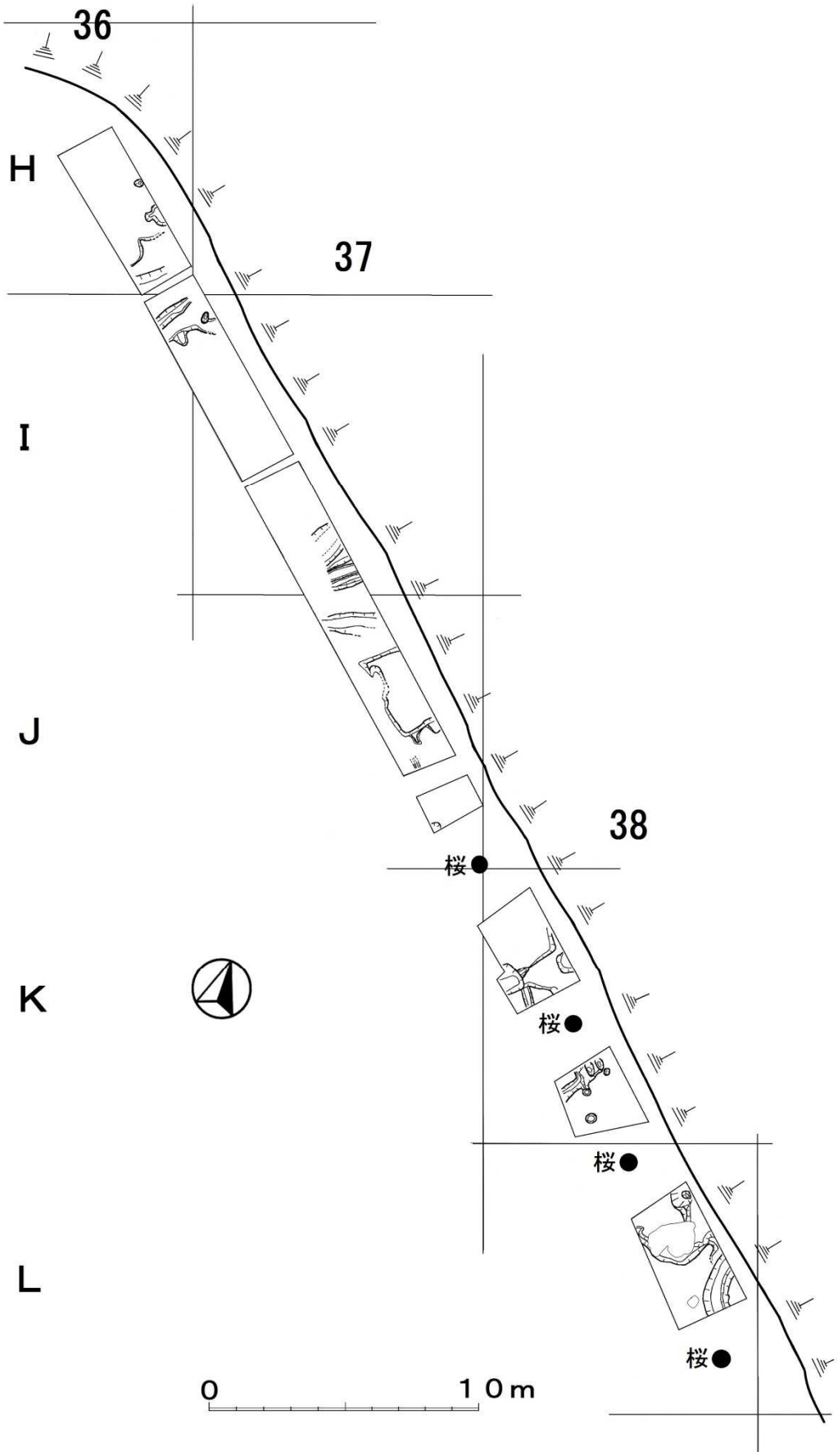


Fig. 71　F区調査平面図

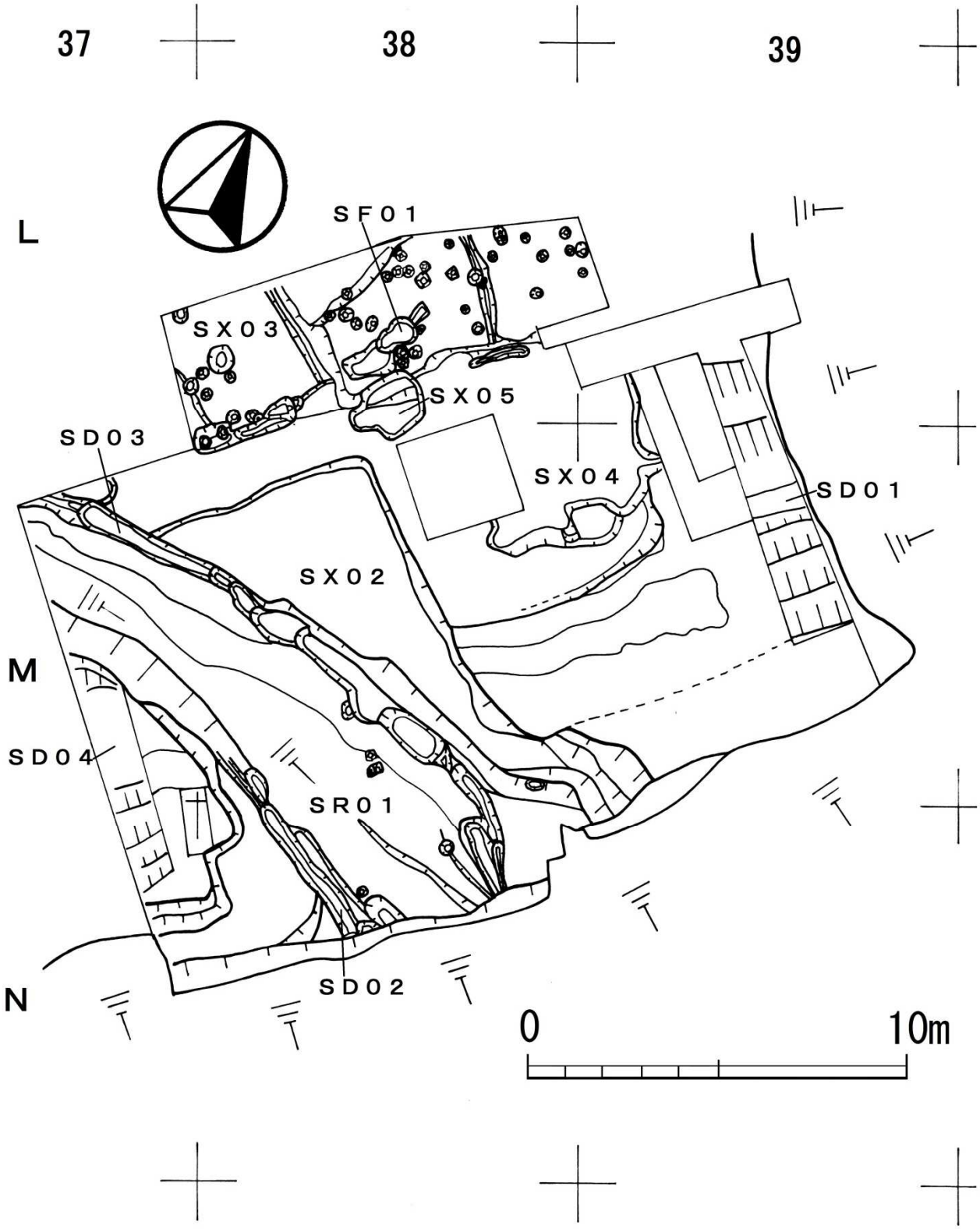


Fig. 72　G区調査平面図

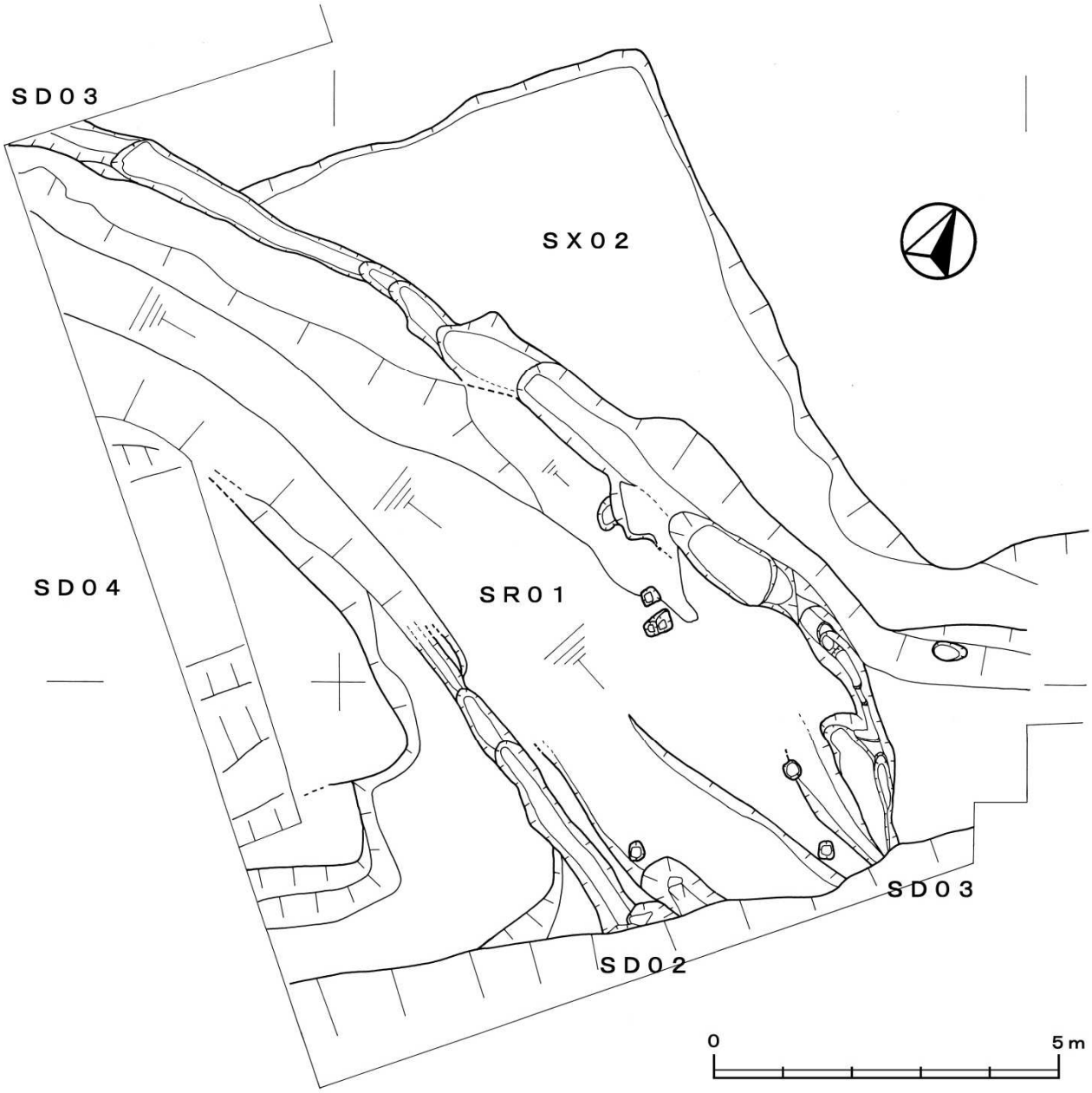


Fig. ７３　ＳＲ０１、ＳＸ０２、ＳＤ０４平面図

ＳＤ０１（Fig. ７４・７５、Ch. ２４）

Ｌ・Ｍの 39 区で検出した溝跡。確認面の幅が約 800 ㎝、底面幅は 100 ㎝、深さは表土から 420 ㎝程度の薬研状の断面を呈する遺構である。時期は不明であるが、16 世紀代の城館期には埋め戻されていたと思われ、他の遺構を確認した遺構面に粘土や灰層により整地した痕跡が確認された。

Ａ区で検出したＳＨ０１の延長の可能性がある。ＳＨ０１とＳＤ０１を結ぶ線上にかかる中土塁はこの部分が崩れ、くびれた状態を呈している理由がこの溝によるものと考えられる。

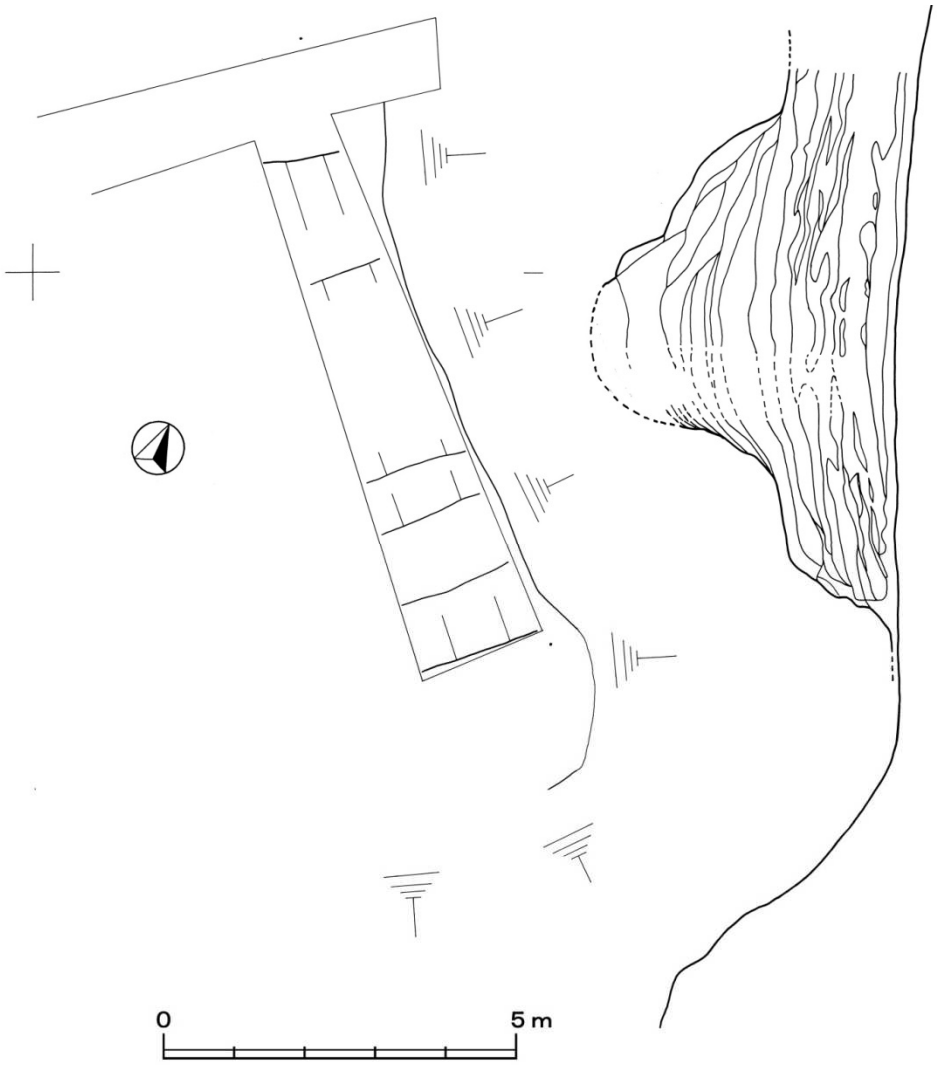


Fig. ７４　ＳＤ０１平面図

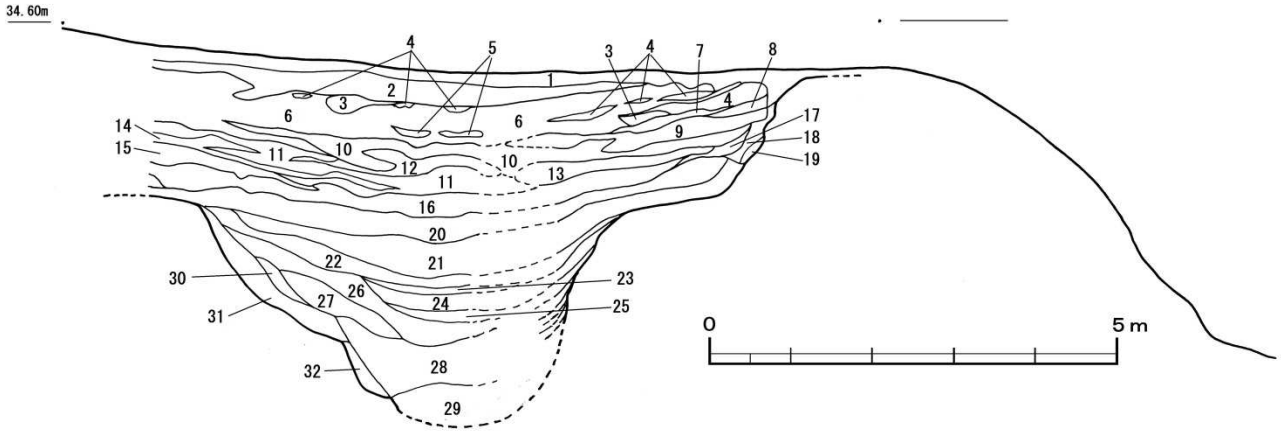


Fig. ７５　ＳＤ０１層序図

ＳＤ０２（Fig.７３）

N38 区で検出したＳＲ０１に沿って南西側にで検出した溝跡で、確認できた延長が 500 ㎝、幅 50 ㎝、深さは確認面から 10 ㎝程度である。虎口通路に付随する塀跡の可能性が高いと考えられる。

ＳＤ０３（Fig.７３・７６）

Mの 37・38 区で検出したＳＲ０１の北東側で検出した溝跡で、確認した延長は 1,500 ㎝、幅 30～80 ㎝、深さは確認面から 10 ㎝程度。ＳＲ０１がスロープ状に傾斜をつけた遺構であるのに対して、ＳＤ０３は段をつけながらＳＲ０１に沿って設置されている。また、溝中に柱穴らしい痕跡を有する部分もあることから、虎口通路に付随する塀跡の可能性が高いと考えられる。

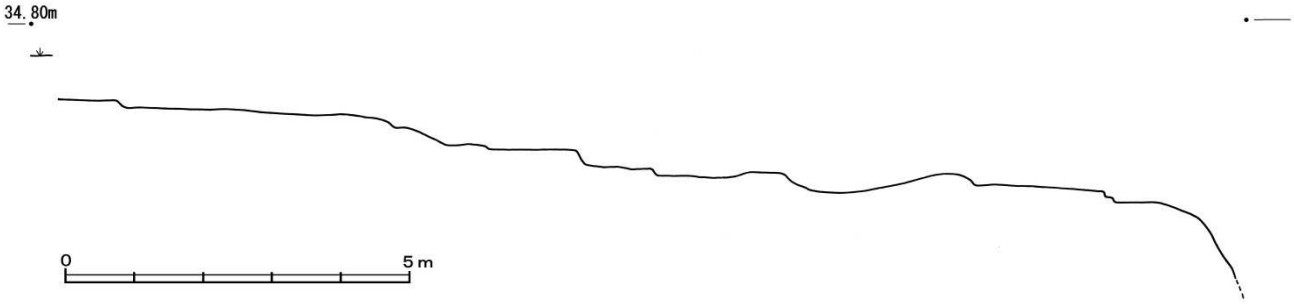


Fig.７６　ＳＤ０３エレベーション図

ＳＤ０４（Fig.７３）

Ｍ・Ｎの 37 区で検出した溝跡。確認面の幅が 600 ㎝。ＳＲ０１が新しくＳＤ０２を埋め戻した上にＳＲ０１が造成されているため調査は 100 ㎝掘り下げた状態で中止とした。ＳＤ０１の延長と思われる。

ＳＦ０１（Fig.７２・７７）

Ｌ38 区で検出した遺構で、東西 300 ㎝、南北 60 ㎝、深さ 35 ㎝程度の遺構で、瓢型の焼土遺構の東側には煙道状の部分が付加され、西側に浅い掘り込みがみられる。カマドもしくは生産等に関連する炉跡の可能性が考えられる。遺物が出土しておらず詳細は不明である。

ＳＸ０２（Fig.７３）

M38 区で検出した遺構で、ＳＲ０１の東側に広がる三角形状の平面を呈し、東西 600 ㎝、南北 900 ㎝を測る。遺構に伴う柱穴や溝跡等は検出されないことから、遺構の用途や性格は不明である。

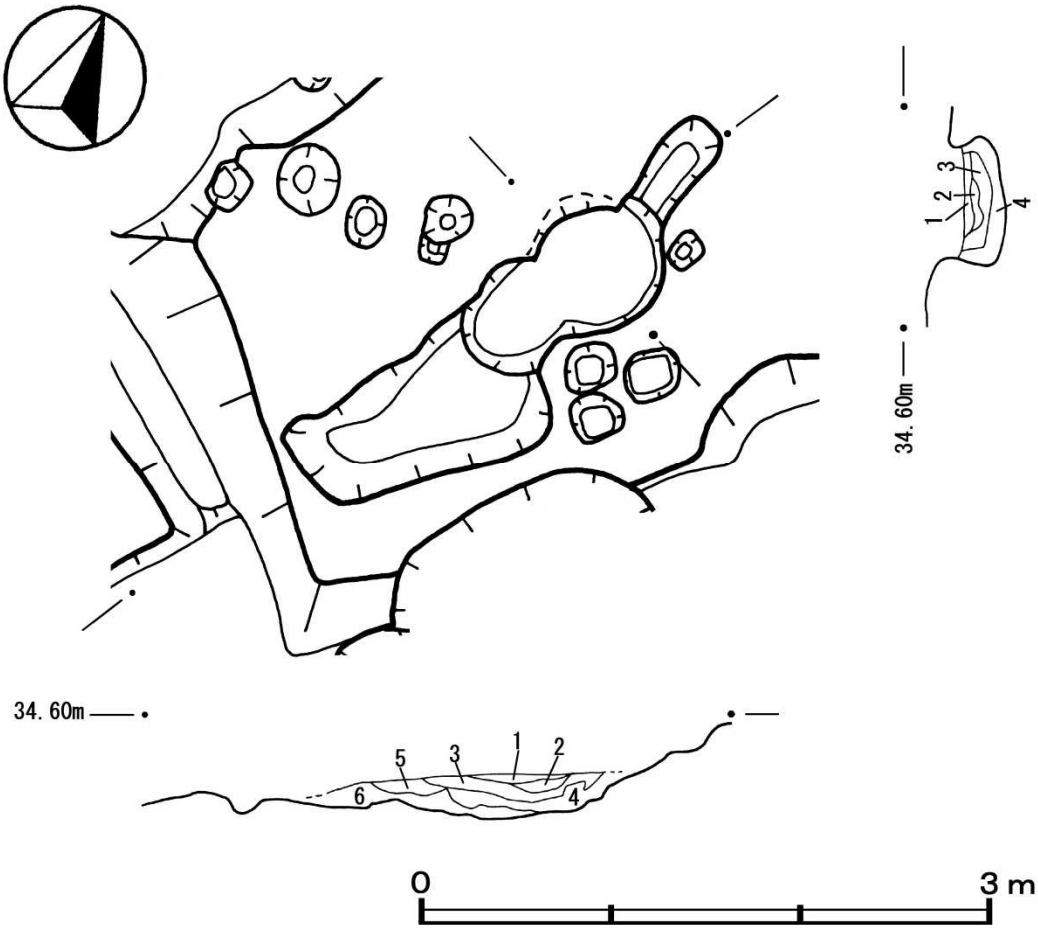


Fig.７７　ＳＦ０１平面図

ＳＸ０３（Fig.７２）

Ｌの 37・38 区で検出した。調査区の北端で検出したため遺構の北側及び西側は確認できなかった。遺構内の柱穴や周囲の溝等についても遺構に伴うものか不明であるなど、遺構平面が把握できなかった。遺構の用途や性格は不明である。

ＳＸ０４（Fig.７２）

Ｌ・Ｍの 38・39 区で検出した。西側が桜樹の保護のため未調査であることから遺構形状の確認ができなかった。一部ＳＸ０５と重複していると思われるが新旧関係は不明である。遺構の用途や性格は不明である。

ＳＸ０５（Fig.７２）

Ｌ・Ｍの 38 区で検出した。東西 200 ㎝、南北 150 ㎝、深さ 80 ㎝程度の不定形土坑状遺構である。遺構底面には直径 10 ㎝程度の石が散見された。遺構に伴うものと考えられるが、意味するものは不明である。遺構の用途や性格は不明である。

Ｈ区（Fig.７８、PL.１８）

Ｇ区で西館の入口施設である虎口を検出したことから、虎口直下の堀跡を調査して中土塁から西館へ渡る橋跡を検出することを第一の目的とした。また、西館虎口に対峙する内館平場は、過去の調査では虎口を確認できなかったが、念のために中土塁から内館への橋跡の確認を行うとともに、内館と西館間の中土塁の規模を確認するため調査区を設定した。結果、西館側のＳＨ１３で橋脚を検出し、橋の復元資料として活用することとなったが、内館側のＳＨ１４では橋跡等の施設は全く確認できなかったことから、北館から西館への通路と同様に西館から内館についても、中土塁を通路として用い、中土塁と曲輪に架かる橋が近接せずに架けられていた可能性が考慮されることとなった。

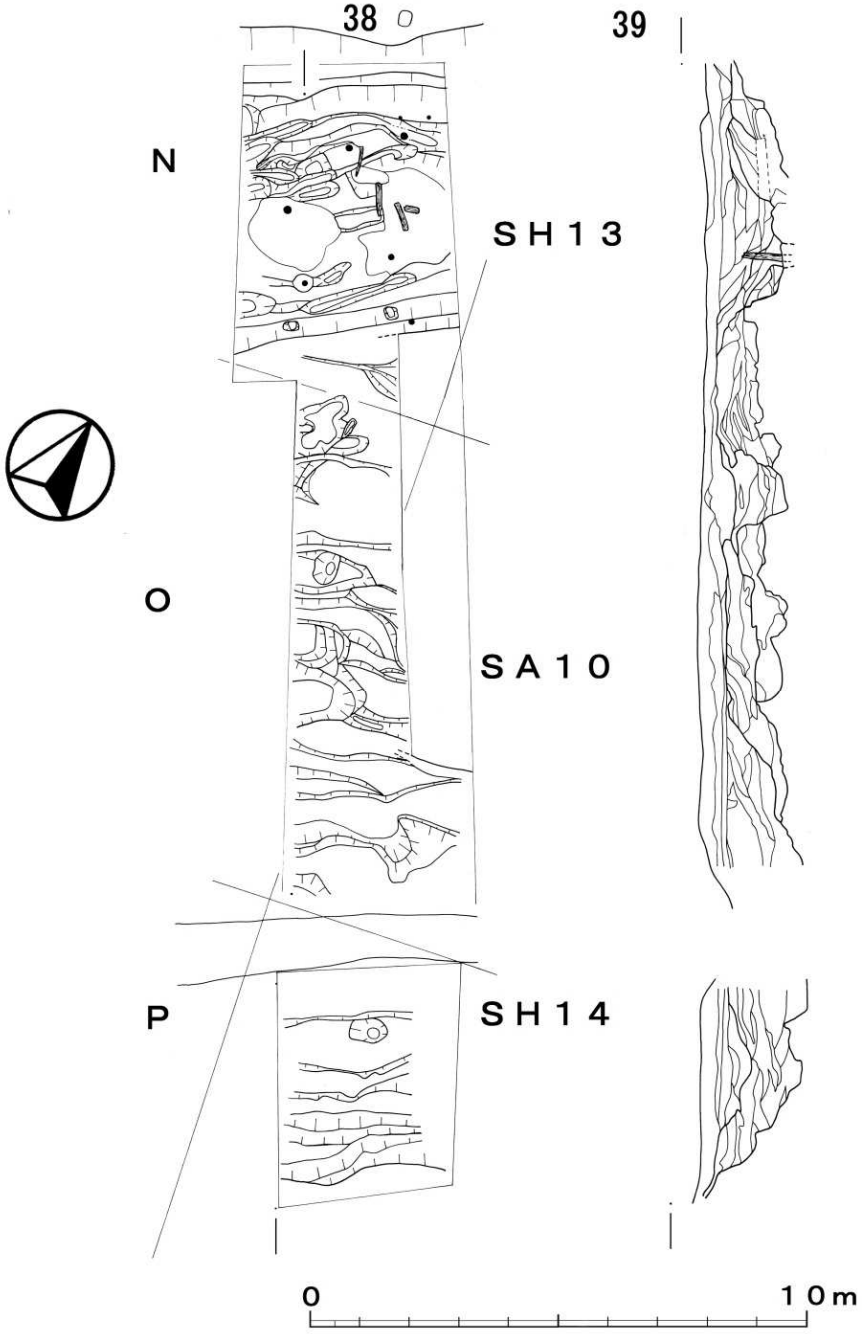


Fig. ７８　Ｈ区調査平面図

ＳＡ１０（Fig. ７９、Ch. ２６）

Ｏの 38・39 区で検出した中土塁跡。ＳＡ０８に続くと思われる堀跡である。ＳＡ０８と同様に、西館と内館間の中土塁跡で、城館期に盛土により造成し直している。複数回の改修を行っているが、城館期末の段階では確認面で上部幅 820 ㎝、下部幅 1,060 ㎝、盛土の高さ 100 ㎝程度を測る。高さについては、落城以後昭和 40 年代までの耕作（水田・畑）により削平されている。層は全体的に固く締まっており、版築状の突き固められた盛土が互層状にみられている。また、城館期に一時的に中土塁中央部に溝が掘られており、三重堀を呈していたと思われるが、城館期末には埋め戻されている。溝の機能は不明である。

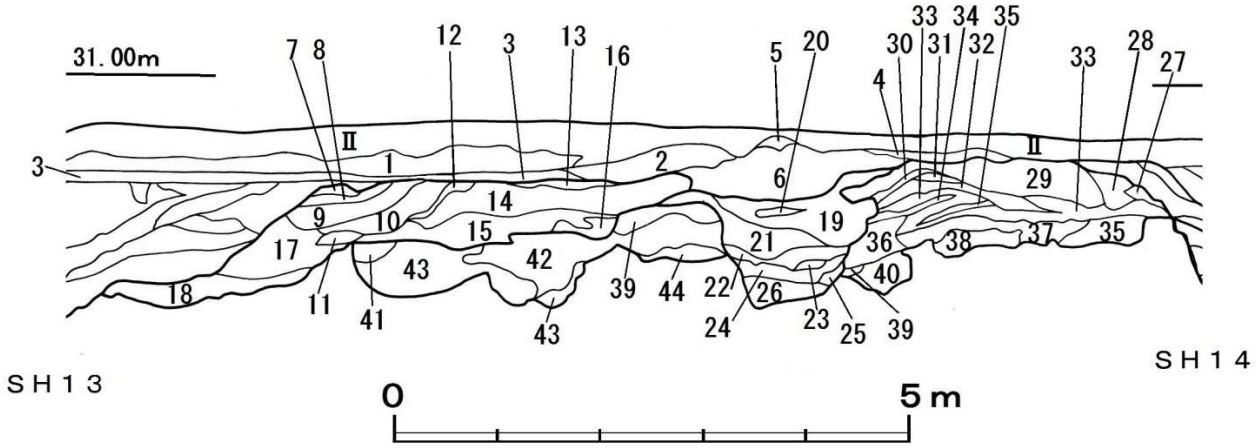


Fig. ７９　ＳＡ１０層序図

ＳＨ１３（Fig. ８０、Ch. ２７）

N38 区で検出した遺構で、ＳＨ０４と同一と思われる堀跡である。西館の虎口（出入り口スロープ）であるＳＲ０１直下の堀跡であるため、堀跡を渡る施設を検出する目的で調査した。

結果、橋脚と思われる直径 15 ㎝程度の丸杭を 6 本を検出したほか、橋の部材と思われる丸杭や板材などが多数出土した。ＳＲ０１南端部の斜面上部には橋に関連すると思われる柱穴（親柱の可能性もあるかもしれない）を 200 ㎝の幅で検出している。また、ＳＡ１０の西館側となるＳＨ１３への落ち際からも 200 ㎝幅で 2 基の柱穴を確認した。これらを結ぶ線上に一部の丸杭が位置しているが、軸線や位置が明らかに異なる杭も見られることから、数回の橋の建て替えが想定できる。杭は地山に打ち込んであり、抜くことが困難であったため遺跡保護の観点から検出時のまま埋め戻し、整備にあたっては軸線をずらして杭（橋脚）の保護を図った。

ＳＨ１４（Fig. ８１、Ch. ２８）

Ｏ・Ｐの 39 区で検出した遺構で、ＳＨ０９と同一の堀跡と思われる。内館と西館間の堀跡で、内館直下に位置している。確認面で上部幅 860 ㎝、下部幅は推定 400 ㎝、深さ 170 ㎝程度を測

る。なお、本遺構は湧水が著しいことと排水用の水路を仮設した部分であったため、堀底まで調査していない。城館期において何度かの掘り直しを行っており、中土塁（ＳＡ１０）を削り堀を拡張していると思われる時期もある。

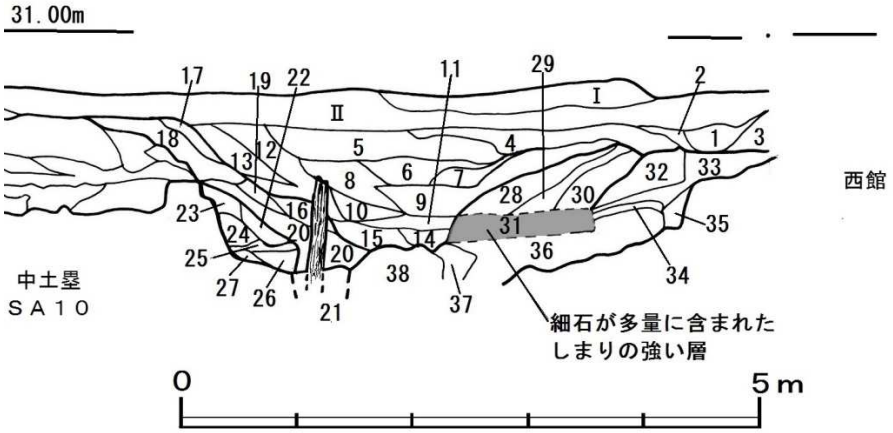


Fig.８０　ＳＨ１３層序図

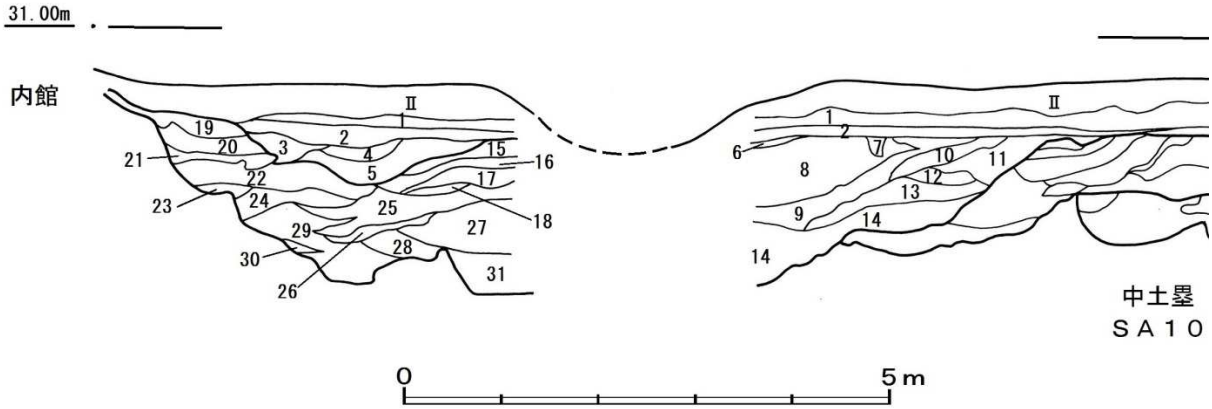


Fig.８１　ＳＨ１４層序図

Ｉ区（Fig.８２、PL.１８）

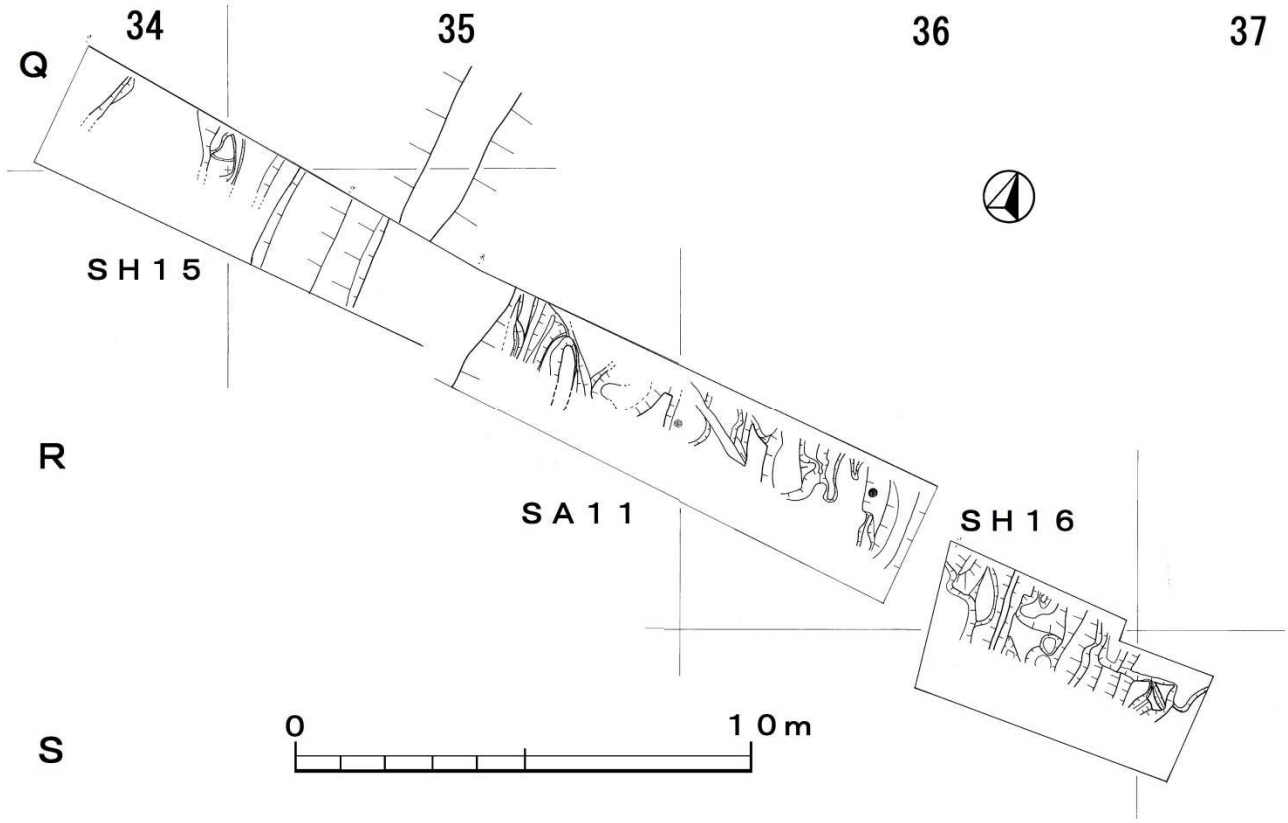


Fig.８２　Ｉ区調査平面図

ＳＡ１１（Fig.８３、Ch.２９）

Ｒの35・36区で検出した中土塁跡。ＳＡ１０と同一遺構と思われる。ＳＡ１０と同様に、西館と内館間の中土塁跡で、城館期に盛土により造成し直しているものである。複数回の改修を行っているが、城館期末の段階では確認面で上部幅940㎝、下部幅1,320㎝、盛土の高さ140㎝程度を測る。高さについては、落城以後昭和40年代までの耕作（水田・畑）により削平されているため不明。層は全体的に固く締まっており、版築状の突き固めによる盛土が互層を呈している。また、ＳＡ１０同様に城館期に一時的に中土塁中央部に溝が掘られ、三重堀的様相を呈していたと思われるが、城館期末には埋め戻されている。溝の機能は不明である。

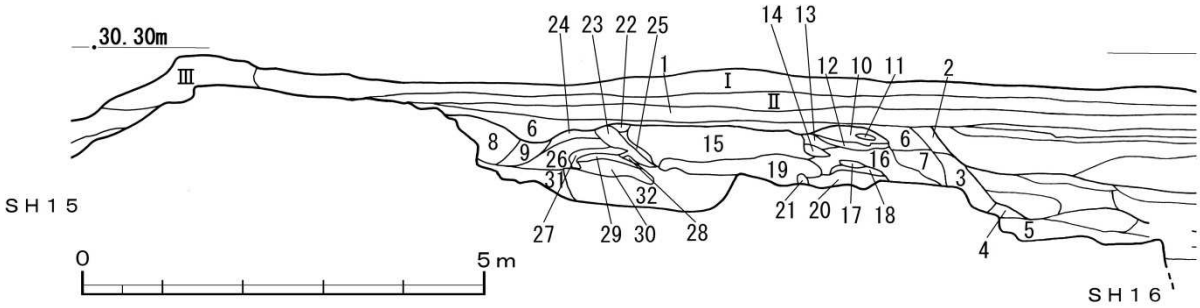


Fig.８３　ＳＡ１１層序図

ＳＨ１５（Fig.８４、Ch.３０）

Ｑ・Ｒの 34・35 区で検出した遺構で、ＳＨ１３の延長と思われる堀跡。西館直下に位置し、数回の掘り直しが認められる。確認面で上部幅 650 ㎝、下部幅 160 ㎝、深さ 170 ㎝を測る。城館期末にはＳＡ１１を切り崩して堀幅を広げていると思われる。

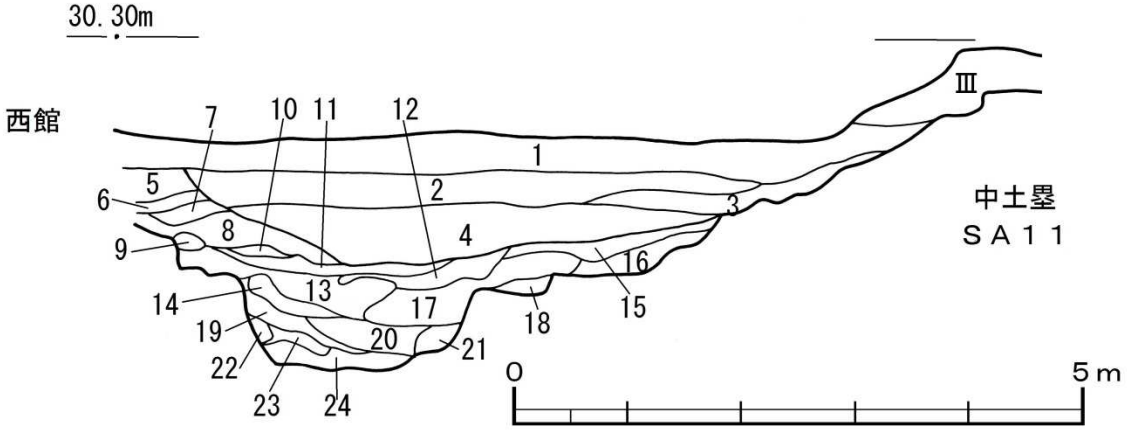


Fig.８４　ＳＨ１５層序図

ＳＨ１６（Fig.８５、Ch.３１）

Ｒ・Ｓの 36・37 区で検出した遺構で、ＳＨ１４の延長と思われる堀跡。内館直下を巡るものである。確認面で上部幅 1,180 ㎝、下部幅は推定 860 ㎝、深さ 160 ㎝程度を測る。なお、本遺構は湧水が著しいことと排水用の水路を仮設した部分であったため、堀底まで調査していない。城館期において何度かの掘り直しを行っており、城館期末は内館直下の幅 500 ㎝程度の堀跡に縮小されると思われる。ＳＨ１６の東（内館）側に平面状の段（テラス）が見られるが、層序と出土遺物（ガラスの農薬瓶）等から、現代までの農耕（水田耕作）により内館斜面を削平したものであることが判明した。

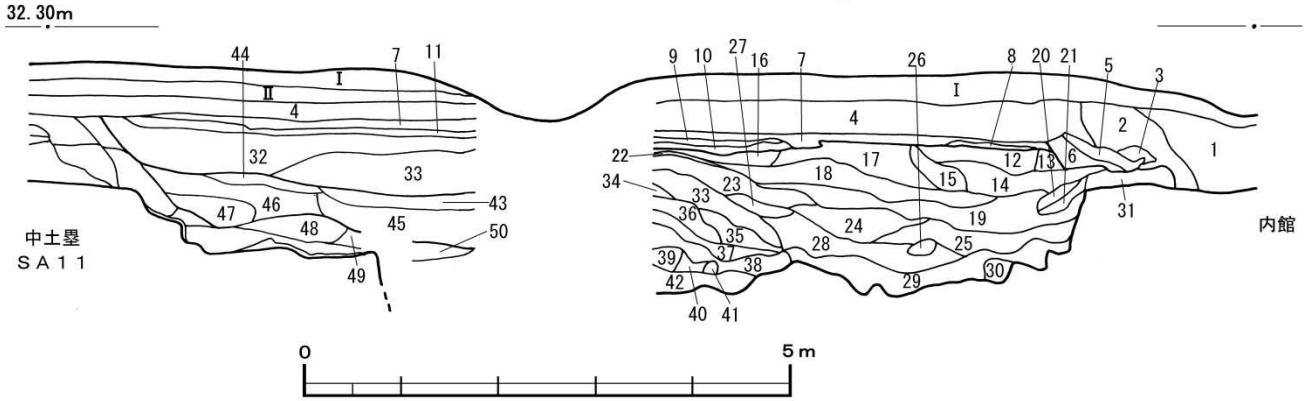


Fig.８５　ＳＨ１６層序図

３　出土遺物

出土遺物は、調査年代や調査区別ではなく、全体をまとめて報告する。出土遺物の点数は数千を超えるため、代表的な遺物のみを掲載するものである。

陶磁器等

陶磁器は、大別すると舶載陶磁と国産陶磁となる。以下、特徴を述べる。

舶載陶磁のうち、青磁（Fig.８６、PL.１９）は酸化気味で見込みに印花文のある碗（１）、「金玉」の文字が認められる碗（２）、いわゆる人形手の腕（３）、稜花皿（４）、見込みに印花文を施した皿（５）、盤の口縁（６、７）、小型の菊皿（８）、内外面に便化連弁文を施した小杯（９）などがある。染付（Fig.８７、PL.１９）は、玉取獅子文の皿（１０、１１）、花卉文等の皿（１２、１３）などが出土している。白磁は皿のみで、外反する口縁を持つ皿（１４）、胎土が軟質で高台に削り込みを施した小型の皿（１５）、見込みの釉を拭い蛇の目状にした小杯（１６）などである。他に、肩部に横位の耳を持つ鉄釉の小型の壺（１７）が出土している。

国産陶磁は、美濃瀬戸灰釉の皿が多数を占める（Fig.８８、PL.１９）。脚の付く盤（１８）、碁笥状の底を有し、見込みの釉を拭って蛇の目状にした皿（１９）、卸皿（２０）、口縁が外反し見込みに 16 弁程度の印花を施し、漆による継ぎを行っている皿（２２）、口縁部が内湾気味に立ち上がる皿は小型のものが多い（２１、２２、２３）。うち、（２１）は、灰釉が内面と外面のうち口縁部のみに施され、底部が糸切り底となっているものである。（２５）は口縁が折縁状を呈するもの、（２６）は外面の胴部以下に灰釉のかからない小杯である。

美濃瀬戸褐釉（Fig.８９、PL.２０）はいわゆる天目茶碗（２７、２８、２９、３０）や、皿（３１、３３）、口縁が折縁状を呈する皿（３２）、壺や水滴の耳（取っ手）と思われるもの（３４）、ほぼ完形で北館帯曲輪部分から出土した水滴（３５、３６）などが出土している。また、数は少ないが（Fig.９０、PL.２０・２１）、志野皿（３７）、唐津皿（３８、３９）珠洲擂鉢（４０、４１）、越前擂鉢（４２）も出土している。

瓦質土器（Fig.９１、PL.２１）は全形が不明であるため器形については可能性に留め置く。風呂と思われるもの（４３）、香炉と思われるもの（４４）、手焙りと思われるもの（４５）、器形不明であるもの（４６）、焙烙の取手状のもの（４７）などが出土している。

土製品等（Fig.９２、PL.２１）

鐔鋳型（４８）、坩堝（４９、５０、５１、５２、５３、５４）、羽口（５５、５６）が出土している。

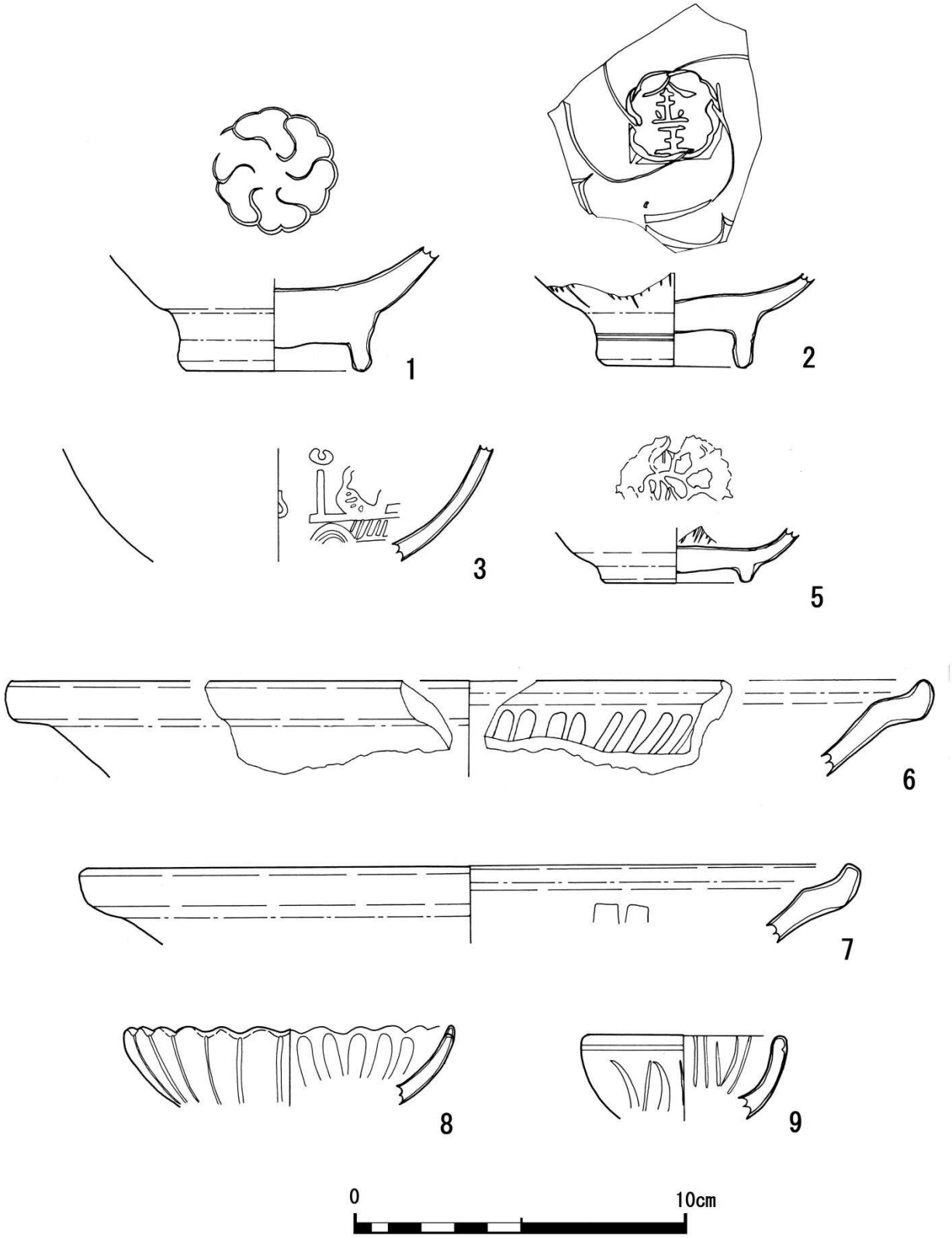


Fig. 86　出土陶磁器（青磁）実測図

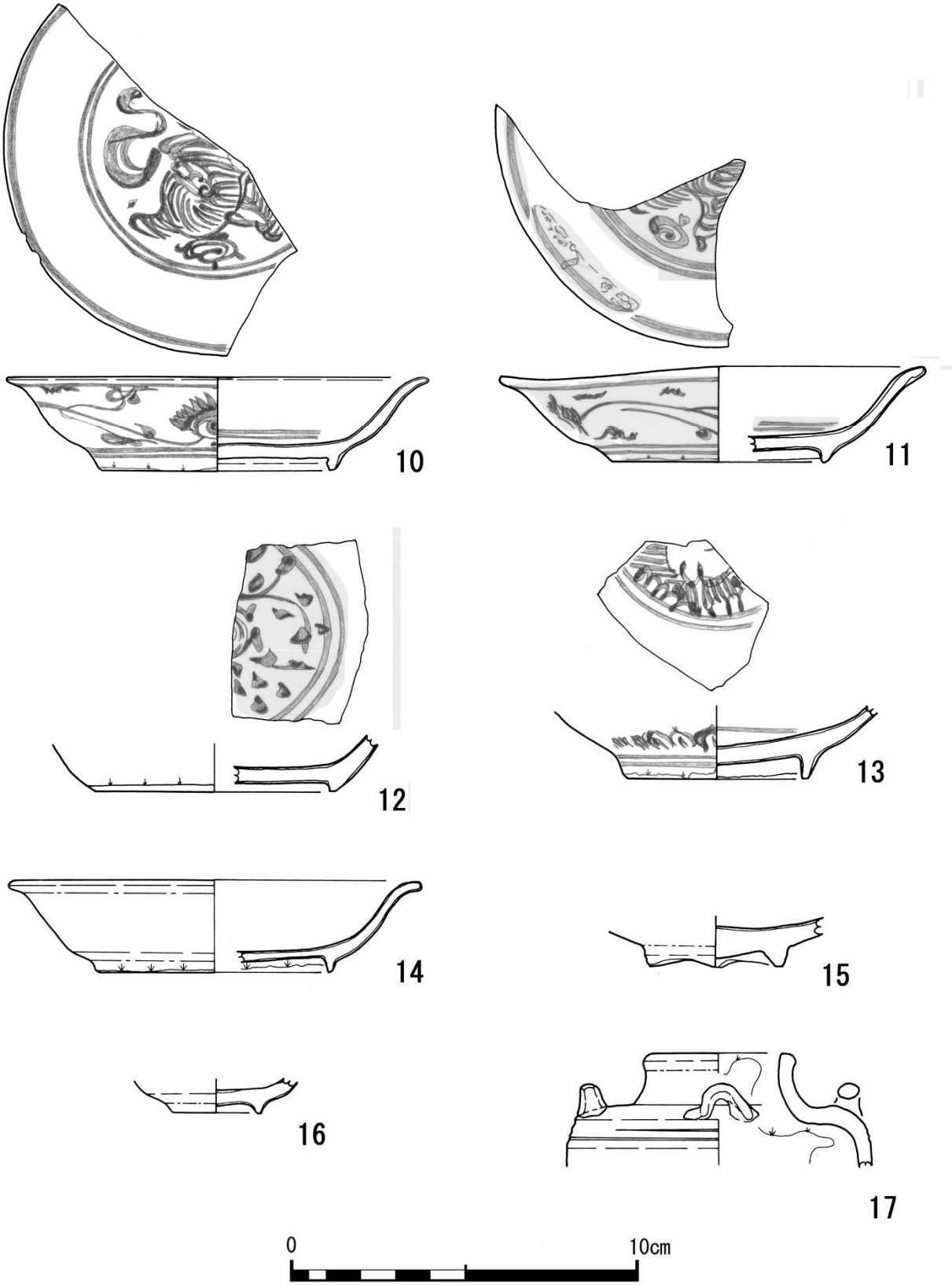


Fig. ８７　出土陶磁器（染付、白磁、中国褐釉）実測図

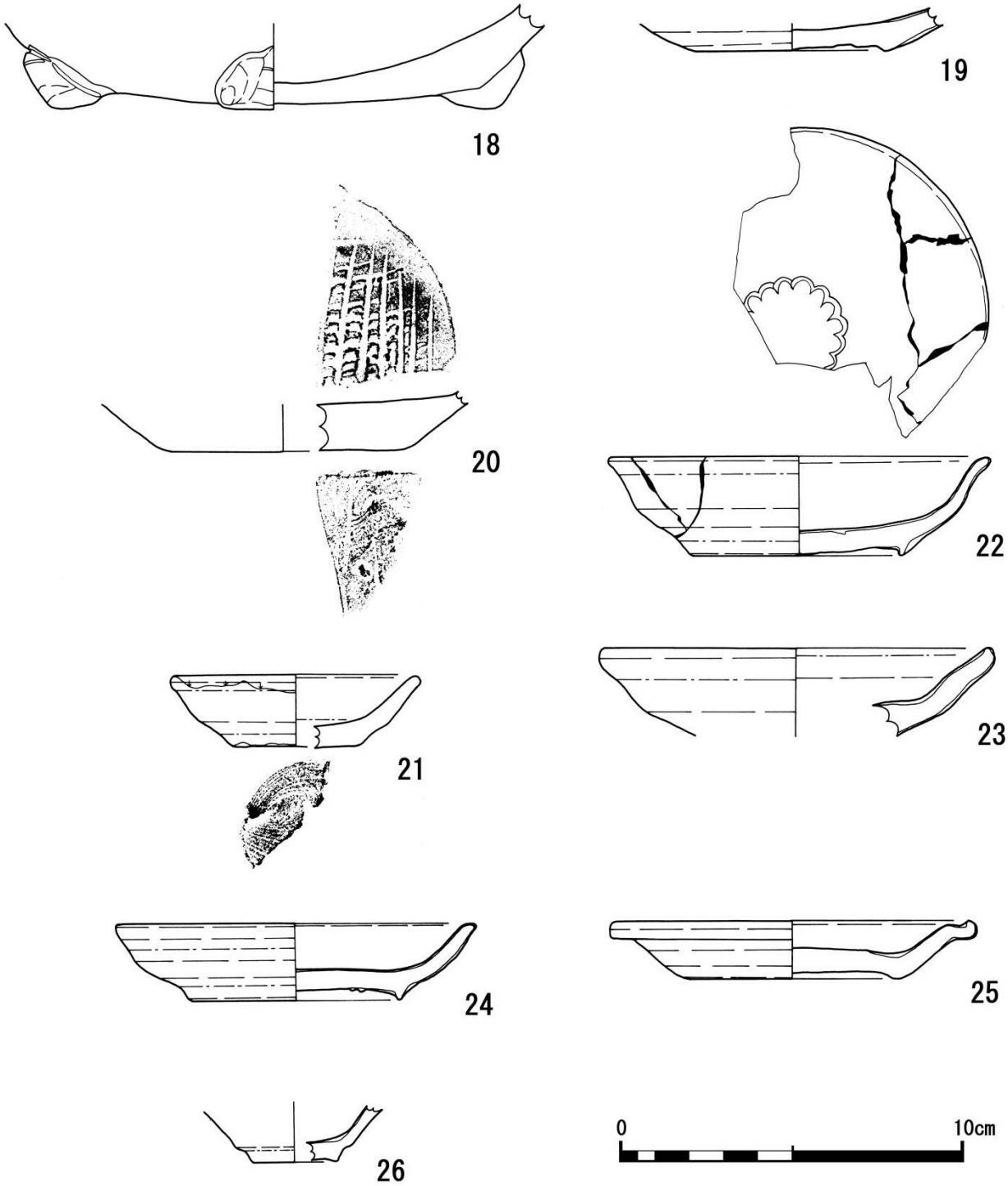


Fig. ８８　出土陶磁器（美濃瀬戸灰釉）実測図

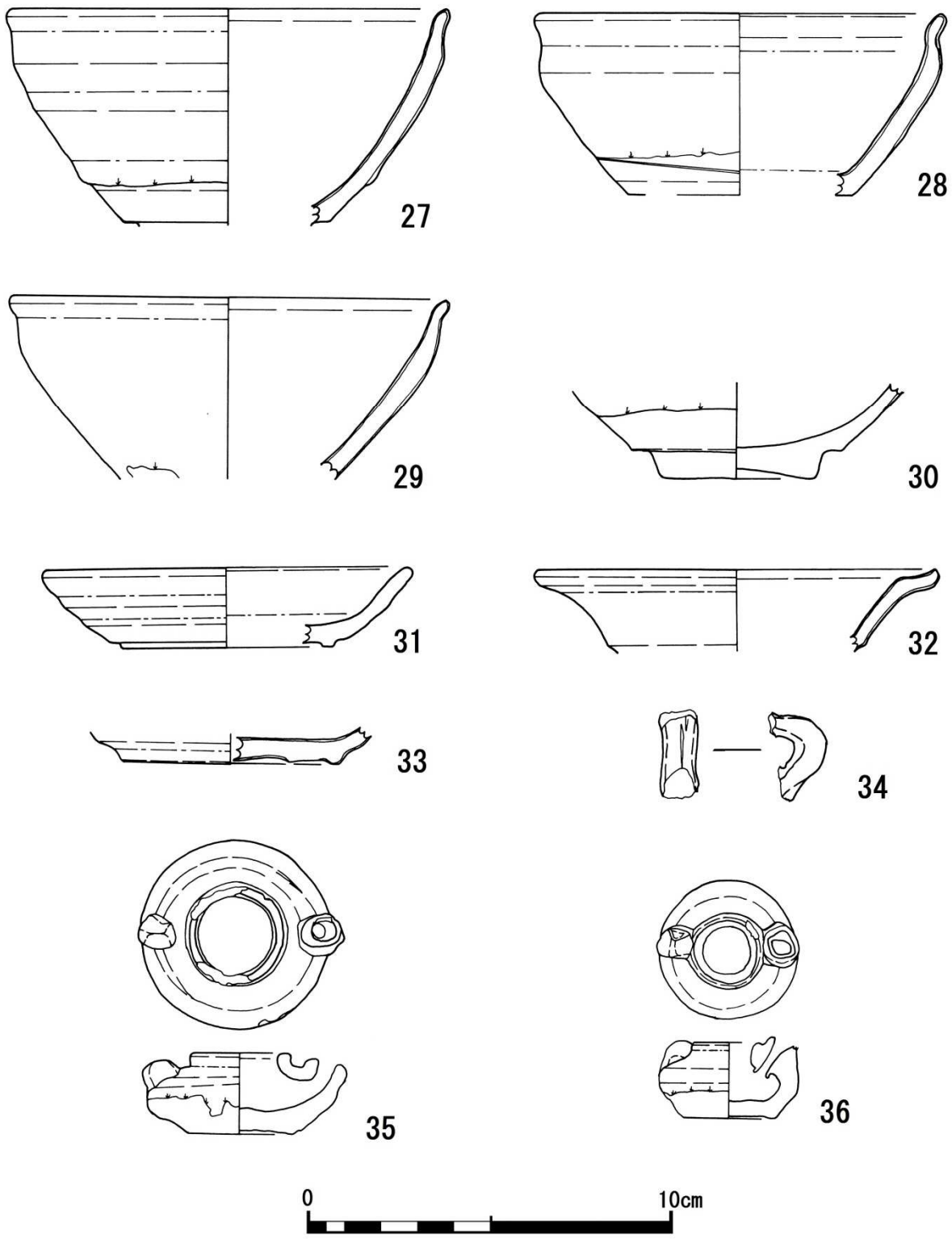


Fig. ８９　出土陶磁器（美濃瀬戸褐釉）実測図

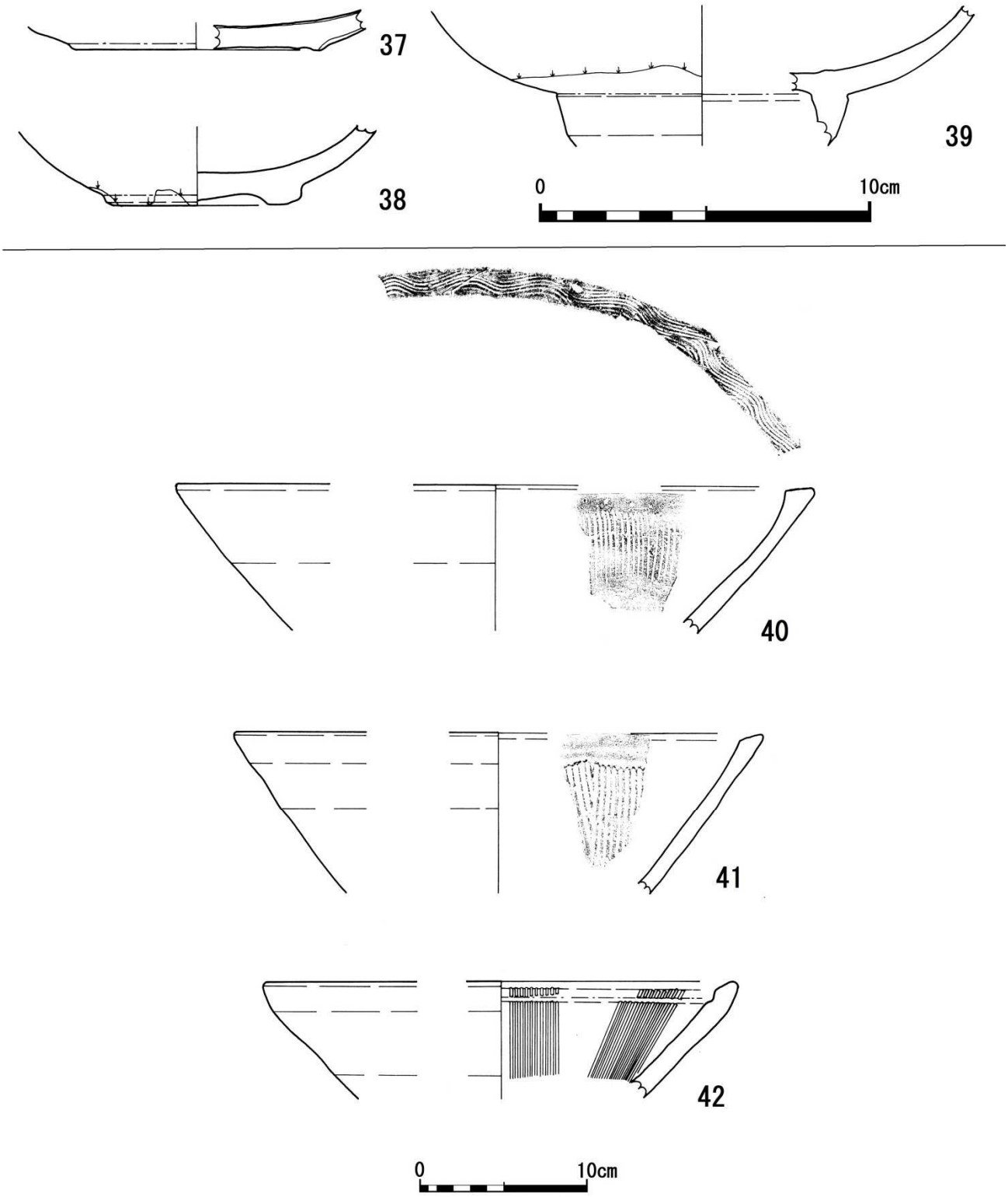


Fig. ９０　出土陶磁器（唐津、珠洲・越前系擂鉢）実測図

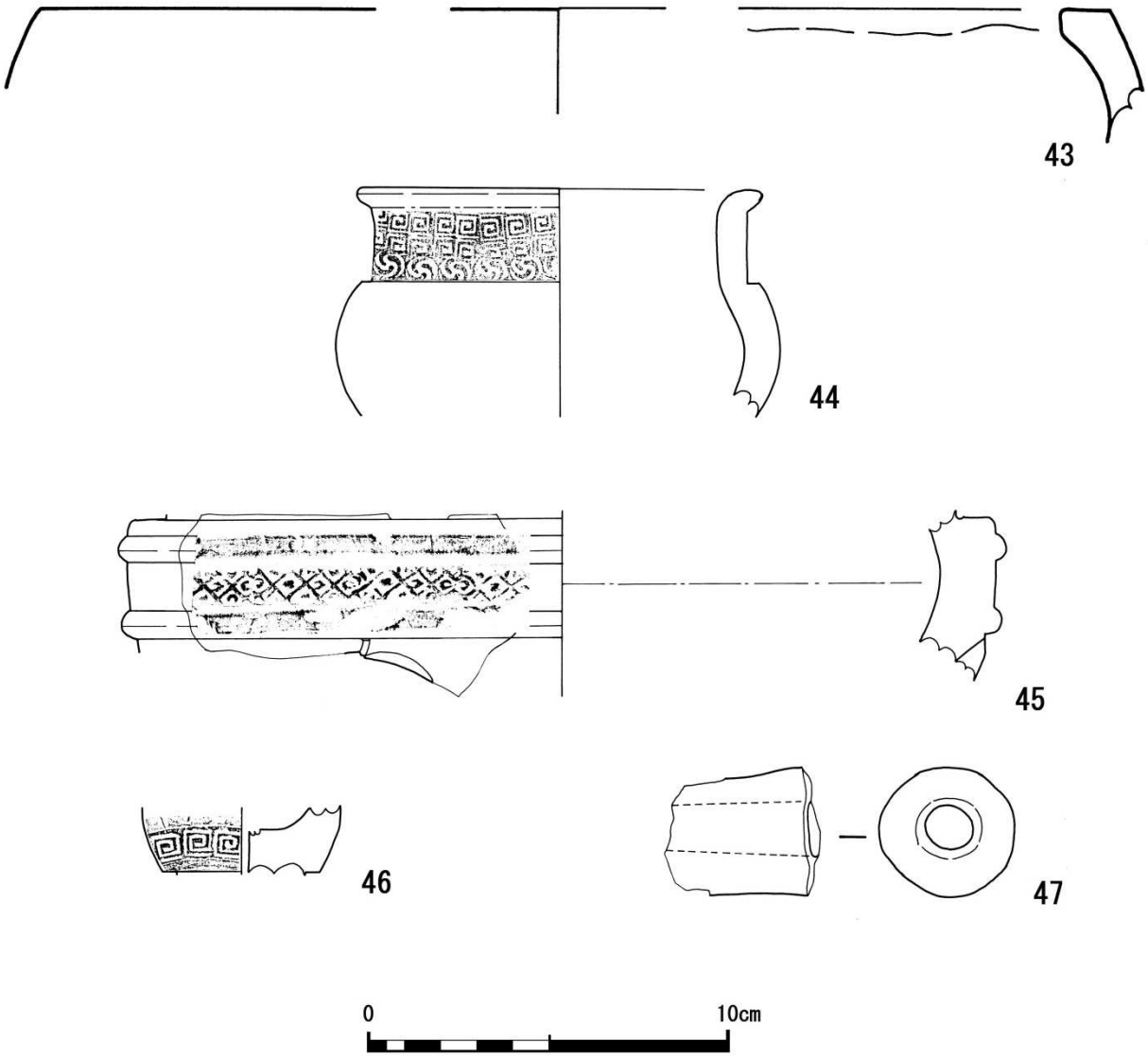


Fig. ９１　出土瓦質土器実測図

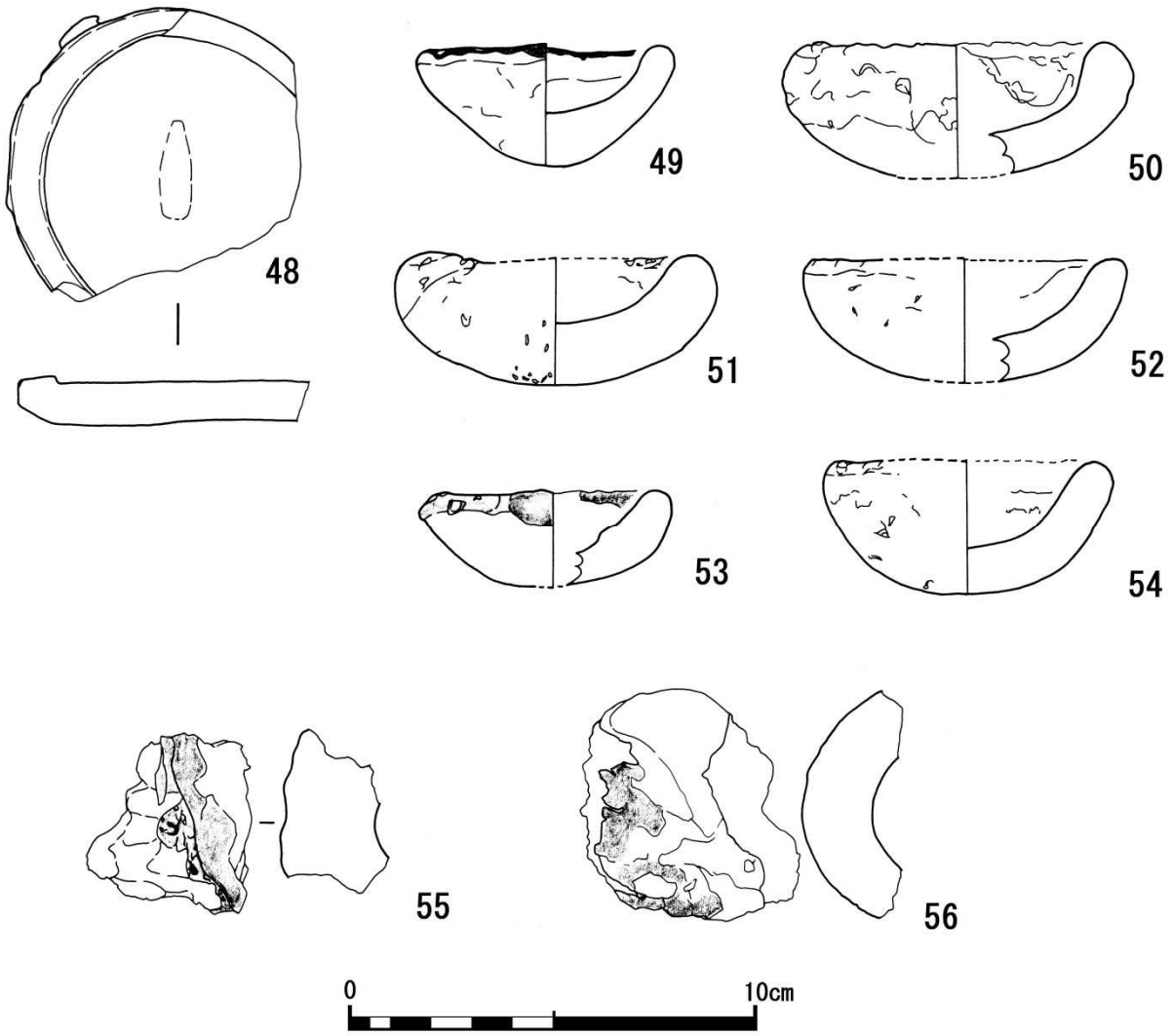


Fig. ９２　出土土製品（鋳型、坩堝、羽口）実測図

鉄・銅製品（Fig.９３・９４・９５・９６・９７、PL.２２・２３）

鉄製品は腐食が著しいため全形が判断できないものが多い。小札は伊予札（５７、５８）、碁笥頭札（６０）、三目札（６１）が出土している。孔の位置等については不明である。刀子は（６２、６３、６４）が出土している。うち（６４）は他の刀子よりもやや大きい。鉄鏃は、平根と思われるもの（６５、６７）、鏨状の形状を呈するもの（６６、６８）、棒状を呈するもの（６９、７０）、いわゆる打根と呼ばれるもの（７１）が出土している。

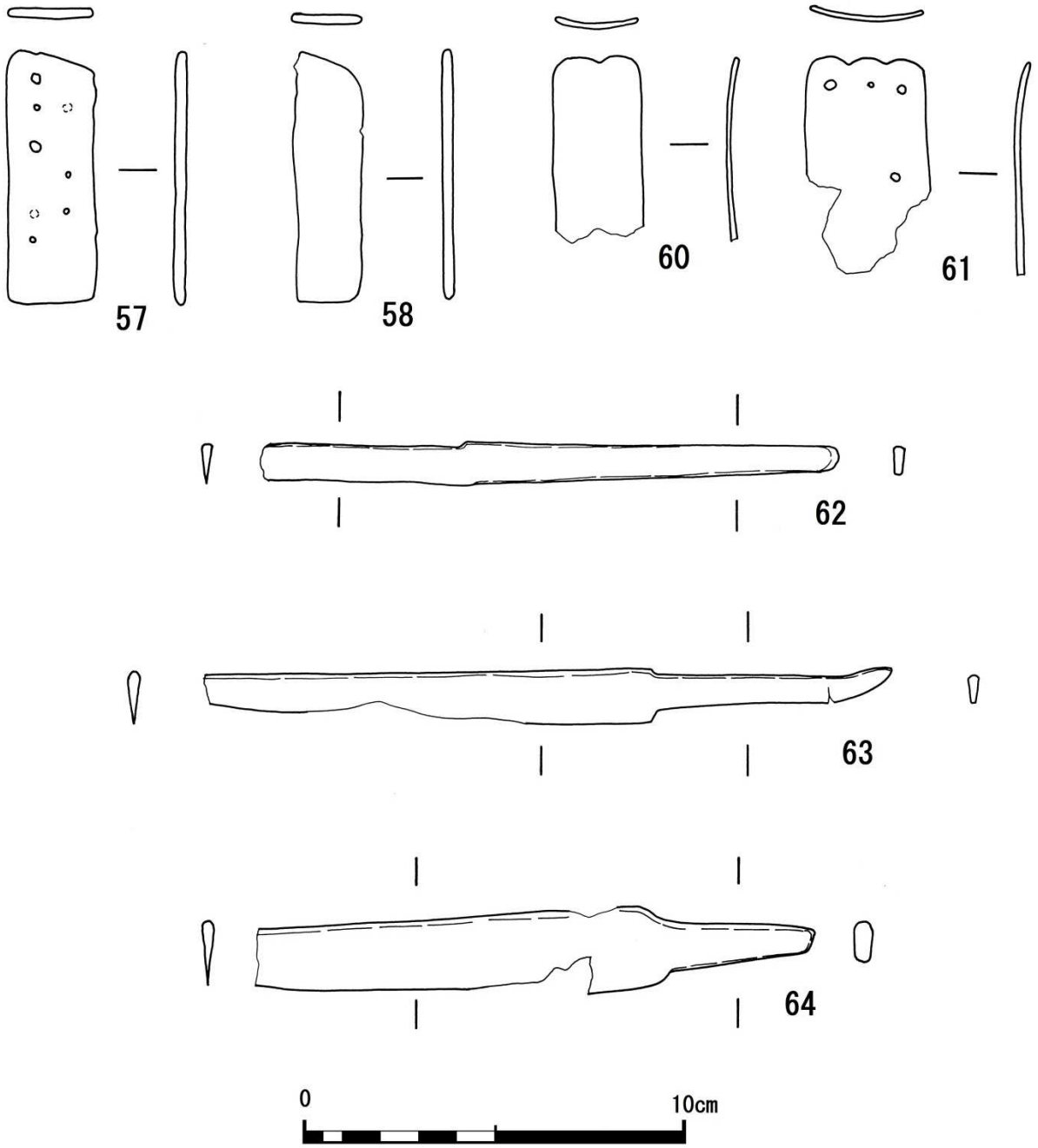


Fig.９３　出土鉄製品（小札、刀子）実測図

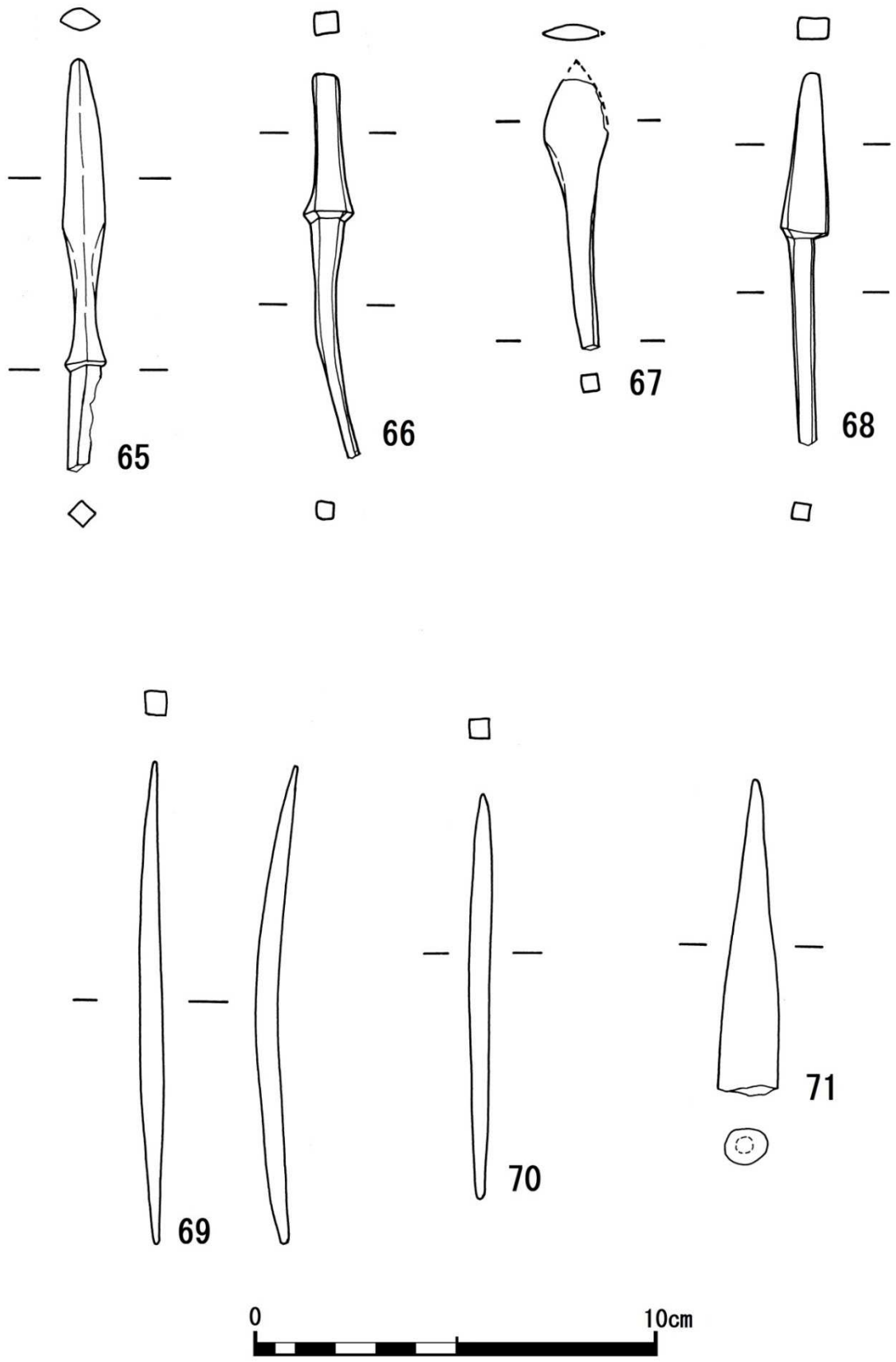


Fig. ９４　出土鉄製品（鉄鏃等）実測図

苧引鋸（７２、７３）や火打金（７４、７５）、楔（７７、７８、７９、８０、８１）も複数点出土している。火打金のうち、左右均等ではなく片方の刃を落としたような三角形を呈し、端部を湾曲させた形状のもの（７５）が城館期末（15 世紀後半）の層から出土する傾向がみられる。

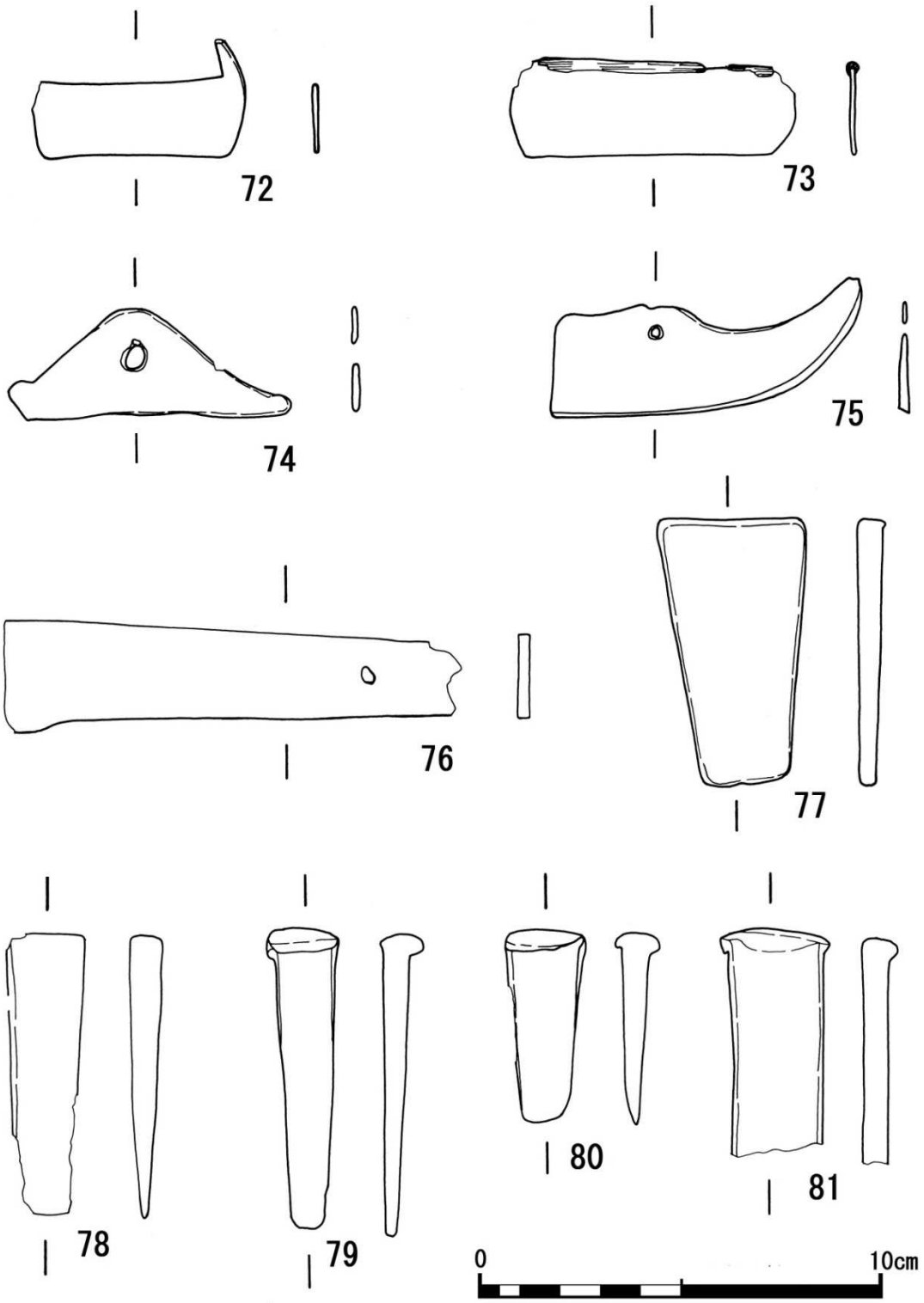


Fig. ９５　出土鉄製品（苧引金、火打金、楔等）実測図

楔は比較的小型のものが多い。刃物の茎状の製品（７６）、環状鉄製品（８２、８３）、鉄製金具（８４）、蓋状鉄製品（８５）については用途不明である。鎌（８６）は柄と刃部が鈍角なものである。1986 年の内館調査からは、扉等の取手と思われるもの（８７）、木の葉形の鋸（８８）、鑿（８９、９０）、斧（９１）、斧とともに出土した鋤先（９２）、馬具と思われる金具（９３）等が出土している。また、釘（９４、９５、９６、９７、９８、９９、１００）は長さ、太さともに多様である。折れて出土するものが多い。

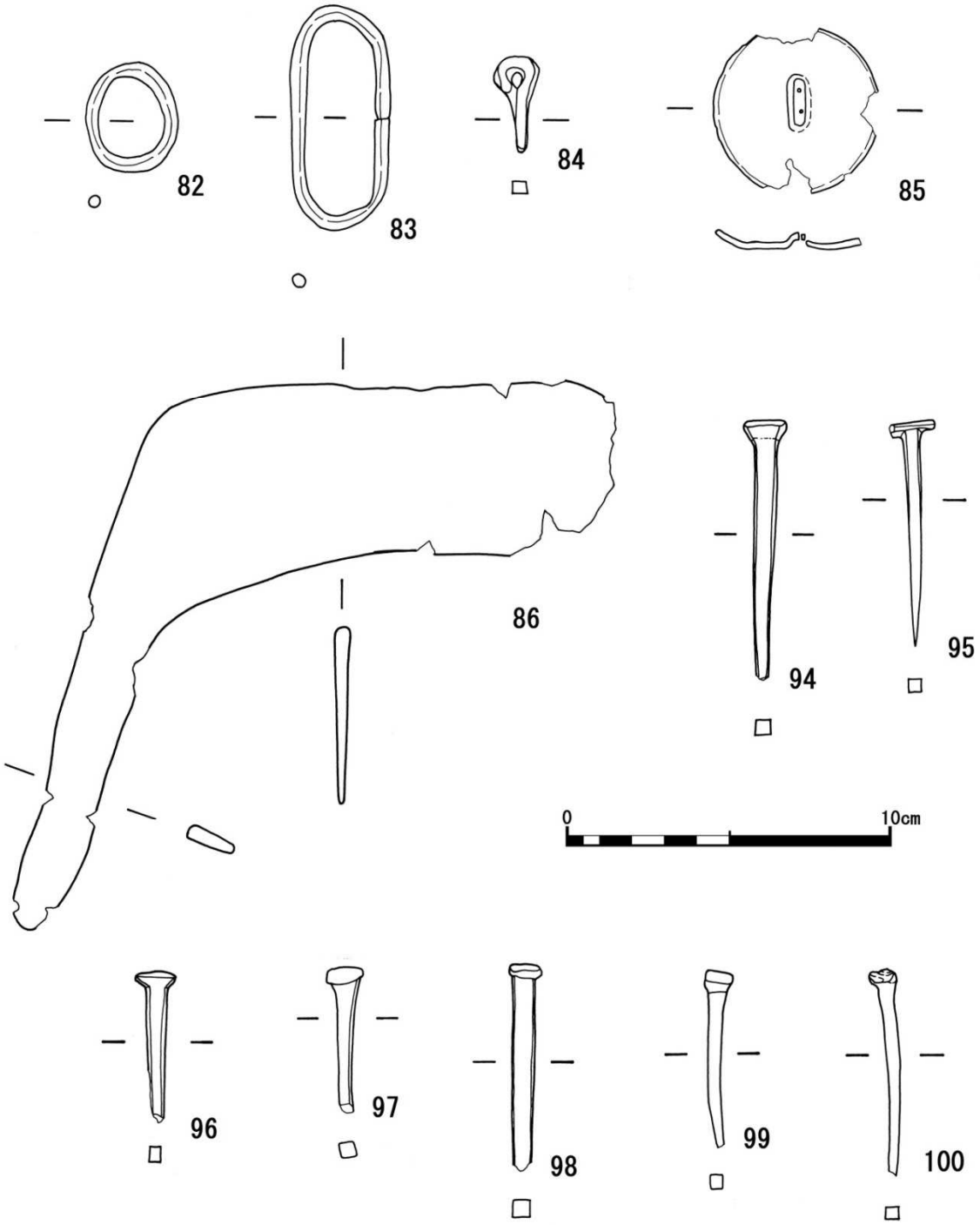


Fig. ９６　出土鉄製品（鎌、釘、その他）実測図

銅製品は武具の類として、切羽（１０１、１０２）、鏃（１０３）、目貫金具（１０４）、銅製装飾品（１０５）、刀装具（鐺）（１０６、１０７）、刀装具（足金物）（１０８）、小柄（１０９、１１０）などが出土している。目貫金具（１０４）は鏡の転用か又は鏡の背面を思わせる隆帯による回線に松と竹と思われる文様が施されている。小柄のうち（１１０）は細線刻により鶴状の文様が施されている。製作途中であろうか。宗教関連の遺物として、五鈷杵（PL.１２　１１１）、懸仏と思われる破片（１１２）、六器の台（１１３）、用途不明の環状銅製品（１１４）などが出土している。

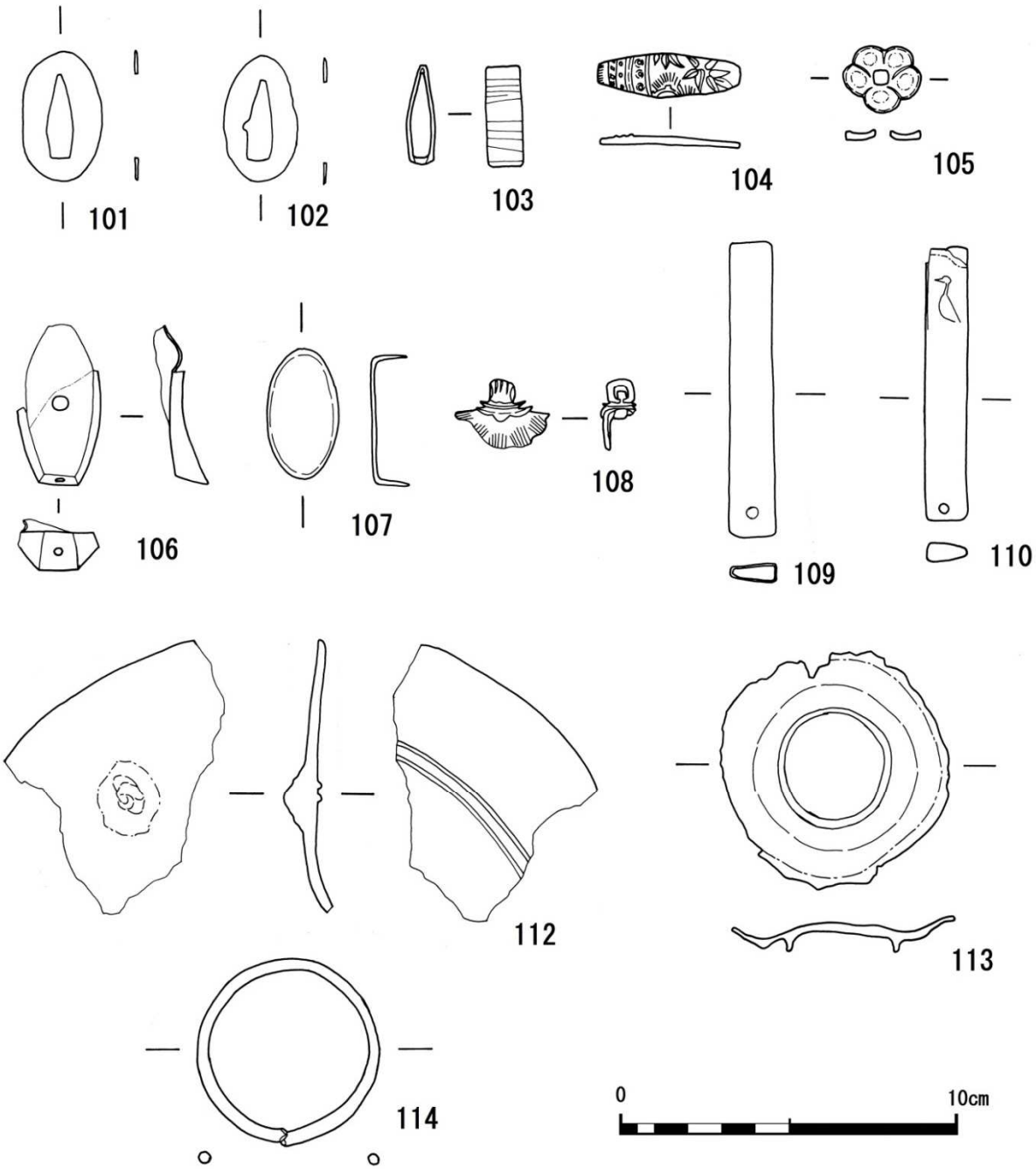


Fig.９７　出土銅製品（刀装具、仏具）実測図

石製品（Fig.９８・９９、PL.２３）

人形の頭（１１５）が猿楽館の直下、ＳＨ１２の堀底から出土している。なお、この調査区では、後述する木製獅子頭（１５０）も出土している。硯（１１６、１１７）は小ぶりなもので、陸部分がすり減るなど、使用痕が明確に見て取れる。不明石製品（１１８）は軟質な凝灰岩を削り出したもので、用途不明であるが、浪岡城跡からは過去にも数点出土している。砥石（１１９、１２０、１２１、１２２）は破片資料が主となる。うち、（１２２）は舟形の砥石であり通常の刃物用の砥石とは考えにくい。刀身の峰や鉄鏃など細部の加工用に使用した砥石である可能性も考えられる。茶臼は上臼（１２４、１２５）と下臼（１２６）が出土している。また、粉引臼は上臼（１２３）と下臼と思われるもの（１２７）が出土している。

木製品（Fig.１００・１０１・１０２・１０３・１０４・１０５、PL.２４・２５・２６・２７）

漆器椀（１２８）は内面に朱漆、外面に黒漆を塗り、高台裏に鳥状の文様を朱漆で描いている。内館直下のＳＨ１６で、橋脚と思われる杭の根元から、柾板で籾殻を包んだ状態の中から出土している。付札状の木製品（１２９、１３０）は頭部に切り込みが入る。（１２９）は表裏ともに墨痕が残るが、判読不明である。（１３０）には文字等は残っていない。下駄は、長楕円形の連歯下駄（１３１）、隅丸方形の連歯下駄（１３２）、一回り小さな連歯下駄（１３３）が出土している。取手（１３４）は曲げ物等に付属すると思われるものである。馬櫛（１３５）は楕円形の板に櫛目を施したものである。過去にも馬櫛は出土しているが、本資料は簡易な印象がある。行火（１３６、１３７、１３８）は台形を呈し、瓦質土器等を中で使用したものと思われる。
他に破片資料ではあるが、桶底（１３９）、曲げ物底（１４０、１４１）、篦（１４２）、不明木製品（１４３、１４４、１４５、１４６、１４７、１４８）が出土している。

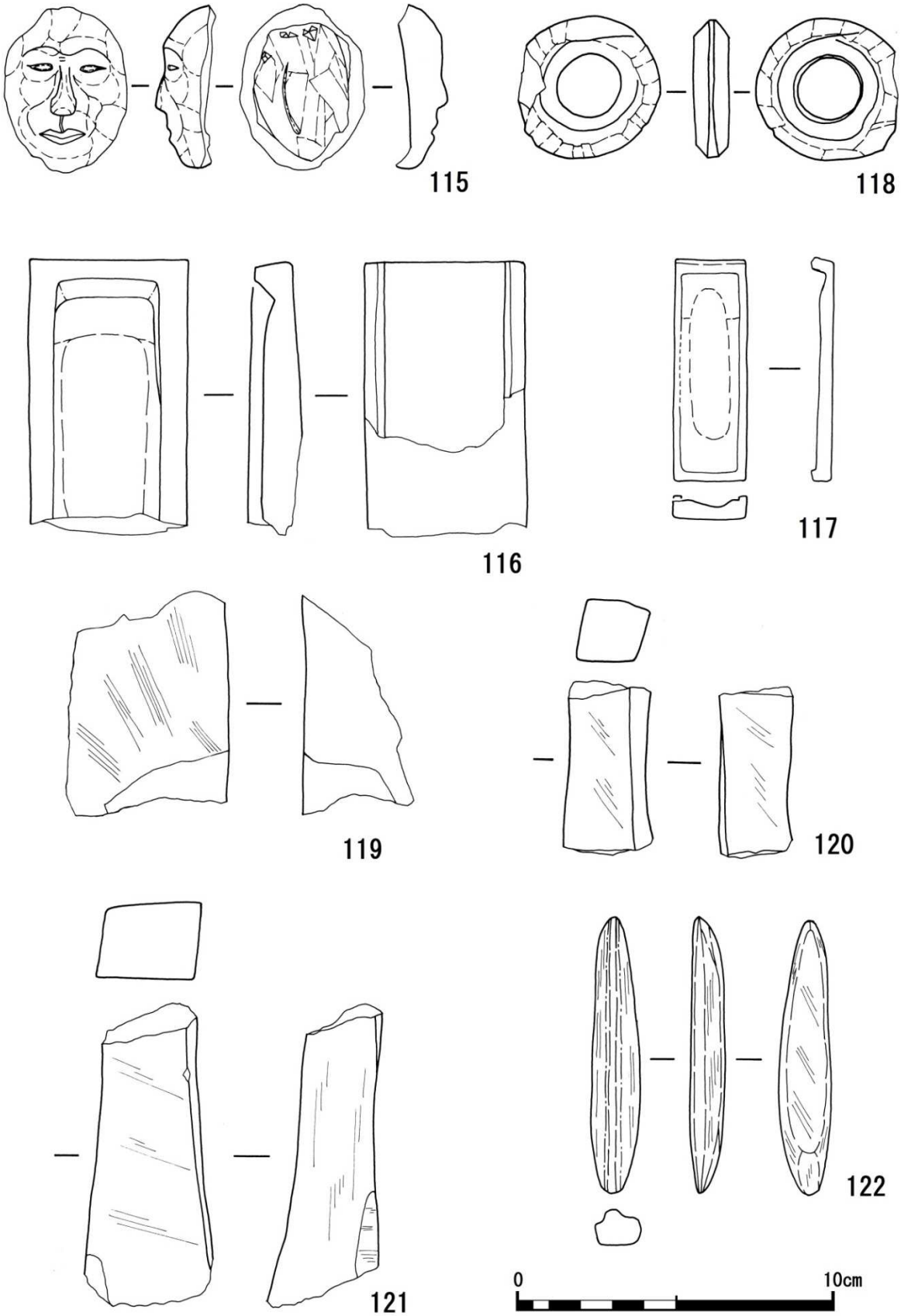


Fig. ９８　出土石製品（人形、硯、砥石等）実測図

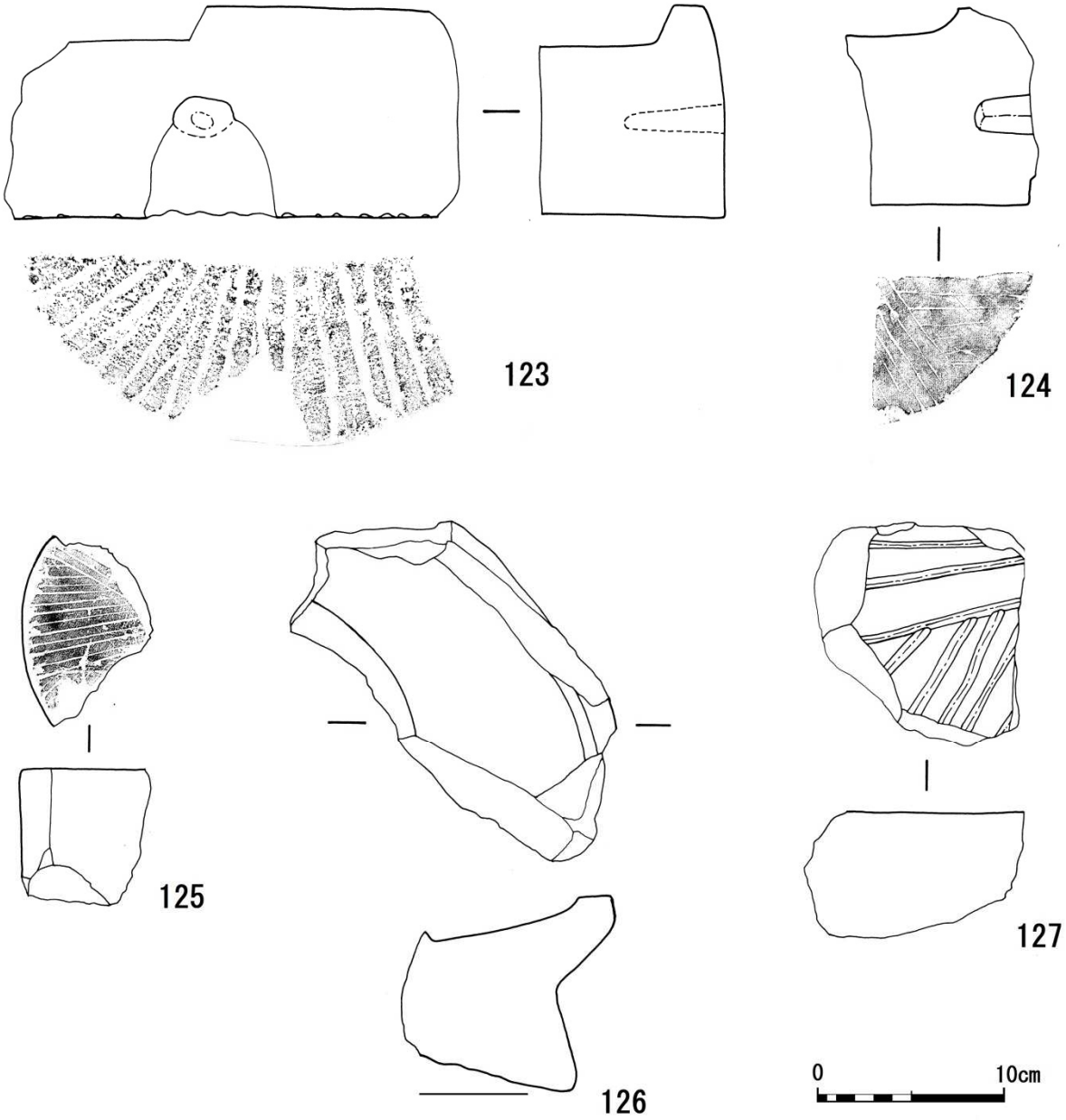


Fig. ９９　出土石製品（臼）実測図

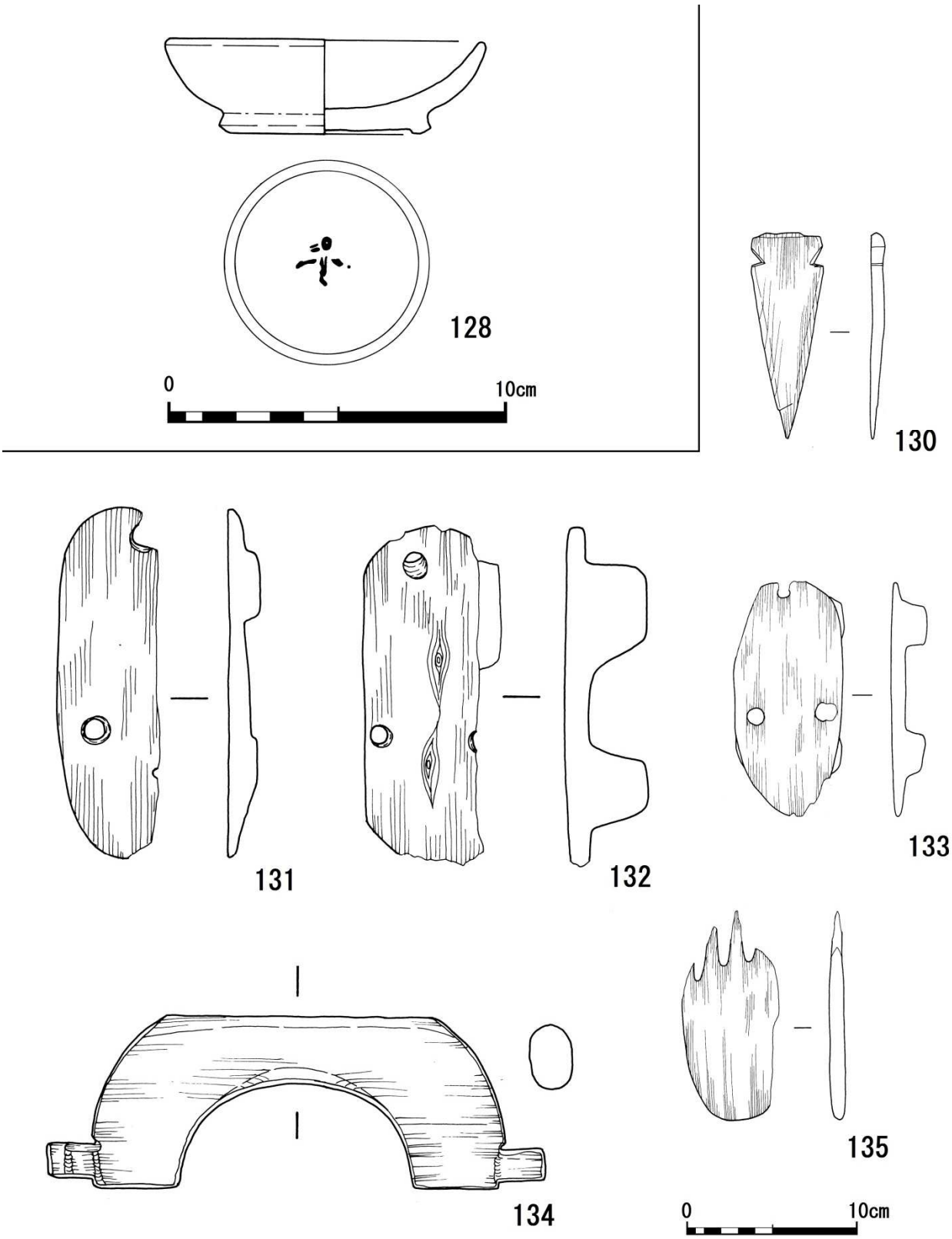


Fig. １００　出土木製品（椀、付け札、下駄、取手、馬櫛）実測図

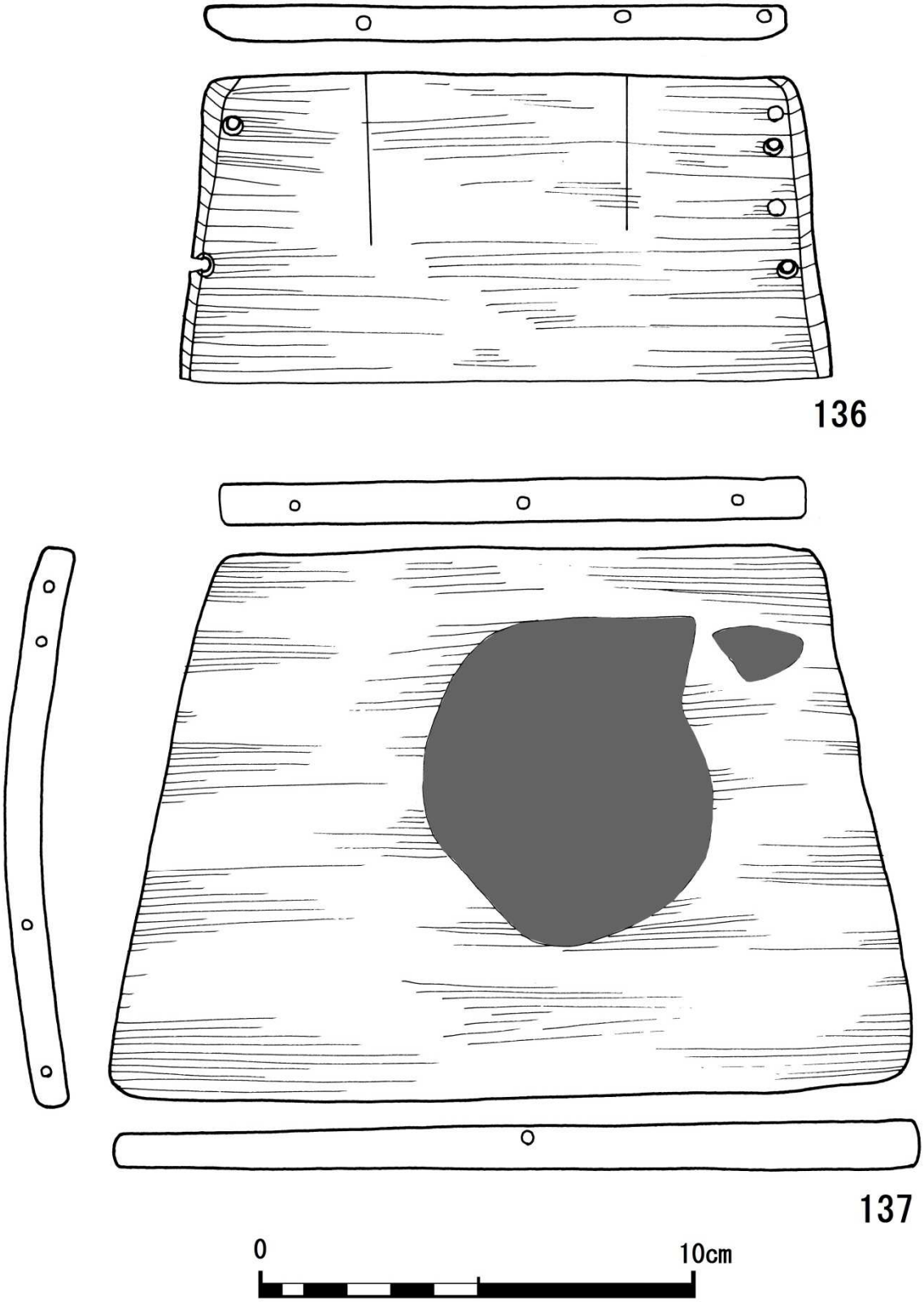


Fig. １０１　出土木製品（行火）実測図

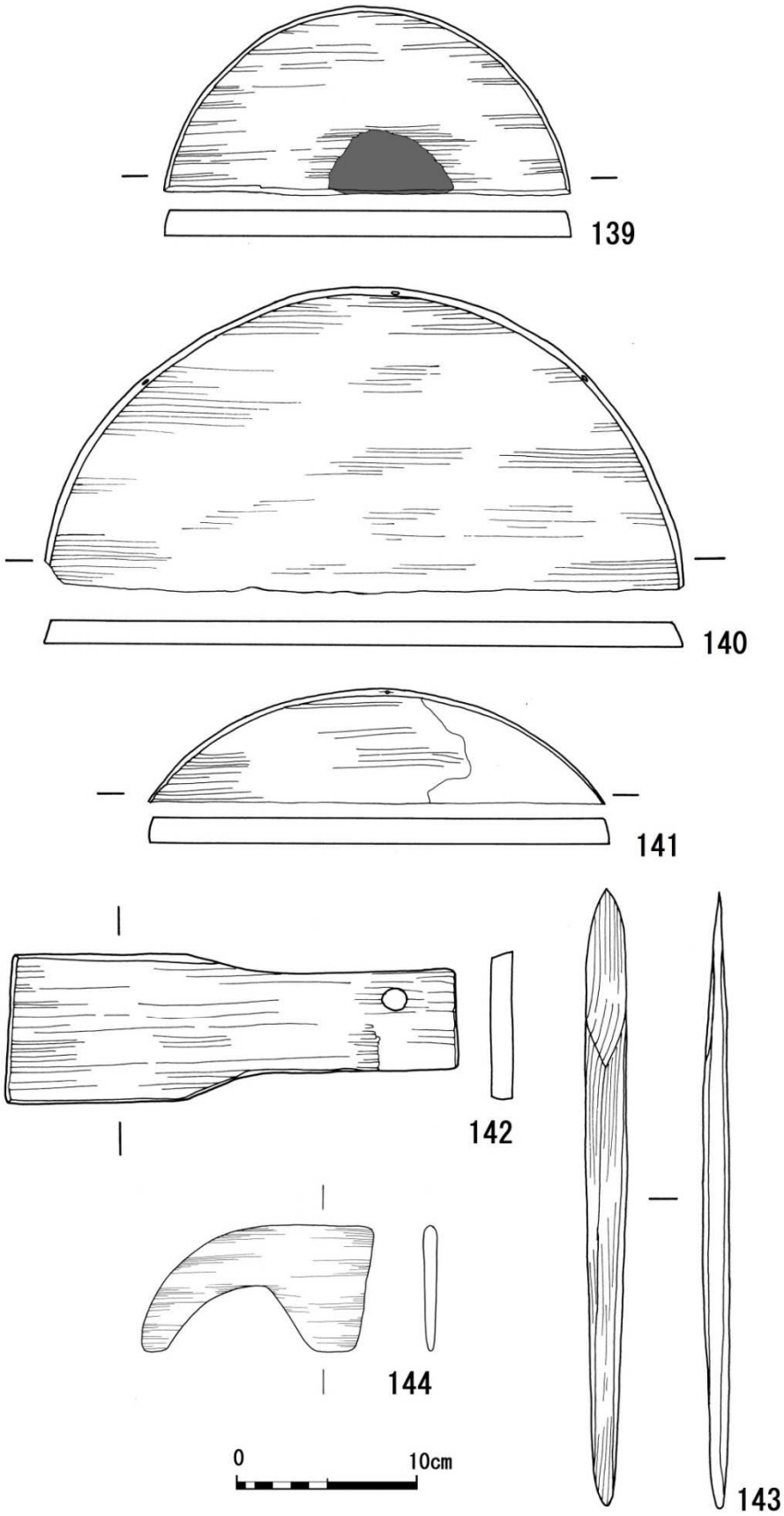


Fig. １０２　出土木製品（桶、曲げ物底、篦等）実測図

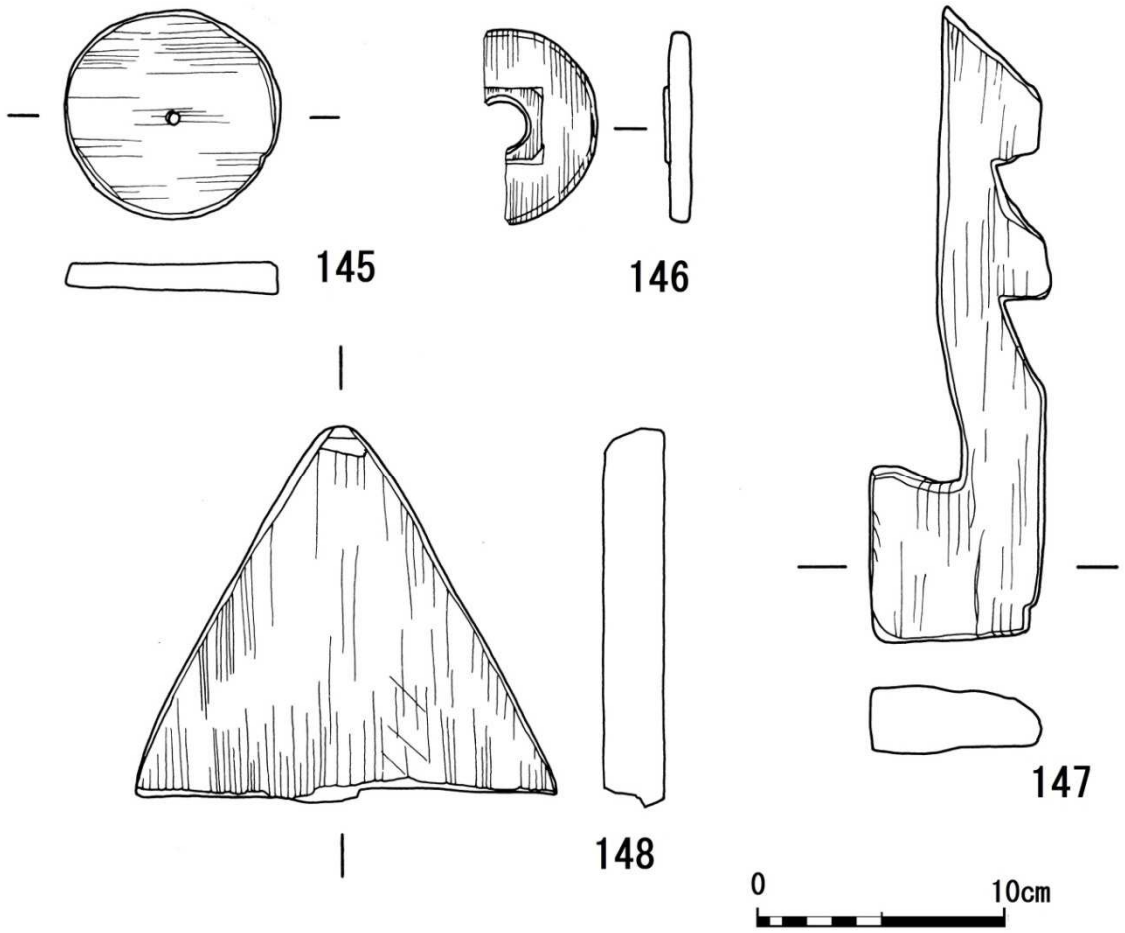


Fig. １０３　出土木製品（用途不明木製品）実測図

塔婆（Fig. １０４）

塔婆（１４９）はＨ区のＳＨ１３から出土したもので、卒塔婆を転用して橋材又は土留めの板杭として使用されたと思われ、基部を刃物で何度も斜めに切り込みを入れ、切断した痕跡が残されている。これまでも浪岡城跡の堀跡からは光明真言の記された柿経（昭和 59 年度浪岡城跡発掘調査報告書「浪岡城跡Ⅷ」参照）や文字の解読できない塔婆が複数出土しているが、特に本遺物と同様の例は、昭和 63 年度に北館の北東側堀跡を調査した際に、中土塁の落ち際に土留めの杭として縦に 3 分割した塔婆を倒立位に刺していたものが挙げられる（「史跡浪岡城跡環境整備報告書Ⅰ」（平成元年 3 月 31 日　浪岡町教育委員会刊））。

本遺物は、墨痕が一部残るもので、墨痕と斜光ライティング等により残りの文字も解読することが可能となった。結果、頭部の三角形は墨により黒色に染められており、１本の線が引かれた下から文字が記されている。種子部分は梵字を想定していたが、曹洞宗（及び浄土宗）などで用いるとされている「〇（＝偏に“八”と“旧”又は“臼”を上下に重ね、旁に“烏”又は“鳥”を配置している。読みは「タン」「うはっきゅう」「うはちきゅう」)」を意味する「〇（＝上から“八”、“旧”又は“臼”、“烏”又は“鳥”を順に重ねた文字)」の可能性が高いものであることが

判明した。偈文は「観世音菩薩住生浄土本縁経」であり、偈文を2行に分けて右側に「一念弥陀佛　即滅無量罪」が、左側に「現受無比楽　後生清浄土」が記されていた。偈文の下には「伏」と思われる文字が大きく書かれ、さらに下に3行の文字列があったと思われるが切断されているため判読はできない。

同様の出土例は県内では確認しておらず、資料は遡るが「青森県の板碑」(昭和58年3月30日、青森県立郷土館編集発行　青森県立郷土館調査報告書第15集　歴史-2）によると、青森県内の板碑で確認できる「観世音菩薩住生浄土本縁経」の例は、1358年銘のある十和田市大不動（平山）の板碑に「一念弥陀佛　現受無比楽」の文字が刻まれているのみである。また、「タン（うはっきゅう、うはちきゅう)」については、板碑に刻まれた例は見当たらず、津軽地方の江戸時代初期までの墓石に刻まれている例が見られるとされている。これまで、光明真言を記した柿経や五鈷杵、六器などの出土から、城館期には天台宗や真言宗などの密教系旧仏教の信仰が考えられていたが、曹洞宗などの新仏教も同時に信仰していたであろうことが推定されるようになった。ちなみに、浪岡北畠氏に関連する曹洞宗寺院は、弘前市の京徳寺が挙げられる。京徳寺は浪岡北畠氏の菩提寺として、浪岡城跡新館付近に建立されていたと伝えられているが、現在まで建立場所や出土遺物等は確認されていない。

獅子頭（Fig. １０５　PL. ２７）

獅子頭（１５０）はＥ区のＳＨ１１の堀底から出土したもので、上顎と下顎（１/２残存）が基部で結ばれていたと思われる。出土時に岩手県立博物館（当時）の大矢邦宣氏に知見を求めたところ「類例が少ないため正確な年代は判定できない。初見では、上唇部の中央、鼻先にかけの切れ込みを剣状に彫る文様の初現が17世紀までしか遡れないのではないか」との見解をいただいたが、その後「同文様は16世紀代まで遡ることが可能である」と連絡をいただいた。また、大矢氏によると、「上顎については墨により黒色に染められていたと思われ、板材を利用したため扁平な印象がある。立体感を出すために「付け鼻」や「耳」「眉」「角や宝珠」などを付加したと思われる穴の痕跡が認められる。」と所見をいただいた。

青森県内では、昭和31年に県重宝に指定された三戸郡三戸町の獅子頭（個人蔵）に「元和7年（1621)」と記されている例が、現存する獅子頭では時代の特定が可能である恐らく最も古いものと思われる。三戸町の獅子頭は神社に奉納され、受け継がれてきた優品であるが、一方で本出土品のように手製と思われる獅子頭を用いた祭事や舞踊などが浪岡城内で行われていたことが考慮されるものであり、16世紀の芸能・信仰のあり方の良好な資料となるものである。

ちなみに、前述の石製人形（１１５）は同一の堀跡からの出土であり、「猿楽館」に近い堀跡からの出土である。また、昭和55年度にＥ区から20mほど東側の猿楽館直下の堀跡を調査しているが、この際の出土遺物の中で、魚型木製品（１１６）が出土している（未報告)。鰓を刻線で、胸鰭としり鰭（胸鰭と腹鰭）を切り出して表現しており、頭部側面には目の表現と思われる四角い刻文（釘を用いたと思われる）が施されている。背側は腹側と同様に胴部後半に2箇所切込みにより鰭が表現されている。玩具か奉納された供物（形代）か、芸能に関するものかは不明であるが、これらの遺物は他の堀から出土していないため、猿楽館は居住域以外の特殊な性格が考えられる。

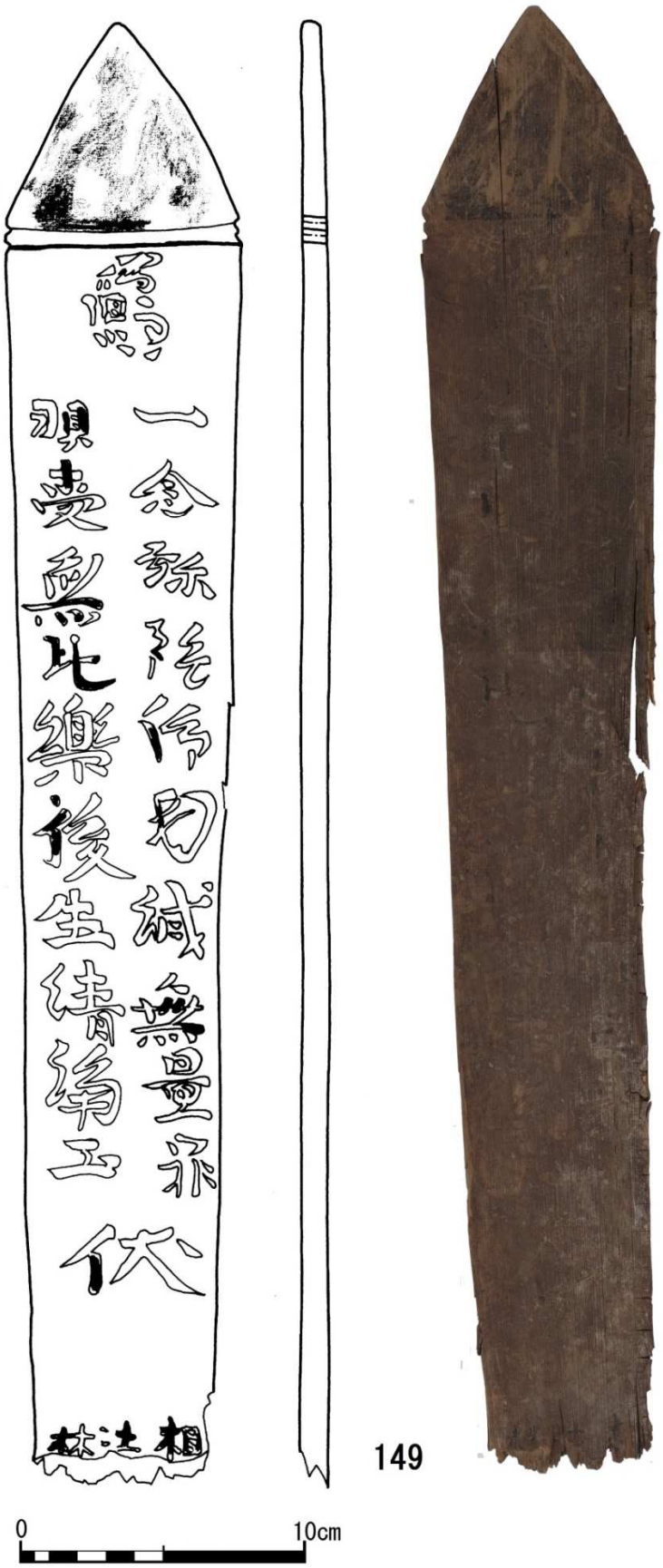
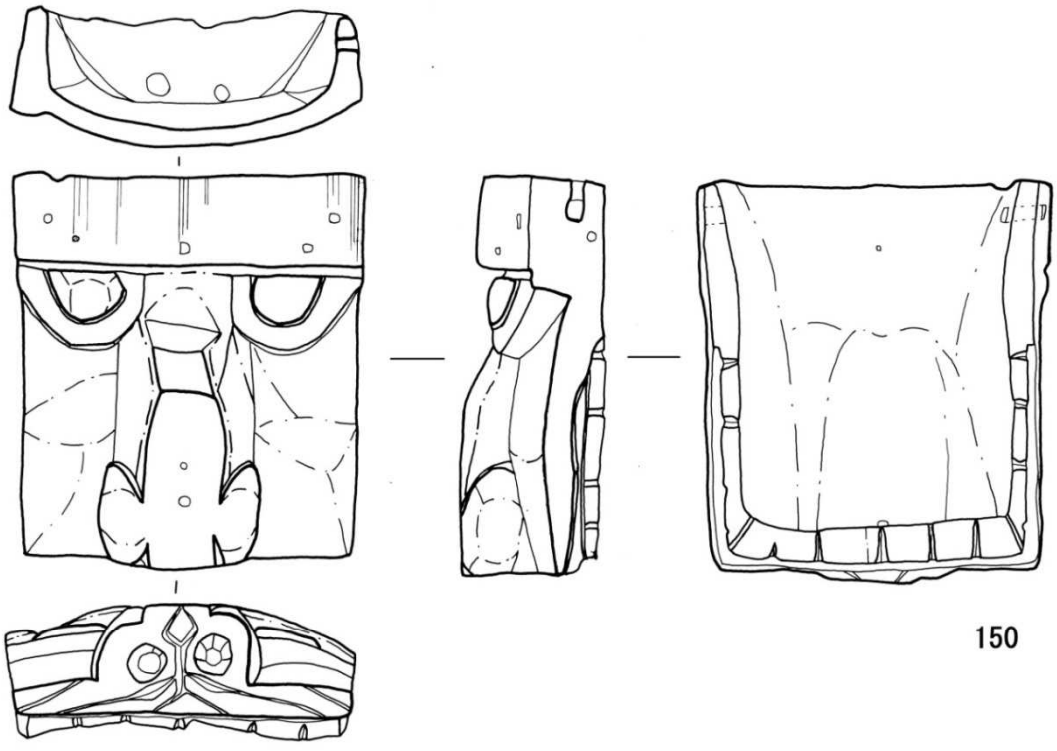
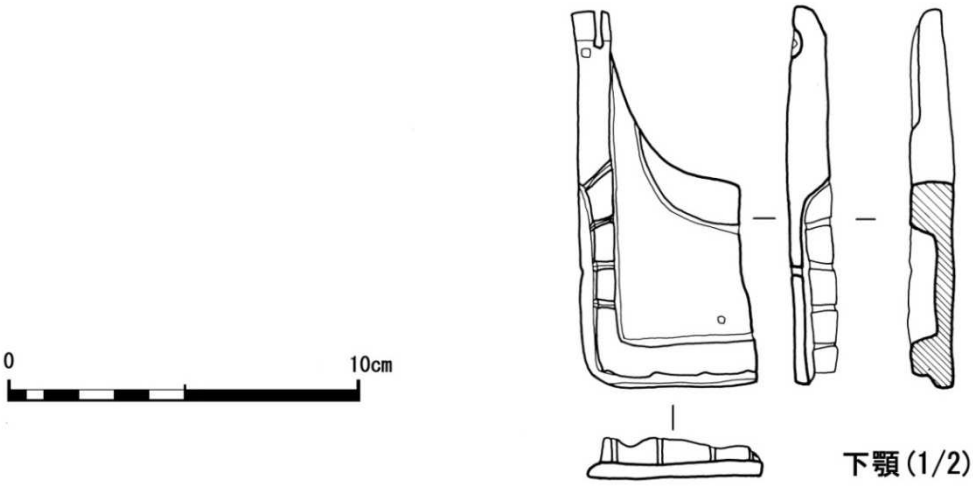

149
0
10cm

Fig. １０４　出土木製品（塔婆）実測図





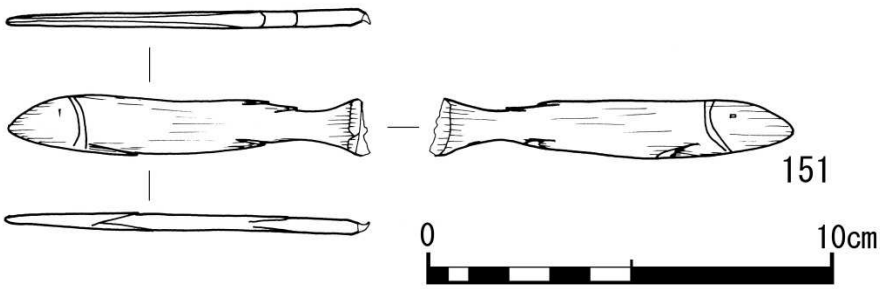


Fig. １０５　出土木製品（獅子頭・魚型木製品）実測図

銭貨（Fig. １０６、PL. ２８、Ch. ２・３・４）

銭貨については特殊な出土状態のものはなく、調査区全体から散発的に出土したため、拓本及び写真により資料紹介するに留める。また、銭貨の各種数値等については別に計測表を添付した。

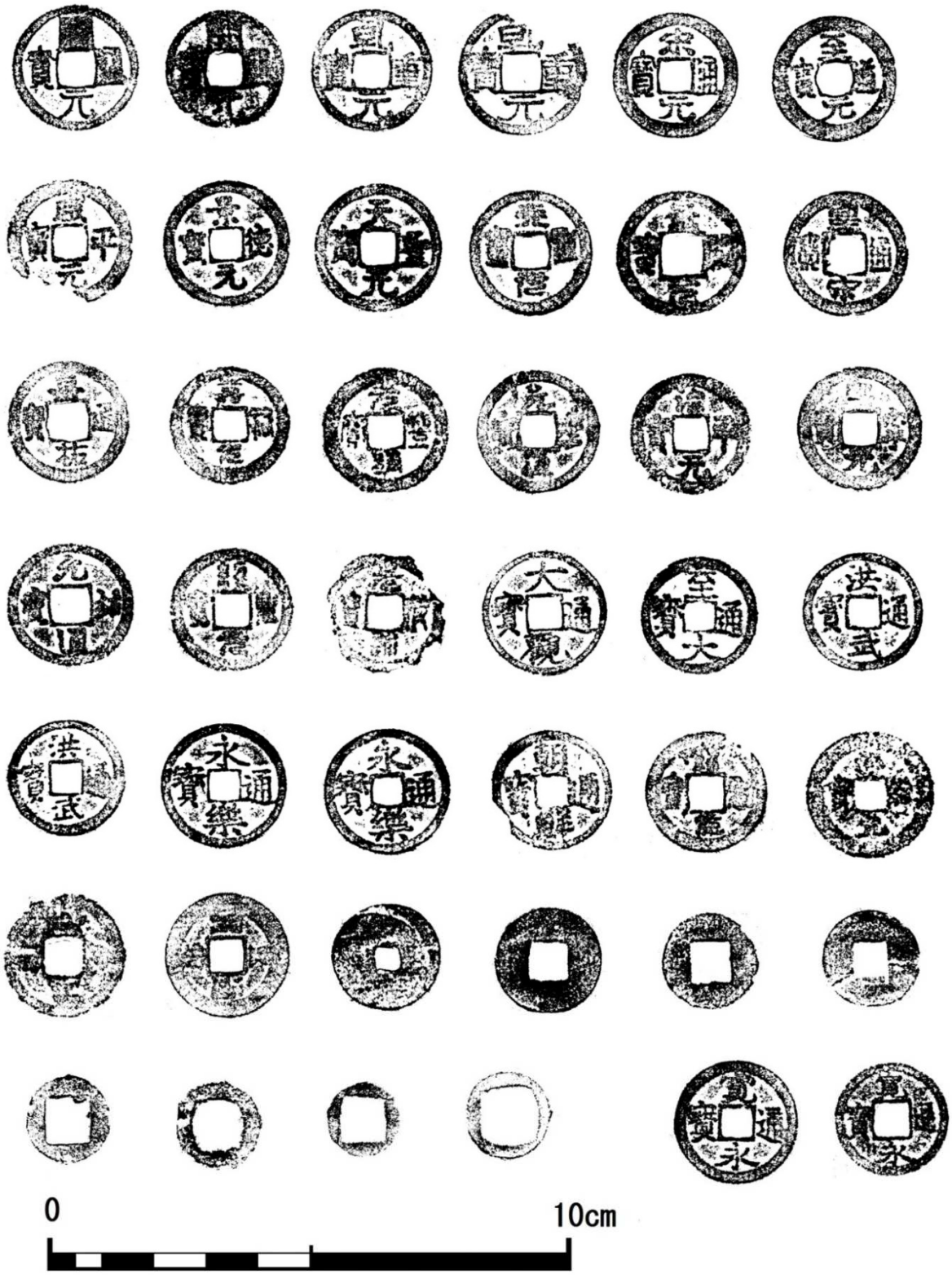


Fig. １０６　出土銭貨拓影図

４　まとめ

浪岡城跡は、昭和 52 年度に発掘調査を開始し、以降、昭和 62 年度まで東館、北館、内館の曲輪平場を中心に調査を続けてきた。この間、堀跡については北館を中心に南・東・西方向に既存の中土塁との間に調査の手を入れてきたが、整備工事の設計にあたり、各曲輪の連絡（通路）や、削平されて現況では確認できなくなっている中土塁の有無や規模、各曲輪の入り口（虎口）など、史跡の復元を行うための基礎資料が不足していることを改めて痛感している。整備事業着手前に某県の中世城館整備担当者から「浪岡城跡の発掘調査成果から史跡整備を行うのは無理だろう。」と指摘されたこともあった。

そこで、史跡整備工事に先立ち、疑問となっていた基礎データを得るため、昭和 63 年度から平成 5 年度まで（平成元年度未実施）追加の遺構確認調査を実施した。発掘調査結果を同一年又は翌年の整備工事に反映させる自転車操業状態で発掘調査と環境整備工事を続けた。

環境整備工事の方向性が決定した平成 7～9 年度までの 3 年間で「史跡活用特別事業（ふるさと歴史の広場）」に採択され、北館の屋敷割や建物跡の平面表示、中土塁の復元、橋の設置、現地模型（立体模型）の設置、案内棟（ガイダンス施設）の整備などを実施し、ようやく浪岡城跡の第 1 期ともいうべき史跡公園化事業が終了した。今後、さらなる研究成果や発掘調査の実施等により現在の整備を見直し、再整備を行うことが必要になると思われる。本報告書は今後の再整備に向け、発掘調査結果や整備個所、整備方法などについてその概要を公表し、記録保存するものである。

本報告書で報告する発掘調査の中で判明した成果は、

① 城館期における中土塁の改修・造成により、各曲輪間に規模の異なる中土塁が全時期を通して存在することで、浪岡城跡の堀は常に二重堀または三重堀となっていたであろうこと。

② 中土塁を通路として用い、あたかも近世城下町の枡形状の通路を形成していたこと。

③ 各曲輪への橋跡は近距離に設置していないこと。これにより曲輪間の連絡が中土塁上を歩くことになり、直線的な往来を不可能にしていること。

④ 東館の東端に追手門があったと推定されている（「津軽諸城の研究」沼館愛三）が、同個所に正面を置くと仮定すると、主郭である内館までは中土塁上の通路と北館内を通過するなど、迷路状の通路を進まざるを得ない構造となっていたが考慮されること。

などの事項であった。また、近現代（公有化前）の農耕により、中土塁も曲輪斜面も削平されていることも判明し、中土塁及び一部の曲輪斜面を復元する必要が生じた。

出土遺物からは以前までの調査同様、15～16 世紀の陶磁器を中心に鉄・銅製品や石製品、木製品など多様な製品の出土が見られた。中でも、木製の行火（箱）や墨書の残る木簡（付札）、石製の人形や獅子頭、塔婆、五鈷杵など城館期の宗教や生活の様子が従来よりも広がりを持ったことが実感できた調査であった。

なお、平成 3 年度に環境整備委員として委嘱した坂田泉氏（当時東北大学教授）からは、浪岡城跡の現地踏査の際「猿楽館」の平面測量図に着目され、曲輪内に史跡全体の傾斜方向と異なる盛り上がりが等高線から読み取れることから、能や猿楽を上演する置き舞台等の施設が設置されていた可能性を示していただいた（Fig. １０７）。石製人形や獅子頭の出土前のことである。

坂田氏の着目した等高線の乱れとは、曲輪中央部に 40 ㎝ほどの高さで 8m四方の盛り上がりがあり、南側の曲輪縁辺にも 2 か所の盛り上がりがある。この 2 か所の盛り上がりは中央部の盛り上がりから各々

18m程度離れた位置に70°程度の角度で開いた状態で図化されていたものである。また、中央部の盛り上がりから北東部の曲輪縁辺には幅2m、長さ20mを越える帯状の盛り上がりも認められる。坂田氏は、中央の盛り上がりを舞台に、南側の2か所の盛り上がりを楽屋に、北側の帯状の盛り上がりを客席や社の設置場所と考えることも可能なのではないかとの指摘であった。現存する最古の舞台は西本願寺の北能舞台で天正9年（1581）の建立とされている。この建築は「本舞台」から「橋掛かり」が東南方向に延び「鏡の間」とつながる、現存する最古の能舞台として知られている。能の成立以前、舞楽や田楽においては、舞台の後方に「楽屋」を2か所設ける形式の舞台であるとされ、特に田楽は能楽の確立時には衰退し、各地で民俗芸能として伝承される状態となっていた。浪岡城跡猿楽館の遺構が15世紀後半から16世紀の舞台施設であると仮定した場合、地域の民俗芸能的となった田楽舞台と、舞台形式の確立した能楽との要素を兼ね備えた、舞台施設の過渡期にあたる遺構である可能性が考えられるとのご教示である。

現在、猿楽館の発掘調査については、環境整備基本計画上では現状を維持する方針であるため、具体的な調査の計画はない。また、浪岡城跡の調査は、黒色土の生活面（遺構面）で含有物や硬化状態から遺構を判断する必要があるため、土色による判断が必要となるため、調査には困難をきたす。
浪岡城跡の生活を彷彿させる資料が整備後もまだまだ埋蔵されており、将来の解明を待つこととなる。

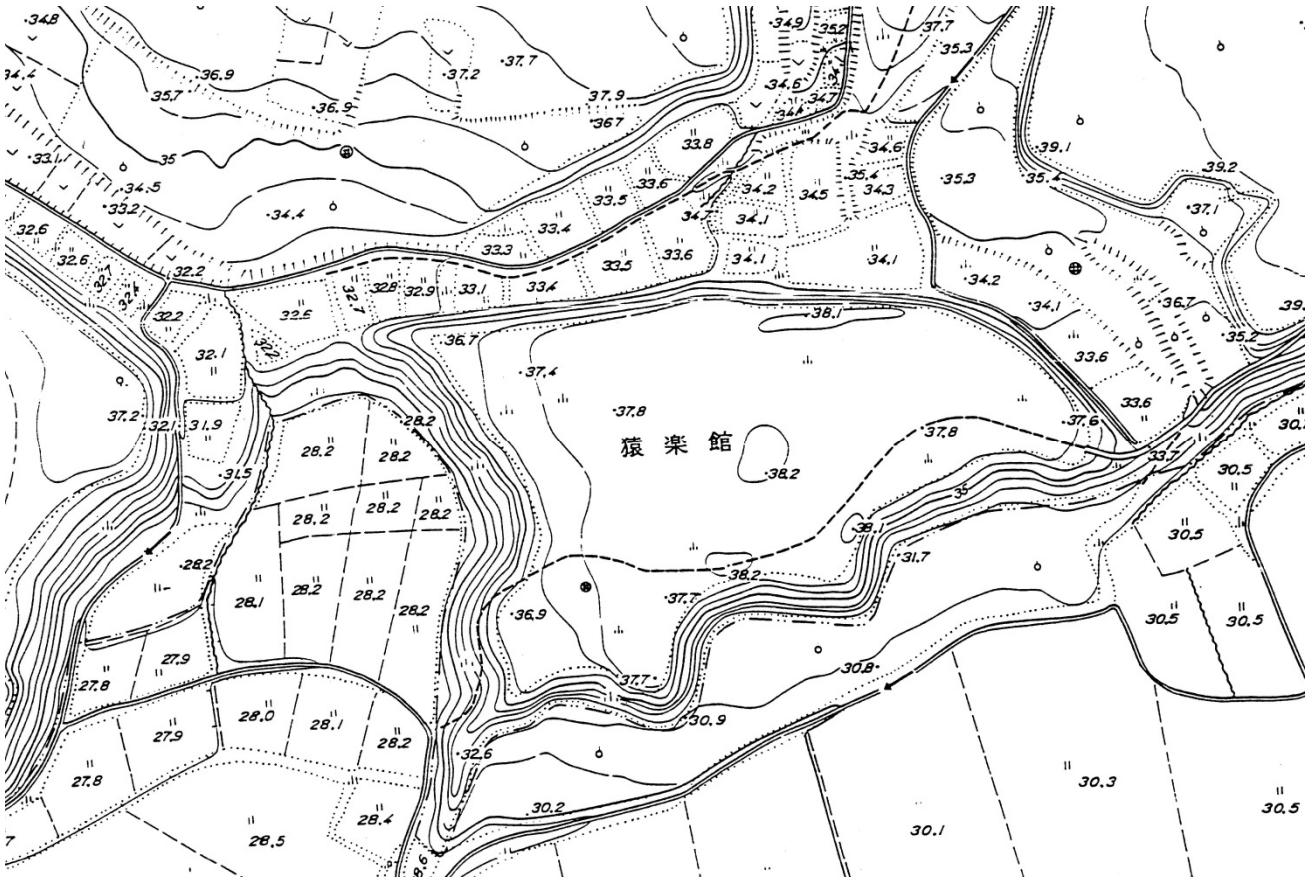


Fig. １０７　猿楽館平面測量図（昭和48年測図）

Ch. 1　史跡浪岡城跡関連事業経費一覧表（公有化・発掘調査・環境整備・その他）

単位 ： 平米 、 円

	対象年度	買収面積	調査面積	収入			支出		事業費計
				国庫補助金	県費補助金	町負担金	発掘調費	整備工事	
公有化	昭和44年度	17,750	0	5,000,000	1,000,000	4,000,749	0	0	10,000,749
	昭和45年度	27,020	0	7,500,000	1,500,000	6,008,989	0	0	15,008,989
	昭和46年度	28,328	0	7,948,000	1,598,000	8,498,400	0	0	18,044,400
	昭和47年度	15,380	0	10,000,000	3,000,000	9,614,930	0	0	22,614,930
	昭和48年度	5,882	0	9,439,000	1,179,000	5,199,768	0	0	15,817,768
	昭和49年度	8,880	0	48,000,000	6,000,000	13,524,220	0	0	67,524,220
	平成10年度	833	0	92,888,000	11,611,000	11,611,900	0	0	116,110,900
	小　計	104,073	0	180,775,000	25,888,000	58,458,956	0	0	265,121,956
発掘調査	昭和52年度	0	350	0	0	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000
	昭和53年度	0	1,645	2,500,000	400,000	2,100,000	5,000,000	0	5,000,000
	昭和54年度	0	1,800	5,000,000	800,000	4,200,000	10,000,000	0	10,000,000
	昭和55年度	0	3,000	6,000,000	960,000	5,040,000	12,000,000	0	12,000,000
	昭和56年度	0	3,000	6,000,000	960,000	5,040,000	12,000,000	0	12,000,000
	昭和57年度	0	3,000	6,000,000	960,000	5,040,000	12,000,000	0	12,000,000
	昭和58年度	0	2,900	6,000,000	960,000	5,040,000	12,000,000	0	12,000,000
	昭和59年度	0	2,500	6,000,000	960,000	5,040,935	12,000,935	0	12,000,935
	昭和60年度	0	2,145	6,000,000	960,000	5,040,096	12,000,096	0	12,000,096
	昭和61年度	0	1,900	6,000,000	960,000	5,040,439	12,000,439	0	12,000,439
	昭和62年度	0	1,506	5,000,000	800,000	4,203,887	10,003,887	0	10,003,887
	小　計	0	23,746	54,500,000	8,720,000	48,785,357	112,005,357	0	112,005,357
史跡整備	昭和62年度	0	0	787,000	126,000	662,000	0	1,575,000	1,575,000
	昭和63年度	0	430	2,625,000	420,000	2,205,000	5,250,000	0	5,250,000
	平成元年度	0	0	10,197,000	1,631,000	8,566,000	0	20,394,000	20,394,000
	平成2年度	0	400	12,000,000	1,920,000	10,082,482	6,611,682	17,390,800	24,002,482
	平成3年度	0	600	10,000,000	1,600,000	8,435,841	9,838,151	10,197,690	20,035,841
	平成4年度	0	300	10,000,000	1,600,000	9,193,550	9,329,650	11,463,900	20,793,550
	平成5年度	0	150	10,000,000	1,600,000	8,604,314	6,624,659	13,579,655	20,204,314
	平成6年度	0	0	10,000,000	1,600,000	8,619,156	0	20,219,156	20,219,156
史跡等活用特別	平成7年度	0	0	32,500,000	5,200,000	27,373,117	0	65,073,117	65,073,117
	平成8年度	0	0	60,000,000	9,600,000	50,804,627	0	120,404,627	120,404,627
	平成9年度	0	0	57,500,000	17,250,000	40,641,608	0	115,391,608	115,391,608
	小　計	0	1,880	215,609,000	42,547,000	175,187,695	37,654,142	395,689,553	433,343,695
旧資料館	平成元年度	0	0	0	0	98,000,000	0	0	98,000,000
中世の館	平成4年度	0	0	0	0	836,930,000	0	0	836,930,000
案内所他	平成6年度	18,450	0	0	0	87,000,000	0	0	87,000,000
	小　計	18,450	0	0	0	1,021,930,000	0	0	1,021,930,000
合　計		122,523	25,626	450,884,000	77,155,000	1,304,362,008	149,659,499	395,689,553	1,832,401,008

Ch. 2　平成３年度出土銭貨計測表　　単位：cm、g

名称	出土区	遺構名	層位	外径（直径）	外縁幅	外縁厚	孔幅	内郭幅	内郭厚	重量	備考
治〇〇〇	N51		Ⅱ	－	0.24	0.15	－	0.09	0.10	0.62	1/4
無文銭	L50		Ⅱ	1.90	－	0.06	0.69	－	－	0.66	
寛永通宝	L50		Ⅱ	2.44	0.24	0.14	0.58	0.07	0.13	3.62	
判読不能	K46		Ⅰ	2.37	－	－	0.63	－	－	2.15	
無文銭	J45		Ⅰ	2.29	－	0.10	0.62	－	－	2.47	
永楽通宝	J45		Ⅱ	2.50	0.17	0.14	0.53	0.05	0.15	3.38	
判読不能	J45		Ⅱ	2.43	0.27	0.11	0.63	0.08	0.10	2.31	
一銭	K44		Ⅱ上	2.20	－	0.09	－	－	－	2.75	
寛永通宝	Q53		Ⅱ	2.33	0.22	0.11	0.60	0.05	0.10	2.33	
無文銭	Q53		Ⅱ	2.02	－	0.05	0.70	－	－	0.94	
寛永通宝	K45		Ⅱ下	2.30	0.20	0.09	0.67	0.06	0.09	1.95	
洪武通宝	K45		Ⅱ下	2.18	0.11	0.10	0.60	0.06	0.10	1.46	
無文銭	J45		Ⅱ下	1.72	－	0.05	1.09	－	－	0.34	
10 円	L51		Ⅱ	2.36	0.08	0.15	－	－	－	4.43	S29 年
一銭	M49		Ⅱ	2.30	－	0.10	－	－	－	3.50	T11 年
洪武通宝	N52		Ⅱ	2.19	0.16	0.11	0.62	0.09	0.08	1.18	
洪武通宝	M50		Ⅱ下	2.32	0.16	0.13	0.56	0.08	0.12	3.02	
天禧通宝	M50		Ⅱ下	2.37	0.28	0.13	0.60	0.06	0.12	3.17	
景祐元宝	M50		Ⅱ下	2.46	0.24	0.12	0.80	0.13	0.12	3.46	
元祐通宝	M50		Ⅱ下	2.39	0.17	0.12	0.67	0.06	0.12	3.05	
乾元重宝	M50		Ⅱ下	2.39	0.16	0.10	0.69	0.06	0.09	2.55	
皇宋通宝	M50		Ⅱ下	2.48	0.22	0.13	0.70	0.06	0.14	3.79	
至道元宝	M50		Ⅱ下	2.44	0.30	0.10	0.67	0.05	0.11	3.05	
〇平元〇	M52		Ⅱ下	－	－	0.08	－	－	－	0.53	
無文銭	M52		Ⅱ下	1.92	－	0.08	0.63	－	－	0.94	
無文銭	M52		Ⅱ下	1.76	－	0.06	0.81	－	－	0.50	
無文銭	M52		Ⅱ下	1.84	－	0.06	0.59	－	－	0.65	
至大通宝	L50		Ⅱ下	2.29	0.19	0.13	0.57	0.06	0.11	2.72	
至大通宝	L50		Ⅱ下	2.36	0.24	0.16	0.54	0.06	0.15	3.88	
至大通宝	L50		Ⅱ下	2.32	0.24	0.15	0.51	0.08	0.12	3.12	
無文銭	L50		Ⅱ下	2.12	－	0.09	0.70	－	－	1.49	
〇宋元〇	L50		Ⅱ下	－	0.33	0.10	－	0.10	0.10	1.12	
寛永通宝	N52		Ⅱ下	2.43	0.29	0.10	0.62	0.06	0.09	2.33	
無文銭	N52		Ⅱ下	2.08	－	0.07	0.71	－	－	0.77	

○○通○	N52		Ⅱ下	–	–	0.13	–	–	–	0.60	1/4
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.80	–	0.05	0.68	–	–	0.87	
洪武通宝	Q53	SH01	埋土	2.20	0.16	0.13	0.56	0.07	0.13	2.79	
寛永通宝	Q53		Ⅱ下	2.40	0.24	0.10	0.55	0.08	0.11	2.83	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.66	–	0.05	0.91	–	–	0.71	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.79	–	0.06	1.06	–	–	0.53	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.68	–	0.06	1.08	–	–	0.45	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.54	–	0.03	0.79	–	–	0.25	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.53	–	0.03	1.14	–	–	0.24	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.68	–	0.04	1.20	–	–	0.18	
熙寧元宝	Q53	SH01	埋土	2.28	0.20	0.09	0.67	0.12	0.09	2.06	
洪武通宝	Q53	SH01	埋土	2.28	0.19	0.14	0.55	0.05	0.13	3.09	
無文銭	Q53	SH01	埋土	2.08	–	0.05	0.70	–	–	0.96	
無文銭	Q53	SH01	埋土	2.12	–	0.06	0.67	–	–	1.46	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.80	–	0.04	0.76	–	–	0.63	
無文銭	Q53	SH01	埋土	2.08	–	0.09	0.72	–	–	2.01	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.89	–	0.05	0.67	–	–	0.83	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.84	–	0.03	0.69	–	–	0.69	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.85	–	0.05	0.72	–	–	0.84	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.88	–	0.03	0.68	–	–	0.68	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.75	–	0.06	0.82	–	–	0.70	
判読不能	Q53	SH01	埋土	2.23	0.05	0.10	0.64	0.09	0.10	2.51	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.82	–	0.05	0.74	–	–	0.56	
洪○通○	Q53	SH01	埋土	2.13	0.18	0.10	–	0.11	0.10	0.84	1/2
天○通宝	Q53	SH01	埋土	2.42	0.22	0.08	0.71	0.09	0.08	2.37	
○武通宝	Q53	SH01	埋土	2.16	0.16	–	0.53	0.08	–	1.38	
無文銭	P53	SH02	埋土	–	–	0.04	–	–	–	0.13	
無文銭	P53	SH02	埋土	2.12	–	0.07	0.77	–	–	1.26	
無文銭	P53	SH02	埋土	1.74	–	0.05	0.81	–	–	0.36	
判読不能	Q53	SH02	埋土	–	0.14	0.05	–	–	0.05	0.36	1/2
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.42	0.09	0.05	–	–	–	0.22	
判読不能	Q53	SA10	埋土	2.33	0.25	0.11	–	–	–	1.36	1/2
洪武通宝	Q53	SH02	埋土	2.09	0.13	0.10	0.56	0.08	0.10	2.37	
洪武通宝	Q53	SH02	埋土	2.05	0.17	0.10	0.62	0.06	0.09	1.57	
祥○○宝	Q53	SH01	埋土	–	0.23	0.08	–	0.13	0.07	0.89	
無文銭	Q53	SH01	埋土	1.89	–	0.10	0.72	–	–	0.74	
景徳元宝	Q53	SH01	埋土	2.48	0.22	0.12	0.58	0.08	0.12	3.48	

祥符元宝	Q53	SH01	埋土	2.46	0.30	0.11	0.60	0.08	0.11	2.68	
無文銭	Q53	SH01	埋土	–	–	0.09	–	–	–	0.10	1/4
無文銭	Q53	SH02	埋土	2.18	–	0.02	0.76	–	–	1.70	
〇宋通宝	Q53	SH01	埋土	2.46	0.24	0.11	0.73	0.08	0.12	2.98	
〇武通〇	Q53	SH01	埋土	–	0.18	0.10	–	0.12	0.09	0.72	1/2
〇〇〇宝	Q53	SH01	埋土	–	0.12	0.09	–	–	–	0.51	
元豊通宝	Q53	SH01	埋土	2.43	0.28	0.11	0.66	0.08	0.10	2.90	
元祐通宝	Q53	SA11	埋土	2.39	0.21	0.10	0.62	0.05	0.10	3.20	
元豊通宝	Q53	SA11	埋土	2.43	0.24	0.11	0.65	0.10	0.12	0.34	
判読不能	Q53	SH01	埋土	2.24	–	0.04	0.76	–	–	1.49	
嘉祐元宝	Q53	SH01	埋土	2.31	0.23	0.08	0.58	0.05	0.09	2.19	
判読不能	J45	ST01	埋土	2.30	–	0.15	0.65	–	–	2.09	
無文銭	J45	ST01	埋土	1.96	–	0.03	0.60	–	–	–	
無文銭	I45	ST01	埋土	1.50	–	0.04	0.96	–	–	0.15	
無文銭	J45	ST01	埋土	–	–	0.05	–	–	–	0.08	1/3
無文銭	Q53	SA11	埋土	2.12	–	0.05	0.79	–	–	1.32	
景徳元宝	Q53	SA10	埋土	2.46	0.25	0.12	0.60	0.07	0.12	3.41	
天〇元宝	Q53	SA10	埋土	2.30	0.16	0.10	0.63	0.04	0.09	2.33	
無文銭	Q53	SA10	埋土	1.43	–	0.06	0.73	–	–	0.40	
無文銭	Q53	SA10	埋土	–	–	0.09	0.66	–	–	0.72	1/2
開元通宝	Q53	SA10	埋土	2.46	0.17	0.11	0.70	0.03	0.11	2.67	
景祐元宝	Q53	SA10	埋土	2.53	0.26	0.09	0.63	–	0.10	2.58	
治平元宝	Q53	SA10	埋土	2.36	0.26	0.12	0.62	0.07	0.08	2.58	
天聖元宝	Q53	SA10	埋土	2.42	0.15	0.11	0.66	0.06	0.12	2.72	
元豊通宝	Q53	SA10	埋土	2.48	0.30	0.13	0.65	0.05	0.12	3.35	
無文銭	M51		Ⅱ下	2.13	–	0.12	0.67	–	–	1.36	
判読不能	M51		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.52	1/5
判読不能	M51		Ⅱ下	–	–	0.12	–	–	–	0.19	1/5
無文銭	M52		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.22	1/2
〇〇元宝	N51		Ⅱ下	2.32	–	–	0.67	–	–	1.91	
判読不能	M51		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.93	1/2
判読不能	N51		Ⅱ下	2.46	0.26	0.11	–	–	–	1.58	
無文銭	N52		Ⅱ下	2.24	–	0.12	0.62	–	–	2.43	
天聖元宝	M51		Ⅱ下	2.50	0.34	0.11	0.62	0.06	0.11	2.85	
洪武通宝	I45	ST01	床上	2.01	0.13	0.07	0.66	0.07	0.45	0.76	
無文銭	J45	ST01	埋土	–	–	–	–	–	–	0.21	1/3
判読不能	M51		Ⅱ下	–	0.22	0.10	–	0.10	0.10	0.73	1/3

宋通元宝	M51		Ⅱ下	2.46	0.27	0.10	0.60	0.06	0.10	2.61	
皇宋通宝	N51		Ⅱ下	2.40	0.27	0.10	0.73	0.06	0.09	1.90	
○武通宝	N52		Ⅱ下	–	0.18	–	–	–	–	1.06	
無文銭	N50		Ⅱ下	2.12	–	0.11	0.65	–	–	1.45	
無文銭	M51		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.07	1/5
○武通○	M51		Ⅱ下	–	0.17	–	–	–	–	1.34	
判読不能	N51		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.39	1/5
無文銭	M51		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.70	
○○○宝	N51		Ⅲ	2.32	0.23	0.14	–	0.06	0.10	1.19	1/2
判読不能	N51		Ⅲ	–	–	0.13	–	–	–	0.15	
無文銭	M51		Ⅱ下	2.10	–	–	0.06	–	–	0.94	
紹聖元宝	N51		Ⅱ下	2.41	0.26	0.12	0.62	0.05	0.12	3.01	
○元通宝	N50		Ⅱ下	2.16	0.18	0.05	0.67	0.05	0.08	1.44	
無文銭	N51		Ⅱ下	2.13	–	0.08	0.70	–	–	1.46	
無文銭	N51		Ⅱ下	2.10	–	0.08	0.80	–	–	1.43	
皇宋通宝	N52		Ⅱ下	2.42	0.34	0.12	0.58	–	–	2.86	
無文銭	N52		Ⅱ下	1.34	–	0.07	0.75	–	–	0.19	
嘉祐通宝	N52		Ⅱ下	2.40	0.22	0.09	0.74	0.04	0.08	2.09	
無文銭	N52		Ⅱ下	1.84	–	–	0.72	–	–	0.55	
判読不能	N52		Ⅱ下	–	–	0.07	–	–	–	0.29	1/2
無文銭	N52		Ⅱ下	–	–	0.04	–	–	–	0.07	
洪武通宝	N52		Ⅱ下	2.20	0.12	0.10	0.62	0.05	0.06	1.84	
判読不能	N52		Ⅱ下	2.29	–	0.09	0.69	–	–	2.32	
判読不能	N52		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.18	1/8
○宋通宝	N51		Ⅱ下	2.39	0.16	0.12	–	–	–	1.50	
無文銭	N52		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.04	1/5
無文銭	N52		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.21	2/3
無文銭	N52		Ⅱ下	2.14	–	0.09	0.84	–	–	1.49	
無文銭	M50		Ⅱ	2.10	0.16	0.08	0.64	–	–	1.01	
無文銭	M51		Ⅱ	2.17	–	0.10	0.70	–	–	1.45	
乾元重宝	N52		Ⅱ	2.50	0.20	0.10	0.74	0.05	0.10	1.97	
無文銭	N52		Ⅱ	–	–	–	–	–	–	0.10	1/5
無文銭	N52		Ⅱ下	–	–	0.07	–	–	–	0.09	
判読不能	M50		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.42	1/5
無文銭	M50		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.28	1/2
○○○宝	M50		Ⅱ下	–	–	0.11	–	–	–	0.70	1/4
判読不能	M51		Ⅱ下	2.15	–	0.09	0.68	–	–	1.54	

無文銭	M50		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.05	1/6
○宋○宝	L50		Ⅱ下	–	0.28	0.12	0.64	0.17	0.10	1.22	1/2
至大通宝	L50		Ⅱ下	2.29	0.21	0.15	0.52	0.06	0.15	3.30	
至大通宝	L50		Ⅱ下	2.25	0.16	0.11	0.54	0.05	0.13	2.82	
無文銭	L50		Ⅱ下	2.16	–	0.09	0.67	–	–	1.77	
無文銭	L50		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.17	
洪武通宝	L50		Ⅱ下	2.25	0.16	0.17	0.55	0.06	0.15	1.96	
判読不能	L50		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.61	
判読不能	L50		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	0.68	1/5
無文銭	M50		Ⅱ下	1.58	–	0.07	0.77	–	–	0.66	
開元通宝	M51		Ⅱ下	2.35	0.20	0.11	0.69	0.04	0.09	2.05	
判読不能	N50		Ⅱ下	2.22	–	0.09	0.60	–	0.09	1.23	
熙寧元宝	L50		Ⅱ下	2.44	0.25	0.10	0.66	0.08	0.11	3.03	
皇宋通宝	L50		Ⅱ下	2.39	0.24	0.12	0.75	0.08	0.10	2.69	
永楽通宝	L50		Ⅱ下	2.44	0.18	0.14	0.55	0.06	0.14	3.90	
無文銭	L50		Ⅱ下	1.78	–	–	–	–	–	0.34	
元祐通宝	L50		Ⅱ下	2.39	0.26	0.12	0.67	0.08	0.12	2.68	
嘉祐通宝	L50		Ⅱ下	2.47	0.26	0.10	0.74	0.06	0.10	2.01	
無文銭	N52		Ⅱ下	2.10	–	0.07	0.75	–	–	0.81	
3 枚融着 判読不能	N51		Ⅱ下							9.46	
無文銭	O51	ST02	埋土	2.06	–	0.05	0.67	–	–	1.12	
無文銭	O51	ST02	埋土	1.85	–	–	0.62	–	–	0.57	
皇宋通宝	O51	ST02	埋土	2.31	0.30	0.10	0.64	0.06	0.10	2.07	
○○通○	O51	ST03	埋土	–	–	0.08	0.80	–	0.07	–	1/3
大観通宝	M50		Ⅲ	2.46	0.16	0.15	0.60	0.04	0.15	2.99	
大観通宝	M50		Ⅲ	2.42	0.16	0.11	0.62	0.06	0.12	3.69	
洪○○宝	O51	ST03	埋土	–	0.10	0.07	–	–	–	0.28	
熙寧元宝	L50		Ⅲ	2.50	0.23	0.12	0.65	0.10	0.12	3.53	
皇宋通宝	L50		Ⅲ	2.44	0.16	0.12	0.70	0.12	0.11	2.60	
天聖元宝	L50		Ⅲ	2.50	0.22	0.10	0.65	0.09	0.12	3.07	
○○元宝	L50		Ⅲ	2.45	0.26	0.09	0.62	0.09	0.09	2.52	
永楽通○	M51		Ⅲ	2.42	0.22	0.13	0.60	0.06	0.12	1.88	
皇宋通宝	M51		Ⅲ	2.43	0.22	0.11	0.77	0.06	0.11	2.42	
皇宋通宝	M51		Ⅲ	2.38	0.22	0.12	–	–	0.12	1.68	
判読不能	M51		Ⅲ	2.33	–	0.16	0.56	–	–	2.58	

無文銭	N52		Ⅲ	–	–	0.05	–	–	–	0.17	1/2
洪武通宝	N51		Ⅲ	2.09	0.20	0.16	0.50	0.09	0.15	2.33	
無文銭	N50		Ⅲ	1.76	–	0.09	0.80	–	–	0.47	
咸平元宝	L49		Ⅲ	2.49	0.30	0.12	0.63	0.06	0.12	2.12	
判読不能	N52		Ⅱ下	–	–	–	–	–	–	–	1/7
洪武通宝	–		–	2.23	0.21	0.11	0.56	0.05	0.11	2.51	
皇宋通宝	–		–	2.44	0.24	0.10	0.64	0.09	0.09	2.24	
無文銭	–		–	–	–	0.04	–	–	–	0.17	
無文銭	N52		Ⅱ	2.20	–	0.10	0.80	–	–	–	
鉄銭	N52		Ⅱ	2.50	–	0.02	0.48	–	–	–	

Ch. 3　平成４年度出土銭貨計測表

単位：cm、g

名称	出土区	遺構名	層位	外径（直径）	外縁幅	外縁厚	孔幅	内郭幅	内郭厚	重量	備考
判読不能			Ⅱ	–	0.28	0.16	–	–	0.14	–	1/3
輪銭			Ⅱ	1.94	–	0.05	0.77	–	–	–	
輪銭			Ⅱ	1.90	–	0.07	0.68	–	–	–	
7枚融着 判読不能			Ⅱ								
皇宋通宝			Ⅱ	2.60	–	–	0.50	–	–	–	
判読不能			Ⅱ	–	–	–	–	–	–	–	
判読不能			Ⅱ	–	–	–	–	–	–	–	
判読不能			Ⅱ	–	–	–	–	–	–	–	
鉄銭		SX01	埋土	–	–	–	–	–	–	–	
鉄銭		SX01	埋土	–	–	–	–	–	–	–	1/3
枚数不明 判読不能		SX01	埋土								
〇化元宝		SX02	埋土	2.45	0.33	0.13	0.56	0.07	0.14	–	
判読不能		SX02	埋土	2.03	–	–	0.69	–	–	–	3/4
元祐通宝		SX02	埋土	2.38	0.25	0.14	0.67	0.06	0.14	–	
7枚融着 判読不能		SX02	埋土								

4 枚融着 判読不能		SX02	埋土								
3 枚融着 判読不能		SX02	埋土								
皇宋通宝		SX02	埋土	2.50	0.26	0.15	0.65	0.16	0.14	–	
景〇元宝		SX02	埋土	2.61	–	–	0.65	–	–	–	
朝鮮通宝	M38	SX01	埋土	2.36	0.21	0.10	0.59	–	–	–	
4 枚融着 判読不能	M38	SX01	埋土								
判読不能	M39		Ⅲ下	2.38	–	0.11	0.58	–	–	–	
紹聖元宝	M38	SX01	埋土	2.37	0.31	0.12	0.64	–	0.12	–	
判読不能	M38	SX01	埋土	–	–	–	–	–	–	–	
判読不能	M38	SX01	埋土	–	–	–	–	–	–	–	1/4
判読不能	M38	SX01	埋土	2.40	–	0.10	0.65	–	–	–	
無文銭	M38	SX01	埋土	2.25	–	0.08	0.73	–	–	–	
元〇〇〇	M38	SX01	埋土	–	–	0.15	–	–	–	–	1/5
鉄銭	N38	SX01	埋土	2.40	–	0.13	0.59	–	–	–	
元祐通宝	L38		Ⅱ下	2.47	0.31	0.11	0.62	–	0.11	–	
元符通宝	M38	SX03	埋土	–	0.32	0.12	0.64	–	–	–	
太平通宝	N39	SX01	埋土	–	0.29	0.08	0.53	0.08	0.10	–	
無文銭	M38	SX01	埋土	–	–	–	–	–	–	–	
〇符〇〇	M37	SX01	埋土	–	0.30	0.10	–	–	–	–	1/4
〇〇〇宝	M38	SX01	埋土	–	–	0.10	–	–	–	–	1/5
無文銭	M37	SX04	埋土	2.14	–	0.15	0.45	–	–	–	
皇〇〇〇	M38	SX01	埋土	–	–	0.11	–	–	–	–	1/4
皇宋通宝	M39	SX03	埋土	2.42	0.37	0.09	0.07	0.10	0.10	–	
無文銭	M38	SX01	埋土	–	–	–	–	–	–	–	

4 枚融着 判読不能	L37	SX06	埋土								

Ch. 4　平成５年度出土銭貨計測表　　単位：cm、 g

名称	出土区	遺構名	層位	外径 （直径）	外縁幅	外縁厚	孔幅	内郭幅	内郭厚	重量	備考
寛永通宝	R36		Ⅲ	2.21	0.60	0.19	0.04	0.07	0.09	1.68	
開元通宝	S36	SH01	埋土	2.30	0.57	0.09	0.04	0.07	0.08	1.88	
皇宋通宝	O39		Ⅱ下	2.31	0.71	0.19	0.06	0.04	0.07	2.20	
○元○宝	P39		Ⅱ下	2.46	0.61	0.24	0.04	0.10	0.08	1.27	1/2
無文銭	O39		Ⅲ	2.12	0.69	－	－	0.06	0.07	1.68	
○○元宝	O39	SH12	埋土	2.10	0.60	－	0.09	0.07	0.08	1.72	
天聖元宝	P39	SH11	埋土	2.41	0.51	0.19	0.08	0.12	0.14	3.49	
無文銭	S36	SH03	埋土	1.88	0.63	－	－	0.03	0.04	0.60	
判読不能	P39	SH11	埋土	2.26	0.54	－	0.06	0.09	0.12	1.91	
○元通宝	N38	SH14	埋土	2.48	0.45	0.29	0.07	0.13	0.16	3.75	
判読不能	N38	SH14	埋土	－	－	0.10	0.06	0.04	0.04	0.29	1/5
無文銭	N38	SH14	埋土	1.86	0.65	－	－	0.04	0.06	0.84	
無文銭	N38	SH14	埋土	1.72	0.89	－	－	0.03	0.04	0.35	
判読不能	O39	SH12	埋土	－	－	－	－	－	－	－	
輪銭	N38	SH14	埋土	1.71	1.13	－	－	0.06	0.06	0.37	
無文銭	N38	SH14	埋土	1.65	0.75	－	－	0.02	0.04	0.51	
○○通○	N38	SH14	埋土	－	－	0.13	－	0.09	0.10	0.51	1/6
永楽通宝	O39	SH12	埋土	2.42	0.46	0.15	0.04	0.10	0.11	3.51	
元豊通宝	O39	SH12	埋土	2.39	0.50	0.26	0.03	0.10	0.11	2.30	
洪武通宝	N38	SH14	埋土	2.01	0.62	0.13	0.05	0.06	0.05	0.75	
判読不能	Q34			2.35	0.61	0.14	0.05	0.10	0.10	2.31	
無文銭	N38	SH14	埋土	1.85	0.78	－	－	0.08	0.08	0.86	
無文銭	N38	SH14	埋土	1.80	0.72	－	－	0.05	0.03	0.68	
輪銭	P39	SH11	埋土	1.64	1.20	－	－	0.04	0.04	0.22	
無文銭	N38	SH14	埋土	1.61	0.72	－	－	0.03	0.05	0.43	
無文銭	－			1.76	0.81	－	－	0.03	0.03	0.38	

Ch. 5　ＳＨＯ１土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）。	
1	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に小～中粒状ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/3）を 3%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を極大塊状に 3%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ3/2）。層下部に厚い板状に灰黄褐色灰（10ＹＲ6/2）を 10%、中板状に黒色灰（10ＹＲ2/1）を 5%含む。	
3	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に灰黄褐色灰（10ＹＲ6/2）を中板状に 5%、黒褐色灰（10ＹＲ3/1）を中粒状に 2%含む。	
4	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）に黒色灰（10ＹＲ3/1）を中粒状に 3%、明赤褐色焼土（5ＹＲ5/6）を中粒状に 5%含む。	
5	暗褐色土（10ＹＲ3/4）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）の 7：3 の混層。	
6	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）。	
7	黒褐色土（10ＹＲ2/3）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）の 5：5 の混層に、褐色砂質土（10ＹＲ4/6）を中粒状に 2%含む。	
8	黒褐色土（10ＹＲ2/1）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）との 6：4 の混層。	
9	黒褐色土（10ＹＲ2/1）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）の 3：7 の混層に、褐色砂質土（10ＹＲ4/6）を中粒状に 5%、層上部に淡黄色砂質土（2.5Ｙ8/4）を中～大粒状に 3%含む。	
10	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）に淡黄色砂質土（2.5Ｙ8/4）を中～極大粒状に 30%、炭化物を極小塊状に 1%含む。	
11	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～極大粒状に 2%含む。しまりなし。	
12	黒褐色土（10ＹＲ2/2）。	
13	黒褐色土（10ＹＲ2/3）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）の 6：4 の混層に、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～極大粒状に 7%含む。しまりなし。	
14	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に淡黄色砂質土（2.5Ｙ8/4）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を、それぞれ中～大塊状に 2%ずつ含む。	
15	浅黄色砂質土（2.5Ｙ7/4）。	
16	黒褐色土（10ＹＲ2/1）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）との 5：5 の混層。	
17	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）と褐色砂質土（7.5ＹＲ6/4）の 5：5 の混層。	
18	黒褐色砂質土（2.5Ｙ3/1）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中～大粒状に 40%含む。	

Ch. 6　ＳＨＯ２土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）を中～大粒状に 1%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に明赤褐色焼土（5ＹＲ5/6）を大粒状に 1%、炭化物を極小塊状に 3%含む。	
3	明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）。	
4	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）の 5：5 の混層。	
5	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を小粒状に 5%、浅黄橙色パミス（10ＹＲ8/3）を小粒状に 1%、炭化物を小塊状に 3%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黒褐色土（5ＹＲ2/2）を大～極大粒状に 7%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中粒状に 3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に 5%、炭化物を小塊状に 5%含む。	
7	黒褐色土（5ＹＲ1/2）に黒褐色土（5ＹＲ2/2）を大～極大粒状に 7%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中粒状に 3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に 5%、炭化物を小塊状に 5%含む。	
8	黒褐色土（10ＹＲ5/6）に黒褐色土（5ＹＲ2/2）を大～極大粒状に 7%含む。湿性あり。	
9	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）と黒褐色土（10ＹＲ2/2）の 8：2 の混層。	
10	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～大粒状に 3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に 3%、明赤褐色焼土（5ＹＲ6/6）を小粒状に 1%、炭化物を小塊状に 5%含む。	

11	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～大粒状に 7%、暗赤褐色土（酸化鉄？）を大粒状に 5%含む。湿性あり。	
12	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6)。	
13	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3)。	
14	明黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）に明褐色砂質土（7.5Ｙ5/5）を中～極厚い板状に 30%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を大塊状に 2%含む。	
15	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）と明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）の 8：2 の混層。層下部には黒褐色土（10ＹＲ3/2）を極厚い板状に 20%含む。	
16	黒褐色土（10ＹＲ2/2）の層上部に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を極厚い板状に 5%、暗褐色粘土（10ＹＲ3/3）を大塊状に 3%含む。	
17	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3)、黒褐色土（10ＹＲ2/2）の極厚い板状の互層。	
18	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4)、明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）の厚い板状の互層。	
19	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）と黄褐色砂質土（(10ＹＲ5/6）の 7：3 の混層。	
20	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を極小～大塊状に 25%含む。	
21	浅黄色砂質土（2.5ＹＲ7/4)。	
22	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4)。層上部に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を極厚い板状に 10%含む。	

Ch.７　ＳＨＯ３土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（10ＹＲ3/3)。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）を中～大粒状に 1%含む。	
2	暗褐色土（10ＹＲ4/3）に明黄褐色砂質土（7.5Ｙ5/8）を小～中粒状に 2%、炭化物を小塊状に 3%含む。	
3	暗褐色土（10ＹＲ7/3）ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）を中～大粒状に 7%、炭化物を極小塊状に 3%含む。	
4	暗褐色土（10ＹＲ4/3）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）と明褐色砂質土（7.5Ｙ5/8）を小～大粒状に 3%、炭化物を小塊状に 3%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黒褐色土（5ＹＲ2/2）を大～極大粒状に 7%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中粒状に 3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に 5%、炭化物を小塊状に 5%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を大塊状に 1%含む。	
7	明黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）に明赤褐色砂質土（2.5Ｙ5/8）を大粒状に 2%含む。	
8	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）と黄褐色砂質土（10ＹＲ6/6）の 6：4 の混層に、明赤褐色砂質土（2.5Ｙ5/8）を大粒状に 2%、黒褐色土（10ＹＲ2/3）を極厚い板状に 10%含む。	
9	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～大塊状に 40%含む。	
10	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を大塊状に 1%含む。	
11	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6)。	
12	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/8)。	
13	にぶい黄褐色砂質土（2.5Ｙ6/4)。	
14	褐色砂質土（7.5ＹＲ4/6）に暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）を中板状に 5%含む。	
15	にぶい黄褐色砂質土（2.5Ｙ6/4)。	
16	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）と黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）の 6：4 の混層。	
17	にぶい黄褐色砂質土（2.5Ｙ6/4)。	
18	褐色砂質土（7.5ＹＲ4/6)。	
19	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3)。	
20	黒色土（10ＹＲ2/1）に灰黄褐色灰（10ＹＲ5/2）を中板状に 10%含む。	

21	湧水が著しく土層色等判別不可能。	
22	浅黄色砂質土（2.5Y7/3）と黒褐色土（10ＹＲ3/2）の５：５の混層。	

Ch.８　ＳＳＯ１土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）の層上部に2～10㎝の礫を含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に中粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/6）と小粒状の炭化物を1%ずつ含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に中～大粒状の炭化物を80%含む。	
4	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の炭化物を2%含む。	
5	にぶい黄褐色粘質土（10ＹＲ4/3）に小粒状のにぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）を5%含む。	
6	灰黄褐色粘質土（10ＹＲ4/3）。	
7	暗灰黄色灰（2.5Y5/2）の層下部に黒色灰（2.5Y2/1）を厚い板状に10%含む。	
8	黒灰色粘質土（10ＹＲ2/2）に黒色灰（2.5Y2/1）を大塊状に5%含む。	
9	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）とにぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）の５：５の混層。	
10	黄灰色細砂（2.5Y4/1）。	
11	黄灰色細砂（2.5Y4/1）に浅黄色砂質土（2.5Y7/3）を極小～大粒状に1%含む。	
12	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
13	暗灰黄色粘質土（2.5Y4/2）。	
14	黒褐色土（2.5Y3/2）に小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/6）を1%含む。	
15	暗灰黄色粘質土（2.5Y4/2）と、にぶい黄色細砂（2.5Y6/3）の６：４の混層。	
16	黒褐色細砂（2.5Y3/1）と灰黄色細砂（2.5Y6/2）の６：４の混層。	
17	黄灰色砂質土（2.5Y4/1）と黄褐色砂質土（2.5Y5/3）、暗灰黄色土（2.5Y4/2）の４：４：２の混層。	
18	灰白色パミス（10ＹＲ8/2）とにぶい灰黄色砂質土（10ＹＲ6/2）の５：５の混層。	
19	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と灰黄褐色細砂（10ＹＲ5/2）、灰白色パミス（10ＹＲ8/2）の５：３：２の混層。	
20	灰黄褐色細砂（10ＹＲ4/2）。	
21	褐色砂質土（10ＹＲ4/4）。	
22	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ8/2）を3%含む。	
23	灰黄褐色粘質土（10ＹＲ4/2）に、にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を極小～小粒状に3%、灰黄褐色細砂（10ＹＲ5/2）を厚い板状に5%含む。	
24	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と灰白色砂質土（10ＹＲ8/1）、浅黄橙色砂質土（10ＹＲ8/3）の４：４：２の混層に、灰黄褐色細砂（10ＹＲ4/2）を厚い板状に5%含む。	
25	暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）と暗灰黄色細砂（2.5Y4/2）を厚い板状を呈する５：５の互層。	
26	灰白色砂質土（5Y7/2）と灰色砂質土（5Y4/1）、灰白色パミス（10ＹＲ8/2）の６：３：１の混層。	
27	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に中粒状の黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を3%含む。	
28	黒褐色細砂（2.5Y3/1）と暗灰黄色細砂（2.5Y5/2）の６：４の混層。	
29	灰色砂質土（10Y6/1）。	
30	にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）と黒褐色土（2.5Y3/1）の６：４の混層。	
31	黄灰色砂質土（2.5Y6/1）に黄灰色細砂（2.5Y6/1）を極小～小粒状に2%、小～大粒状の淡黄色パミス（2.5Y8/3）を5%含む。	

32	灰色砂質土（7.5Y6/1）と灰白色砂質土（7.5Y8/1）の８：２の混層。	
33	灰黄褐色粘質土（10ＹＲ4/2)。	
34	黄灰色砂質土（2.5Y5/1)。	
35	黒褐色砂質土（2.5Y3/1)。	
36	黒褐色細砂（10ＹＲ3/2）と植物依存体の６：４の混層に、褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）を極厚い板状に5%含む。	
37	灰色砂質土（2.5Y5/1)。	
38	黒褐色砂質土（2.5Y3/1）に小粒状の褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）を1%含む。	
39	灰黄褐色粘質土（10ＹＲ5/2）と黒褐色土（10ＹＲ3/2)、灰白色細砂（10ＹＲ7/1）の５：３：２の混層。	
40	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と灰白色砂質土（10ＹＲ4/1）の７：３の混層。	
41	灰色砂質土（5Y4/1）と灰白色細砂（10ＹＲ7/1)、褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）の４：３：３の混層。	
42	灰色砂質土（5Y5/1)。層下部に砂鉄？が若干混入する。	
43	黒褐色土（2.5Y3/1)。	
44	灰色砂質土（5Y5/1)。層下部に砂鉄？が若干混入する。	
45	暗灰黄色土（2.5Y4/2）に小粒状の暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）を3%含む。	
46	にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）と黒褐色砂質土（2.5Y3/6)、小～中粒状の礫の４：３：３の混層。	

Ch.９　ＳＨＯ４西壁土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
Ⅱ	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小～中粒状に3%含む。	
1	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に灰色パミス（5Y6/1）を中塊状に2%含む。	
2	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に5%、浅黄色砂質土（2.5Y7/4）を中～大塊状に30%含む。	
3	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3)。	
4	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と褐色砂質土（10ＹＲ4/4）の５：５の混層。	
5	暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2)。	
6	黒褐色粘質土（10ＹＲ3/2）に灰色パミス（5Y6/1）を小塊状に2%含む。	
7	黒褐色粘質土（10ＹＲ3/2)。	
8	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ6/4）の５：５の混層。	
9	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に5%、浅黄色砂質土（2.5Y7/4）を中～大塊状に30%含む。	
10	灰白色パミス（5Y7/1)。	
11	暗褐色粘質土（10ＹＲ3/3)。	
12	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に5%、浅黄色砂質土（2.5Y7/4）を中～大塊状に30%含む。	
13	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ6/4）の５：５の混層。	
14	黒褐色砂質土（2.5Y3/1）と黄褐色砂質土（2.5Y5/2）の５：５の混層。	
15	黒褐色砂質土（2.5Y3/1）と黄褐色砂質土（2.5Y5/2）の５：６の混層に、炭化物を中板状に10%含む。	
16	灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）と黒褐色粘質土（10ＹＲ2/2)、極小～大粒状の礫の３：３：４の混層に、厚い板状の砂鉄？が5%含まれる。	

17	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と灰白色パミス（10ＹＲ8/1）、灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）の６：２：２の混層。	
18	灰黄褐色砂質土（10ＹＲ6/2）に浅黄色砂質土（2.5Y7/4）を小～中粒状に 20%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を小～中粒状に 15%含む。	
19	灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）、暗褐色土（10ＹＲ3/3）の６：２：２の混層。	
20	灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）、暗褐色土（10ＹＲ3/3）の６：２：２の混層。	
21	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と灰白色パミス（10ＹＲ8/1）、灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）の６：２：２の混層。	
22	褐灰色砂質土（10ＹＲ6/1）。	
23	緑灰色砂質土（7.5G5/1）と明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/6）の７：３の混層。	
24	暗褐色土（10ＹＲ3/3）とにぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）の３：７の混層。	

Ch.１０　ＳＨ０４北壁土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を極小～小粒状に 1%含む。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/1）。	
2	にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）と灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）の５：５の混層。	
3	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に明黄褐色砂質土（10ＹＲ8/6）を小～中塊状に 3%含む。	
4	灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）。	
5	黒褐色粘質土（2.5Y3/1）。	
6	小～極大粒状の礫。	
7	オリーブ灰色砂質土（5GＹ5/1）。	
8	黒褐色泥土（10ＹＲ2/2）。植物依存体（腐食した葉）が混入している。	
9	明オリーブ灰色パミス（2.5GＹ7/1）。	
10	暗灰黄色土（2.5Y4/2）とオリーブ灰色砂質土（5GＹ5/1）の５：５の混層。	
11	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に中粒状の明黄褐色土（2.5Y7/6）と中粒状の礫、植物依存体をそれぞれ 5%含む。	
12	オリーブ灰色砂質土（5GＹ5/1）と明オリーブ灰色パミスの５：５の混層。	
13	暗灰黄色粘土（2.5Y4/2）。	
14	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
15	オリーブ灰色砂（2.5GＹ5/1）。	
16	暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）。	
17	黒褐色粘質土（2.5Y3/1）。	
18	暗灰黄色粘質土（2.5Y5/2）。	
19	暗灰黄色土（2.5Y4/2）とオリーブ灰色砂質土（5GＹ5/1）の５：５の混層。	
20	オリーブ灰色砂質土（5GＹ5/1）と明オリーブ灰色パミスの５：５の混層。	
21	オリーブ灰色砂質土（5GＹ5/1）と暗褐色土（10ＹＲ3/3）の７：３の混層。	
22	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と小～極大粒状の礫の６：４の混層。	
23	明オリーブ灰色パミス（2.5GＹ7/1）。2.5ＹG7/1）。	
24	灰黄褐色細砂（10ＹＲ4/2）。	
25	褐灰色砂質土（10ＹＲ5/1）。層下部に中～極大粒状の礫を含む。	

26	黒褐色土（2.5Y3/2）とオリーブ灰色砂質土（2.5GY5/1）の6：4の混層。	
27	暗褐色泥土（10YR3/3）。	
28	灰黄褐色粘質土（10YR4/2）。	
29	明オリーブ灰色パミス（2.5GY7/1）。2.5YG7/1）。	
30	灰黄褐色細砂（10YR4/2）。	
31	オリーブ灰色砂質土（5GY5/1）と暗褐色土（10YR3/3）の7：3の混層。	

Ch.１１　ＳＨＯ５土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
I	にぶい黄褐色土（10YR4/3）に灰白色パミス（10YR8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
1	黒褐色土（10YR3/1）。	
2	にぶい黄褐色土（10YR5/4）と灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）の5：5の混層。	
3	黒褐色土（10YR3/1）に明黄褐色砂質土（10YR8/6）を小～中塊状に3%含む。	
4	灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）。	
5	黒褐色土（10YR3/1）に中粒状の明黄褐色土（2.5Y7/6）と中粒状の礫、植物依存体をそれぞれ5%含む。	
6	黄褐色砂質土（2.5Y5/4）。	
7	灰黄褐色土（10YR5/2）。	
8	暗灰黄色粘土（2.5Y4/2）。	
9	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
10	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
11	黄灰色粘質土（2.5Y4/1）。	
12	にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）と小～大粒状の礫の6：4の混層。	
13	小～極大粒状の礫。	
14	黒褐色土（2.5Y3/2）とオリーブ灰色砂質土（2.5GY5/1）の6：4の混層。	
15	オリーブ灰色砂（2.5GY5/1）。	
16	灰黄褐色粘質土（10YR4/2）。	
17	オリーブ灰色砂質土（5GY5/1）。	
18	黒褐色泥土（10YR2/2）。植物依存体（腐食した葉）が混入している。	
19	暗灰黄色土（2.5Y4/2）とオリーブ灰色砂質土（5GY5/1）の5：5の混層。	
20	オリーブ灰色砂質土（5GY5/1）と明オリーブ灰色パミスの5：5の混層。	
21	黒褐色泥土（10YR2/2）。植物依存体（腐食した葉）が混入している。	
22	オリーブ灰色砂質土（5GY5/1）と明オリーブ灰色パミスの5：5の混層。	
23	オリーブ灰色砂質土（5GY5/1）と暗褐色土（10YR3/3）の7：3の混層。	
24	褐灰色砂質土（10YR4/1）と小～極大粒状の礫の6：4の混層。	
25	明オリーブ灰色パミス（2.5GY7/1）。2.5YG7/1）。	
26	褐灰色砂質土（10YR5/1）。層下部に中～極大粒状の礫を含む。	

Ch.１２　ＳＨＯ８北壁土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
1	黒褐色土（5ＹＲ2/1）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小～極大粒状に7%、炭化物を極小粒状に1%含む。しまりあり。	
2	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中粒状に1%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を1%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/2）の層上部に黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）を極厚い板状に20%含む。湿性あり。	
4	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を厚い板状に5%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～大塊状に5%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ3/1）。湿性あり。	
6	黒褐色土（7.5ＹＲ2/1）と黒褐色砂質土（10ＹＲ2/2）の８：２の混層。	
7	黒褐色土（7.5ＹＲ2/1）と褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）の６：４の混層に、灰色パミス（10ＹＲ8/1）を小～中塊状に7%、炭化物を小～中塊状に3%含む。	
8	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）の８：２の混層に、にぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/3）を中～大塊状に7%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中塊状に3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を大粒状に3%含む。	
9	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）を中塊状に3%含む。	
10	黒褐色土（5ＹＲ2/1）に植物依存体を中板状に7%含む。	
11	にぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/3）と褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）の５：４：１の混層。	
12	黒褐色砂質土（5ＹＲ2/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の７：３の混層。	
13	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と黒褐色土（5ＹＲ2/2）の５：５の互層に、明黄褐色砂質土（2.5Ｙ6/6）を極厚い板状に5%含む。	
14	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）と黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）の７：３の混層に、にぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/3）を中塊状に3%含む。	
15	黒褐色土（5ＹＲ2/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の５：５の混層。	
16	褐灰色土（10ＹＲ4/1）。湿性強い。	
17	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）を厚い板状に10%含む。	
18	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を大塊状に7%、黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）を大塊状に1%含む。	
19	黒褐色土（10ＹＲ2/2）。湿性強い。	
20	粗粒砂質土（玉砂利）。	
21	黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）。	
22	黒褐色砂質土（2.5Ｙ3/1）。	

Ch.１３　ＳＨＯ８東壁土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
1	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）の８：２の混層に、にぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/3）を中～大塊状に7%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中塊状に3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を大粒状に3%含む。	
2	黒褐色土（7.5ＹＲ2/1）と褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）の６：４の混層に、灰色パミス（10ＹＲ8/1）を小～中塊状に7%、炭化物を小～中塊状に3%含む。	
3	黒褐色砂質土（5ＹＲ2/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の７：３の混層。	
4	黒褐色土（5ＹＲ2/1）に植物依存体を中板状に7%含む。	
5	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）と黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）の７：３の混層に、にぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/3）を中塊状に3%含む。	
6	黒褐色土（5ＹＲ2/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の５：５の混層。	
7	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と黒褐色土（5ＹＲ2/2）の５：５の互層に、明黄褐色砂質土（2.5Ｙ6/6）を極厚い板状に5%含む。	

8	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/8）と暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ4/2）、浅黄色砂質土（2.5Ｙ7/4）の４：４：２の混層。	
9	黄灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と褐色砂質土（2.5Ｙ3/1）の５：５の混層。	
10	黄灰色砂質土（10ＹＲ4/1）の層中間に厚い板状の灰色砂質土（10Ｙ6/1）を5%含む。	
11	オリーブ黒色粘質土（5Ｙ3/1）。	
12	オリーブ黒色粘質土（5Ｙ3/1）ににぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/3）を2%含む。	
13	黄褐色砂質土（2.5Ｙ5/3）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）の５：５の混層。	
14	灰黄褐色細砂（10ＹＲ4/2）と灰黄色細砂（2.5Ｙ6/2）の６：４の混層。	
15	黒褐色泥土（2.5Ｙ3/1）。	
16	黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）と灰白色パミス（2.5Ｙ8/1）の７：３の混層。	
17	黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）と灰白色細砂（10Ｙ7/1）の５：５の混層に、灰白色パミス（2.5Ｙ8/1）を小～中粒状に2%含む。	
18	灰色砂質土（5Ｙ4/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）の５：５の互層。	

Ch.１４　ＳＳ０１、ＳＨ０９土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
1	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と黒褐色土（10ＹＲ3/1）の７：３の混層に灰白色パミス（10ＹＲ5/1）を小粒状に3%と炭化物を小粒状に2%含む。	
2	にぶい黄色灰（2.5Ｙ6/4）の下層に３㎝の板状に黒色灰（2.5Ｙ2/1）を含む。	
3	暗褐色土（10ＹＲ2/3）に褐色砂質土（10ＹＲ4/6）と炭化物を小粒状に1%ずつ含む。	
4	植物性の腐食土（泥炭化した土）を含む暗褐色土（10ＹＲ3/4）。	
5	黒色灰（Ｎ2/0）ににぶい黄褐色灰（10ＹＲ5/4）を中粒状に2%含む。	
6	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）と黒褐色土（10ＹＲ3/2）の６：４の混層。	
7	暗褐色土（10ＹＲ2/3）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を小粒状に2%、炭化物を小粒状に2%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小粒状に10%含む。ややしまりあり。	
8	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）を小～大粒状に3%、灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小～大粒状に30%含む。	
9	黒褐色（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）を小粒状に10%、黒色灰（10ＹＲ5/6）を中粒状に3%、浅黄色砂質土（2.5Ｙ7/2）を小粒状に2%含む。	
10	灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と黄褐色砂質土（2.5Ｙ5/4）の６：４の混層。	
11	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と灰白色パミス（10ＹＲ8/1）の３：７の混層。	
12	灰黄色砂質土（2.5Ｙ7/2）。	
13	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と灰白色パミス（10ＹＲ8/1）の３：７の混層。	
14	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小粒状に7%含む。	
15	黒褐色土（10ＹＲ3/1）と灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）の６：４の混層。しまりあり。	
16	灰黄褐色砂質土（10ＹＲ4/2）に小～中粒状の細石を10%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）と灰白色パミス（10ＹＲ8/1）をそれぞれ小粒状に2%含む。	
17	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に中～大粒状の炭化物を80%含む。	
18	黒色土（2.5Ｙ2/1）。	
19	明黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）、灰黄褐色砂質土（10ＹＲ6/2）、褐灰色砂質土（10ＹＲ6/1）に小粒状の灰白色パミス（10ＹＲ8/2）を2%含む土が２㎝程度の互層を呈している。	
20	黒色土（2.5Ｙ2/1）。	
21	暗褐色土（10ＹＲ3/3）、黒褐色土（10ＹＲ3/1）、にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）の４：４：２の混層。層下部に砂鉄と思われる黒色細砂を1%含む。	
22	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）ににぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/4）を中塊状に2%含む。	

23	黒褐色粘質土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）、褐色砂質土（10ＹＲ4/6）、炭化物をそれぞれ小粒状に 1%ずつ含む。	
24	褐色灰（10ＹＲ4/4）。	
25	明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）と灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）の 3：7 の混層。	
26	浅黄色砂質土（2.5Ｙ7/3）。	
27	黄灰色細砂（2.5Ｙ4/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の 5：5 の混層に小粒状の灰白色パミス（10ＹＲ8/2）を 2%含む。	
28	黄灰色細砂（2.5Ｙ4/1）。	
29	黄褐色粗粒砂（10ＹＲ5/6）と灰黄褐色粗粒砂（10ＹＲ4/2）の 5：5 の混層に黒褐色粘質土（10ＹＲ3/1）を大塊状に 2%、灰白色パミス（2.5Ｙ7/1）を 1%含む。	
30	褐色砂質土（10ＹＲ4/6）、黄褐色砂質土（10ＹＲ6/6）、褐灰色砂質土（10ＹＲ5/1）の 5：2：3 の混層。	
31	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）と黄褐色砂質土（2.5Ｙ1/3）の 6：4 の混層に中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を 3%と小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/2）と炭化物粒を 1%ずつ含む。	
32	明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）と灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）の 3：7 の混層。	
33	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）の 5：5 の混層に灰白色砂質土（10Ｙ7/1）を大塊状に 5%含む。	
34	暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ4/2）。	
35	黒褐色土（2.5Ｙ2/2）と暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ4/2）の 3：7 の混層に小粒状の灰白色パミス（10ＹＲ8/1）と褐色砂質土（10ＹＲ4/6）を 1%ずつ含む。	
36	黒褐色砂質土（2.5Ｙ5/1）。	
37	黒褐色砂質土（2.5Ｙ5/1）と黒褐色土（10ＹＲ3/1）の 5：5 の混層に小～大粒状の炭化物を 30%含む。	
38	黒褐色砂質土（2.5Ｙ5/1）と黒褐色土（10ＹＲ3/1）の 5：5 の混層に小～大粒状の炭化物を 30%含む。	
39	褐灰色細砂（10ＹＲ4/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ4/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の 5：3：2 の混層に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小～中粒状に 10%含む。	
40	灰白色砂質土（10Ｙ7/1）。	
41	黒褐色細砂（2.5Ｙ3/1）に小～大塊状の灰色パミス（10Ｙ6/1）を 30%含む。	
42	灰色砂質土（10Ｙ6/1）。しまりあり。	
43	黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）に黒褐色土（10ＹＲ3/2）を 30%、灰色パミスを小～大塊状に 20%含む。	
44	灰色砂質土（10Ｙ6/1）。しまりあり。	
45	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）とにぶい黄色砂質土（2.5Ｙ6/4）の 4：6 の混層。	
46	灰黄褐色細砂（10ＹＲ4/2）。	
47	植物性の腐食土（泥炭化した土）を含む黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色砂質土（10Ｙ7/1）を 1%含む。	
48	黒色泥土（10ＹＲ2/1）。	
49	黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）に黒褐色土（10ＹＲ3/2）を 30%、灰色パミスを小～大塊状に 20%含む。	
50	褐色腐食土（10ＹＲ3/4）。	
51	暗灰黄色粘質土（2.5Ｙ4/2）。	
52	暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ4/2）と灰色砂質土（10Ｙ5/1）の 6：4 の混層。	
53	暗褐色泥土（2.5Ｙ3/1）。	
54	黄灰色粘質土（2.5Ｙ4/1）。	
55	灰色砂質土（5Ｙ4/1）と灰白色パミス（2.5Ｙ8/1）の 7：3 の混層。層下部に粗粒砂と砂鉄、黒褐色泥土（2.5Ｙ3/1）を 5%含む。	
56	灰黄褐色粘質土（10ＹＲ5/2）。	
57	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）。	

Ch.１５　ＳＨＯ９西壁土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/4）を 1%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を 2%含む。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に、にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/3）を中～大塊状に 30%、灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を中塊状に 1%含む。しまりあり。	
2	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）の 7：3 の混層に、にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/3）を大～極大粒状に 5%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を小～中粒状に 1%、灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を中塊状に 1%、炭化物を極小塊状に 1%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/3）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）をそれぞれ小～中粒状に 2%含む。	
4	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）に浅黄色細砂（5Y7/3）と灰色砂質土（5Y6/1）をそれぞれ中～大粒状に 7%、炭化物を小塊状に 1%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を大粒状に 1%、浅黄色細砂（5Y7/3）を大塊状に 1%、黒褐色砂質土（10ＹＲ3/2）を大塊状に 3%含む。	
6	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）。	
7	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）。	
8	にぶい黄色細砂（2.5Y6/3）。	
9	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）の 5：5 の混層に、黄灰色細砂（2.5Y6/1）を中～大塊状に 5%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～大粒状に 1%含む。	
10	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）と灰黄褐色砂質土（10ＹＲ6/2）、黄灰色細砂（2.5Y6/1）の 5：4：1 の混層に、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を大粒状に 1%、黒褐色土（10ＹＲ2/2）を極厚い板状に 10%含む。	
11	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に浅黄色細砂（5Y7/3）を中塊状に 2%、暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）を中板状に 10%含む。	
12	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に、にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/3）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）をそれぞれ中～大粒状に 5%、灰白色パミス（10ＹＲ6/1）を極小～中塊状に 1%、炭化物を小塊状に 1%含む。	
13	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中～大粒状に 3%含む。	
14	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）と灰色砂質土（5Y5/1）、黄灰色砂質土（2.5Y5/1）の 6：2：2 の混層。	
15	灰白色砂質土（10ＹＲ7/1）。	
16	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）を厚い板状に 30%含む。	
17	灰色土（5Y4/1）に灰オリーブ色粘質土（5Y6/2）を中粒状に 2%、灰色砂質土（5Y6/1）を大塊状に 5%含む。	
18	灰白色砂質土（10ＹＲ7/1）。	
19	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と黒色灰（10ＹＲ1.7/1）の 6：4 の混層に、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を中粒状に 1%含む。	
20	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）と明黄褐色砂質土（2.5Y6/6）の 6：4 の混層に、黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）を厚い板状に 5%含む。	
21	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）。	
22	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）。	
23	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）。	
24	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）の層上部に、にぶい黄色細砂（2.5Y6/3）を厚い板状に 10%含む。	
25	灰色砂質土（5Y5/1）と褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）の 5：4 の混層に、暗褐色土（10ＹＲ2/2）を極厚い板状に 10%含む。	
26	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に灰色粘土（7.5Y4/1）を中～大塊状に 3%、にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/3）を中～大塊状に 1%含む。	
27	灰白色砂質土（10ＹＲ7/1）。	
28	灰色土（5Y4/1）に灰オリーブ色粘質土（5Y6/2）を中粒状に 2%、灰色砂質土（5Y6/1）を大塊状に 5%含む。	
29	灰色砂質土（5Y5/1）と褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）の 5：4 の混層に、暗褐色土（10ＹＲ2/2）を極厚い板状に 10%含む。	
30	オリーブ黒色土（5Y3/1）に灰白色砂質土（10ＹＲ7/1）を小～中粒状に 3%含む。	

Ch.１６　ＳＨ１０、ＳＡ０８土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を極小～小粒状に 1%含む。	
Ⅱ	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を小～中粒状に 3%含む。	
1	黒色土（10ＹＲ2/1）と暗褐色土（10ＹＲ3/3）、にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）、小～中粒状の礫の 3：2：3：2 の混層。	
2	灰黄褐色砂質土（10ＹＲ4/2）と明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/6）の 6：4 の混層。	
3	にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/4）に小～中粒状の礫を 5%含む。	
4	黄褐色土（10ＹＲ2/3）とにぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）の 5：5 の混層に、それぞれ小～大粒状の礫と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を 2%ずつ含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ3/2）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）の 4：6 の混層。	
6	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）。しまりなし。	
7	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）。	
8	黒褐色土（2.5Y3/1）に黄灰色粘性土（2.5Y5/1）を大粒状に 3%、褐色シルト（7.5ＹＲ4/6）を中粒状に 1%含む。	
9	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を小～極大粒状に 3%含む。	
10	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を大塊状に 3%、小粒状の礫を 3%含む。	
11	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（10ＹＲ8/1）を中粒状に 2%含む。	
12	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に小粒状の炭化物を 50%含む。	
13	黒褐色粘質土（10ＹＲ2/2）。	
14	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）に褐色粘質土（10ＹＲ4/6）を大塊状に 1%含む。	
15	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）の 4：6 の混層に、浅黄色砂質土（2.5Y7/3）を中粒状に 2%含む。	
16	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に浅黄色砂質土（2.5Y7/3）を中塊状に 2%、小～中粒状の礫を 5%含む。	
17	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に浅黄色砂質土（2.5Y7/3）を大粒状に 5%、オリーブ褐色砂質土（2.5Y4/4）を小～中粒状に 25%、暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）を中粒状に 15%含む。	
18	褐灰色細砂（10ＹＲ4/1）。	
19	にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）に、にぶい黄色パミス（2.5Y6/4）を小～中粒状に 5%含む。	
20	褐灰色細砂（10ＹＲ4/1）。	
21	黒褐色土（2.5Y3/1）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を中塊状に 3%含む。	
22	黒褐色土（2.5Y3/1）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）の 5：5 の混層に、黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を中～大塊状に 60%含む。	
23	黒褐色土（10ＹＲ3/1）と黄褐色砂質土（2.5Y5/3）、黄灰色細砂（2.5Y4/1）の 7：2：1 の混層。	
24	黒褐色土（10ＹＲ2/2）。	
25	黄灰色砂質土（2.5Y4/1）に灰白色砂質土（2.5Y7/1）を中粒状に 1%含む。	
26	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄色砂質土（2.5Y6/3）を大塊状に 60%含む。	
27	黒色土（2.5Y2/1）。	
28	黒色粘質土（10ＹＲ2/1）。	
29	にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/4）。	
30	にぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/4）。	
31	暗灰黄色細砂（2.5Y4/2）と黄褐色細砂（2.5Y5/3）の 6：4 の混層。	
32	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に、にぶい黄色砂質土（2.5Y6/4）を中粒状に 30%、明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/8）を中粒状に 1%含む。	

33	黒褐色粘質土（2.5Y3/1）。	
34	浅黄色砂質土（2.5Y7/4）。	
35	黒褐色土（10YR3/1）。しまりなし。	
36	黒褐色砂質土（2.5Y3/1）。	
37	明黄褐色砂質土（10YR7/6）と暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）の極厚い板状の互層に灰黄色土を中板状に5%含む。	
38	暗灰黄色細砂（2.5Y4/2）。	
39	黄灰色細砂（2.5Y5/1）と灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）、明黄褐色砂質土（10YR7/6）、小～中粒状の礫の2：3：3：2の混層。	
40	にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3）に灰白色砂質土（5Y7/1）を中塊状に20%含む。	
41	にぶい黄褐色土（10YR4/3）と灰白色砂質土（5Y7/1）の6：4の混層。	
42	黒褐色土（10YR3/2）に灰白色砂質土（5Y7/1）を中～大塊状に30%含む。	
43	黒褐色土（10YR2/2）と黄灰色細砂（2.5Y5/1）の5：5の互層。	
44	暗灰黄色土（2.5Y4/2）と黄褐色砂質土（2.5Y5/4）の5：5の混層に、灰白色砂質土（5Y7/1）を中粒状に3%含む。	
45	黒褐色土（10YR2/2）と褐灰色砂質土（10YR5/1）の5：5の混層に、灰白色砂質土（5Y7/1）を小～中粒状に2%含む。	
46	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）と浅黄色砂質土（2.5Y7/4）、黄灰色細砂（2.5Y5/1）の5：2：3の混層。	
47	暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）と黄褐色砂質土（2.5Y5/3）の7：3の混層。	
48	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）と暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）の5：5の混層。	
49	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
50	褐灰色砂質土（10YR4/1）とにぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）、にぶい黄橙色砂質土（10YR7/3）、黒色土（10YR2/1）の5：2：2：1の混層。	
51	黄灰色土（2.5Y5/1）と黄褐色砂質土（10YR5/3）の5：5の互層に黄褐色砂質土（10YR5/6）を極大粒状に1%含む。	
52	暗灰黄色砂質土（2.5Y4/2）の層下部に黒色灰（10YR1.7/1）を厚い板状に10%含む。	
53	灰色砂質土（5Y4/1）。	
54	灰色細砂（5Y6/1）と黒褐色土（2.5Y3/1）が5：5で薄い板状に互層をなし、灰白色パミス（10YR7/1）を小塊状に1%含む。しまり強い。	
55	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
56	黒褐色土（10YR3/2）に灰色砂質土（5Y6/1）を中塊状に3%、黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を小～大粒状に5%含む。	
57	オリーブ褐色粗粒砂（2.5Y4/6）と黒色砂鉄（10YR2/2）の7：3の混層。	
58	黒色土（10YR2/1）に灰白色灰（10YR8/1）を小～極大粒状に5%、腐食土（葉）を5%含む。	
59	黒色土（10YR1.7/1）。	
60	黄褐色砂質土（10YR5/6）。	
61	灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）。	
62	黄褐色砂質土（10YR5/6）。	
63	浅黄色砂質土（5Y7/4）と灰色砂質土（5Y4/1）の5：5の混層に、明黄褐色砂質土（2.5Y7/6）と暗緑灰色砂質土（7.5GY4/1）をそれぞれ中板状に5%含む。	

Ch.１７　ＳＴＯ１土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
1	暗褐色土（10YR3/3）とにぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）の8：2の混層。	
2	にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）。	

3	褐色砂質土（10ＹＲ4/4）に黒色灰（5ＹＲ2/1）を中粒状に1%含む。	
4	明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/6）。	
5	黒色灰（5Y2/1）。	
6	褐色砂質土（10ＹＲ4/4）に明褐色砂質土（10ＹＲ6/8）を中～極大粒状に1%含む。	
7	黒褐色土（10ＹＲ2/2）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）の8：2の混層。	
8	黒褐色土（10ＹＲ2/2）とオリーブ黒色灰（5Y3/1）の5：5の混層。	

Ch.１８　ＳＴ０２土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
1	暗褐色土（10ＹＲ3/3）。	
2	褐色土（10ＹＲ4/4）。	
3	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）に小～中粒状のにぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ7/4）を3%含む。	
4	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）。	
5	黄褐色砂質土（10ＹＲ5/8）。	
6	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）の5：5の混層に小～中粒状の炭化物を1%、黒褐色灰（10ＹＲ3/1）を小粒状に1%含む。	
7	暗褐色土（10ＹＲ3/3）と暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）の5：5の混層。	

Ch.１９　ＳＴ０３土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
1	暗褐色土（10ＹＲ3/4）。	
2	暗褐色土（10ＹＲ3/4）とにぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）の7：3の混層に、にぶい黄橙色シルト（10ＹＲ6/3）を中粒状に1%含む。	
3	褐色土（10ＹＲ4/4）。粘性あり。	
4	褐色土（10ＹＲ4/4）に小～中粒状の黒色灰（10ＹＲ1.7/1）を1%、炭化物を小粒状に2%含む。	
5	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）。	
6	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）ににぶい黄橙色シルト（10ＹＲ6/4）を極小～中粒状に10%含む。	
7	にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）とにぶい黄橙色シルト（10ＹＲ6/4）、暗褐色土（10ＹＲ3/4）の3：2：5の混層。	
8	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/4）。	

Ch.２０　ＳＴ０４土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
1	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）に黄褐色粘土（10ＹＲ5/6）を中粒状に1%、小～中粒状の礫を1%含む。	
2	黄褐色粘土（10ＹＲ5/6）と黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）の6：4の混層に、炭化物を中粒状に1%含む。	
3	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）に中粒状の黄褐色粘土（10ＹＲ5/6）を5%、小～中粒状の礫を3%含む。	
4	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）にオリーブ黒色灰（5Y3/2）、淡黄色灰（2.5Y8/3）、黄灰色灰（2.5Y6/1）をそれぞれ中板状に5%、橙色焼土（7.5ＹＲ6/8）を極小粒状に2%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に中～大粒状の明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/8）を2%、小粒状の炭化物を1%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/8）の5：5の混層。しまりなし。	

Ch.２１　ＳＡ０９土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（7.5ＹＲ2/3）と暗褐色砂質土（2.5Y3/3）の８：２の混層。しまりなし。耕作土。	
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/4）を 1%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を 2%含む。	
1	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に小～大粒状のにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を 25%、小粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を 5%含む。	
2	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）。	
3	暗褐色土（10ＹＲ3/3）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）の５：５の混層に、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を 5%、小粒状の礫を 2%含む。	
4	浅黄色パミス（2.5Y7/3）に暗褐色土（10ＹＲ3/3）を大～極大粒状に 10%含む。	
5	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ3/3）が 80%、小粒状の黒褐色土（10ＹＲ3/2）を 15%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を 5%、小粒状の礫を 2%含む。	
6	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に浅黄色パミス（2.5Y7/3）を小～中粒状に 10%含む。しまりあり。	
7	浅黄色パミス（2.5Y7/3）。しまり強い。	
8	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）と浅黄色シルト（2.5Y7/3）の５：５の混層。	
9	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）と浅黄色シルト（2.5Y7/3）の８：２の混層。	
10	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）の５：５の混層に中～極大粒状の礫を 2%、灰オリーブ色砂質土（5Y5/2）を厚い板状に 5%含む。	
11	黄灰色砂質土（2.5Y6/1）に黒褐色土（7.5ＹＲ3/1）を極小～小粒状に 2%含む。	
12	黄灰色砂質土（2.5Y6/1）。	
13	黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）。	
14	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）。	
15	暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）。	
16	黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）。	
17	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰色シルト（5ＹＲ4/1）を大塊状に 2%含む。	
18	灰色シルト（5Y4/1）。	
19	黄灰色砂質土（2.5Y6/1）、明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）、灰白色パミス（10ＹＲ7/1）の厚い板状の互層。層下部には 1～3㎝の礫が含まれる。	
20	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰色シルト（5ＹＲ4/1）を小～大粒状に 20%含む。	
21	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を小～大粒状に 2%含む。粘性あり。	
22	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）と浅黄色パミス（2.5Y7/3）を中粒状にそれぞれ 10%、炭化物を小粒状に 2%含む。しまり強い。	
23	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を大粒状に 3%、浅黄色パミス（2.5Y7/3）を中粒状に 3%、炭化物を小粒状に 2%含む。	
24	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）と浅黄色パミス（2.5Y7/3）をそれぞれ大粒状に 7%含む。	
25	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に黒色灰（10ＹＲ1.7/1）を小～大粒状に 40%、にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を中板状に 1%含む。	
26	黒色灰（10ＹＲ1.7/1）。	
27	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を中板状に 3%、褐灰色シルト（10ＹＲ6/1）を大～極大粒状に 3%、中粒状の礫を 5%含む。	
28	褐灰色シルト（10ＹＲ6/1）に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を極小～小粒状に 10%含む。	
29	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄灰色砂質土（2.5Y6/1）を極小～小粒状に 3%、褐灰色シルト（10ＹＲ6/1）を極小粒状に 1%含む	
30	黄灰色砂質土（2.5Y6/1）、明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）、灰白色パミス（10ＹＲ7/1）の厚い板状の互層。層下部には 1～3㎝の礫が含まれる。	
31	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄灰色砂質土（2.5Y6/1）を極小～小粒状に 7%、灰色シルト（5Y4/1）を極小～大粒状に 15%、	

	灰色粘土（7.5Y5/1）を中塊状に2%含む。	
32	黄灰色砂質土（2.5Y6/1）と黒褐色土（10ＹＲ3/2）の9：1の混層。	
33	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と黄灰色砂質土（2.5Y6/1）の5：5の混層に、中粒状の礫を3%含む。	
34	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）に大～極大粒状の礫を50%含む。しまり強い。	
35	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と黄灰色砂質土（2.5Y6/1）、中～大粒状の礫の4：4：2の混層。	
36	灰白色砂質土（2.5Y7/1）。	
37	灰色シルト（5Y6/1）。	
38	灰白色砂質土（2.5Y7/1）と黒色砂質土（5Y2/1）の7：3の混層。	
39	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と黄灰色砂質土（2.5Y3/2）の5：5の混層に中～大粒状の礫を10%含む。	
40	黄灰色シルト（2.5Y4/1）。	

Ch.２２　ＳＨ１１土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（7.5ＹＲ2/3）と暗褐色砂質土（2.5Y3/3）の8：2の混層。しまりなし。耕作土。	
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/4）を1%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を2%含む。	
1	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/4）を3%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を3%含む。しまりあり。	
2	1層ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）を厚い板状に10%含む。しまりなし。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を小粒状に1%、炭化物を小粒状に1%含む。	
4	浅黄色パミス（2.5Y7/3）と黒褐色土（10ＹＲ2/2）の8：2の混層。しまり強い。	
5	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）。しまりなし。	
6	黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）を大塊状に3%、浅黄色パミス（2.5Y7/3）を中粒状に1%含む。	
7	黒色腐食土（10ＹＲ1.7/1）に浅黄色パミス（2.5Y7/3）を極大粒状に3%含む。	
8	黒褐色土（10ＹＲ1.7/1）。	
9	黒褐色粘質土（10ＹＲ2/2）。	
10	灰白色シルト（7.5Y7/2）と黒褐色粘質土（10ＹＲ1/2）の6：4の混層。	
11	黒色粘質土（10ＹＲ2/1）。	

Ch.２３　ＳＨ１２土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（7.5ＹＲ2/3）と暗褐色砂質土（2.5Y3/3）の8：2の混層。しまりなし。耕作土。	
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の褐色砂質土（10ＹＲ4/4）を1%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＲ7/1）を2%含む。	
Ⅲ	暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）。	
1	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に小粒状の暗褐色砂質土（10ＹＲ4/4）を5%、中粒状の灰白色パミス（10ＹＴ7/1）を5%、小粒状の礫を3%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）を中塊状～中角柱状に15%、褐灰色シルト（10ＹＲ4/1）を大塊状に1%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）を小～中角柱状に7%含む。	
4	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）を極小～小粒状に2%含む。	
5	黒褐色土（7.5ＹＲ3/1）に黄灰色砂質土（2.5Y6/1）を極小～小粒状に1%含む。	

6	暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）に明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）をそれぞれ極小～小粒状に 2%ずつ含む。	
7	黒褐色土（10ＹＲ2/2）と明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）の７：３の混層。	
8	明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）、極暗褐色土（7.5ＹＲ6/1）、黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の５：３：２の混層。	
9	黄灰色砂質土（2.5Ｙ1/1）と明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/6）の８：２の混層。	
10	灰色シルト（5Ｙ4/1）。	
11	黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）に黒褐色土（7.5ＹＲ3/1）を極小～小粒状に 2%含む。	
12	褐灰色シルト（10ＹＲ6/1）、黒褐色土（10ＹＲ2/2）、黄灰色砂質土（2.5Ｙ1/1）の３：５：２の混層。	
13	褐灰色シルト（10ＹＲ6/1）に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を極小～小粒状に 10%含む。	
14	褐灰色シルト（10ＹＲ6/1）に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を極小～小粒状に 10%含む。	
15	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）に大～極大粒状の礫を 50%含む。しまり強い。	

Ch.２４　ＳＤ０１土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
1	黒色土（7.5ＹＲ2/1）に小～極大粒状の礫を 3%、明黄褐色パミス（10ＹＲ6/6）を極小粒状に 1%含む。	
2	明褐色シルト（7.5ＹＲ5/6）。	
3	褐色砂質土（10ＹＲ4/6）。しまりなし。	
4	明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/6）。しまりなし。	
5	褐色土（7.5ＹＲ4/3）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 3%、小粒状の礫を 1%、小粒状の炭化物を 1%、大塊状の橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を 1%含む。	
6	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 30%、橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を極小～小粒状に 3%、炭化物を極小粒状に 1%含む。	
7	暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小粒状に 2%含む。しまりあり。	
8	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）。	
9	褐色土（7.5ＹＲ4/3）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 3%、小粒状の礫を 1%、小粒状の炭化物を 1%、大塊状の橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を 1%含む。	
10	暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小粒状に 2%含む。	
11	暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小粒状に 2%含む。	
12	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）に橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を小粒状に 2%、灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小粒状に 2%含む。粘性あり。しまりあり。	
13	褐色土（7.5ＹＲ4/3）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 3%、小粒状の礫を 1%、小粒状の炭化物を 1%、大塊状の橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を 1%含む。	
14	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）に橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を小粒状に 2%、灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小粒状に 2%含む。粘性あり。しまりあり。	
15	暗褐色土（7.5ＹＲ3/3）に明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）を極小粒状に 30%、明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）を小粒状に 20%含む。しまりなし。	
16	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）に橙色砂質土（7.5ＹＲ6/8）を小粒状に 2%、灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小粒状に 2%含む。粘性あり。しまりあり。	
17	褐色砂質土（10ＹＲ4/6）。しまりなし。	
18	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）に明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/8）を極小～大粒状に 3%、小～中粒状の礫を 2%含む。	
19	明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/8）。	
20	暗褐色砂質土（7.5ＹＲ3/2）に小～中粒状の礫を 5%、灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 3%含む。しまり強い。	
21	黒褐色土（10ＹＲ3/2）と暗褐色砂質土（7.5ＹＲ3/3）の７：３の混層に、中～大粒状の礫を 5%、小～中粒状の灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を 3%含む。しまり強い。	
22	暗褐色砂質土（7.5ＹＲ3/3）とにぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ5/3）の８：２の混層。しまりあり。	

23	黄橙色砂質土（10ＹＲ8/6）に明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）を極小粒状に 20%含む。しまりなし。	
24	暗褐色砂質土（7.5ＹＲ3/3）に粘性の強い極暗褐色土（7.5ＹＲ2/3）を厚い板状に 10%含む。	
25	明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）に小～中粒状の礫を 10%、明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）を極小粒状に 10%含む。しまりなし。	
26	黒色粘性土（10ＹＲ2/1）に極小粒状の礫と極小粒状の明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）をそれぞれ 5%含む。しまり強い。	
27	黒褐色粘性土（10ＹＲ2/2）に明赤褐色粘性土（5ＹＲ5/8）を中塊状に 10%、灰黄褐色粘性土（10ＹＲ5/2）を薄い板状に 15%含む。しまり強い。	
28	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に極小粒状の明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/1）を 25%、極小粒状の明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）を 15%、小～中粒状の礫を 10%含む。しまり強い。	
29	灰白色砂（10ＹＲ8/1）と灰白色砂（N7/0）の極小～中粒の層に、極小粒状の明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）を 15%、極小～小粒状の明黄褐色砂質土（10ＹＲ7/6）を 1%含む。	
30	黒褐色土（5ＹＲ3/1）に極小粒状の明黄褐色砂質土（10ＹＲ6/8）を 25%含む。しまり強い。	
31	浅黄色砂質土（2.5Y7/4）に極小粒状の黒褐色砂質土（7.5ＹＲ3/2）を 20%、極小粒状の明褐色砂質土（5ＹＲ5/6）を 20%含む。しまり強い。	
32	浅黄色シルト（2.5Y7/4）。しまり強い。	

Ch.２５　ＳＦ０１土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
1	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に極小～小粒状の礫を 1%、極小～中粒状の炭化物を 1%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に極小～大粒状の暗褐色土（焼土?）（5ＹＲ3/6）を 30%、明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/8）を極小粒状に 10%、極小～小粒状の礫を 1%、炭化物を小粒状に 1%含む。	
3	明褐色粘土（7.5ＹＲ5/6）。焼土と思われる。	
4	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に橙色砂質土（7.5Y6/8）を極小粒状に 20%、炭化物を中～大粒状に 10%含む。	
5	黒褐色土（7.5Y2/2）に黒灰色灰（10ＹＲ2/2）を中板状に 40%、炭化物を小粒状に 1%、暗褐色焼土（5ＹＲ3/6）を 2%含む。	
6	黒褐色土（5ＹＲ3/1）に暗褐色焼土（5ＹＲ3/6）を極小～大粒状に 15%、炭化物を大～極大粒状に 10%含む。	

Ch.２６　ＳＡ１０土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/2）に、にぶい黄橙色砂（10ＹＲ7/3）を 4%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～大粒状に 2%、中～極大粒状の礫を 1%含む。しまりなし。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（10ＹＲ8/2）を極小粒状に 2%、暗赤褐色砂質土（2.5ＹＲ3/6）を小粒状に 1%、極小～小粒粒の礫を 2%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/3）を 15%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～極大粒状に 2%、小～極大粒状の礫を 1%、炭化物を小塊状に 1%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に 2%、極小～極大粒状の礫を 2%含む。	
4	暗褐色土（10ＹＲ3/3）に灰白色砂（2.5Y8/1）を極小粒状に 30%、小～大粒状の礫を 10%含む。しまりなし。植物の根の混入が多い。	
5	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に小粒状の礫を 1%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に黄褐色砂（10ＹＲ5/6）を極小～中塊状に 40%、黒色土（10ＹＲ1.7/1）を小～大塊状に 2%、大～極大粒状の礫を 2%、灰白色パミス（5Y8/1）を小粒状に 1%含む。	
7	暗灰黄色粘土（2.5Y4/2）に黄褐色砂（2.5Y5/3）を 20%含む。	
8	黒色土（10ＹＲ2/1）に灰オリーブ色砂（5Y6/2）を極小粒状に 7%、黄褐色砂（10ＹＲ5/8）を極小粒所に 7%、暗灰黄色粘土（2.5Y4/2）を中塊状に１%、極小～小粒状の礫を 1%含む。	
9	黒褐色砂（2.5Y3/1）に緑灰色砂質土（7.5GＹ5/1）を小～中塊状に 3%、黄褐色砂（10ＹＲ5/8）を極小粒状に 15%、小～中粒状の礫を 1%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～中粒状に 1%含む。	
10	黒色土（10ＹＲ2/1）に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/8）を極小～小粒状に 20%、小～中粒状の礫を 5%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～中粒状に 1%含む。	
11	黄灰色砂（5Y5/1）と灰オリーブ色砂質土（5Y5/3）の５：５の混層。	

12	黄褐色砂（10ＹＲ5/6）に黒色土（10ＹＲ2/1）を極小～極大粒状に 20%、小粒状の礫を 1%含む。	
13	黄褐色砂（10ＹＲ5/6）に黒色土（10ＹＲ2/1）を極小～極大粒状に 20%、小粒状の礫を 1%含む。	
14	黒色土（10ＹＲ2/1）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）を極小～小粒状に 7%、黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を極小塊～中塊状に 2%、小～大粒状の礫を 2%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に 1%含む。	
15	オリーブ黒色土（5Y3/1）と黄灰色砂（5Y5/1）の極厚板状の互層構造に黄褐色砂質土（10ＹＲ5/6）を極小～小粒状に 15%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～中粒状に 2%、小粒状の礫を 1%含む。	
16	オリーブ黒色土（5Y3/1）に緑灰色土（7.5ＧＹ5/1）を極小塊～小塊状に 10%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～中粒状に 1%、極小粒状の礫を 1%含む。	
17	黒色土（2.5Y2/1）に緑灰色土（7.5ＧＹ5/1）を極小粒～小粒状に 40%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～中粒状に 2%、礫を小～大粒状に 1%、黄灰色砂質土（5Y5/1）を 1%含む。	
18	黄灰色砂（5Y5/1）に灰白色土（5Y4/1）を極厚板状に 10%、小～極大粒状の礫を 15%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～大粒状に 1%含む。	
19	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に黄褐色砂（10ＹＲ5/6）を極小～小粒状に 3%、極小～小粒状礫のを 1%、灰白色パミス（5Y8/1）を小粒状に 1%含む。	
20	黒色土（10ＹＲ1.7/1）。	
21	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に黄褐色砂（10ＹＲ5/6）を極小～小粒状に 5%、緑灰色砂質土（7.5ＧＹ5/1）を極小～小粒状に 2%、極小～小粒状の礫を 1%、炭化物を極小粒状に 1%、灰白色パミス（5Y8/1）を小粒状に 1%含む。	
22	黄灰色砂（5Y5/1）に礫を小～大粒状に 2%含む。	
23	黒褐色土（2.5Y3/1）に礫を小粒状に 1%含む。	
24	緑灰色土（7.5ＧＹ6/1）に緑灰色粘土（7.5ＧＹ6/1）を極小～大粒状に 10%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小粒～小粒状に 1%含む。	
25	灰白色砂（5Y4/1）に灰白色パミス（5Y8/1）を小～大粒状に 1%含む。	
26	黄灰色砂（5Y5/1）に小～大粒状の礫を 10%含む。	
27	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/3）に黒褐色土（10ＹＲ3/2）を極小～小粒状に 5%、灰白色シルト（5Y8/2）を極小～中粒状に 5%、極小～小粒状の礫を 1%含む。しまり強い。	
28	黄灰色シルト（2.5Y4/1）に灰白色砂質土（2.5Y8/1）を極大塊状のブロックで 50%含む。しまりきわめて強い。	
29	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）と極小～極大粒状の灰白色砂質土（10ＹＲ8/2）の 5：5 の混層に小粒状の礫を 1%含む。植物の根が混入した部分は赤褐色変（5ＹＲ4/6）している。	
30	黒褐色土（7.5ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/4）を極小粒状に 2%、橙色砂（5ＹＲ6/8）を極小粒状に 1%含む。	
31	暗赤褐色土（5ＹＲ3/2）に明褐色砂（7.5ＹＲ5/6）を極小～小粒状に 20%、極小～小粒状の礫を 1%含む。	
32	黒褐色土（7.5ＹＲ3/2）と灰白色砂（7.5ＹＲ8/2）の 5：5 の混層に、灰白色パミス（10ＹＲ8/2）を小～大粒状に 2%、極小～小粒状の礫を 1%含む。しまり強い。	
33	黒褐色砂（5ＹＲ3/1）に淡黄色シルト（2.5Y8/4）を大塊状に 25%、淡黄色浮石（5Y8/3）を大粒状に 10%含む。しまり強い。	
34	黒褐色シルト質土（7.5ＹＲ3/1）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小～小粒状に 10%含む。	
35	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に明褐色砂質土（5ＹＲ5/8）を中粒状に 1%含む。	
36	黄褐色砂質土（2.5Y5/6）に黄橙色砂（10ＹＲ7/8）を厚い板状に 5%、黒褐色土（7.5ＹＲ3/1）を極小～小粒状に 1%含む。	
37	黒色土（7.5ＹＲ2/1）ににぶい橙色砂（7.5ＹＲ6/4）を中板状に 10%、小～大粒状の礫を 1%含む。しまり強い。	
38	黒褐色砂（10ＹＲ3/2）に淡黄色シルト（2.5Y8/4）を厚い板状に 30%、小～大粒状の礫を 1%含む。	
39	緑灰色粘土（7.5ＧＹ6/1）に灰白色パミス（5Y8/1）を中～大粒状に 1%含む。	
40	黄灰色砂（5Y5/1）に小～大粒状の礫を 10%含む。	
41	灰オリーブ色砂質土（5Y5/3）に灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に 10%、灰色砂質土（5Y4/1）を極厚板状に 7%含む。	
42	黄灰色砂（5Y5/1）にオリーブ黒色土（5Y3/1）を極小～小粒状に 30%、緑灰色土（7.5ＧＹ5/1）を極小～中粒状に 7%、黒色土（10ＹＲ1.7/1）を大塊状に 2%、極小～小粒状の礫を 1%含む。	
43	黄灰色砂（5Y5/1）に小～大粒状の礫を 10%含む。	
44	緑灰色砂（7.5ＧＹ5/1）に緑灰色砂質土（7.5ＧＹ5/1）を大塊状に 10%、灰白色パミス（5Y8/1）を極厚板状に 5%、黒色土（2.5Y2/1）を厚板状に 3%含む。	

Ch.２７　ＳＨ１３土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/2）に、にぶい黄橙色砂（10ＹＲ7/3）を4%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～大粒状に2%、中～極大粒状の礫を1%含む。しまりなし。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（10ＹＲ8/2）を極小粒状に2%、暗赤褐色砂質土（2.5ＹＲ3/6）を小粒状に1%、極小～小粒粒の礫を2%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に2%、極小～極大粒状の礫を2%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小～小粒状に10%、極小～中粒状の礫を1%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～大粒状に1%含む。	
4	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰黄褐色砂（10ＹＲ5/2）を極小～小粒状に3%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小～中粒状に40%、小～大粒状の礫を2%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に7%含む。	
6	黒色土（10ＹＲ2/1）に灰オリーブ色シルト（5Y4/2）を極小粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
7	黒色土（2.5Y2/1）に黒褐色砂（2.5Y3/2）を極小～小粒状に2%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
8	オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ5/1）と黒褐色土（2.5Y3/1）の５：５の混層に、小粒状の礫を1%含む。	
9	黒色土（10ＹＲ1.7/1）にオリーブ黒色砂質土（5Y3/2）を中塊状に1%、極小～小粒状の炭化物を1%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～中粒状に1%含む。	
10	オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ5/1）に黒色土（10ＹＲ2/1）を極小～小粒状に3%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～中粒状に1%含む。	
11	黒色土（10ＹＲ2/1）に暗灰黄色砂（2.5Y4/2）を極小～中粒状に5%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～大粒状に3%、小～中粒状の礫を1%、小粒状の炭化物を1%含む。	
12	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）を極小粒～大塊状に10%、緑灰色砂質土（7.5ＧＹ5/1）を小～大塊状に7%、小～大粒状の礫を1%含む。	
13	黒色土（10ＹＲ2/1）に緑灰色砂質土（7.5ＧＹ5/1）を極小粒～小塊状に3%、灰白色砂（5Y4/1）を極小粒状に3%、小～中粒状の礫を2%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～中粒状に1%、炭化物を極小～小粒状に1%含む。	
14	黒色土（2.5Y2/1）に灰白色砂（5Y4/1）を極小粒状に20%、緑灰色砂質土（7.5ＧＹ5/1）を中粒～小塊状に7%、小～中粒状の礫を1%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
15	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に暗褐色砂を極小粒状に5%、炭化物を極小～中粒状に3%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～中粒状に1%、小粒状の礫を1%含む。	
16	暗褐色砂（10ＹＲ3/3）に黒色土（2.5Y2/1）を極小～大粒状に15%、灰白色パミス（5Y7/1）を極小～中粒状に5%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
17	黒色土（2.5Y2/1）に暗褐色砂（10ＹＲ3/3）を極小粒状に3%含む。	
18	暗褐色砂（10ＹＲ3/3）に黒色土（2.5Y2/1）を極小～大粒状に15%、灰白色パミス（5Y7/1）を極小～中粒状に5%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
19	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に暗黄色砂（2.5Y4/2）を極小粒状に5%、黒褐色シルト（2.5Y3/1）を極厚板状に1%、灰白色パミス（2.5Y8/1）を極小～中粒状に1%、小～大粒状の礫を2%、炭化物を小粒状に1%含む。	
20	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小粒状に20%、オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ6/1）を極小～大塊状に15%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
21	黒褐色土（10ＹＲ2/2）。粘性あり。	
22	黒色土（2.5Y2/1）に暗灰黄色砂（2.5Y4/2）を極小粒状に7%、オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ6/1）を極小～大塊状に20%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～大粒状に1%含む。	
23	黒褐色砂（2.5Y3/2）に極小～小粒状の礫を2%含む。	
24	黒褐色土（2.5Y3/1）に黒褐色砂（2.5Y2/2）、黒色土（10ＹＲ1.7/1）、灰黄褐色砂（10ＹＲ4/2）、オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ6/1）を互層状態で厚い板状に40%含む。	
25	黒褐色土（2.5Y3/1）に暗灰黄色砂（2.5Y4/2）を極小粒状に10%、オリーブ灰色砂質土（2.5ＧＹ6/1）を極小～大塊状に20%、灰白色パミス（5Y7/1）を極小～大粒状に1%、極小～極大粒状の礫を2%含む。	
26	黒褐色土（2.5Y3/1）に灰色砂（5Y5/1）を極小粒状に3%、灰色シルト（10Y5/1）を極小～小粒状に7%、灰白色パミス（5Y7/1）を極小～中粒状に1%含む。	
27	黒色土（2.5Y2/1）に灰白色砂（5Y4/1）を極小粒状に20%、緑灰色砂質土（7.5ＧＹ5/1）を中粒～小塊状に7%、小～中粒状の礫を1%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に1%含む。	
28	オリーブ黒色砂（5Y2/2）に黒色土（10ＹＲ2/1）、黒色土（2.5Y2/1）、灰オリーブ色砂（5Y4/2）、灰オリーブ色砂（7.5Y6/2）を互層状態で厚い板状に40%含む。また、層全体に灰白色パミス（5Y7/1）を極小～中粒状に2%含む。	
29	灰色砂（5Y5/1）に黒褐色土（10ＹＲ2/2）を極小～中粒状に1%、灰色砂（10ＹＲ5/1）を小～中塊状に1%、オリーブ黒色砂（10Y3/1）を厚い板状に2%、灰白色パミス（5Y7/1）を極小～大粒状に7%、極小～大粒状の礫を1%含む。	

30	灰色砂（10Y5/1）。	
31	オリーブ黒色砂（5Y3/1）に灰白色パミス（5Y7/1）を極小～極大粒状に3%含む。	

Ch.２８　ＳＨ１４土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）。	
Ⅱ	暗褐色土（10ＹＲ3/3）ににぶい黄橙色砂（10ＹＲ7/3）を極小粒状に4%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～大粒状に2%、中～極大粒状の礫を1%含む。	
1	暗褐色土（10ＹＲ3/3）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/3）と黄褐色砂（10ＹＲ5/6）をそれぞれ厚い板状に20%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～中粒状に1%、極小～中粒状の礫を1%含む。	
2	暗褐色土（10ＹＲ3/3）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/3）を極小粒状に20%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～小粒状に2%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰黄色砂（2.5Y6/2）を極小粒状に2%、浅黄色シルト（2.5Y7/3）を小～大粒状に1%、灰白色パミス（5Y8/1）を小～大粒状に1%、極小～中粒状の礫を1%含む。	
4	暗褐色土（10ＹＲ3/3）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小粒状に5%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～中粒状に1%、極小～中粒状の礫を1%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小粒状に3%、灰白色パミス（5Y8/1）を極小～中粒状に1%、極小～中粒状の礫を1%含む。	
6	黒色土（10ＹＲ2/1）に褐色砂（10ＹＲ4/4）を極小粒状に7%、灰白色パミス（2.5Y8/1）を極小～小粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
7	黒色土（10ＹＲ2/1）に褐色砂（10ＹＲ4/4）を極小粒状に2%、灰白色パミス（2.5Y8/1）を極小～小粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
8	黒色土（10ＹＲ2/1）に礫を極小～小粒状に1%含む。	
9	黒色土（10ＹＲ2/1）に黒色灰（10ＹＲ1.7/1）を小～大粒状に7%、黒褐色灰（2.5Y3/1）を小～中粒状に2%、灰白色パミス（2.5Y8/1）を極小～中粒状に1%含む。	
10	黒褐色砂（2.5Y3/2）に黒色土（10ＹＲ2/1）を小～中粒状に3%、極小～中粒状の礫を2%含む。	
11	黒褐色砂（2.5Y3/2）に極小～極大粒状の礫を7%含む。	
12	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小粒状に5%、灰白色パミス（2.5Y8/1）を極小～小粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
13	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ4/3）を極小粒状に10%、灰白色パミス（2.5Y8/1）を極小～大粒状に2%、小～極大粒状の礫を2%、オリーブ褐色灰（2.5Y4/6）を小塊状に1%含む。	
14	黄灰色砂（2.5Y4/1）に黒褐色砂（2.5Y3/1）を極小粒状に15%、黒色灰（10ＹＲ1.7/1）を中塊状に1%、灰白色パミス（5Y7/1）を極小粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
15	黒色土（10ＹＲ2/1）に極小粒状の礫を1%含む。	
16	黒褐色土（2.5Y3/1）に黒褐色砂（2.5Y3/2）を極小粒状に5%、緑灰色砂質土（7.5ＧＹ6/1）を小～大粒状に2%、灰白色パミス（10Y8/1）を極小～小粒状に1%、礫を小～極大粒状に1%含む。	
17	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に明黄褐色パミス（10ＹＲ7/6）を極小～小粒状に1%、黄橙色パミス（10ＹＲ7/4）を極小粒状に1%、灰白色パミス（10Y8/1）を1%、極小～小粒状の礫を3%含む。	
18	黒褐色土（10ＹＲ3/2）ににぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/4）を極小～中粒状に1%、灰白色パミス（10Y8/1）を極小～大粒状に2%、極小～小粒状の礫を3%含む。	
19	黒色土（10ＹＲ2/1）に黒褐色砂（2.5Y3/1）を極小粒状に3%、灰白色パミス（10Y8/1）を小～大粒状に1%含む。	
20	黒褐色砂（2.5Y3/1）に暗灰黄砂（2.5Y4/2）を極小～小粒状に2%、オリーブ灰色砂質土（5ＧＹ6/1）極小～大粒状に2%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
21	オリーブ灰色砂質土（5ＧＹ6/1）。湧水著しく他の含有物は不明。	
22	黒褐色砂（2.5Y3/1）に黄灰色砂（2.5Y4/1）を中塊状に7%、緑灰色砂質土（7.5ＧＹ6/1）を厚い板状に2%、中～大粒状の礫を1%含む。	
23	黒褐色砂（2.5Y3/1）に緑灰色砂質土（7.5ＧＹ6/1）を小～大粒状に5%、灰白色パミス（10Y8/1）を極小～小粒状に1%、礫を極小～小粒状に1%含む。	
24	黒褐色砂（2.5Y3/2）に黒色土（2.5Y2/1）を極小～大粒状に2%、灰白色パミス（10Y8/1）を極小～中粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
25	黒色土（10ＹＲ2/1）に黄灰色砂（2.5Y4/1）を2%、灰白色パミス（10Y8/1）を極小～小粒状に1%、極小粒状の礫を1%含む。	
26	黄灰色砂（2.5Y4/1）に灰白色パミス（10Y8/1）を極小～小粒状に3%、極小粒状の礫を1%含む。	

27	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）にオリーブ灰色砂質土（5ＧＹ6/1）を極小～中粒状に 1%、礫を極小～小粒状に 1%含む。	
28	黒色土（10ＹＲ2/1）。植物腐食土層。	
29	黒色土（10ＹＲ2/1）に黒色灰（10ＹＲ1.7/1）を厚板状に 2%、暗灰黄色砂（2.5Ｙ5/2）を極小粒状に 1%含む。	
30	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に暗灰黄色砂（2.5Ｙ5/2）を極小粒状に 1%、極小～中粒状の礫を 1%含む。	
31	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に大粒～大塊状の礫を 40%含む。	
32	黒褐色土（10ＹＲ2/2）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/3）を極小粒状に 3%、極小～大粒状の礫を 1%、灰色砂質土（5Ｙ6/1）を小塊状に 1%、灰白色パミス（10Ｙ8/1）を極小粒状に 1%含む。	
33	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）ににぶい黄褐色砂（10ＹＲ5/3）を極小粒状に 10%、黒色灰（10ＹＲ1.7/1）を大塊状に 1%、極小～極大粒状の礫を 2%、灰色砂質土（5Ｙ6/1）を小～中塊状に 1%、灰白色パミス（10Ｙ8/1）を極小～極大粒状に 1%含む。	
34	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に黄灰色砂（2.5Ｙ6/1）を極小粒状に 3%含む。	
35	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に黄灰色砂（2.5Ｙ6/1）を極小粒状に 5%、灰白色パミス（10Ｙ8/1）を極小～極大粒状に 2%、灰色砂質土（5Ｙ6/1）を小塊状に 1%、極小粒状の礫を 1%含む。	
36	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に黄灰色砂（2.5Ｙ6/1）を極小粒状に 10%、灰白色パミス（10Ｙ8/1）を極小～中粒状に 2%、極小～中粒状の礫を 1%含む。	
37	黒色土（10ＹＲ2/1）に灰白色パミス（5Ｙ7/2）を小塊状に 1%含む。	
38	灰色砂（7.5Ｙ4/1）に極小～小粒状の礫を 2%含む。	

Ch.２９　ＳＡ１１土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗灰黄色土（2.5Ｙ4/2）に灰黄色パミス（2.5Ｙ7/2）を小粒状に 1%含む。	
Ⅱ	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小～極大粒状に 2%、極小～中粒状の礫を 1%含む。	
Ⅲ	褐色土（7.5ＹＲ4/4）。	
1	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小～極大粒状に 3%、小～極大粒状の礫を 3%、炭化物を極小～小粒状に 1%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に浅黄色砂質土（5Ｙ7/3）を小～中粒状に 20%、灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小粒状に 2%含む。	
3	黒褐色土（2.5Ｙ3/2）に灰白色パミス（5Ｙ7/2）を中～大粒状に 1%、極小粒状の礫を 1%含む。	
4	灰色砂質土（5Ｙ4/1）に灰白色パミス（2.5Ｙ7/1）を極小～中粒状に 1%含む。	
5	灰色砂質土（5Ｙ5/1）に灰白色パミス（2.5Ｙ7/1）を中～大粒状に 2%、小～極大粒状の礫を 7%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小～極大粒状に 10%、灰黄褐色砂質土（10ＹＲ6/2）を小～極大粒状に 15%、小～中粒状の礫を 3%、炭化物を極小～小粒状に 1%含む。	
7	黒褐色土（10ＹＲ2/1）に小～中粒状の礫を 2%含む。	
8	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 1%、小粒状の礫を 1%含む。	
9	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～小粒状に 1%、小～極大粒状の礫を 3%含む。	
10	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に黄褐色砂質土（2.5Ｙ5/3）を極厚板状に 10%、黄灰色粘土（2.5Ｙ4/1）を極厚板状に 20%、暗灰黄色粘土（2.5Ｙ5/2）を極厚板状に 20%、炭化物を中粒状に 1%含む。	
11	暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ5/2）に明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/8）を極小～中粒状に 30%、黒色土（7.5ＹＲ1.7/1）を小～大塊状に 5%、中～極大粒状の礫を 7%含む。	
12	暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ5/2）に明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/8）を極小～中粒状に 30%、黒色土（7.5ＹＲ1.7/1）を小～大塊状に 5%、中～極大粒状の礫を 7%含む。	
13	黒褐色土（10ＹＲ3/1）。	
14	黄灰色土（2.5Ｙ4/1）に灰色砂質土（5Ｙ5/1）を極小～小粒状に 10%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を小～極大粒状に 3%含む。	
15	暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ5/2）に明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/8）を極小～中粒状に 30%、黒色土（7.5ＹＲ1.7/1）を小～大塊状に 5%、中～極大粒状の礫を 7%含む。	
16	黒色土（2.5Ｙ2/1）に暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ5/2）を極小～小粒状に 3%、灰色砂質土（5Ｙ5/1）を極小～小粒状に 10%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を小～中粒状に 1%含む。	

17	灰色砂質土（5Y6/1）に灰色シルト（5Y6/1）を厚板状に15%含む。	
18	黒褐色土（10ＹＲ3/1)。粘性あり。	
19	黄褐色粘土（2.5Y5/3）に黒褐色粘土（2.5Y3/1）を極小～中粒状に10%含む。	
20	灰色砂質土（5Y4/1）に灰オリーブ色砂質土（5Y5/3）を極小～大粒状に20%含む。	
21	灰色土（10Y6/1)。	
22	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰黄褐色砂質土（10ＹＲ5/2）を極小～小粒状に15%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
23	黒色土（10ＹＲ1.7/1）に灰黄色砂質土（2.5Y7/2）を極小～大粒状に25%、明褐色砂質土（7.5ＹＲ5/8）を極小～小粒状に1%含む。	
24	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（2.5Y8/2）を極小～小粒状に1%、小粒状の礫を1%含む。	
25	黄褐色粘土（2.5Y5/3）に黒褐色粘土（2.5Y3/1）を極小～小粒状に10%含む。	
26	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰白色砂質土（5Y7/2）を中～極大粒状に2%、褐色砂質土（7.5ＹＲ4/6）を極大粒状に2%、灰白色パミス（2.5Y8/2）を小～大粒状に1%、極小～小粒状の礫を1%含む。	
27	黒褐色粘土（2.5Y3/1)。	
28	黒褐色粘土（2.5Y3/1)。	
29	灰色砂質土（5Y6/1）に灰色シルト（5Y6/1）を厚板状に15%含む。	
30	灰色砂質土（5Y6/1）に灰色シルト（5Y6/1）を厚板状に30%、灰色土（5Y4/1）を厚板状に30%含む。	
31	黒褐色砂質土（10ＹＲ3/1）に灰白色パミス（5Y7/2）を極厚板状に7%、大～極大粒状の礫を3%含む。	
32	灰色砂質土（5Y4/1）に極小～極大粒状の礫を20%含む。	

Ch.３０　ＳＨ１５土層注記表

No.	土　層　注　記	備考
Ⅲ	褐色土（7.5ＹＲ4/4)。	
1	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極小粒状に1%含む。	
2	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極小～大粒状に5%、小～中粒状の礫を1%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/3）に灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極小～小粒状に2%、小～中粒状の礫を1%、灰白色土（5Y7/1）を中～大粒状に7%含む。	
4	黒褐色土（2.5Y3/1）に灰黄色パミス（2.5Y7/2）を小～大粒状に20%、中～大粒状の礫を2%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に灰白色土（5Y8/2）を極薄板状に1%、にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ3/1）を極小～中粒状に2%、にぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を極小～小粒状に1%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄橙色砂質土（10ＹＲ6/3）を極小～小粒状に3%、灰白色土（5Y8/2）を中～厚板状に7%、にぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を中～大粒状に2%、中～極大粒状の礫を1%含む。	
7	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を小塊状に1%、にぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小～中粒状に1%含む。	
8	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を極小～中粒状に15%、にぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を中～大粒状に5%、小～大粒状の礫を2%、炭化物絵苧極小～小粒状に1%含む。	
9	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小～極大粒状に5%含む。	
10	黒色土（5Y2/1）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を極小～小粒状に1%、黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小～中粒状に1%含む。	
11	黄褐色砂質土（2.5Y5/3）に黒褐色土（2.5Y3/1）を極小～小粒状に1%含む。	
12	黒色土（2.5Y2/1)。粘性あり。	
13	黒色土（5Y2/1）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を極小～小粒状に1%、黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小～中粒状に1%含む。	
14	黒褐色土（2.5Y3/1）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を極小～中粒状に20%含む。	
15	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に黄褐色砂質土（2.5Y5/3）を極小～小粒状に3%、灰白色土（5Y7/1）を小～極大粒状に10%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を小～中粒状に3%含む。	

16	黒色土（7.5ＹＲ1.7/1）の植物腐食層に黄褐色砂質土（2.5Ｙ5/3）を極小～中粒状に 3%、灰白色土（5Ｙ7/1）を中～大粒状に 2%含む。	
17	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に黄褐色砂質土（2.5Ｙ5/3）を極小～中粒状に 20%含む。	
18	黒色土（7.5ＹＲ1.7/1）。	
19	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小粒状に 3%含む。	
20	褐灰色砂質土（10ＹＲ5/1）と黒色砂質土（10ＹＲ2/1）の極小～大粒状の 5：5 の混層に、にぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小～大粒状に 10%含む。	
21	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄橙色パミス（10ＹＲ7/2）を小粒状に 3%含む。	
22	オリーブ灰色粘土（2.5ＧＹ5/1）。	
23	黄灰色シルト（2.5Ｙ5/1）と黄灰色砂質土（2.5Ｙ6/1）の極小～大粒状の 5：5 の混層。	
24	褐灰色砂質土（10ＹＲ4/1）に大～極大粒状の礫を 20%含む。	

Ch.３１　ＳＨ１６土層注記表

№.	土　層　注　記	備考
Ⅰ	暗灰黄色土（2.5Ｙ4/2）に灰黄色パミス（2.5Ｙ7/2）を小粒状に 1%含む。	
Ⅱ	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小～極大粒状に 2%、極小～中粒状の礫を 1%含む。	
1	黒褐色土（2.5Ｙ3/2）と暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ4/2）の 6：4 の混層に、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を中～極大粒状に 1%含む。	
2	灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）に灰色砂質土（5Ｙ5/1）を極小～小粒状に 30%、灰白色パミス（2.5Ｙ7/1）を極小～中粒状に 5%含む。	
3	黒褐色土（10ＹＲ2/1）に小～中粒状の礫を 2%含む。	
4	黒褐色土（10ＹＲ2/2）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小～極大粒状に 3%、小～極大粒状の礫を 3%、炭化物を極小～小粒状に 1%含む。	
5	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）を極小～中粒状に 20%、小～中粒状の礫を 2%含む。	
6	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に灰色砂質土（5Ｙ6/1）を小～中塊状に 3%、小～大粒状の礫を 1%含む。	
7	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を極小～大粒状に 5%、小～大粒状の礫を 5%、炭化物を小～大粒状に 2%含む。	
8	黒色土（2.5Ｙ3/1）と黒色灰（Ｎ1.5/0）の 5：5 の混層。	
9	褐色砂質土（7.5ＹＲ4/3）に黒褐色土（2.5Ｙ3/1）を極小～大粒状に 10%、灰黄色パミス（2.5Ｙ7/2）を中～極大粒状に 2%、炭化物を極小～小粒状に 1%、極小～小粒状の礫を 1%含む。	
10	黒褐色土（10ＹＲ3/2）に褐色砂質土（7.5ＹＲ4/3）を極小～小粒状に 5%含む。	
11	黒褐色土（2.5Ｙ3/1）に黒色灰（Ｎ1.5/0）を中粒～大塊状に 30%、灰オリーブ色灰（7.5Ｙ6/2）を薄い～中板状に 2%、明赤褐色焼土（5ＹＲ5/8）を小～中粒状に 1%、炭化物を極小～大粒状に 1%、中～極大粒状の礫を 1%、灰白色パミス（2.5Ｙ8/2）を小～中粒状に 1%含む。	
12	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に灰白色パミス（5Ｙ7/2）を極小粒状に 1%、極小～小粒状の礫を 1%含む。	
13	黒褐色土（10ＹＲ3/1）に灰色砂質土（5Ｙ6/1）を極小～小粒状に 2%、炭化物を極小～小粒状に 1%、極小粒状の礫を 1%含む。	
14	暗褐色砂質土（10ＹＲ3/4）に黒褐色土（10ＹＲ3/1）を極小～小粒状に 10%、小～極大粒状の礫を 3%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を極小粒状に 1%含む。	
15	黒褐色土（10ＹＲ3/1）ににぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）を極小～中粒状に 20%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を極小～小粒状に 1%、小粒状の礫を 1%含む。	
16	灰白色砂質土（5Ｙ7/2）に黒褐色土（10ＹＲ3/2）を極小～中粒状に 20%、灰黄色パミス（2.5Ｙ7/2）を小粒状に 1%、小粒状の礫を 1%含む。	
17	にぶい黄褐色砂質土（10ＹＲ4/3）に黒褐色土（2.5Ｙ3/1）を極小～中粒状に 7%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を小～中粒状に 2%、極小～中粒状の礫を 2%含む。	
18	黒色土（2.5Ｙ2/1）に暗灰黄色砂質土（2.5Ｙ5/2）を極小～中粒状に 3%、灰色砂質土（5Ｙ5/1）を極小～大粒状に 10%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を小～中粒状に 1%含む。	
19	灰黄褐色砂質土（10ＹＲ4/2）に黒色土（2.5Ｙ2/1）を厚～極厚板状に 15%、灰白色パミス（5Ｙ7/2）を小～大粒状に 2%、小～大粒状の礫を 1%含む。	

20	灰白色砂質土（5Y5/1）。	
21	灰白色砂質土（5Y5/1）。20 層よりもしまり強い。	
22	黒褐色土（2.5Y3/1）に黒色灰（N1.5/0）を中粒～大塊状に 30%、灰オリーブ色灰（7.5Y6/2）を薄い～中板状に 2%、明赤褐色焼土（5YR5/8）を小～中粒状に 1%、炭化物を極小～大粒状に 1%、中～極大粒状の礫を 1%、灰白色パミス（2.5Y8/2）を小～中粒状に 1%含む。	
23	黒色土（2.5Y2/1）に灰色砂質土（5Y6/1）を極小～大粒状に 20%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極小～中粒状に 3%、極小～中粒状の礫を 2%、炭化物を極小～小粒状に 1%含む。	
24	黒色土（2.5Y2/1）に暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）を極小～小粒状に 3%、灰色砂質土（5Y5/1）を極小～中粒状に 10%、灰白色パミス（5Y7/2）を小～中粒状に 1%含む。	
25	黒色土（2.5Y2/1）に暗灰黄色砂質土（2.5Y5/2）を極小～中粒状に 7%、灰白色パミス（5Y7/2）を小～大粒状に 1%、中粒状の礫を 1%含む。	
26	灰オリーブ色粘土（5Y4/2）。	
27	黄褐色粘土（2.5Y5/3）に黒褐色粘土（2.5Y3/1）を中～極大粒状に 10%含む。	
28	灰白色砂質土（5Y4/1）に黒色土（2.5Y2/1）を小～中粒状に 5%、極大粒状の礫を 2%含む。	
29	黄灰色砂質土（2.5Y4/1）に黒褐色土（10YR3/2）を極厚板状に 3%、灰白色パミス（5Y7/2）を極小～小粒状に 2%、小～大粒状の礫を 1%含む。	
30	灰オリーブ色粘土（7.5Y4/2）。	
31	灰色砂質土（5Y6/1）。しまり強い。	
32	黒褐色土（10YR3/1）に浅黄色砂質土（5Y7/3）を極小～中粒状に 10%、灰白色パミス（2.5Y8/2）を小～大粒状に 2%、極小～極大粒状の礫を 2%、黒色灰（N1.5/0）を小～中粒状に 1%含む。	
33	黒褐色土（10YR3/2）に灰色砂質土（5Y5/1）を中～極大粒状に 50%、灰白色パミス（5Y7/2）を極小～中粒状に 2%含む。	
34	暗灰黄色土（2.5Y4/2）に灰色砂質土（5Y6/1）を極小～小粒状に 3%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を小～中粒状に 1%含む。	
35	暗灰黄色土（2.5Y4/2）に灰色砂質土（5Y6/1）を小～極大粒状に 10%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極小～小粒状に 1%含む。	
36	灰色砂質土（5Y6/1）に暗灰黄色土（2.5Y4/2）を小～中粒状に 10%、暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）を極小～小粒状に 5%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極大粒状に 2%含む。	
37	暗灰黄色シルト（2.5Y4/2）に灰色砂質土（5Y6/1）を極小～小粒状に 10%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を中粒状に 1%含む。	
38	褐灰色砂質土（10YR4/1）に黒色土（7.5YR2/1）を極小～中粒状に 3%、灰色砂質土（5Y6/1）を極小～小粒状に 2%、小～中粒状の礫を 1%含む。	
39	黒色土（7.5YR2/1）に灰色砂質土（5Y6/1）を小～中塊状に 3%、灰白色パミス（5Y7/2）を小～中粒状に 2%含む。	
40	褐灰色砂質土（10YR4/1）に黒色土（7.5YR2/1）を極小～中粒状に 3%、灰色砂質土（5Y6/1）を極小～小粒状に 2%、小～中粒状の礫を 1%含む。	
41	黄灰色粘土（2.5Y4/1）。	
42	褐灰色砂質土（10YR4/1）。	
43	黒褐色土（2.5Y3/1）に黒色粘性土（10YR2/1）と黄灰色粘土（2.5Y4/1）を厚い板状にそれぞれ 20%、炭化物を中粒状に 1%含む。	
44	灰オリーブ色粘土（5Y4/2）に灰色砂質土（5Y5/1）を中～大塊状に 15%、灰黄色パミス（2.5Y7/2）を極小～小粒状に 1%、炭化物を小～中粒状に 1%含む。	
45	黒褐色土（2.5Y3/1）に黄灰色砂質土（2.5Y5/1）を極小～極大粒状に 20%、灰白色パミス（2.5Y7/1）を極小粒状に 2%、炭化物を小粒状に 1%含む。	
46	黒褐色土（10YR3/1）に灰色砂質土（5Y5/1）を中～大塊状に 30%、灰白色パミス（2.5Y7/1）を極小粒状に 2%、極小～小粒状の礫を 3%、炭化物を小粒状に 1%含む。	
47	黒褐色土（2.5Y3/1）に灰色砂質土（5Y5/1）を中～大塊状に 15%、黒褐色土（10YR3/1）を小～中塊状に 15%含む。	
48	黒褐色土（2.5Y3/1）に灰色砂質土（5Y5/1）を極小～大粒状に 10%、灰白色パミス（2.5Y7/1）を中～大粒状に 2%含む。	
49	黒褐色土（10YR3/1）に黄灰色砂質土（2.5Y5/1）を小～中粒状に 10%含む。	
50	灰色砂質土（5Y5/1）に灰白色パミス（2.5Y7/1）を中～大粒状に 2%、小～極大粒状の礫を 7%含む。	

発 掘 調 査 抄 録

ふ り が な	しせきなみおじょうあとかんきょうせいびほうこくしょ
書 名	史跡浪岡城跡環境整備報告書
副 書 名	
巻 次	Ⅲ
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
執 筆 者 名	木村浩一
編 集 機 関	浪岡町教育委員会
所 在 地	038-1311　青森県南津軽郡浪岡町大字浪岡字稲村 101-1　tel.0172－62－3004
発 行 年 月 日	2005 年　3 月　31 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
浪岡城跡	浪岡町大字浪岡字五所	229	29020	40°43′10″	140°36′27″	約1,600㎡	1991 年 6 月 3 日 ～ 1994 年 3 月 18 日	史跡環境整備事業

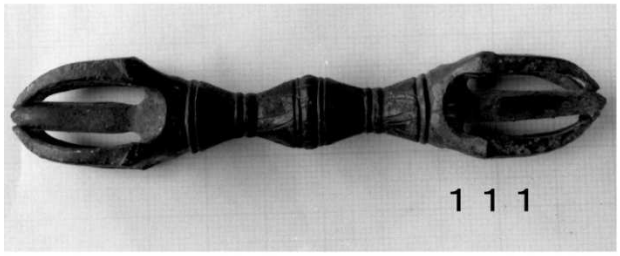
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
浪岡城跡	中世城館	中世、平安時代	建物跡・溝跡・堀跡ほか	中世陶磁器、鉄製品、銅製品、銭貨、石製品・木製品など	

PL. １２　Ａ区調査状況

Ａ区　作業状況（西側から）

Ａ区　作業状況（北側から）

Ａ区
五鈷杵出土状況



Ａ区　完掘状況（北側から）

Ａ区　完掘状況（西側から）

PL. １３　Ｂ区調査状況

Ｂ区　調査前状況（南側から）

Ｂ区　調査状況（南側から）

Ｂ区　調査状況（南側から　右上はＡ区）

ＳＳ０１　検出状況（北側から）

ＳＳ０１　掘り下げ状況（西側から）

Ｂ区　完掘状況（東側から）

Ｂ区　完掘状況（南側から）

Ｂ区　完掘状況（南西側から　右上はＡ区）

PL. １４　Ｃ区調査状況

Ｃ区　調査状況（東側から）

Ｃ区　調査状況（北側から）

Ｃ区　調査状況（北側から）

Ｃ区　調査状況（東側から）

瀬戸美濃褐釉水滴出土状況

Ｃ区　遺構調査状況（東側から）

Ｃ区　遺構完掘状況（東側から）

ＳＴ０１・０２・０３完掘状況（東側から）

PL. １５　Ｄ区調査状況

Ｄ区　調査状況（北側から）

Ｄ区　調査状況（北側から）

ＳＴ０４完掘状況（東側から）

ＳＴ０４完掘状況（西側から）

台風19号被害　現場事務所倒壊

台風19号被害　現場事務所

台風19号被害

台風19号被害　史跡隣接八幡宮被害

PL. １６　Ｅ区調査状況

Ｅ区　表土除去作業（東側から　奥は内館）

Ｅ区　調査状況（北西側から　奥は猿楽館）

Ｅ区　調査状況（東側から）

Ｅ区　石製人形頭出土状況

Ｅ区　獅子頭出土状態

Ｅ区　調査状況（北東側から　奥は内館）

Ｅ区　調査状況（北側から）

Ｅ区　完掘状況（西側から）

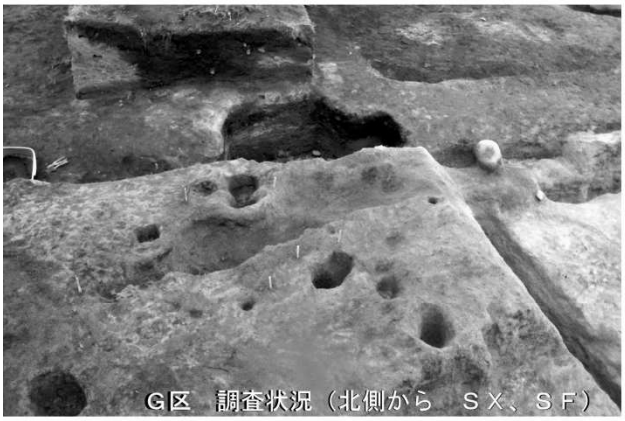
PL. １７　Ｇ区調査状況

Ｇ区　調査状況（南西側から）

Ｇ区　調査状況（南側から）

ＳＤ０１　調査状況（南西側から）

Ｇ区　遺構調査状況（北側から　右側ＳＸ０３）


Ｇ区　調査状況（北側から　ＳＸ、ＳＦ）

Ｇ区　遺構確認（北側から
左下ＳＦ０１、中央ＳＸ０２、
ＳＲ０１

Ｇ区　ＳＲ０１（北側から）

Ｇ区　ＳＲ０１（南側から）

PL. １８　Ｈ区調査状況

Ｈ区　調査状況（北西側から）

Ｈ区　調査状況（南側から　橋脚検出状況）

Ｈ区　橋脚検出状況（南側から）

Ｈ区　完掘状況（北西側から）

Ｉ区　西館直下調査状況（南東側から）

Ｉ区　内館側調査状況（西側から）

Ｉ区　調査状況（東側から）

Ｉ区　調査状況（西側から）

PL. １９　出土陶磁器

1
2
3
4
5
6
7
8
9
0
10cm

0
10cm

10
11
12
13
14
15
16
17
0
10cm

0
10cm

18
19
20
22
21
24
25
23
0
10cm
26

0
10cm

PL. ２０　出土陶磁器

27
28
29
30
31
32
33
34
0
10cm

0
10cm

35
36
37
38
39
0
10cm

0
10cm

0
5cm
35
36

PL. ２１　出土陶磁器、土製品

PL. ２２　出土鉄製品

57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
0
10cm

72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
0
10cm

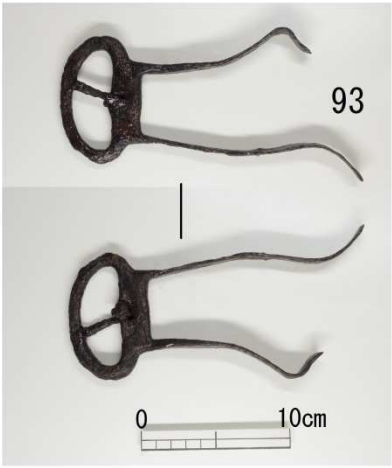
87
0
10cm

88
0
10cm

89
90
0
10cm

91
0
10cm

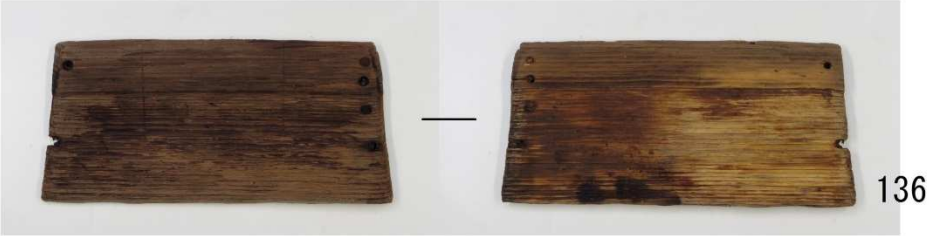
0
10cm
92

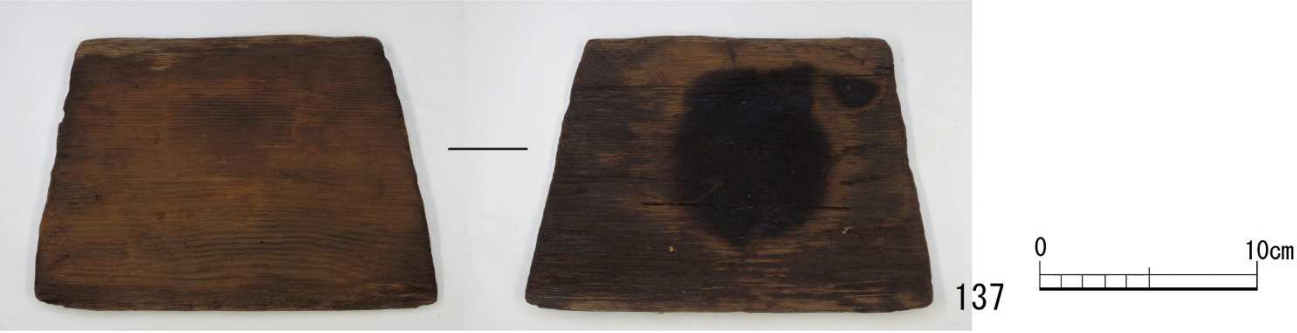

93
0
10cm

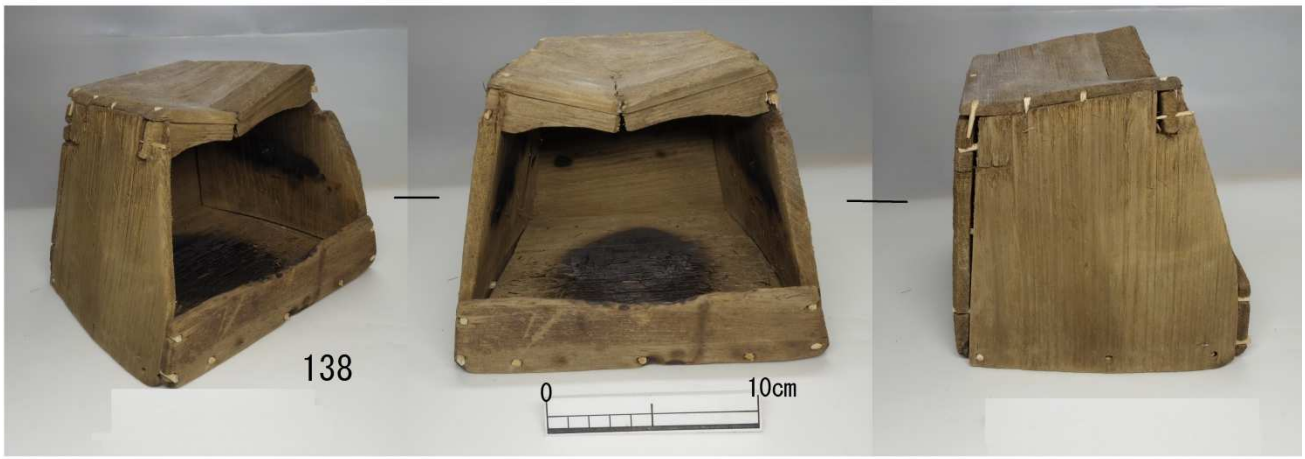
PL. ２３　出土銅製品、石製品

PL. ２４　出土木製品

PL. ２５　出土木製品

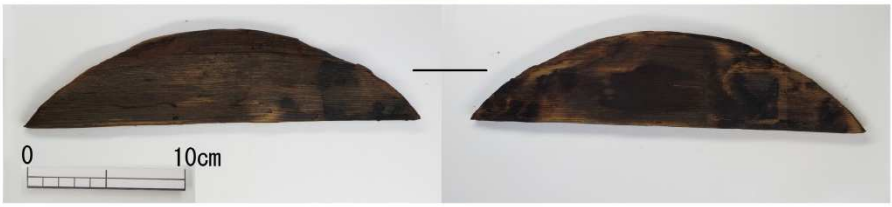






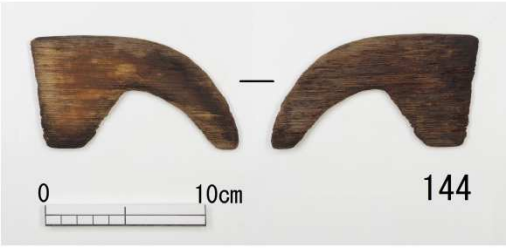
PL. ２６　出土木製品

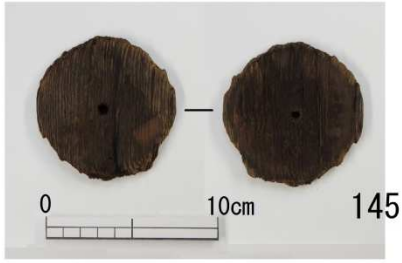
0
10cm
140

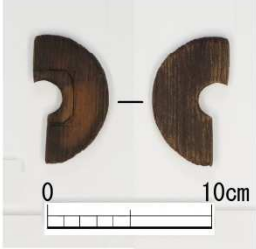

0
10cm
141

0
10cm
142

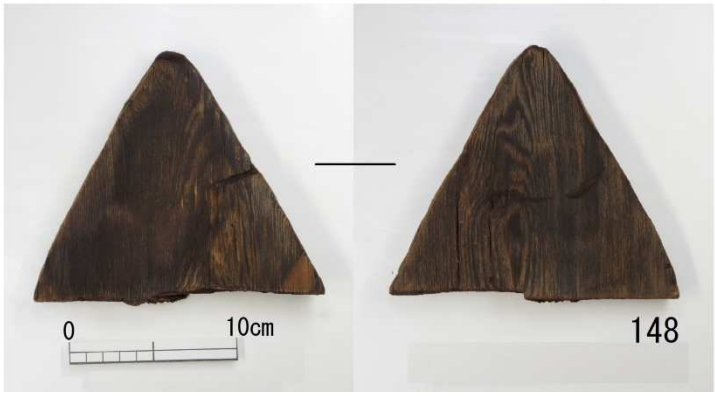
143
0
10cm


0
10cm
144


0
10cm
145


146
0
10cm

0
10cm
147


0
10cm
148

PL. ２７　出土木製品（獅子頭・魚状木製品）

PL. ２８　出土銭貨

史 跡 浪 岡 城 跡

環境整備報告書　Ⅲ

発行年月日　平成 17 年 3 月 31 日
発　　行　浪岡町教育委員会

〒038-1311 青森県南津軽郡浪岡町大字浪岡字稲村 101-1
TEL　0172-62-3004
FAX　0172-62-8166